京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和３年度

2022年3月

京　都　市　文　化　市　民　局

1　大宅廃寺瓦窯跡（20S163）　A-A' 間（落ち込み検出部）断面（南東から）

2　愛宕山遺跡隣接地（21A002）　礎石建物全景（北西から）

例　　言

1．本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した令和３年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。令和３年１月から令和３年 12 月まで実施した詳細分布調査のうち，重要な成果があったものを本文で報告し，その他のものを一覧表に列記している。

2．本文の執筆分担は，本文の末尾に記している。

3．本書報告の調査のうち，基準点測量した調査の方位および座標は，世界測地系平面直角座標系Ⅵによる。標高は T.P.（東京湾平均海面高度）による。またこれ以外の場合は，既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。

4．本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺１／ 2,500）と一部京都市公共物 GIS を調整し，作成したものである。このほか，巻末の図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版１～ 13　１／ 8,000　，　図版 14 ～ 29　１／ 10,000（29- 7 のみ　１／ 20,000）

5．本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は，一部を除き，平尾政幸「土師器再考」（『洛史』研究紀要 第 12 号，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所，2019 年）に準拠する。

750　840　930　1020　1110　1170　1260　1350　1410　1500　1590　1680　1740　1800　1860

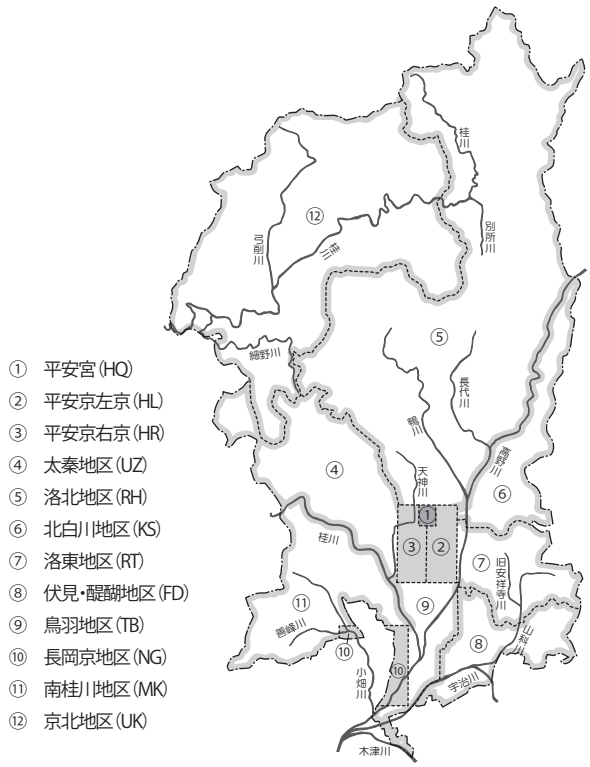
1			2			3			4			5		6			7			8		9			10			11			12		13		14	
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	A	B	A	B

6．本書で使用した土色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016 年度版に準じる。

7．調査一覧表では各時代の「時代」は省略し，調査日も簡略に記している。遺跡名は，平安宮跡，平安京跡，長岡京跡については，官衙・条坊を優先して記載した。

8．調査及び整理にあたっては，飯沼 俊哉，江本 迪香，上茶谷 美保，上別府 亜紀，永田 丈一郎，早川 仁志，林 友紀，松本 和子，山口 大地，吉本 健吾の協力を得た。

9．調査及び本書作成は，京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が担当し，（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



地区設定概念図

本　文　目　次

Ⅰ　調査概要 …… 1

Ⅱ　平安宮 …… 6

1　平安宮豊楽院・朝堂院・左馬寮・典薬寮跡，聚楽遺跡，
史跡平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡）（19K547）…… 6

Ⅲ　平安京左京 …… 8

1 平安京左京二条三坊八町跡，旧二条城跡（21H109）…… 8

2 平安京左京二条三坊八町跡，旧二条城跡，烏丸丸太町遺跡（20H336）…… 12

3 平安京左京二条四坊七町跡，烏丸丸太町遺跡，京都新城跡（20H564）…… 14

4 平安京左京四条二坊十三町跡（20H743）…… 16

5 平安京左京六条三坊二町跡，烏丸綾小路遺跡（21H113）…… 20

Ⅳ　平安京右京 …… 25

1　平安京右京五条三坊四町跡，西院遺跡（21H055）…… 25

Ⅴ　その他の遺跡 …… 29

1　上総町遺跡（21A008）…… 29

2　北山蓮台寺境内（21S492)…… 31

3　如意寺跡（21A001）…… 37

4　安祥寺下寺跡（21S151)…… 39

5　大宅廃寺瓦窯跡（20S163）…… 42

6　鳥部（辺）野（20S459）…… 45

7　史跡 隨心院境内（02N099）…… 48

8　山田桜谷古墳群（20A011）…… 50

9　愛宕山遺跡隣接地（21A002）…… 54

Ⅵ　調査一覧表 …… 62

報告書抄録 …… 84

挿　図　目　次

地区設定概念図…… i

Ⅰ　調査概要

図１　詳細分布調査の年間件数推移（その１）…… 2

図２　詳細分布調査の年間件数推移（その２）…… 3

Ⅱ－１　平安宮豊楽殿・朝堂院・左馬寮・典薬寮跡，聚楽遺跡，
史跡平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡）

図３　調査位置図 …… 6

図４　調査地付近既存調査平面及び調査地点位置図 …… 7

図５　№14 地点断面図 …… 7

Ⅲ－１　平安京左京二条三坊八町跡，旧二条城跡

図６　調査位置図 …… 8

図７　調査地点位置図 …… 8

図８　№１～４地点断面図 …… 9

図９　№３地点壁断面（北から）…… 10

図 10　№４地点壁断面（北から）…… 10

図 11　出土遺物実測図 …… 10

Ⅲ－２　平安京左京二条三坊八町跡，烏丸丸太町遺跡，旧二条城跡

図 12　調査位置図 …… 12

図 13　調査地点位置，昭和 55 年発掘調査平面及び濠推定復元図 …… 13

図 14　A-A'・B-B' 間断面図 …… 13

Ⅲ－３　平安京左京二条四坊七町跡，烏丸丸太町遺跡，京都新城跡

図 15　調査位置図 …… 14

図 16　調査地点位置図 …… 14

図 17　№１地点断面及び№２・３地点柱状断面図 …… 15

図 18　出土遺物実測図 …… 15

Ⅲ－４　平安京左京四条二坊十三町跡

図 19　調査位置図 …… 16
図 20　調査地点位置図 …… 16
図 21　№３地点壁断面（北から）…… 16
図 22　№２～４地点断面図 …… 17
図 23　出土遺物実測図 …… 18

Ⅲ－５　平安京左京六条三坊二町跡，烏丸綾小路遺跡

図 24　調査位置図 …… 20
図 25　調査地点位置図 …… 20
図 26　№１～４地点断面図 …… 21
図 27　№７・８地点断面図 …… 22
図 28　出土遺物実測図 …… 23

Ⅳ－１　平安京右京五条三坊四町跡，西院遺跡

図 29　調査位置図 …… 25
図 30　調査地点位置図 …… 25
図 31　№２・８地点断面及び№６・７地点平・断面図 …… 26
図 32　№２地点壁断面（西から）…… 27
図 33　№６地点遺構面検出状況（西から）…… 27
図 34　№７地点遺構面検出状況（東から）…… 27
図 35　№８地点壁断面北側部分（東から）…… 27
図 36　調査地周辺遺構接合図 …… 28

Ⅴ－１　上総町遺跡

図 37　調査位置図 …… 29
図 38　大正元年都市計画図 …… 29
図 39　出土遺物 …… 30

Ⅴ－２　北山蓮台寺境内

図 40　調査位置図 …… 31
図 41　調査地点位置図 …… 31
図 42　№１・３地点断面及び２・４地点平・断面図 …… 33
図 43　№５・７地点断面図 …… 34
図 44　出土遺物実測図 …… 35

Ⅴ - 3　如意寺跡

図 45　如意寺跡位置図 …… 37
図 46　如意寺寶厳院跡縄張り図 …… 38
図 47　採集遺物実測図 …… 38

Ⅴ - 4　安祥寺下寺跡

図 48　調査位置図 …… 39
図 49　調査地点位置図 …… 39
図 50　№ 1 ～ 13 地点断面図 …… 40

Ⅴ - 5　大宅廃寺瓦窯跡

図 51　調査地周辺遺跡図 …… 42
図 52　調査位置図 …… 42
図 53　調査地点位置図 …… 44
図 54　A-A' 間断面図 …… 44

Ⅴ - 6　鳥部（辺）野

図 55　調査位置図 …… 45
図 56　調査地点位置図 …… 46
図 57　Ｂ地点平面及び№ 1・2 地点柱状断面図 …… 46
図 58　中世墓の可能性がある遺構（西から）…… 47
図 59　石仏 (南東から) …… 47

Ⅴ - 7　史跡 隨心院境内

図 60　調査位置図 …… 48
図 61　調査地点位置図 …… 48
図 62　調査前現況（南西から）…… 48
図 63　土塀断面図 …… 49
図 64　土塀断面（西から）…… 49

Ⅴ - 8　山田桜谷古墳群

図 65　調査位置図 …… 50
図 66　山田桜谷 1 号墳測量図 …… 51
図 67　山田桜谷 2 号墳測量図 …… 52

Ⅴ－９　愛宕山遺跡隣接地
図 68　調査位置図 …… 54
図 69　調査前平場全景（南から）…… 54
図 70　遺構位置図 …… 55
図 71　礎石建物平面図 …… 56
図 72　礎石建物全景（南西から）…… 56
図 73　遺物散布状況 …… 57
図 74　遺物実測図 …… 57
図 75　周辺遺構分布図 …… 58
図 76　水場推定地の巨石（北から）…… 59

表　目　次

表１　令和３年の詳細分布調査件数 …… 1
表２　出土遺物概要表 …… 5

図　版　目　次

巻頭図版　1　大宅廃寺瓦窯跡（20S163）　A-A' 間（落ち込み検出部）断面（南東から）
2　愛宕山遺跡隣接地（21A002）　礎石建物全景（北西から）

図版１～ 29　調査位置図
図版 1　平安宮
図版 2　平安京左京北辺～三条一・二坊
図版 3　平安京左京北辺～三条三・四坊
図版 4　平安京左京四～六条一・二坊
図版 5　平安京左京四～六条三・四坊
図版 6　平安京左京七～九条一・二坊
図版 7　平安京左京七～九条三・四坊
図版 8　平安京右京北辺～三条三・四坊
図版 9　平安京右京北辺～三条一・二坊
図版 10　平安京右京四～六条三・四坊
図版 11　平安京右京四～六条一・二坊

図版 12　平安京右京七～九条三・四坊
図版 13　平安京右京七～九条一・二坊
図版 14　伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳），板橋廃寺，三淵氏伏見城跡，指月城跡，太閤堤（小倉堤，槙島堤）
図版 15　伏見城跡，木幡ノ関跡，指月城跡
図版 16　1　御土居跡　2　御土居跡，西北町遺跡　3　御土居跡，大徳寺旧境内，雲林院跡，北山蓮台寺境内，上京遺跡，世尊寺跡，聚楽第跡，北野鳥居前町遺跡，北野遺跡，北野廃寺
図版 17　1　大深町須恵器窯跡，角社瓦窯跡，河上瓦窯跡，大宮北山ノ前瓦窯跡
2　史跡 賀茂御祖神社境内（下鴨神社）　3　上総町遺跡，雲林院跡，寺ノ内旧域，上京遺跡，上御霊遺跡，相国寺旧境内，室町殿跡（花の御所），一条室町殿跡，公家町遺跡，世尊寺跡
図版 18　1　樫原廃寺跡　2　下津林遺跡　3　上久世遺跡，中久世遺跡，下久世構跡，大藪遺跡，長岡京跡，東院跡，久我殿遺跡
図版 19　長岡京跡，東土川遺跡，久我殿遺跡
図版 20　長岡京跡，淀城跡
図版 21　史跡 仁和寺御所跡，仁和寺院家跡，常盤柏ノ木古墳群，村ノ内町遺跡，法金剛院境内，森ヶ東瓦窯跡，和泉式部町遺跡，太秦馬塚町遺跡，上ノ段町遺跡，広隆寺旧境内，多藪町遺跡，西野町遺跡，井戸ヶ尻遺跡，海正寺跡
図版 22　上終町遺跡，北白川廃寺，池田町古墳群，小倉町別当町遺跡，北白川追分町遺跡，北白川追分町縄文遺跡，追分町古墳群，吉田上大路町遺跡，吉田本町遺跡，吉田山遺跡，吉田神社境内，吉田二本松町遺跡，白河街区跡，史跡 聖護院旧仮皇居，白河北殿跡，白河南殿跡，得長寿院跡，尊勝寺跡，延勝寺跡，円勝寺跡，法勝寺跡，岡崎遺跡
図版 23　寺町旧域，名勝 円山公園，八坂神社，建仁寺境内，高台寺境内（雲居寺跡），六波羅政庁跡，方広寺跡，法住寺殿跡，祥雲寺跡，法性寺跡，今村城跡，鳥部（辺）野
図版 24　1　植物園北遺跡　2　鳥羽離宮跡，若宮八幡宮境内，鳥羽遺跡，竹田城跡，史跡 鳥羽殿跡，下鳥羽遺跡
図版 25　1　大覚寺古墳群，嵯峨遺跡　2　衣笠氷室町遺跡，香隆寺跡，北野遺跡
3　中臣遺跡　4　四手井城跡，山科本願寺跡（寺内町遺跡），史跡 山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡
図版 26　1　史跡 隨心院境内，史跡 醍醐寺境内　2　高山寺境内　3　梅津罧原町遺跡
4　上ノ段町遺跡，多藪町遺跡，西野町遺跡　5　岩倉忠在地遺跡　6　本山古墳群，栗栖野瓦窯跡　7　松ヶ崎廃寺

図版 27　1　小野瓦窯跡　2　沖殿町遺跡，名勝 曼殊院書院庭園　3　一乗寺松田町遺跡
4　如意寺跡　5　御土居跡，法成寺跡　6　法性寺跡，鳥部（辺）野
7　寺町旧域，御土居跡，法興院跡　8　旭山古墳群，元慶寺跡
図版 28　1　安祥寺下寺跡　2　山科本願寺南殿跡　3　元屋敷廃寺　4　大宅遺跡，
大宅廃寺，大宅廃寺瓦窯跡　5　深草遺跡，番神山古墳，深草坊町遺跡，安楽行院跡，
深草寺跡，貞観寺跡　6　法界寺旧境内　7　唐橋遺跡　8　長岡京跡，石見城跡
図版 29　1　史跡・名勝 嵐山，嵐山谷ヶ辻子町遺跡　2　山田桜谷古墳群　3　福西古墳群
4　勝持寺旧境内　5　塔遺跡　6　周山廃寺　7　愛宕山遺跡

図版 30 ～ 33　遺構
図版 30　Ⅲ - 5　平安京左京六条三坊二町跡，烏丸綾小路遺跡（21H113）遺構
1　№.1 地点　断面（東から）　2　№.3 地点　断面（西から）
3　№.4 地点　断面（北東から）　4　№.7 地点　断面（西から）
図版 31　Ⅴ - 2　北山蓮台寺境内（21S492）遺構
1　№.1 地点　断面（南西から）　2　№.3 地点　断面（東から）
3　№.5 地点　断面（南から）
図版 32　Ⅴ - 2　北山蓮台寺境内（21S492）遺構
1　№.7 地点　断面（北から）　2　№.7 地点　土坑墓甕出土状況（北東から）
3　№.7 地点　土坑墓集石出土状況（北東から）　4　№.4 地点　井戸木簡出土状況
図版 33　Ⅴ - 5　大宅廃寺瓦窯跡（20S163）遺構
1　落ち込み 1（東から）　2　落ち込み 2（東から）

Ⅰ　調査概要

本書は，文化庁国庫補助事業に伴う令和３年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では，令和３年１月４日から３月 31 日までの令和２年度分 181 件，令和３年４月１日から令和３年 12 月 28 日までの令和３年度分 392 件，計 573 件を報告する（表１）。

詳細分布調査の総件数は前年に比べて 47 件減少している（図１・２）。去年も前年より 20 件減少していたので，２年で 70 件近く減ったことになる。地区ごとの増減では，平安京内（平安宮・左京・右京地区）が前年 229 件から本年 247 件へと増加した。前年まで２箇年連続の減少から増加に転じた。平安京外では洛北地区が 11 件増加して３年連続で増加している。その他では，伏見・醍醐地区が７件増，太秦地区が１件増で，京北地区が同数の現状維持であった。しかし，残る５地区はいずれも減少している。特に洛東地区は，前年 92 件から今年 49 件と大きく減少した。

この件数減少が，令和元年から始まった新型コロナウイルス感染症の影響によって建築不況が引き起こされたことを示しているか否かは明確ではない。しかし，観光業に対して大きな影響を与えていることは，詳細分布調査の調査要因の変化から読み取れる。令和２年の報告書にも記載したが，平成 29 年 80 件，平成 30 年 84 件，令和元年 80 件と３年連続で 80 件台を続けていた宿泊施設（大型ホテル，簡易宿所，ゲストハウス，旅館等）建設に伴う調査件数が令和２年は 25 件と大幅に減少し，本年に至っては８件となっている。

詳細分布調査の件数減少にも関わらず，調査によって検出できた遺構，遺物は多数ある。以下，地区ごとの概要を述べる。

①平安宮（ＨＱ）

平安宮域では，平安宮跡，史跡 平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡），史跡 旧二条離宮，左京三条一坊七・八町跡，鳳瑞遺跡，聚楽遺跡，聚楽第跡，二条城北遺跡の８遺跡で 68 件の調査を行った。

本書では豊楽院・朝堂院・左馬寮・典薬寮跡，史跡 平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡），聚楽遺跡の調査（19K547）で豊楽殿北廊に伴う基壇盛土を検出したので報告する。

表１　令和３年の詳細分布調査件数

地　　区	2年度1～3月	3年度4月～12月	小計	地　　区	2年度1～3月	3年度4月～12月	小計
平安宮（HQ）	28	40	68	洛東地区（RT）	24	25	49
平安京左京（HL）	34	81	115	伏見・醍醐地区（FD）	15	45	60
平安京右京（HR）	16	48	64	鳥羽地区（TB）	7	19	26
太秦地区（UZ）	4	30	34	長岡京地区（NG）	7	13	20
洛北地区（RH）	27	51	78	南桂川地区（MK）	7	15	22
北白川地区（KS）	12	22	34	京北地区（UK）	0	3	3
				合　　計	181	392	573

他に左馬寮跡の調査（20K550）では時期不明であるが溝を検出している。

②平安京左京（ＨＬ）

左京域では，平安京跡，公家町遺跡，内膳町遺跡，京都新城跡，新在家構え跡，旧二条城跡，烏丸丸太町遺跡，高陽院跡，二条城北遺跡，烏丸御池遺跡，堀川御池遺跡，妙顕寺城跡，妙覚寺城跡，等持寺跡，三条せと物や町遺跡，本禅寺の構え跡，本能寺城跡，烏丸綾小路遺跡，堂ノ口町遺跡，本國寺城跡，御土居跡，東本願寺前古墓群，史跡教王護国寺境内，塩小路若山城跡，烏丸町遺跡，九条河原城跡の 26 遺跡で 115 件の調査を行った。

本書では二条三坊八町跡，烏丸丸太町遺跡，旧二条城跡の調査（20H336）で旧二条城の濠底南肩，二条三坊八町跡，旧二条城跡，烏丸丸太町遺跡の調査（21H109）で中世の土坑と整地層，二条四坊七町跡，烏丸丸太町遺跡，京都新城跡の調査（20H564）で平安時代後期の土坑など，四条二坊十三町跡の調査（20H743）で鎌倉時代の土坑，室町時代のピットなど，六条三坊二町跡，烏丸綾小路遺跡の調査（21H113）で平安時代後期から鎌倉時代のピットと土坑を多数検出したのでこの５件を報告する。

また，六条一坊十町跡の調査（21H021）では，室町時代の溝を検出した。この調査は事前に試掘調査をおこなっているので『京都市内遺跡試掘調査報告 令和３年度』に報告する。同じく北辺四坊六町跡，公家町遺跡の調査（20H109）も事前に試掘調査をおこなっているので同書に報告している。

この他，平安時代の遺構として五条二坊九町跡，本禅寺の構え跡の調査（20H506）で後期の井

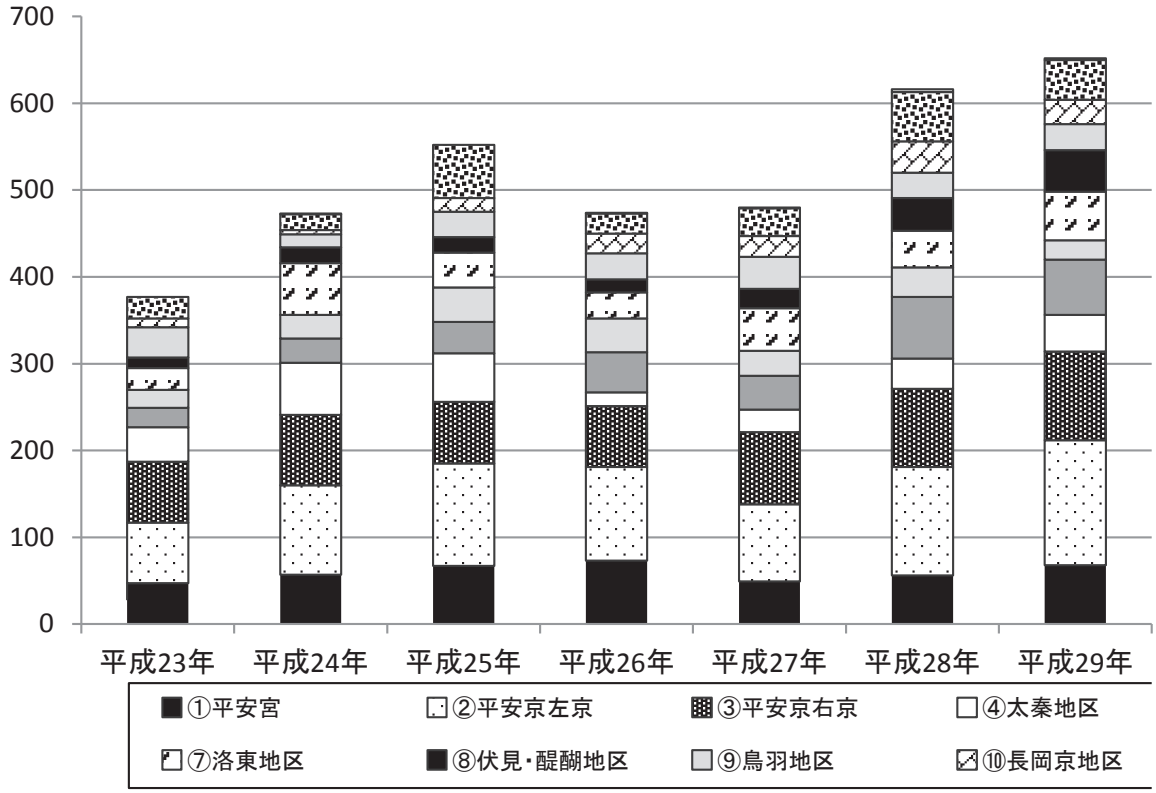


図１　詳細分布調査の年間件数推移（その１）

戸，三条四坊二町跡の調査（20H494），四条二坊七町跡の調査（20H483），五条四坊十町跡の調査（21H288），六条一坊六町跡の調査（21H286）では後期から末期の包含層及び整地層を検出している。鎌倉時代は三条四坊八町跡，等持寺跡の調査（20H435）でピットを検出している。中世は四条三坊三町跡の調査（21H233），六条三坊六町跡，烏丸綾小路遺跡の調査（21H172），で包含層を検出した。それから時期は不明であるが四条二坊四町跡の調査（21H174）で井戸を１基検出している。

③平安京右京（ＨＲ）

右京域では，平安京跡，御土居跡，西ノ京遺跡，壬生遺跡，西院城跡（小泉城），西院遺跡，西京極遺跡，堂ノ口町遺跡，衣田町遺跡，西市跡，史跡 西寺跡，唐橋遺跡，西寺跡の 13 遺跡で 64 件の調査を行った。

本書では五条三坊四町跡，西院遺跡の調査（21H055）で平安時代中期の東西溝，ピットを検出したので報告する。

この他，五条三坊六町跡の調査（19H611）で古墳時代の土坑を検出した。三条四坊一町跡の調査（21H192）では平安時代前期の包含層，七条二坊十五町跡の調査（21H133）で平安時代の整地層,九条二坊九町跡の調査（21H313）で平安時代から中世にかけての包含層を検出している。

④太秦地区（ＵＺ）

高山寺境内，大覚寺古墳群，嵯峨遺跡，梅津罧原町遺跡，史跡 仁和寺御所跡，仁和寺院家跡，太秦馬塚町遺跡，常盤柏ノ木古墳群，村ノ内町遺跡，法金剛院境内，森ヶ東瓦窯，和泉式部町遺跡，広隆寺旧境内，上ノ段町遺跡，多薮町遺跡，西野町遺跡，井戸ヶ尻遺跡，海正寺跡の 18 遺跡で 34 件の調査を行った。

大覚寺古墳群の調査（20S939）では，大覚寺４号墳（狐塚古墳）の周溝を検出した。この調査は事前に試掘調査をおこなっているので『京都市内遺跡試掘調査報告 令和３年度』に報告している。同じく史跡 仁和寺御所跡の調査（3N030）も事前に試掘調査をおこなっているので，同書での報告である。

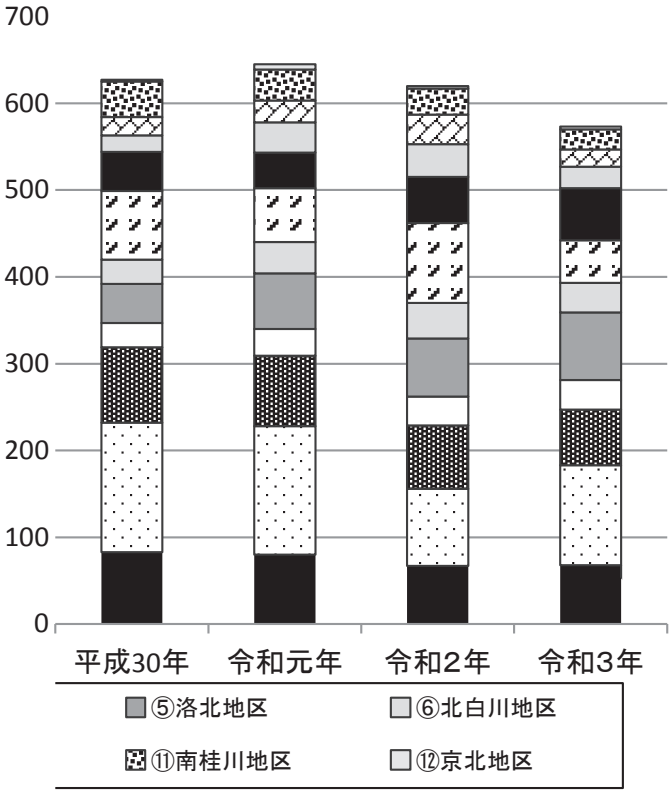


図２　詳細分布調査の年間件数推移（その２）

⑤洛北地区（ＲＨ）

岩倉忠在地遺跡，大深町須恵器窯跡，角社瓦窯跡，河上瓦窯跡，大宮北ノ前瓦窯跡，本山古墳群，栗栖野瓦窯跡，植物園北遺跡，松ヶ崎廃寺，御土居跡，

西北町遺跡，上総町遺跡，大徳寺旧境内，雲林院跡，衣笠氷室町遺跡，北山蓮台寺境内，寺ノ内旧域，上京遺跡，上御霊遺跡，相国寺旧境内，室町殿跡（花の御所），一条室町殿跡，公家町遺跡，史跡 賀茂御祖神社境内（下鴨神社），世尊寺跡，聚楽第跡，香隆寺跡，北野廃寺，北野遺跡の 29 遺跡と北野鳥居前町遺跡隣接地で 78 件の調査を行った。

本書では上総町遺跡の調査（21A008）で紫明小学校が保管する古墳時代から平安時代の遺物の確認と遺物出土推定地点の踏査をおこなったので報告する。北山蓮台寺境内の調査（21S492）では室町時代の井戸と墓を検出したので報告する。

この他，上京遺跡の調査（19S778）では室町時代の土坑，北野鳥居前町遺跡隣接地の調査（20S571）では中世の土坑を検出した。御土居跡の調査（20S164）では，実測した 2 点間の土層の違いから御土居の濠の北肩を確認している。

⑥北白川地区（ＫＳ）

小野瓦窯跡，沖殿町遺跡，名勝 曼殊院書院庭園，一乗寺松田町遺跡，北白川廃寺，上終町遺跡，小倉町別当町遺跡，池田町古墳群，北白川追分町遺跡，北白川追分町縄文遺跡，追分町古墳群，吉田上大路町遺跡，吉田本町遺跡，吉田二本松町遺跡，吉田神社境内，吉田山遺跡，白河街区跡，史跡 聖護院旧仮皇居，白河北殿跡，白河南殿跡，得長寿院跡，尊勝寺跡，延勝寺跡，円勝寺跡，法勝寺跡，岡崎遺跡，法成寺跡，御土居跡，如意寺跡の 29 遺跡で 34 件の調査を行った。

本書では如意寺跡の調査（21A001）で寄付受納品の採集場所の確認踏査をおこなったので，寄付資料と合わせて報告する。

この他，北白川追分町遺跡，吉田上大路町遺跡，北白川追分町縄文遺跡の調査（20S756）で弥生時代の包含層を検出した。法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡の調査（19R005）では平安時代の包含層，また白河北殿跡，尊勝寺跡，得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡の調査（19R427）では鎌倉時代の井戸を検出している。

⑦洛東地区（ＲＴ）

法興院跡，寺町旧域，御土居跡，名勝 円山公園，八坂神社，建仁寺境内，高台寺境内（雲居寺跡），六波羅政庁跡，法住寺殿跡，祥雲寺跡，法性寺跡，今村城跡，鳥部（辺）野，旭山古墳群，元慶寺跡，安祥寺下寺跡，四手井城跡，山科本願寺跡（寺内町遺跡），史跡 山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡，山科本願寺南殿跡，元屋敷廃寺，中臣遺跡，大宅廃寺，大宅遺跡，大宅廃寺瓦窯跡，史跡 隨心院境内の 26 遺跡で 49 件の調査を行った。

本書では安祥寺下寺跡の調査（21S151）で近世の基壇整地層，暗渠を，鳥部（辺）野の調査（20S459）では清水山山頂で中世墓と考えられる遺跡を，大宅廃寺瓦窯跡の調査（20S163）で瓦窯に伴う灰原を，史跡隨心院境内の調査（02N099）では江戸時代後半から近代の土塀の断面を検出したので報告する。

⑧伏見・醍醐地区（ＦＤ）

番神山古墳，深草坊町遺跡，安楽行院跡，深草寺跡，貞観寺跡，伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳），板橋廃寺，三淵氏伏見城跡，指月城跡，木幡ノ関跡，太閤堤（小倉堤，槙島堤），

史跡 醍醐寺境内，法界寺旧境内の 14 遺跡で 60 件の調査を行った。

番神山古墳の調査（21S303）では時期不明の溝状遺構を検出している。

⑨鳥羽地区（ＴＢ）

唐橋遺跡，久我殿遺跡，深草遺跡，鳥羽離宮跡，若宮八幡宮境内，鳥羽遺跡，竹田城跡，史跡鳥羽殿跡，下鳥羽遺跡，淀城跡の 10 遺跡で 26 件の調査を行った。

⑩長岡京地区（ＮＧ）

長岡京跡，東院跡，東土川遺跡，淀城跡，石見城跡の５遺跡で 20 件の調査を行った。

右京一条四坊十町跡，石見城跡の調査（20A012）では調査地のレーザー測量と現地踏査をおこない遺跡の正確な範囲と遺構の残存状況の確認をおこなった。

⑪南桂川地区（ＭＫ）

史跡・名勝 嵐山，嵐山谷ヶ辻子町遺跡，下津林遺跡，樫原廃寺跡，山田桜谷古墳群，勝持寺旧境内，福西古墳群，上久世遺跡，中久世遺跡，大藪遺跡，下久世構跡の 11 遺跡で 22 件の調査をおこなった。

本書では山田桜谷古墳群の調査（20A011）では１・２号墳のレーザー測量と現地踏査をおこない古墳の正確な範囲の確認をおこなったので報告する。

この他，上久世遺跡の調査（20S615）で弥生時代から古墳時代の包含層を検出している。

⑫京北地区（ＵＫ）

塔遺跡，周山廃寺の２遺跡と愛宕山遺跡隣接地で，合わせて３件の調査を行った。

本書では愛宕山遺跡隣接地の調査（21A002）で平安時代前期の礎石建物跡を確認したので報告する。

（吉本　健吾・新田　和央）

表２　出土遺物概要表

	Ａランク点数（箱数）	内訳	Ｂランク箱数	Ｃランク箱数	出土箱数合計
点数及び箱数	75 点（４箱）	土師器 47 点，須恵器 12 点，焼締陶器４点，施釉陶器４点，輸入磁器４点，緑釉陶器１点，木製品１点，金属製品２点	２箱	４箱	11 箱

Ⅱ-1　平安宮豊楽院・朝堂院・左馬寮・典薬寮跡，聚楽遺跡，史跡 平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡）（19K547）

1．調査の経緯（図３）

本件は，中京区西ノ京左馬寮町～聚楽廻南町地内で行われた上水道埋設管入替工事に伴う詳細分布調査である。工事範囲は，西は御前通，東は千本通，北は丸太町通，南は太子道に囲まれた範囲で，平安宮豊楽院・朝堂院・左馬寮・典薬寮跡，聚楽遺跡，史跡 平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡）に該当する。調査期間は令和２年４月９日から令和３年５月 19 日である。

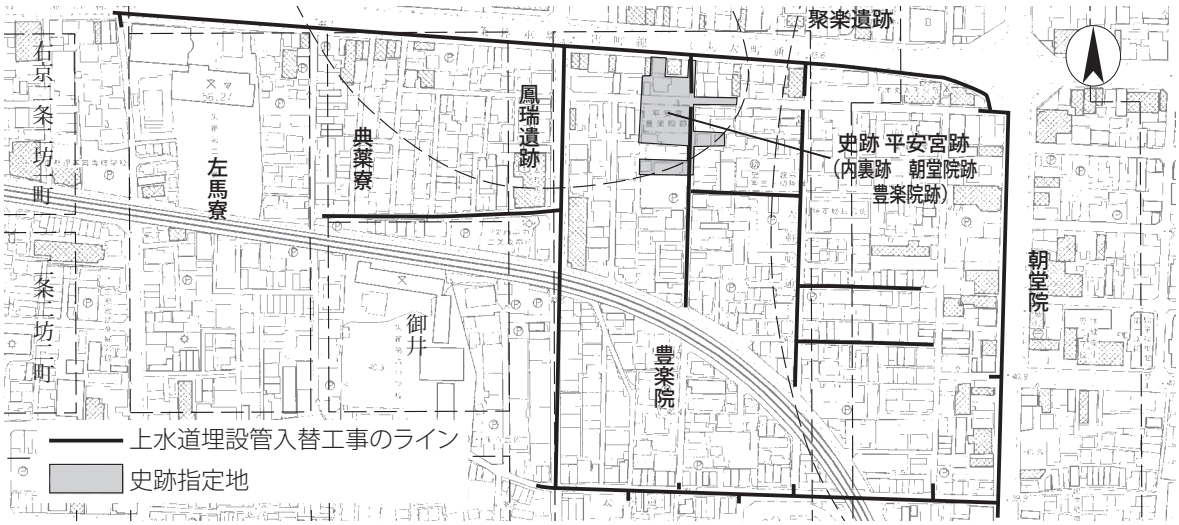


図３　調査位置図（１：5,000）

2．調査成果

今回の調査では，計 22 地点の断面観察を行った。結果，22 地点中 11 地点で既存埋設管掘方に掘削が収まることを確認し，22 地点中５地点で，盛土以下，GL-0.3 ～ -0.95m で明黄褐色シルトや砂礫の地山を確認した。この他，４地点で地山上面に時期不明の土師器細片を含む土層を確認している。今回の調査で特筆すべきは№ 14 地点である。この地点は，豊楽殿と清暑堂をつなぐ北廊の東半部分にあたる（図４- 調査地点№ 14）。豊楽殿北廊については，昭和 46 年に旧丸太町通で行われた下水管埋設工事に伴う立会調査（図４- 調査１）で，道路面約 0.5m 下で凝灰岩の破片を含む堆積土が確認され，この堆積土が東西幅 15.0m にわたり確認できたため，北廊の盛土の可能性が想定でき，豊楽殿北廊が複廊である可能性が示唆されている。この後，昭和 63 年度に行われた発掘調査（図４- 調査２）で，豊楽殿基壇北西縁と北面西階段と中央階段及び基壇上面にて庇の壺掘地業のほか，北廊が確認された。北廊が北面中央階段を壊して構築されていることから，豊楽殿完成後に付け加えられたことがわかっている。また平成 18 年度に行われた発掘調査（図４- 調査３）では清暑堂基壇南縁と南面西階段及び北廊の基壇盛土が確認されている。この調査で清暑堂南面中央階段はなく，北廊と清暑堂を同時期に造営していること，また北廊は創建以降，２

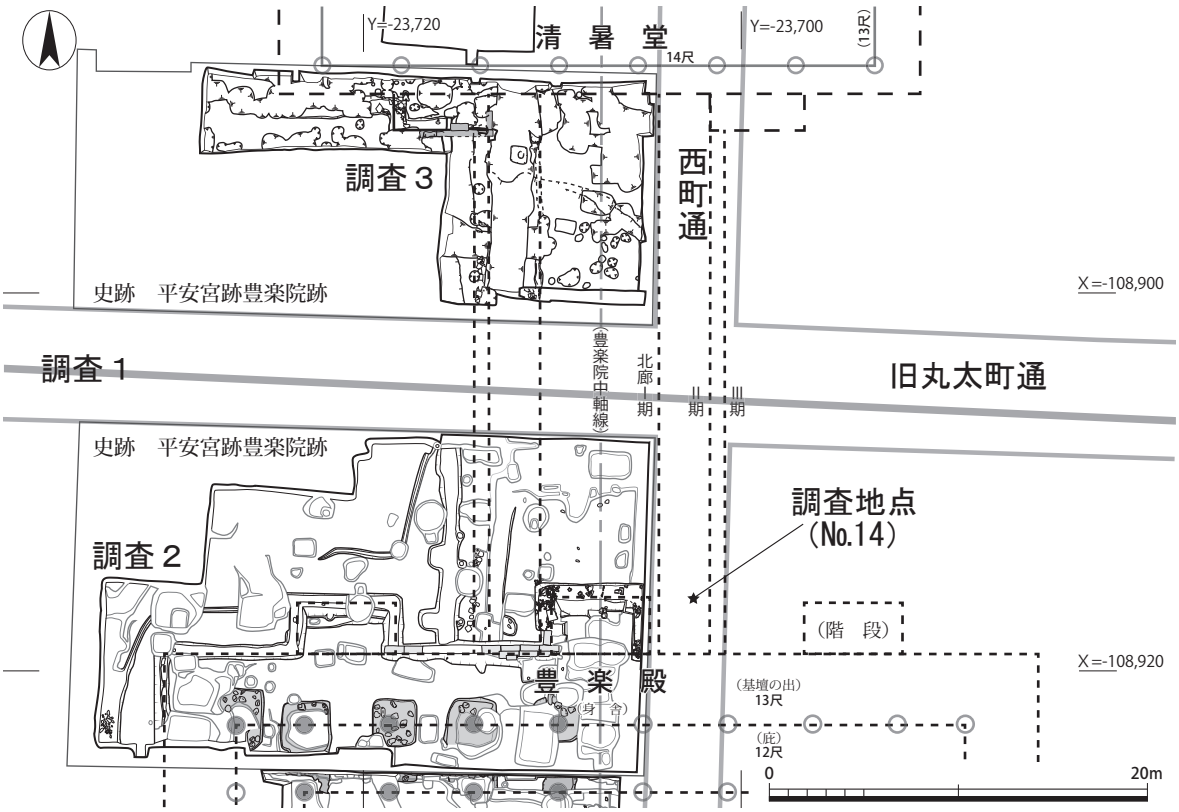


図４　調査地付近既存調査平面及び調査地点位置図（1：400）

度にわたり拡張を行っていることなどが明らかになっている。

今回の調査では，アスファルト・撹乱の以下，GL-0.26m（42.15m）で凝灰岩片を含む灰黄褐色砂礫（図５-１・２），-0.43m（41.98m）で黄褐色シルト～微砂（同３）の地山を確認した。検出レベルや埋土の様相から，北廊に伴う盛土であると判断した。

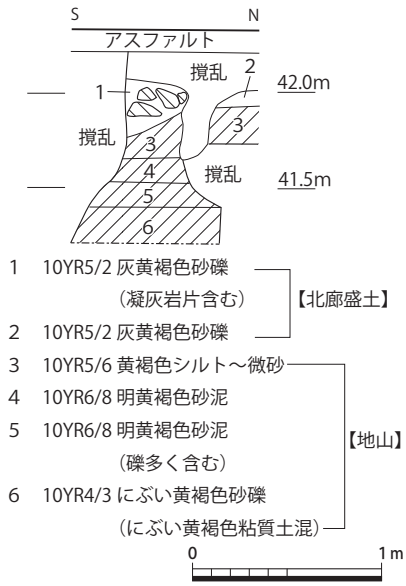


図５　No.14 地点断面図（１：40）

３．まとめ

今回の調査では，豊楽殿北廊に伴う盛土である凝灰岩片を含む灰黄褐色砂礫を確認した。北廊の東半は，現・西町通と重複するため，今回と同様の調査でしか状況を知ることが難しいが，今後も注視し，資料の蓄積を行っていきたい。

（奥井　智子）

註

１）図４で示した周辺調査の報告書は以下の通りである。

調査１：「No.410　平安宮豊楽殿跡」『平安京研究資料集成』1 平安宮，(財)京都市埋蔵文化財研究所，1994年。

調査２：鈴木久男「平安宮豊楽院（１)」『平安京跡発掘調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局，1989年。

調査３：西森正晃「平安宮豊楽院跡・鳳瑞遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告平成19年度』京都市文化市民局，2008年。

Ⅲ-1　平安京左京二条三坊八町跡，旧二条城跡（21H109）

1．調査の経緯（図６）

調査地は，新町通と椹木町通の交差点の南東にあたる。平安京の復原では，中御門大路の路面に相当し，敷地の南辺が左京二条三坊八町にかかる。また，足利義昭の御所である武家御城（旧二条城）にも含まれており，近年の復原案ではその西外堀付近に相当する[1]。今回，この区画に病院施設の建設が計画されたため，令和３年８月 26 日～ 31 日にかけて，詳細分布調査を実施した。

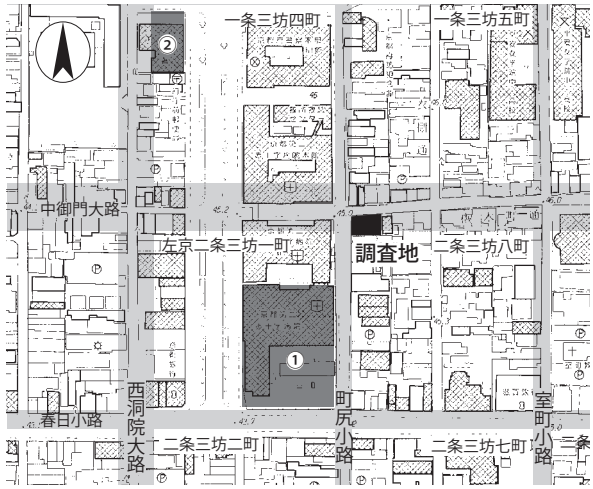


図６　調査位置図（１：5,000）

平安時代中期，この左京二条三坊八町には，前播磨守藤原共政の「室町西春日北宅」があったとされる。その後の地歴は不明であるが，応仁・文明の乱時の兵火により荒廃した（『坊目誌』）。天正年間になると旧二条城の建設により活況を帯びるが，宝永の大火（宝永５年〔1708〕）で周囲は再び灰燼に帰した。江戸時代後期には御所の復興・拡張とともに周辺街路が整備されたため，中御門大路の北側には禁中同心屋敷が，南には町屋が立ち並んだという（『京雀』）[2]。

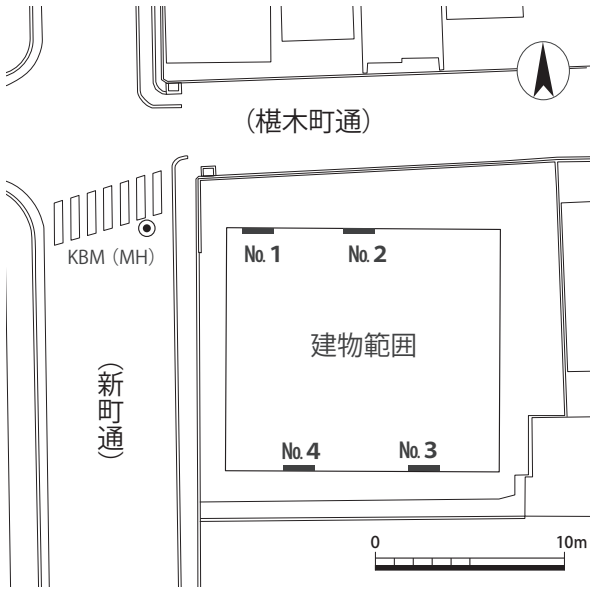


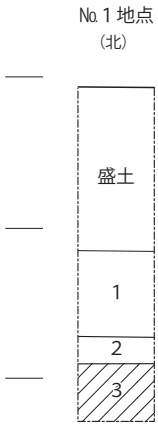
図７　調査地点位置図（１：400）

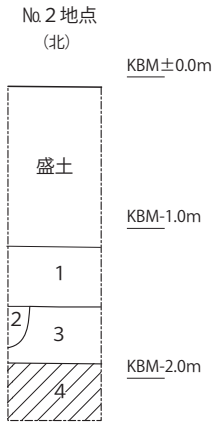
調査地周辺の調査成果をみると，新町通を隔てて南西に位置する京都第二赤十字病院地内（図６①）で，平成 13 年度に試掘調査が実施されており，GL-0.4 ～ -1.3m の深度において，平安時代末～室町時代の土坑や柱穴を有する遺構面が複数確認されている。また，釜座通の西に位置する（図６②）では，GL-1.3 ～ -1.7m の深度において平安時代前期～江戸時代の遺構面が確認されている。このため，今回の調査地においても連続する遺構面の存在が予測された。

2．調査成果（図７～11）

調査は，対象地の北半部２箇所，南半部２箇所において断面観察を行った（図７）。

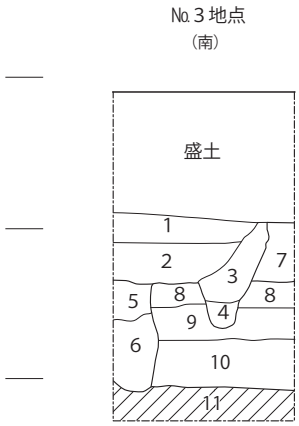
№１地点　GL-1.18m で近代堆積層，-1.64m で黒褐色礫混じり粘土質シルトの中御門大路路面，

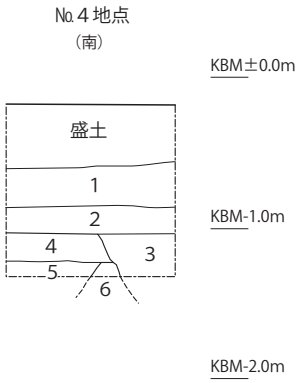




１）10YR6/2　灰黄褐色粘土質シルト　【近代】
２）10YR3/1　黒褐色粘土質シルト
径５cm未満の礫多量入る
３）10YR7/4　にぶい黄橙色砂礫　【地山】

１）10YR3/2　黒褐色　粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る　土器片入る　【中世】
２）10YR4/2　灰黄褐色　粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る　土器細片入る
３）10YR3/1　黒褐色　粗砂混じり粘土質シルト
径5cm未満の円礫多量入る　しまり良い
４）10YR7/4　にぶい黄橙色　砂礫　【地山】





１）10YR4/2　灰黄褐色細砂混じりシルト
径1cm未満の礫小量入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
２）10YR3/2　黒褐色細砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
３）10YR3/2　黒褐色細砂混じりシルトに
10YR5/6　黄褐色細砂混じりシルトブロック5%程度入る
径2cm未満の礫少量入る　陶磁器片・炭化物入るしまり悪い
４）10YR3/2　黒褐色細砂混じりシルトに８・９層ブロック10%程度入る
径2cm未満の礫少量入る　しまり悪い
５）10YR3/1　黒褐色砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
６）10YR3/1　黒褐色細砂混じりシルトに ８・９層ブロック20%程度入る
径2cm未満の礫少量入る　炭化物入る　しまり悪い
７）10YR4/2　灰黄褐色粗砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
８）10YR3/3　暗褐色粗砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
９）10YR5/6　黄褐色細砂混じり粘土質シルトに
10YR7/4　にぶい黄橙色シルトブロック10%程度入る　ややしまり悪い
10）10YR2/2　黒褐色細砂混じりシルト
炭化物・植物遺体入る　やや軟質　ややしまり悪い
11）10YR7/4　にぶい黄橙色礫混じり粘土質シルト　【地山】

１）10YR3/3　暗褐色粗砂混じりシルトに
10YR4/1　褐灰色シルトブロック20%程度入る
径3cm未満の礫少量入る焼土・炭化物入る
しまり悪い　【近代】
２）10YR4/3　にぶい黄褐色粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る　土器片入る
上位固くしまる
３）10YR4/3　にぶい黄褐色粗砂混じりシルト
径3cm未満の礫少量入る　焼土・炭化物多量入る
４）2.5Y4/2　暗灰黄色粗砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る
ややしまり悪い
５）2.5Y4/2　暗灰黄色粗砂混じりシルトに
10YR4/4　褐色微砂混じり粘土質シルトブロック10%程度入る
径2cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物入るややしまり悪い　【近世土坑】
６）10YR4/4　褐色微砂混じり粘土質シルトブロックと
10YR4/2　灰黄褐色シルトブロックの混合層
土器片・炭化物入る　【整地層】

図８　No.１～４地点断面図（１：50）

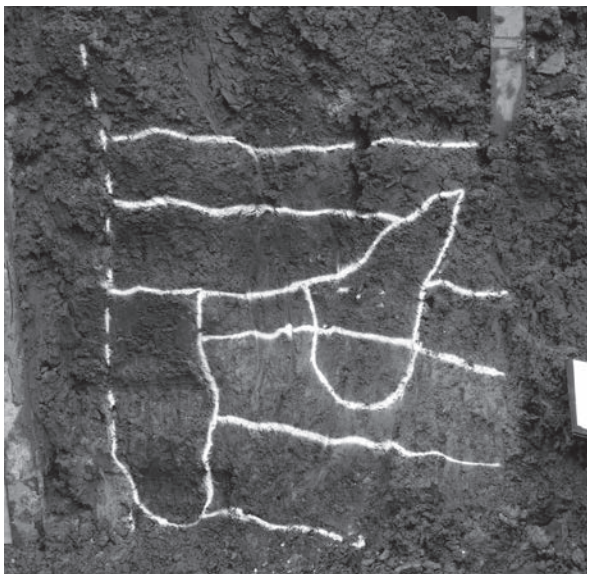


図９　№３地点壁断面（北から）

図 10　№４地点壁断面（北から）

-1.83m 以下でにぶい黄橙色砂礫の地山を確認した。

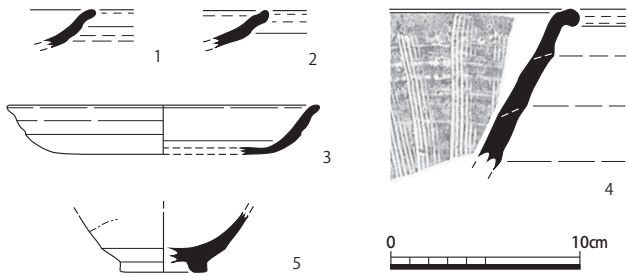


図 11　出土遺物実測図（１：４）

№２地点　GL-1.05m で黒褐色粗砂混じりシルトの中世包含層，-1.43m で黒褐色礫混じり粘土質シルトの路面，-1.8m 以下でにぶい黄橙色砂礫の地山を確認した。路面上面では，ピットを１基検出した。中世包含層からは瓦質土器鉢（15 世紀），土師器皿（13 ～ 14 世紀）の小片が出土した。

№３地点　№３地点では路面は確認されず，安定した地盤の広がりと平安時代～室町時代の包含層が累積する。GL-0.8m で灰黄褐色細砂混じりシルトの整地層，-1.25m で黒褐色粗砂混じりシルトの平安時代後期包含層，-1.43m で黄褐色細砂混じりシルトの基盤層，-1.6m で黄褐色細砂混じりシルト，-1.95m 以下でにぶい黄橙色礫混じり粘土質シルトの地山を確認した。盛土除去面では東へ下がる中世後期の落ち込みとピットを検出した。また，平安時代後期包含層の上面でピットを１基検出した。このピット埋土からは，11 ～ 12 世紀の土師器皿の小片が出土した（図 11- １・２）。また，掘削中にも同時期の土師器皿が出土した（同図 - ３）。

№４地点　GL-0.43m で暗褐色粗砂混じりシルトの堆積層，-0.66m でにぶい黄褐色粗砂混じりシルトの近世包含層，-0.83m で暗灰黄色粗砂混じりシルトの近世包含層，-1.02 ～ -1.12m で褐色微砂混じり粘土質シルトの整地層を確認した。

近世包含層の上下面では，土坑を検出した。図８№４- ４層からは信楽焼の擂鉢の破片（図 11- ４）が出土した。また№４- ５層からは肥前産施釉陶器椀（図 11- ５）が出土した。

３．まとめ

以上，平安京左京二条三坊八町跡の調査成果について記述した。今回の調査では平安時代後期（12世紀）と室町時代後期（15世紀）以後の遺構群と遺物の出土を確認した。遺構・遺物がこの２時期に偏ることは，平安時代以後に衰退し，天正年間に一時的に復興，その後町屋として整備されたとする文献史料の記述に沿うものである。また，調査事例が少ない中御門大路の一部を捉えたことも報告できる成果といえよう。限られた範囲の調査であるが，この町域の調査事例として掲げておきたい。

（黒須亜希子）

註

１）馬瀬智光「旧二条城（武家御城）～足利義昭御所の造営～」『天下人の城』京都市文化財ブックス第31集，京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課，2017年。

２）林屋辰三郎ほか編『京都市の地名』日本歴史地名大系第27巻，1979年。

引用文献

調査①：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査概報　平成13年度』，2002年。

調査②：（財）京都市埋蔵文化財研究所「２平安京左京一条三坊」，『平成９年度　京都市埋蔵文化財調査概要』，1999年。

Ⅲ-2　平安京左京二条三坊八町跡，旧二条城跡，烏丸丸太町遺跡（20H336）

1．調査の経緯（図12）

調査地は上京区室町通椹木町下る大門町に位置し，平安京左京二条三坊八町跡，旧二条城跡，烏丸丸太町遺跡に該当する。室町幕府14代将軍足利義輝の武衛陣御所，15代将軍義昭の旧二条城などがあったとされる室町時代後期の要所である。

今回，共同住宅建築工事に際して，令和３年５月20日，21日に調査を実施し，旧二条城跡の濠跡を検出した。

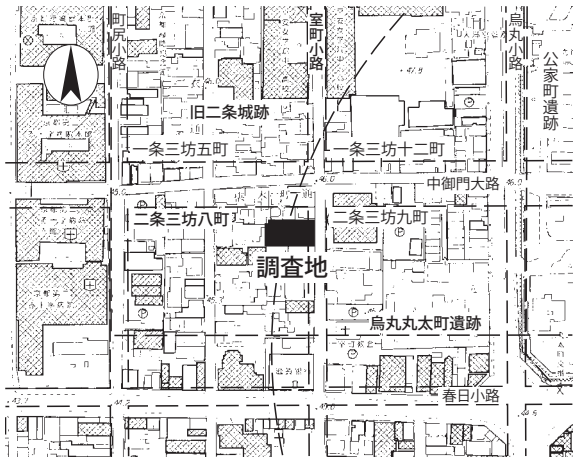


図12　調査位置図（1：5,000）

2．層序と遺構（図13・14）

現地は既存建物の解体によりGL-2.7mまで攪乱されていた。しかし掘削底（GL-3.1m）の間に濠の底部と考えられる埋土が遺存していたため記録調査を行った。

層序は攪乱されていたが，工事掘削底で褐色砂礫の所謂ベース土を確認し，施工範囲のおおむね全域でこの砂礫が観察された。A-A' 間では，GL-2.7mで砂礫を切る黒褐色泥砂を検出した。黒褐色泥砂は平面では南北方向に続いていることが確認できた。このため調査地の西端壁面B-B' を確認したところ同様の埋土が観察され，これを溝の南肩と判断した。遺物は出土しなかった。

3．まとめ

当該地の東隣接地で行われた昭和55年度の発掘調査（80HK-IF）では旧二条城の中濠と推定される溝55[1]が検出されていた。今回確認した溝はこの延長上に位置すること，GL-2.7mの地点で遺存するかなり深い溝であったことから，旧二条城の濠であると考えられる。これは現在提示されている復元図[2]とも符合する。旧二条城の濠は深度が深く遺構の残存率が高い。旧二条城跡の解明のためにも，今後も調査を積み重ねていきたい。（赤松　佳奈）

註

1）（財）京都市埋蔵文化財研究所編「16　平安京左京二条三坊九町」『昭和55年度京都市埋蔵文化財調査概要』，（財）京都市埋蔵文化財研究所，2011年。

2）赤松佳奈ほか「平安京左京一条三坊十一町跡・旧二条城跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　令和２年度』京都市文化市民局，2021年。

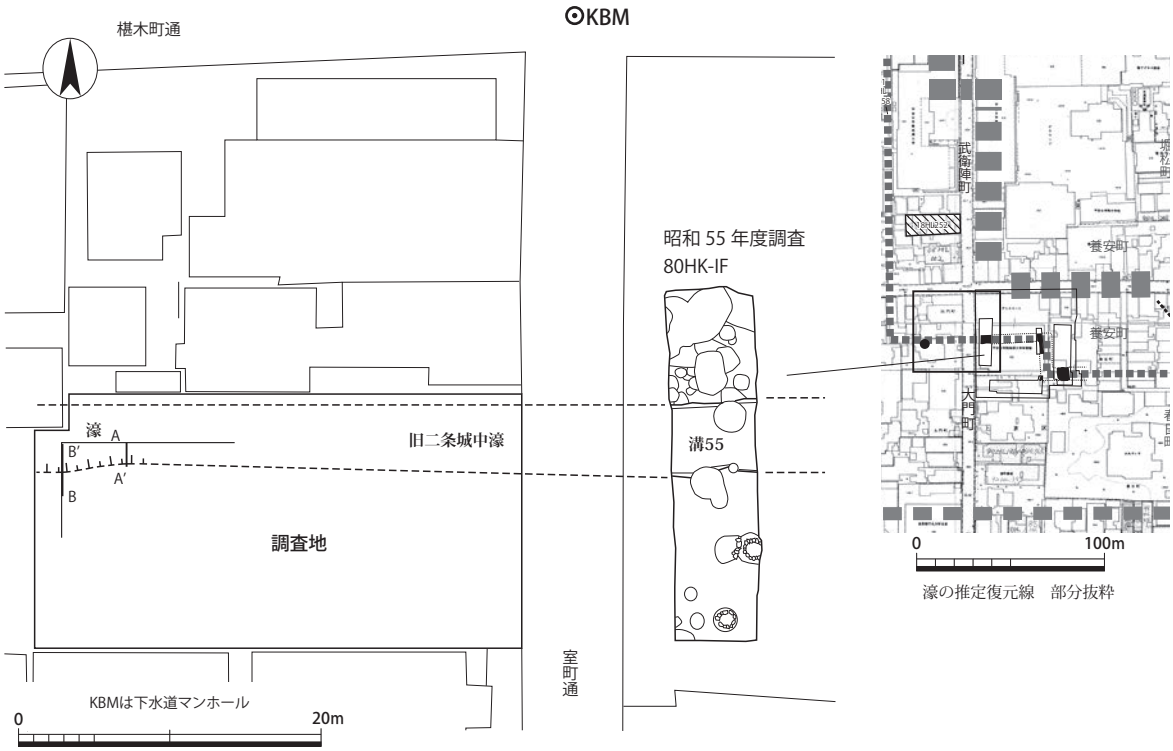
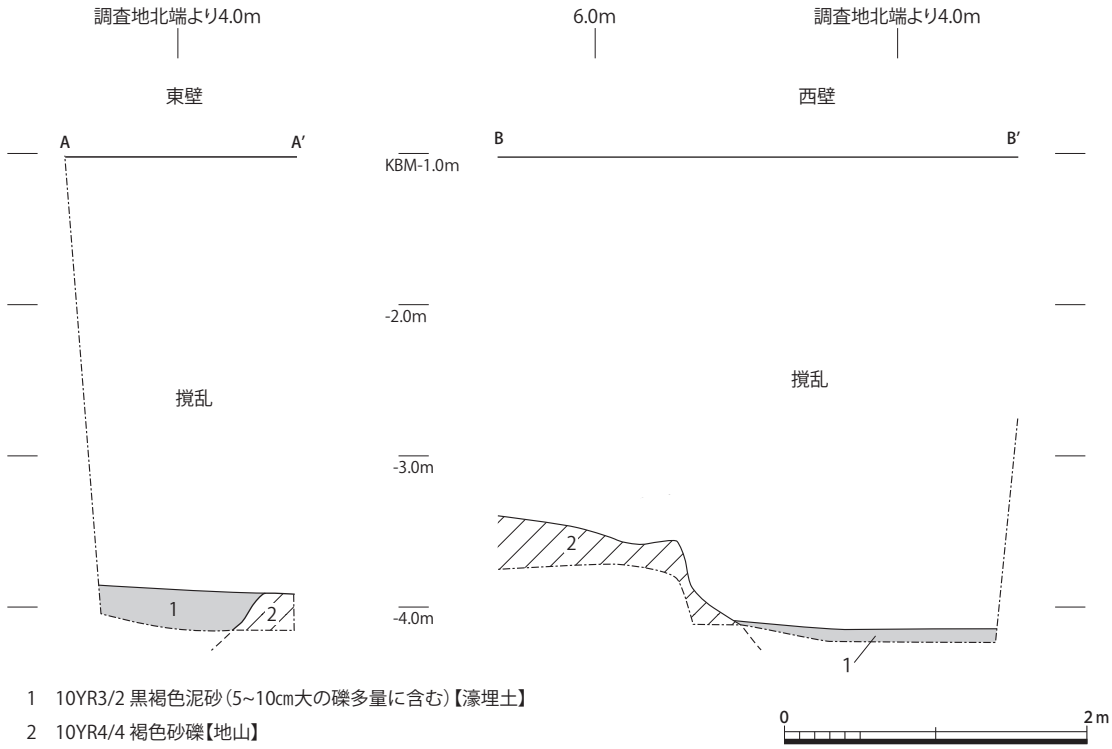


図 13　調査地点位置，昭和 55 年発掘調査平面及び濠推定復元図（1：500 及び 1：4,000）



1　10YR3/2 黒褐色泥砂（5~10㎝大の礫多量に含む）【濠埋土】
2　10YR4/4 褐色砂礫【地山】

図 14　A-A'・B-B' 間断面図（1：50）

Ⅲ-3　平安京左京二条四坊七町跡，烏丸丸太町遺跡，京都新城跡（20H564）

1．調査の経緯（図15）

本件は共同住宅新築に伴う詳細分布調査である。調査地は周知の埋蔵文化財包蔵地「平安京跡」,「烏丸丸太町遺跡」及び「京都新城跡」に該当し，平安京条坊では左京二条四坊七町に比定されている。当町には平安時代中期に丹後守藤原遠規の高倉第が所在し（『御産部類記』天暦四年五月二十四日条），後期には悪左府藤原頼長の大炊御門高倉亭があり（『台記』久安四年〔1148〕八月九日条),保元の乱で頼長が敗死した後には,二条天皇の大炊御門高倉殿となった（『山槐記』永暦二年〔1161〕四月二十二日条)。烏丸丸太町遺跡は調査地の西側一帯で確認している弥生～古墳時代の集落遺跡で，京都新城は豊臣秀吉が慶長２年（1597），現在の大宮御所・仙洞御所の地に築いた城である。城の範囲など詳細は判明しておらず，今回の調査地が城域かどうかは検討を要する。調査は令和３年２月 17 日から 22 日にかけて３回にわたって実施し，平安時代後期の遺物を含む土坑を検出したことから，出土遺物を中心に報告する。

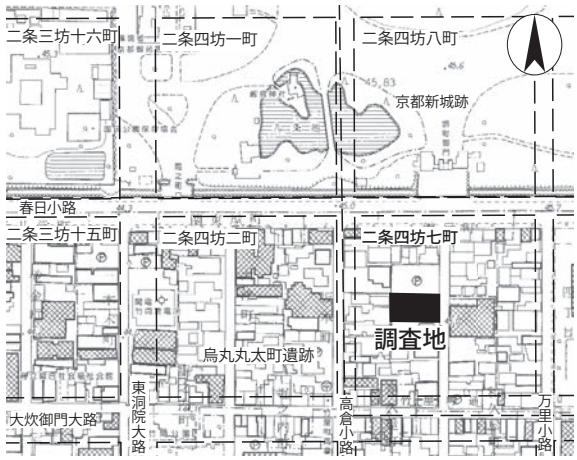


図 15　調査位置図（1：2,500）

2．層序と遺構（図16・17）

掘削の進行に合わせ，３か所で断面確認をおこなった。敷地南西の No.1 地点では遺構面が遺存していることを確認した。GL-1.25m で炭化物を含む暗灰黄色砂泥層（１層）およびオリーブ褐色砂泥層（２層）となる。両者はわずかな色調の違いから別の層名・注記を与えたが，同一層の可能性が高い。GL-1.35m でにぶい黄色シルト層（６層）となる。これは地山の可能性があり，ここに切り込む土坑を２基検出した。暗灰黄色砂泥（４層）を埋土とする西側の土坑は検出範囲が狭く，時期等の絞り込みは難しいが，にぶい黄色シルト（５層）を埋土とする土坑は幅 1.5m，深さ 0.75m 分を断面で検出し，出土遺物が 11 世紀末から 12 世紀初めに時期的まとまりを持つ。この土坑を掘り切ると GL-2.1m で浅黄色砂質土の確実な地山となる。

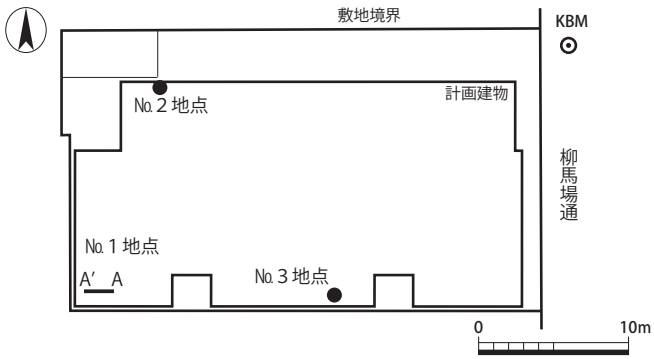


図 16　調査地点位置図（1：500）

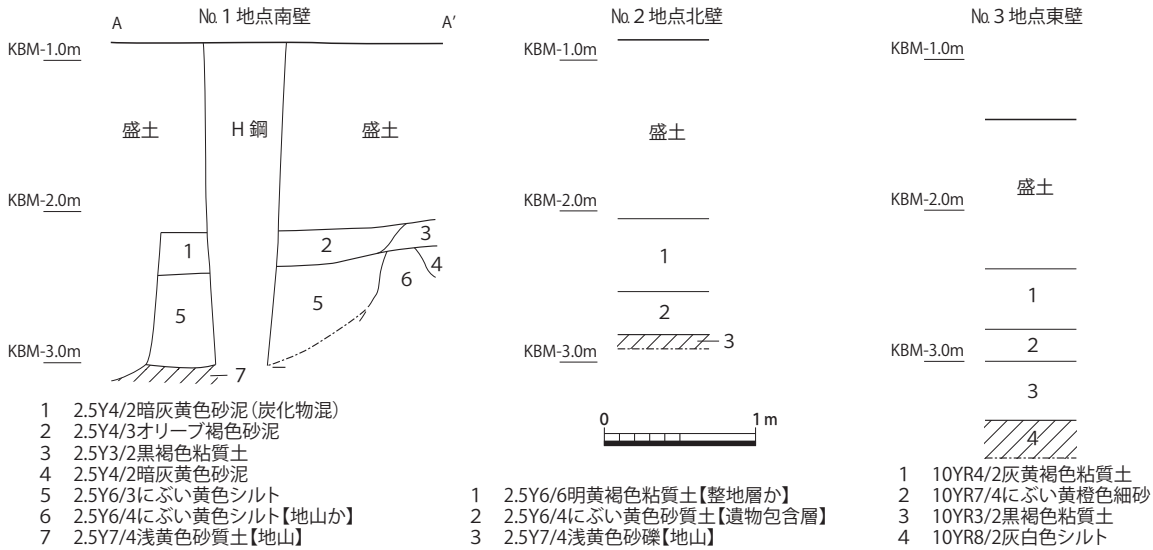


図 17　№.1 地点断面及び№.2・3 地点柱状断面図（1：50）

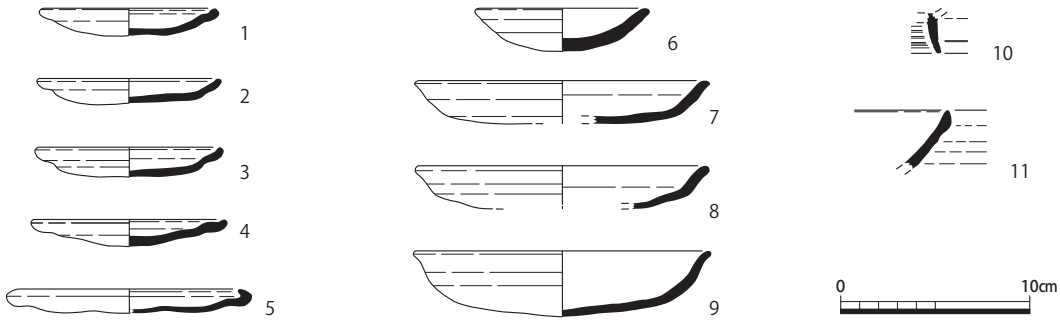


図 18　出土遺物実測図（1：4）

3．遺物（図18）

№.1 地点の 5 層から一定量の遺物が出土したため，これを報告する。1 ～ 5 は土師器皿 A である。1 ～ 4 は口径 9.0 ～ 10.0cm の小皿で，5 は口径 11.6cm と一回り大ぶりである。6 ～ 9 は土師器皿 N である。6 のみ小皿で復元口径 8.8cm であるが，資料の残存状況を鑑みるに本来よりも少し小さく復元している可能性がある。7 ～ 9 は復元口径 15.3 ～ 15.5cm にまとまる。口縁部は外に開くようにナデており，皿 A と合わせ，全体として 4C 段階でもやや新しい要素を持つ。10 は白磁椀の高台部，11 は白磁椀の口縁部で，いずれも土師器皿と同時期であろう。

4．まとめ

部分的ではあるが，平安時代後期の遺構，遺物が良好に遺存することを確認した。平安時代後期の当町には，白河法皇・鳥羽天皇の御所であった大炊殿（左京二条三坊十五町），鳥羽天皇の洞院殿（同二条四坊二町），白河法皇・鳥羽上皇の春日殿（同二条四坊十町），鳥羽上皇と待賢門院の二条富小路殿など，重要施設が集中している。今回確認できた遺構は藤原頼長の大炊御門高倉亭よりも半世紀あまりさかのぼる 11 世紀末から 12 世紀初頭のもので，この時期から土地利用が活発化していたことが分かる。一帯が同時期に集中的に開発されたことを示すものとして重要である。

（新田　和央）

Ⅲ-4　平安京左京四条二坊十三町跡（20H743）

1．調査の経緯（図19）

調査地は，四条通と堀川通の交差点より北東に位置する。平安京の復原では左京四条二坊十三町の西辺に相当し，敷地の西端が油小路の路面にかかる。今回，この区画において店舗付き共同住宅の建設が計画されたことから，令和３年６月15日及び７月12日～30日にかけて，詳細分布調査を実施した。

この町域には，平安時代後期に治部少輔藤原某の所領があり，鎌倉時代初頭に従二位藤原中納言親能や丹波前司の邸宅があったことが知られている。室町時代以後は下京の商業地として栄え，応永22年（1415）付酒屋交名（北野天満宮資料）に「錦小路油小路南東頬　若狭隆春」の名が記されている。江戸時代には町域の東半部に久留米藩（有馬家二十一万石）の藩邸が設けられており，幕末まで活発な土地利用のあったことが窺える。

一方，周辺の発掘調査においても各時期の遺構の残存が報告されている。調査地の南東（図19①）では令和元年度に発掘調査が行われ，GL-1.2mの深度において，井戸や溝を有する平安時代後期の遺構面が検出された。続く鎌倉時代遺構面では栗石を敷き詰めた地業跡，室町時代遺構面では大型土坑や石組井戸，掘立柱建物が確認された。また，調査地西の図19②では令和２年度の詳細分布調査においてGL-1.0mで室町時代遺構面，-1.2mで平安時代末～鎌倉時代遺構面が確認されている。

このほか，油小路を隔てた西側の十二町内では平成30年度に詳細分布調査を実施しており

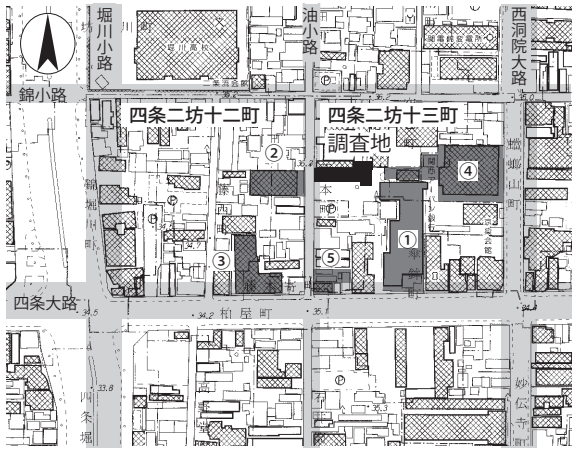


図19　調査位置図（1：5,000）

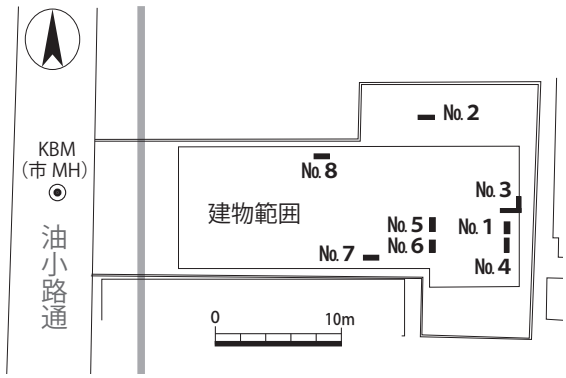


図20　調査地点位置図（1：600）

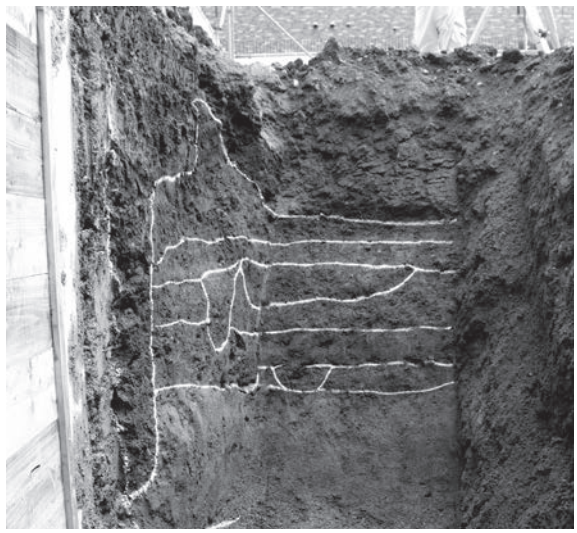
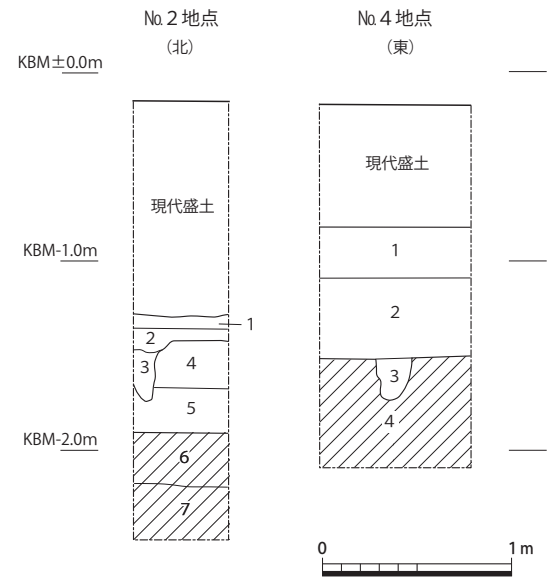


図21　No.3地点壁断面（北から）

（図 19 ③），GL-1.5m の深度において平安時代中期～江戸時代の遺構面が確認されている。平安時代後期～鎌倉時代と室町時代に属するピットや土坑が稠密に検出され，緑釉陶器を含む遺物が多量に出土した。

以上の状況から，今回の調査地においても GL-1.2 ～ -1.5m の深度において，連続する遺構面の存在が予測された。

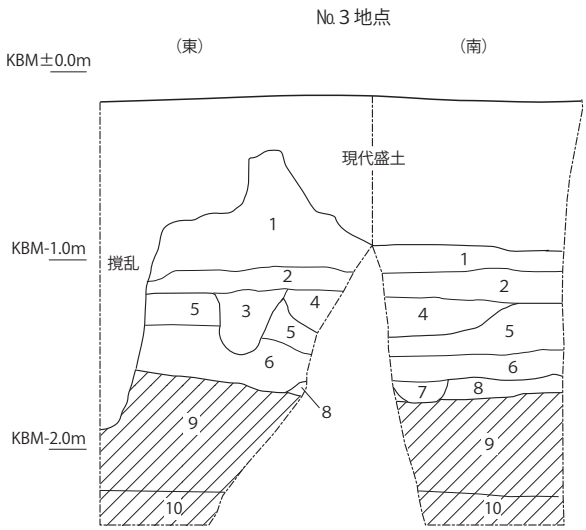


№.２地点

1）10YR3/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径２cm未満の礫多量入る
土器片入るしまり悪い　【室町時代包含層】
2）10YR4/2　灰黄褐色細砂混じりシルトブロックと
5Y5/3　灰オリーブ色シルトブロックの混合層
土器片入るしまり悪い　【鎌倉時代包含層】
3）2.5Y4/3　オリーブ褐色粗砂混じりシルトに
2.5Y5/1　黄灰色細砂ブロック20％程度入る　しまり悪い
4）2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粗砂混じり粘土質シルト
径0.5cm未満の礫少量入る　しまりやや悪い　やや軟質
5）2.5Y4/3　オリーブ褐色細砂～砂質シルト
ややしまり悪い　植物根跡あり
6）2.5Y5/3　黄褐色細砂【地山】
7）2.5Y4/6　オリーブ褐色粗砂【地山】

№.４地点

1）2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粗砂混じり粘土質シルト
径0.5cm未満の礫少量入る　しまりやや悪い　やや軟質
2）2.5Y4/3　オリーブ褐色細砂～砂質シルト
ややしまり悪い　植物根跡あり　【室町時代包含層】
3）10YR4/1　褐灰色礫混じりシルト
径２cm未満の礫多量入る　しまり悪い　【ピット埋土】
4）2.5Y5/3　黄褐色細砂　【地山】



№.３地点

1）10YR2/3　黒褐色粗砂混じりシルト
径３cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物少量入る　しまり悪い　【近世包含層】
2）2.5Y3/1　黒褐色粗砂混じりシルト
径１cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物の細片少量入る　しまり悪い
3）2.5Y3/1　黒褐色粗砂混じりシルト
径１cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物多量入る　しまり悪い
4）2.5Y3/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径１cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物入る　しまり悪い
5）2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粗砂混じりシルト
径１cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物多量入る　しまり悪い
6）2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粗砂混じりシルト
径１cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物多量入る　ややしまり悪い
やや軟質　【平安時代後期包含層】
7）2.5Y3/2　黒褐色礫混じり砂質シルト
径１cm未満の礫少量入る　しまり悪い
8）2.5Y4/2　暗灰黄色砂質シルトブロックと
2.5Y5/3　黄褐色細砂ブロックの混合層
9）2.5Y5/3　黄褐色細砂　【地山】
10）2.5Y4/6　オリーブ褐色粗砂　【地山】

図 22　№.２～４地点断面図（１：40）

２．調査成果（図20～23）

調査は，建物計画範囲内の８箇所において断面観察を実施し，一部で平面検出を試みた（図22）。

№１地点（図20）

調査地南東部に設定した№１地点では，GL-1.13m で灰黄褐色粘質土（室町時代包含層），-1.5～ -1.64m でにぶい黄褐色粘質土（時期不明包含層）を確認した。室町時代包含層からは，青磁椀（図23- １，15 世紀前半）が出土した。

№２地点（図20・22左）

調査区北東部に設定した№２地点では，GL-1.13m で室町時代包含層，-1.2m で鎌倉時代包含層，-1.75m で黄褐色細砂を主体とする河川堆積（無遺物層）を確認した。河川堆積は -2.35m 以深まで続くことから，これを当該地点の地山と判断した。鎌倉時代遺構面ではピットを１基検出した。その埋土から須恵器壺の口縁部が出土した（図 23- ２）。

№３地点（図20・21・22中央）

調査区東辺中央に設定したNo.３地点では，GL-0.9mで江戸時代前期包含層，-1.05mで室町時代包含層，-1.35mで鎌倉時代包含層，-1.58mで河川堆積（地山）を確認した。江戸時代前期遺構面ではピットと土坑，平安時代後期～鎌倉時代遺構面ではピットを１基検出した。これを覆う№３地点の第６層からは，平安時代後期の土師器皿がまとまって出土した（図23-3～7）。

№４地点（図20・22右）

№１地点の南側に設定した№４地点では，GL-0.65mで江戸時代前期包含層，-0.92mで室町時代包含層，-1.35mで地山を確認した。室町時代包含層からは，備前焼甕（15C後半）の破片が出土した。また地山上面でピットを１基検出した。

以上の成果から，№１～４付近に平安時代後期～江戸時代前期の遺構面が残存することが明らかとなった。このため工事掘削を一時中断し，平面検出を試みた。その結果，地山上面においてピット，土坑，落ち込みを各１基検出した。ただし，これ以外では近代以後の撹乱が著しく，№５～８地点では地山以深まで削平を受けた状況を確認するにとどまった。

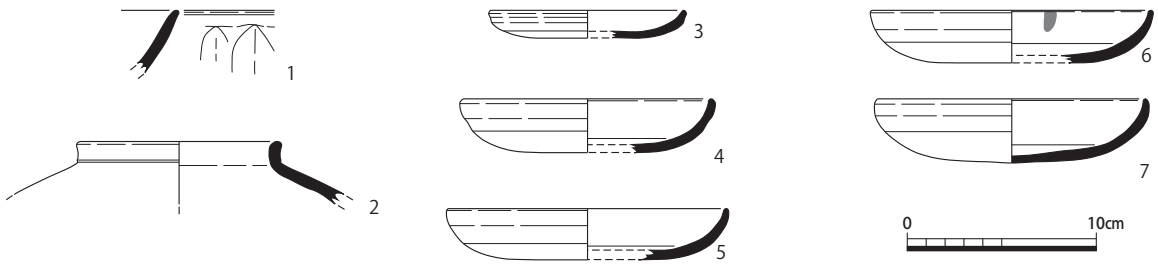


図 23　出土遺物実測図（１：４）

３．まとめ

以上，左京四条二坊十三町跡の調査成果について記述した。油小路通付近では，近年の調査により，平安時代以後の遺構面が良好に残存することが明らかとなっている。近代以後の大規模開発を免れてきた当該地は，平安時代から江戸時代に至るまでの地域の変遷を追うことができる貴重なエリアであると言えよう。小規模な開発であっても注視する必要がある。

（黒須亜希子）

引用・参考文献

調査①：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告　平成30年度』，2019年。

調査②：京都市文化市民局『京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和元年度』，2020年。

調査③：京都市文化市民局『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成30年度』，2019年。

調査④：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査概報　平成９年度』，1998年。

調査⑤：京都市文化市民局『京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和２年度』，2021年。

角田文衞監修『平安京提要』，（財）古代学協会・古代学研究所，1994年。

Ⅲ-5　平安京左京六条三坊二町跡，烏丸綾小路遺跡（21H113）

1．調査の経緯（図24）

調査地は，五条通と新町通の交差点より北に位置する（図 24）。平安京の復元では，左京六条三坊二町の東辺に相当し，敷地の端が町尻小路の路面にかかる。今回，この区画に共同住宅の建設が計画されたため，令和３年８月 19 日～30 日に詳細分布調査を実施した。

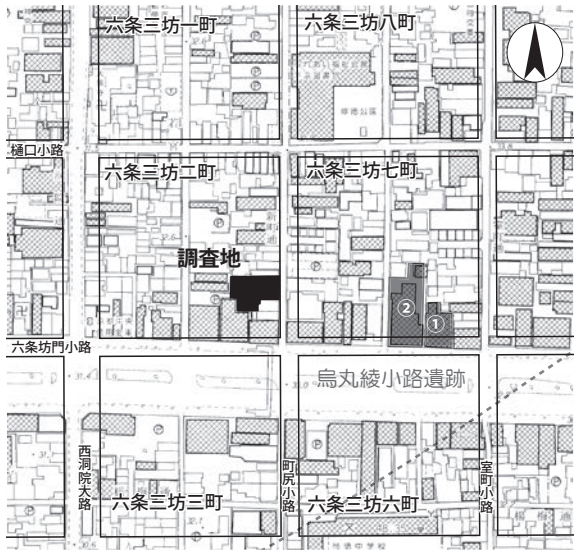


図 24　調査位置図（１：5,000）

平安時代後期，この町域には村上天皇の皇子である具平親王の邸宅「千種殿」が存在した。千種殿は，東隣の七町域をあわせた東西２町に及ぶ大邸宅であり，時に政治の場ともなった。また文才で名高い親王の元には大江匡衡や藤原為時（紫式部の父）等，多くの学者・文人が訪れたという。続く平安時代末期には，大江匡房（匡衡の曾孫）が町尻小路以西を入手し，古今の書物を蒐集した「江家文庫」を設置したが，仁平３年（1153）の大火により灰塵に帰した。

その後の経緯は明らかではないが，鎌倉時代には村上源氏久我家の所有となり，源有房（六条有房）が邸宅「千種殿」を構えた。その孫である六条忠顕が後に千種姓を名乗ることから，この地は忠顕の後裔へ千種の名とともに伝領されたと推察される。

これまでこの町域で本発掘調査は行われておらず，考古学的な知見は得られていない。東隣の七町域では五条通に面した区画において平成２年度と６年度に発掘調査が行われており，GL-0.9 ～ -1.3m の深度において平安時代～江戸時代の各時期における六条坊門小路の路面やピット，土坑，井戸等の生活遺構が多数検出されている（図 24 ①②）。

今回の調査では，既往の調査と同様，平安時代～江戸時代の各包含層と，ピット，土坑，井戸等の遺構を多数検出した。遺構面の残存状況は極めて良好であったと言える。

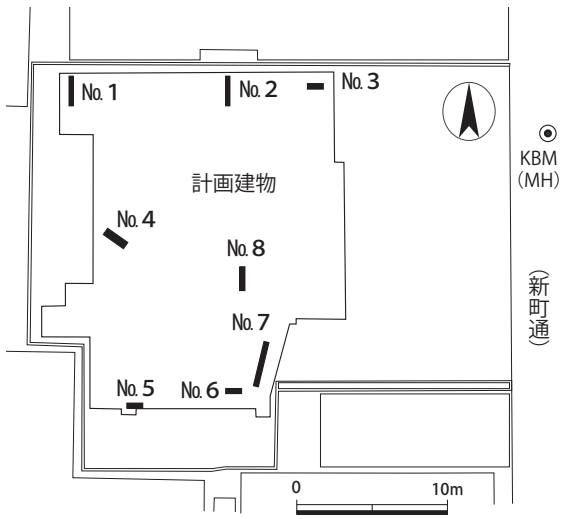
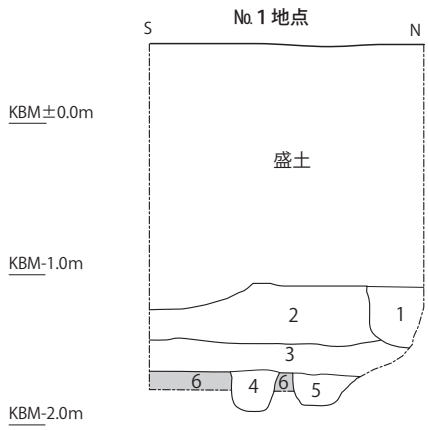
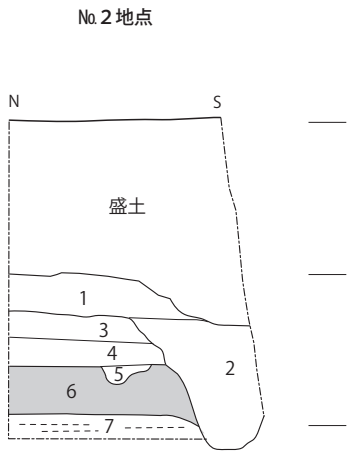


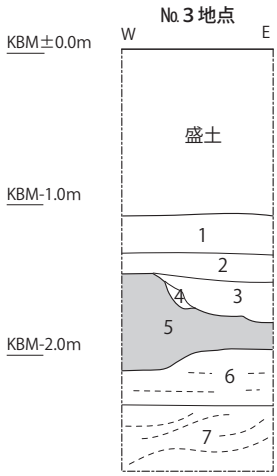
図 25　調査地点位置図（１：500）



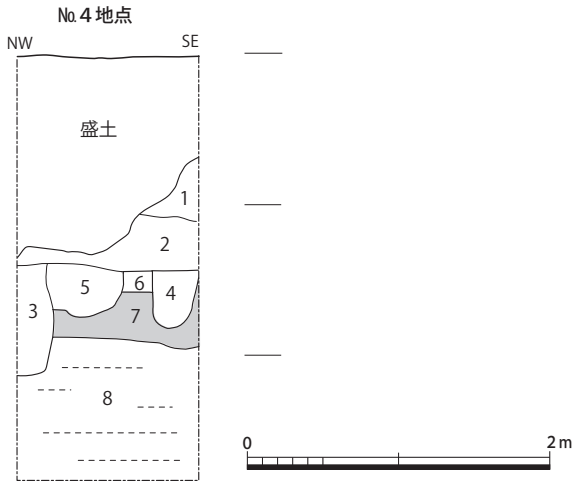
1）10YR3/1　黒褐色礫混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る
炭化物・土器片入る　しまり悪い
2）10YR3/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る
炭化物入る　ややしまり悪い
3）10YR4/2　灰黄褐色礫混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　しまり悪い
4）10YR4/2　灰黄褐色粗砂混じりシルト
ややしまり悪い　【ピット】
5）10YR4/2　灰黄褐色礫混じりシルト
ややしまり悪い　【ピット】
6）2.5Y5/4　黄褐色粗砂混じりシルト
しまり良い　【整地層】



1）2.5Y3/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径3cm未満の礫少量入る　しまり悪い
2）2.5Y4/3　オリーブ褐色粗砂混じりシルト
やや軟質　ややしまり悪い
3）10YR3/1　黒褐色粗砂混じり粘土質シルトに
2.5Y4/2　暗灰黄色粗砂混じりシルトブロック20%程度入る
径1cm未満の礫少量入る　ややしまり悪い
4）2.5Y4/2　暗灰黄色粗砂混じりシルトに
5Y4/3　暗オリーブ色微砂混じりシルトブロック5%程度入る
径1cm未満の礫少量入る　土器片多量入る　ややしまり悪い
5）2.5Y4/2　暗灰黄色粗砂混じりシルトに
5Y4/3　暗オリーブ色微砂混じりシルトブロック10%程度入る
6）5Y4/3　暗オリーブ色微砂混じりシルト
径3cm未満の礫少量入る　ややしまり悪い
7）2.5Y4/3　オリーブ褐色砂礫　径5cm未満の礫多量入る
水平方向のラミナあり【河川堆積】



1）10YR3/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
2）10YR2/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径3cm未満の礫少量入る　しまり悪い
3）10YR4/2　灰黄褐色粗砂混じりシルトに
10YR5/4　にぶい黄褐色シルトブロック30%程度入る
土器片・炭化物入る　やや軟質　ややしまり悪い
4）10YR3/1　黒褐色粗砂混じりシルトに
5Y4/3　暗オリーブ色微砂混じりシルトブロック5%程度入る
ややしまり悪い
6）2.5Y4/3　オリーブ褐色砂礫
径5cm未満の礫多量入る
水平方向のラミナあり【河川堆積】
7）2.5Y4/4　オリーブ褐色細砂～微砂
斜め方向のラミナあり【河川堆積】



1）10YR3/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径1m未満の礫少量入る土器片入る　しまり悪い
2）10YR2/2　黒褐色粗砂混じり粘土質シルト
径5cm未満の礫少量入る　土器片入る　しまり悪い
3）10YR3/1　黒褐色粗砂混じり粘土質シルト
径2cm未満の礫少量入る　しまり悪い
4）10YR4/2　灰黄褐色粗砂混じり粘土質シルトに
2.5Y4/4　オリーブ褐色シルトブロック20%程度入る
しまりやや悪い
5）10YR3/2　黒褐色礫混じりシルト
6）2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粗砂混じりシルト
土器片入る　ややしまり悪い
7）2.5Y4/4　オリーブ褐色礫混じりシルト
土器片入る　しまり良い　【整地層】
8）2.5Y4/3　オリーブ褐色砂礫【河川堆積】

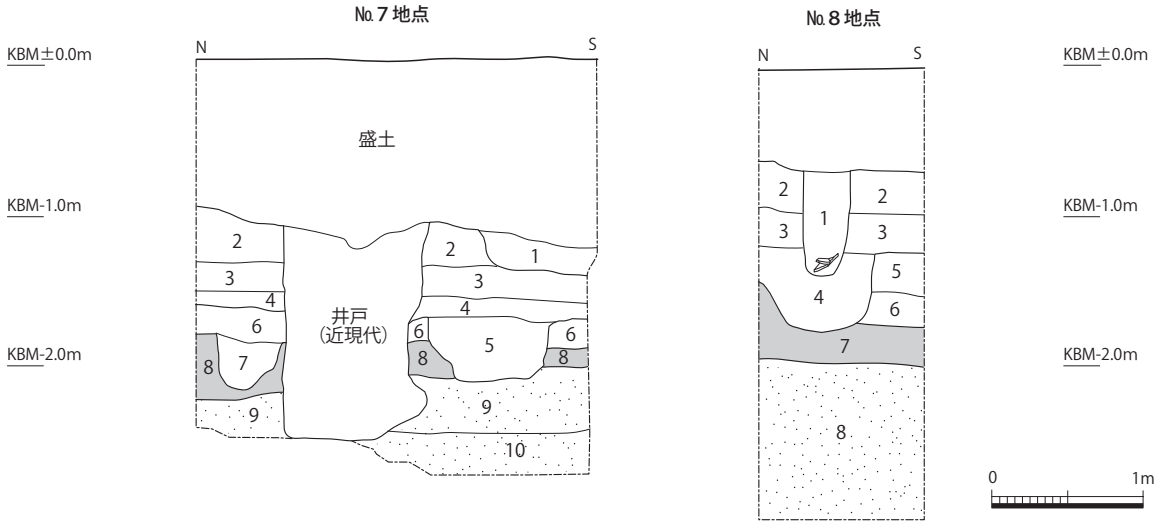
図 26　№.1 ～ 4 地点断面図（1：50）

2．調査成果（図25～28，図版30）

調査は，計８箇所において断面観察を行った（図 25）。基本層序は，黒褐色粗砂混じりシルトの江戸時代包含層，灰黄褐色粗砂混じりシルトの室町時代包含層，暗灰黄色シルトの平安時代～鎌倉時代包含層，オリーブ褐色粗砂混じりシルトの整地層，河川堆積（無遺物層）である。整地層は 0.4 ～ 0.5m の層厚をもって対象地全体に広がる。

№１地点（図 26） GL-1.6m で江戸時代包含層，-1.98m で平安時代～鎌倉時代包含層，-2.19m で平安時代後期整地層を確認した。平安時代後期整地層上面にて成立するピットを２基検出した。

№２地点（図 26） GL-1.25m の江戸時代包含層下面にて成立する土坑を１基確認した。土坑内からは 17 世紀の土師器炮烙（図 28- ６），16 世紀後半の信楽焼擂鉢（同図 - ７）が出土した。また GL-1.6m の整地層上面においてピットを１基検出した。その埋土からは，11 世紀の土師器皿（同図 - ５）が出土した。またこれを覆う平安時代後期包含層からは，10 世紀末～ 11 世紀の土師器皿（同図 - １～４）がまとまって出土した。



1）5Y4/3　暗オリーブ色粗砂に　5Y4/1　灰色シルトブロック5%程度入る
径2cm未満の礫少量入る　しまり悪い
2）2.5Y3/2　黒褐色粗砂混じり粘土質シルト
径1cm未満の礫少量入る　土器片入る　やや軟質　ややしまり悪い
3）2.5Y3/2　黒褐色粗砂混じり粘土質シルト
径1cm未満の礫少量入る　土器片入る　やや軟質　しまり悪い
4）2.5Y3/2　黒褐色細砂混じり砂質シルト
径3cm未満の礫少量入る　土器片入る　軟質　ややしまり悪い
5）2.5Y3/1　黒褐色粗砂混じりシルトに
2.5Y5/6　黄褐色微砂ブロック5%程度入る　やや軟質　ややしまり悪い
6）2.5Y4/1　黄灰色粗砂混じり粘土質シルト
径2cm未満の礫少量入る　土器片入る　やや軟質　ややしまり悪い
7）2.5Y4/1　黄灰色細砂混じりシルトに
2.5Y4/2　暗灰黄色シルトブロック20%程度入る
土器片・炭化物入る　ややしまり悪い
8）2.5Y4/2　暗灰黄色細砂～シルトに
2.5Y5/6　黄褐色微砂ブロック2%程度入る
炭化物入る　やや軟質　ややしまり悪い　【平安時代後期整地層】
9）5Y5/3　灰オリーブ色細砂～シルトに
5Y4/2　灰オリーブ色微砂混じりシルトブロック5%程度入る
10）2.5Y5/3　黄褐色細砂～粗砂

1）10YR2/2　黒褐色粗砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る
瓦・土器片入る　しまり悪い
2）10YR3/1　黒褐色粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物入る　しまり悪い
3）2.5Y4/1　黄灰色粗砂まじりシルト
径1cm未満の礫少量入る　ややしまり悪い
4）2.5Y4/2　暗灰黄色粗砂混じりシルトに
5Y4/3　暗オリーブ色細砂ブロック5%程度入る
径2cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物入る　しまり悪い
5）2.5Y3/2　黒褐色粗砂混じりシルト
土器片・炭化物入る　ややしまり悪い
6）2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る
土器片少量入る　ややしまり悪い
7）5Y4/3　暗オリーブ色細砂～シルトに
5Y4/1　灰色シルトブロック20%低度入る
【平安時代後期整地層】
8）5Y4/2　灰オリーブ色細砂～中砂　【河川堆積】

図 27　№７・８地点断面図（1：50）

№３地点（図 26）　GL-1.5m の室町時代包含層除去面で土坑を 1 基検出した。埋土からは 15 世紀の土師器皿が出土した。なおこの地点では，GL-2.8m まで河川堆積が連続することを確認した。

№４地点（図 26）　GL-1.4m で江戸時代の土坑，ピットを各 1 基検出した。ピット内からは土師器皿（図 28- ８・９），施釉陶器椀（同図 -10）が出土した。また，同一面において室町時代の土坑を 1 基確認した。また江戸時代包含層から，17 ～ 18 世紀前半の備前焼徳利（同図 -11）が出土した。この底面には線刻が一条施されている。

№５地点　GL-0.75m で黒褐色粗砂混じり粘土質シルトと黄褐色粗砂を重ねる江戸時代の蔵基礎，-1.4m で黒褐色粗砂混じりシルトの江戸時代包含層，-1.6m でオリーブ黒色粗砂混じりシルト，-1.75 ～ -2.0m で灰オリーブ色粗砂～シルトの整地層を確認した。蔵基礎からは 16 ～ 17 世紀の備前焼擂鉢，焼締陶器甕の細片が出土した。また整地層直上より土師器皿（図 28-12）が出土した。

№６地点　GL-1.6m で黒褐色粗砂混じりシルトの室町時代包含層，-1.86m で黒褐色粗砂混じりシルトの時期不明包含層を確認した。前者からは土師器皿（図 28-13・14），13 世紀の青磁椀，15 世紀の信楽焼擂鉢が出土した。

№７地点（図 27）　GL-1.7m で室町時代の土坑を 1 基検出した。埋土から 15 世紀の土師器皿と須恵器鉢の小片が出土した。その下層には GL-1.6 ～ -1.8m に平安時代末～鎌倉時代包含層があり，その除去面においてピットを 1 基検出した。包含層からは 12 世紀末～ 13 世紀の青磁皿（図 28-15），土師器皿（同図 -18）が出土した。

№８地点（図 27）　GL-0.7m で江戸時代のピット，-1.2m で室町時代の土坑を各 1 基検出した。土坑からは須恵器甕，土師器皿（図 28-16，17，19）が出土した。また GL-1.45 ～ -1.7m の鎌倉時代包含層からは，13 世紀の土師器皿がまとまって出土した。

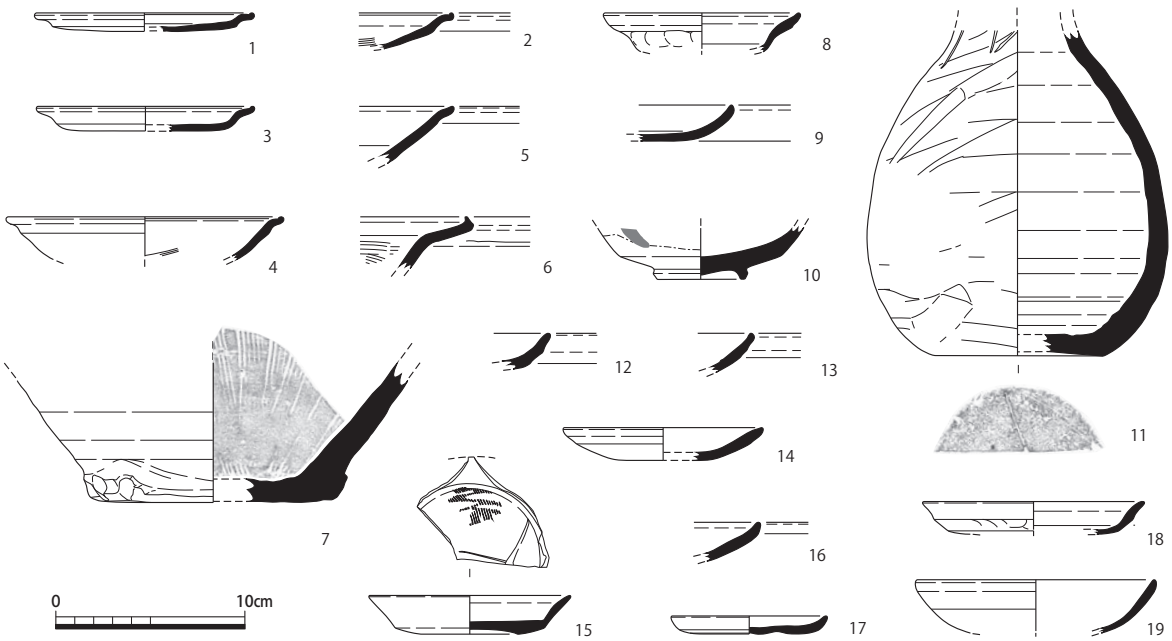


図 28　出土遺物実測図（１：４）

３．まとめ

以上，平安京左京六条三坊二町跡の調査成果について記述した。今回の調査では，対象地全域において包含層及び遺構の残存を確認した。特に平安時代後期以前に敷設されたとみられる厚い整地層は，具平親王による千種殿建設に伴う造成である可能性が高い。また，平安時代末期，鎌倉時代，室町時代と遺構面が累積する状況は，この区画に邸宅が連綿と営まれた証左と言えよう。

なお，今回の調査は断面観察のみにとどまり，平面的な遺構を把握することはできなかった。今後は周辺の開発を注視するとともに，調査成果の集積を待ちたい。

（黒須亜希子）

引用文献

調査①：財団法人京都市埋蔵文化財研究所『平成２年度　京都市埋蔵文化財調査概要』，1994年。

調査②：京都市文化観光局『京都市内遺跡試掘調査概報　平成３年度』，1991年。

Ⅳ-1　平安京右京五条三坊四町跡，西院遺跡（21H055）

1．調査の経過（図29・30）

調査地は，市立西院中学校内とその東を通る春日通（佐井通）の道路敷である。平安京の復元では，右京五条三坊四町の東辺と道祖大路の路面に相当する。また下層には弥生時代～古墳時代の集落及び散布地である西院遺跡が存在する。今回，下水道管の地震対策工事に伴い，令和３年７月 15 日～９月７日に詳細分布調査を実施した。

この町域に地歴は残されておらず，居住や伝領の記録はない。ただし周辺ではこれまでに発掘調査が複数回行われており，平安時代前期～中期には宅地として利用されていたことが明らかとなっている。

昭和 56 年度に行われた中学校の校舎建設に伴う発掘調査（図 30 調査①）では，GL-1.0m の深度において掘立柱建物を有する平安時代中期の遺構面が確認された。掘立柱建物は新旧２時期の建て替えがあり，このうち新しい建物には東庇が備えられていた。

また，昭和 62 年度に行われた体育館建設に伴う発掘調査（図 30 調査②）では，同じく新旧２時期の掘立柱建物のほか，州浜を設けた池状遺構と東西にのびる溝が確認された。出土遺物から，池状遺構は９世紀後半，東西溝は 10 世紀前半の遺構と推定されている。このほか西半部では弥生時代前期新段階に遡る土坑群が検出されており，西院遺跡の広がりを窺うことができる。

以上のことから，今回の調査においても連続する遺構の存在が予測された。

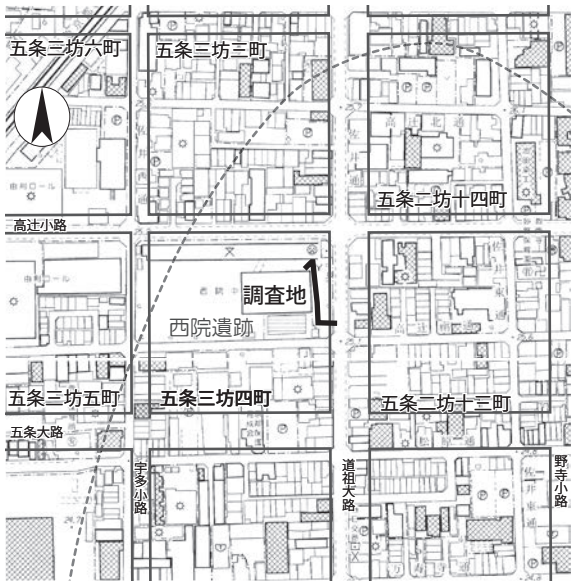


図 29　調査位置図（１：5,000）

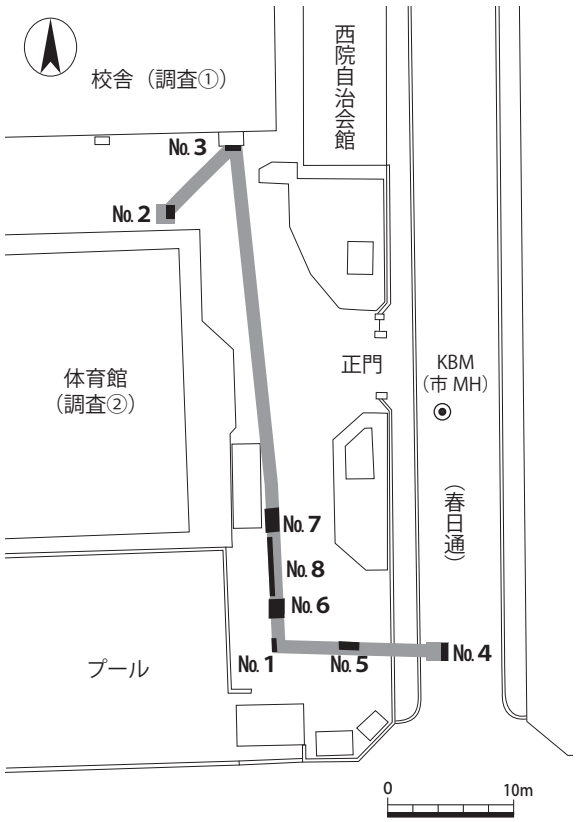


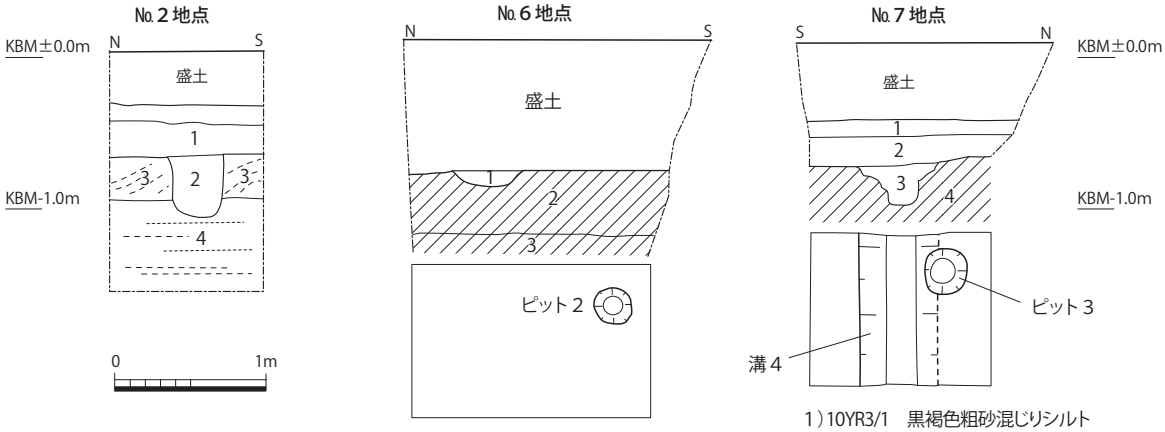
図 30　調査地点位置図（１：600）

2．調査成果（図30～35）

調査は，計８箇所（№１～８地点）において断面観察を中心として行った。このうち土層を確認できたのは№２，５，６～８の５地点で，№１・３・４地点は盛土のみの確認にとどまる。

№２地点（図31・32）　体育館北側に設定された立坑工事の調査。GL-0.54m で室町時代包含層，-0.73m 以下で砂礫を主体とする河川堆積（無遺物層）を確認した。河川堆積の上面ではピット１基が成立する（ピット１）。ピット１は直径が 0.35m 以上，最大深度は -0.4m を測る。

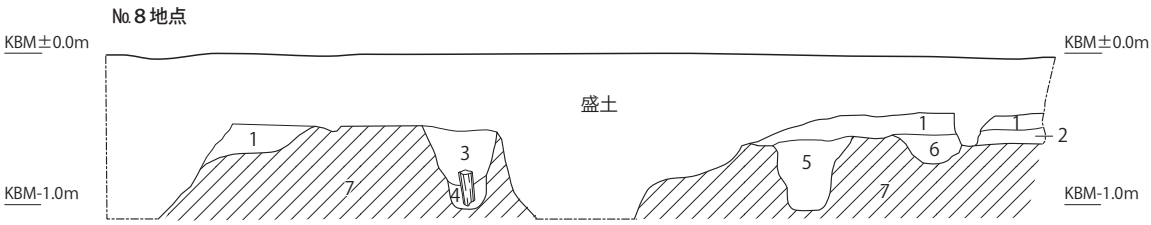
№５地点　調査範囲のうち南端の配管工事の調査。GL-0.56m で近世包含層，-0.69m で中世包含層，-0.79m で湿地状堆積，-0.97m でにぶい黄褐色粗砂混じり粘土質シルトの地山に達する。遺構・遺



1）2.5Y4/2　暗灰黄色礫混じり粘土質シルト
土師器・青磁片入る
【中世包含層】
2）2.5Y4/3　オリーブ褐色礫混じりシルト
径3cm未満の礫多量入る
しまり悪い　【ピット１】
3）2.5Y4/4-5/4　黄褐色～オリーブ褐色礫
混じりシルト～粗砂　【河川】
4）2.5Y4/4　オリーブ褐色砂礫
水平方向のラミナあり　【河川】

1）2.5Y4/2　暗灰黄色微砂混じりシルト
径0.5cm未満の礫少量入る
炭化物・土器片入る　やや軟質【ピット】
2）2.5Y4/6　オリーブ褐色粗砂混じり粘土質シルトに
2.5Y4/3　オリーブ褐色シルトブロック20%程度入る
しまり悪い　やや軟質
3）10YR4/6　褐色粘土質シルト【地山】
ピット２）　2.5Y4/3　オリーブ褐色粗砂混じりシルトに
地山ブロック10%程度入る
ややしまり悪い

1）10YR3/1　黒褐色粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る
炭化物・木片入る
やや軟質　ややしまり悪い
2）10YR3/3　暗褐色細砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る
マンガン粒・土器片入る
ややしまり悪い
3）10YR4/1　褐灰色微砂混じり粘土質シルトに
10YR3/4　暗褐色粗砂混じりシルトブロック
20%程度入る　　やや軟質　【溝４】
4）10YR4/4　褐色粘土質シルト
径3cm未満の礫少量入る
しまり良い　【地山】
ピット３）10YR4/3　にぶい黄褐色粗砂混じり
粘土質シルトに
10YR5/1　褐灰色シルトブロック
30%程度入る　瓦片入る　やや軟質



1）10YR3/1　黒褐色粗砂混じりシルト　径1cm未満の礫少量入る　炭化物・木片入る　やや軟質　ややしまり悪い
2）10YR3/3　暗褐色細砂混じりシルト　径1cm未満の礫少量入る　マンガン粒・土器片入る　ややしまり悪い
3）10YR3/3　暗褐色微砂混じりシルト　マンガン粒・炭化物少量入る　やや軟質　ややしまり悪い　柱根あり　【ピット５】
4）2.5Y4/1　黄灰色微砂混じりシルト　マンガン粒・炭化物少量入る　やや軟質　ややしまり悪い　柱根あり　【ピット５】
5）10YR4/1　褐灰色微砂混じり粘土質シルトに 10YR3/4　暗褐色粗シルトブロック20%程度入る　軟質　【ピット６】
6）10YR2/1　黒色シルトブロックと　10YR4/4　褐色粘土質シルトブロックの混合層　径1cm未満の礫少量入る　やや軟質　【溝７】
7）10YR4/4　褐色粘土質シルト　径3cm未満の礫少量入る　しまり良い　【地山】

図31　№２・８地点断面及び№６・７地点平・断面図（１：50）

物は確認できなかった。

№6地点（図31・33）　校内プール東側での配管工事の調査。GL-0.92mまで撹乱が及んでおり，その直下にオリーブ褐色粗砂混じり粘土質シルトを主体とする地山が存在する。地山上面において成立するピット（ピット2）を検出した。ピット2は径0.25m，最大深度-0.38mを測る。

№7地点（図31・34）　体育館の南東部での配管工事の調査。GL-0.51mで中世包含層，-0.63mで平安時代包含層，-0.83mで褐色粘土質シルトの地山に至る。地山上面では溝1条（溝4）と，これを切るピット1基（ピット3）を検出した。ピット3は，直径0.3m，最大深度0.14mを測る。埋土から平瓦が1点出土した。溝4は検出長1.0m，最大幅0.5m，最大深度は0.28mを測る。明確な掘り方をもち，東西へ直線的に連続する。

№8地点（図31・35）　№6と№7の間の配管工事の調査。GL-0.35mで中世包含層，-0.9mで褐色粘土質シルトの地山に至る。地山上面でピット2基，溝1条を確認した。ピット5には柱根が残存することから，柱穴と推測される。また同規模で南北に並ぶピット6も柱穴の可能性が高い。

図32　№2地点壁断面（西から）

図33　№6地点遺構面検出状況（西から）

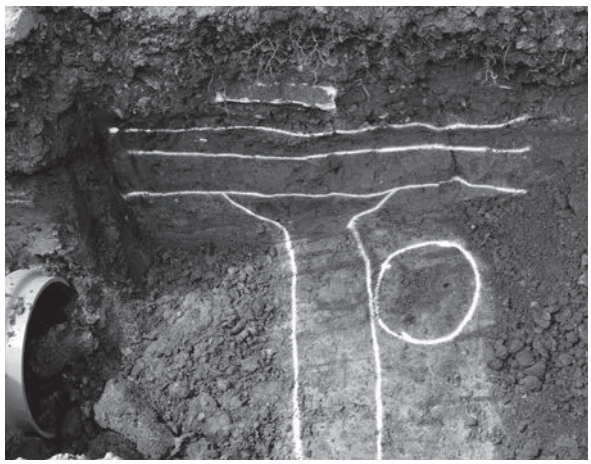


図34　№7地点遺構面検出状況（東から）

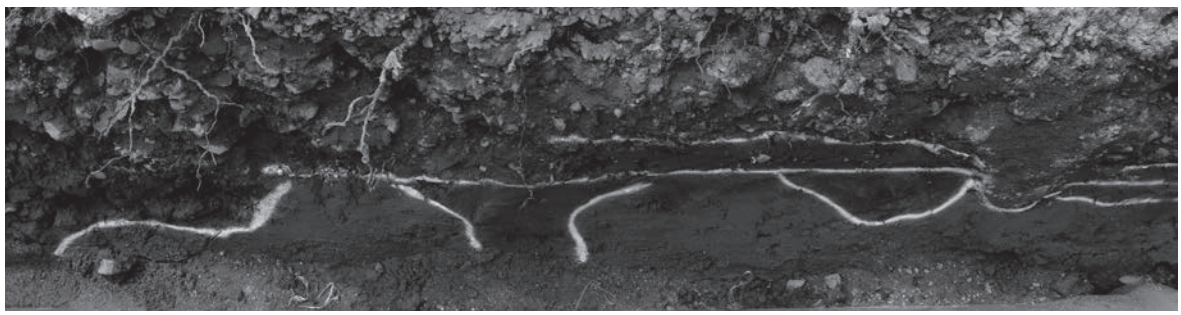


図35　№8地点壁断面北側部分（東から）

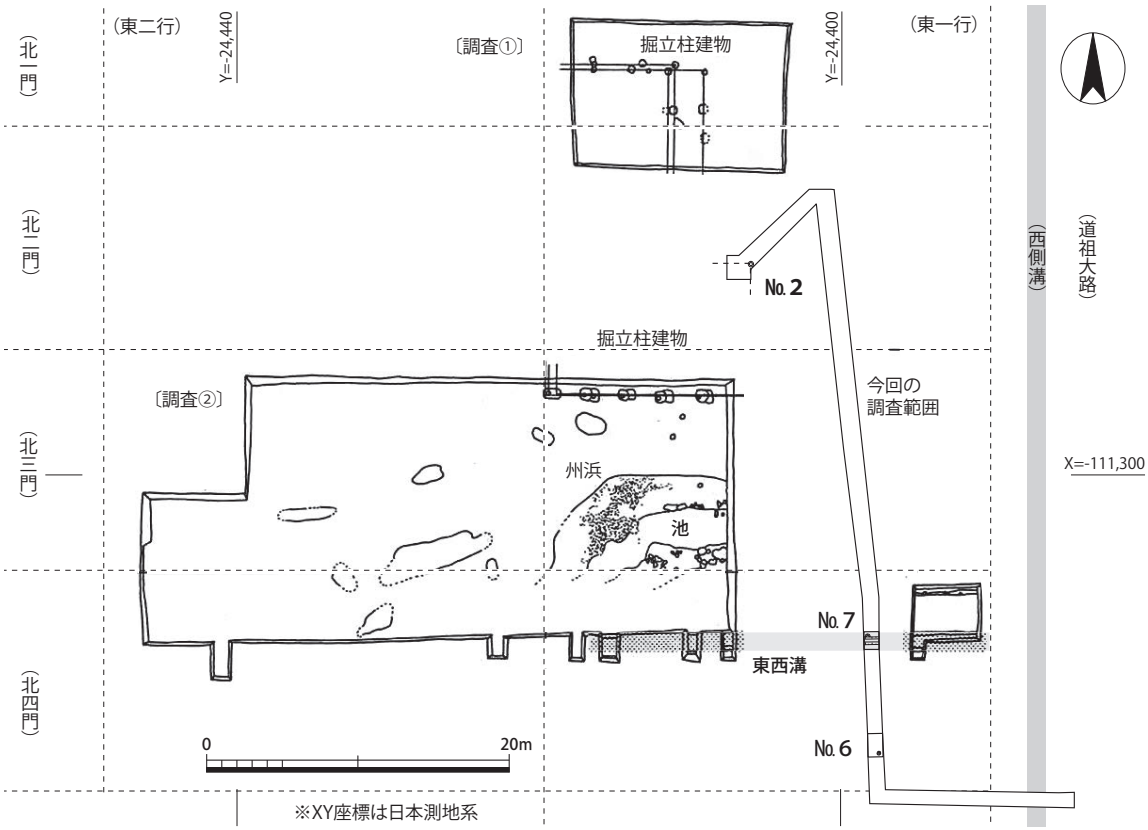


図 36　調査地周辺遺構接合図（1：500）

3．まとめ（図30・36）

以上，平安京右京五条三坊四町跡の調査成果について記述した。今回検出した遺構は，既往の調査成果との連続性が高い（図 36）。№.2 地点付近では調査①（図 30）や調査②（図 30）で掘立柱建物が検出されていることから，ピット 1 は同じく建物を構成する柱穴のひとつとなる可能性がある。また№.7 の溝 4 は，調査②南辺で検出された東西溝に連続すると見られる。いずれの遺構も出土遺物が少なく，個別には成立時期が確定しづらいため，遺構の方向軸や連続性を把握することが，遺構の変遷をたどる手がかりとなるだろう。

なお，今回の調査では東西溝以南にも遺構群が展開することが明らかとなった。検出された遺構群は四行八門の分割ラインに合わず，少なくとも 4 分の 1 町以上の範囲にわたる邸宅が存在した可能が高い。今回の調査範囲は狭小であるが，既往の調査成果を補強する材料として報告したい。

（黒須亜希子）

引用文献

調査①：(財) 京都市埋蔵文化財研究所「30　右京五条三坊」，『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』，1983年。

調査②：(財) 京都市埋蔵文化財研究所「21　右京五条三坊」，『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』，1991年。

Ⅴ-1　上総町遺跡（21A008）

1．調査の経緯（図37）

本件は，京都市立紫明小学校で保管されている遺物に関する報告である。

遺物の伝出土地は周知の埋蔵文化財包蔵地「上総町遺跡」の北西端部に位置する。遺物出土の状況に関する詳細は不明であるが，小学校の東側にかつて塚があり，そこから遺物が出土したという。その後，小学校にて一括で保管されていたが，平成５年（1993）に（財）京都市埋蔵文化財研究所に相談があったことが契機となり，研究所の職員が小学校で遺物を実見し，簡易な記録を作成した。その際，展示のためのキャプションなども作成し，現在までに歴史の授業等で活用されつつ保管されてきた。しかし，出土状況に不明な点が多かったことや学校側が主体的に保存・活用してきたこともあって，これらの遺物が何らかの形で外部に報告されることはなかった。今回，研究所職員としてかつて遺物を確認した丸川義広氏より情報提供を受け，本遺物が上総町遺跡やこの地域の遺跡を考るうえで重要な資料と考えられることから詳細分布調査を実施した。調査では，まず遺物の所在・状態の確認を行い，実測図等の作成を行った。併せて令和３年 10 月 21 日に伝出土地付近の現地踏査を実施した。

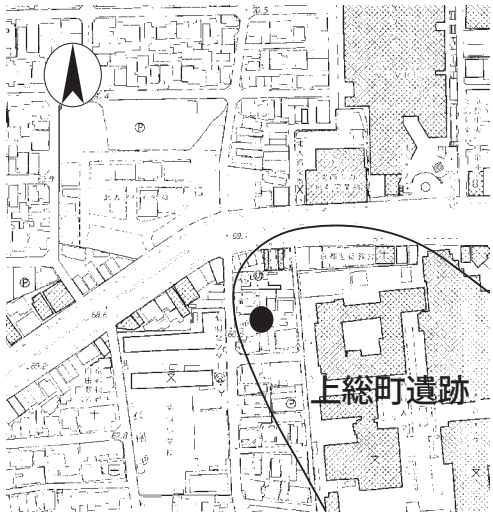


図 37　調査位置図（1：15,000）

2．調査成果（図38・39）

踏査成果　現状，伝出土地付近の区画には木造住宅を中心とした建物が密集しており，一帯の地形を見通すことはできない。しかし，室町通の道路上面と比べると，確認できる限り各敷地はほぼ平坦で古墳等の存在をうかがわせるような隆起や土地区画などは全く認められない。ただし，調査地から室町通を南へ 150m ほど下った場所には「夜泣塚地蔵尊」の道標が確認でき，詳細不明ながら付近に所在した塚の存在を示唆しているものと考えられる。

過去の都市計画図を見ると，大正元年頃は伝出土地付近は耕作地となっている。この時期に既に出土地付

図 38　大正元年都市計画図

近に古墳らしき痕跡は認められないものの，少し離れた位置には疎らながら小さな古墳状隆起が複数認められる（図 38 のａ～ｄ）。また，堅田修氏によると『真宗大谷大学敷地実測平面図』（明治 45 年作成）には，「室町通北大路下った附近に，東西にならんで二基」の古墳と推測される小丘が表現されていることを指摘しており，まさにこれが本資料の出土地点である可能性が高い[1)]。

各時期の都市計画図等を見る限り，この付近は大正 11 年以降に開発が進んでゆき，昭和 10 年には本調査地周辺の古墳状隆起が確認できなくなる。おそらくは，この地域の古墳は近世以降に耕作に伴い緩やかに削平されながらも名残をとどめていたものの，近代以降の開発によって一気にその姿を消したものと推測される。

遺　物　遺物は全部で 37 点あり，平成 5 年以降，遺失等なく保管されていることを確認した。種類および数量は，土師器が 4 点，埴輪が 3 点，須恵器が 29 点，鉄器が 1 点である。時期は大きく古墳時代中期と後期，平安時代の 3 時期に分類できる。大半を古墳時代の遺物が占めており，完形品もしくはそれに近い状態のものを多く含むことから古墳の副葬品である可能性が高い[2)]。

3．まとめ

以上，本報告では極めて簡単にではあるが，紫明小学校保管の遺物について報告した。堅田氏の指摘や過去の都市計画図等を積極的に評価するならば，これらの遺物は，現在未確認の古墳に由来のものとも考えられ非常に興味深い。その一方，遺物は大きく 3 つの時期のものが混ざった状態であり，全てが同一の塚から出土した一括遺物とは考えにくい。已然として，これらの遺物は慎重に検討を行っていく必要はあるものの，これまで認知されていなかった遺跡の存在を示唆する資料として，重要なものである。今後の周辺域での調査及び研究の蓄積に期待したい。

（熊井　亮介）

図 39　出土遺物

註

1）堅田修「第Ⅰ章　大谷大学周辺の歴史的環境」『大谷大学構内発掘調査報告』大谷大学，1986 年。

2）ここでは紙幅の関係もあり，遺物に細かく触れられないことから，後日，別稿を予定している。

Ⅴ-2　北山蓮台寺境内（21S492）

1．調査に至る経緯と経過（図40）

調査地は，千本通と北大路通の交差点より南に位置する。真言宗智山派上品（じょうぼん）蓮台寺の子院「真言院」の境内に相当し，周知の埋蔵文化財包蔵地では，「北山蓮台寺境内」の北西部に該当する。

天徳４年（960），宇多法皇の弟子であった寛空（観空）僧正が，洛北七野の一つである蓮台野のほぼ中央に，「北山蓮台寺」を建立した（『日本紀略』天徳四年九月九日条）。寛空は東寺長者や金剛峯寺座主，仁和寺別当を歴任した高僧で，天禄２年（971）に職を辞した後は北山に居し，蓮台寺の充実に尽力したとされる。その後は寛空の弟子であり，敦実親王の子（宇多法皇の孫）である寛朝大僧正に宝燈が引き継がれ（『山州名跡志』），皇室に近い寺院として大いに隆盛したという（『小右記」等）。

鎌倉～室町時代，蓮台野は鳥辺野や化野とともに葬送の地となり，蓮台寺付近には皇族や貴族の墓も造られた。応仁の乱時には戦火により寺院は焼失したが，文禄年間（1592～96）に性盛（しょうせい）上人が豊臣秀吉の許可を得て再興し，計12坊の子院を設けた。これにより蓮台寺は「北山十二坊」と称されたが，現在ではその多くが統廃合され，真言院，宝泉院，大慈院の３院が残るのみである。

今回の調査地は，その子院の一つである真言院の庫裡及び本堂部分で，蓮台寺本坊の北側に隣接する。西から東へ下がる傾斜面を整形して立地しており，現千本通からは一段高い位置に正門を構えている。

周辺では包蔵地の北東にあたる市立楽只小学校内で令和元年度に試掘調査（図40①）が行われ，GL-2.1～-3.1mの深度において谷状地形が確認された。このことから，包蔵地の東半部は低地で遺構の残存が希薄であること，逆に高台である西半部には遺構が残存する可能性が高いことが予測された。このため，今回の調査では，

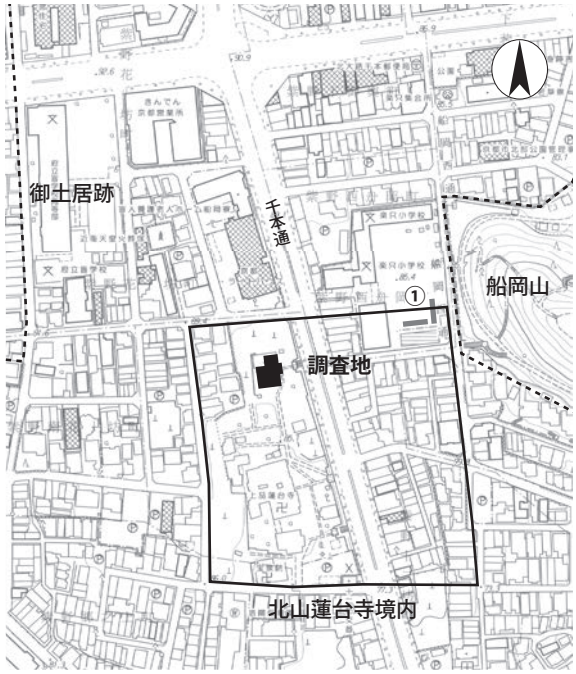


図40　調査位置図（1：5,000）

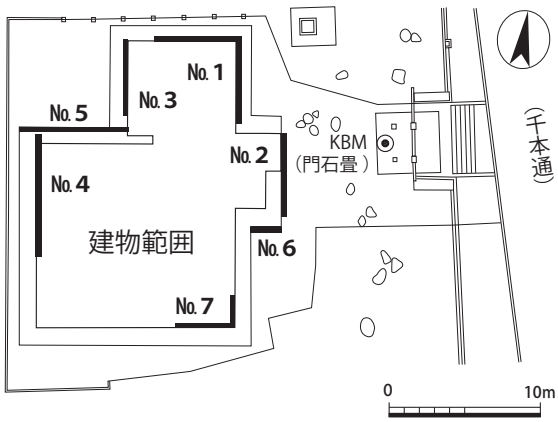


図41　調査地点位置図（1：500）

江戸時代以前に遡る遺構の発見を主目的とした。調査の結果，建物計画範囲のほぼ全面において，室町時代，江戸時代前期の遺構を確認するに至った。調査は令和３年 11 月 16 日～ 19 日に行った。

２．調査成果（図41～44，図版31・32）

調査は，計７箇所において断面観察を行い，一部で平面検出（No. ２・４）を試みた（図 42）。

基本層序は，現代盛土，中世包含層，地山であり，概ね GL-0.4m 程度で地山に達する。削平により，中世包含層がすでに失われたところもある。地山上面において室町時代，江戸時代前期の遺構群を検出した（図 43）。

No. １地点　調査区北東部の北壁から東壁における断面観察である（図 42 上段，図版 31- １）。盛土以下，GL-0.2m でにぶい黄褐色粗砂混じりシルトの室町時代包含層，-0.3m で黄褐色細砂混じりシルトの地山を確認した。盛土除去面では土坑１基，地山上面では土坑４基，ピット２基を検出した。包含層からは，灯明皿を含む土師器皿（図 44-1 ～ 4）が出土した。いずれも 15 世紀中頃の製品である。

土坑 1-1　調査区東壁で確認した遺構である。検出幅は 1.2m，最大深度は 0.3m を測る。埋土は褐色細砂混じり粘土質シルトで，拳大の角礫と炭化物を多く含む。遺構内からは土師器皿が出土した（同図 -5）。

No. ２地点　調査区西壁での断面観察及び平面検出である（図 42 中段左）。GL-0.4m まで盛土があり，その直下で黄褐色細砂混じり粘土質シルトの地山を確認した。包含層は削平されて存在しない。地山上面において土坑，井戸，ピットを検出した。

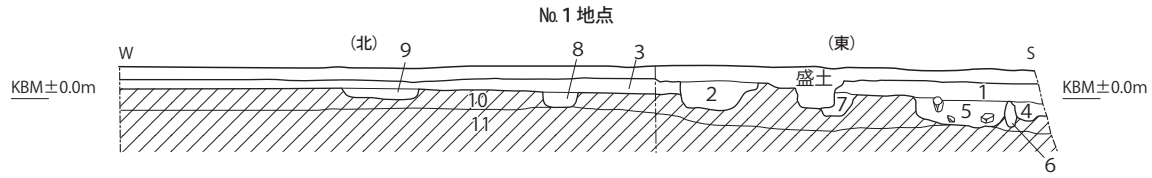
土坑 2-2　検出幅 1.5m 以上，最大深度 0.7m 以上を測る遺構である。断面形状が筒形であること，また埋土が軟質であることから井戸である可能性が高い。埋土から信楽焼擂鉢（16 世紀），備前焼擂鉢，巴文丸瓦，土師器皿が出土した。15 ～ 16 世紀に埋没した遺構である。

土坑 2-3　径 0.6m を測る円形の平面形状をもち，最大深度は 0.4m を測る遺構である。断面形状は，逆台形を呈する。埋土からはへそ皿を含む土師器皿の破片が多量に出土した（図 44-6）。遺構の性格は不明であるが，遺物に時期差が認められないことから一括廃棄土坑と捉えておく。15 世紀の遺構である。

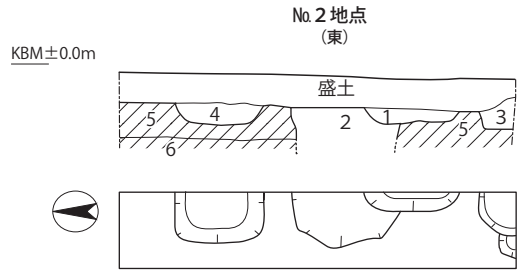
No. ３地点　調査区北半部の西壁における断面観察である（図 42 中段右，図版 31- ２）。GL-0.2 ～ -0.3m で褐色粗砂混じりシルトの中世包含層，-0.4 ～ -0.5m で地山に達する。地山上面において成立する土坑とピットを検出した。

土坑 3-1　検出幅 2.7m，最大深度は 0.7m を測る大型の遺構である。埋土は暗色化が顕著で，黒褐色細砂混じり粘土質シルトを主体とする。水分を含み，やや軟質であることから素掘り井戸や水溜め状の施設であると推測される。埋土からは土師器皿（15 世紀），白磁椀細片（14 世紀），平瓦が出土した。

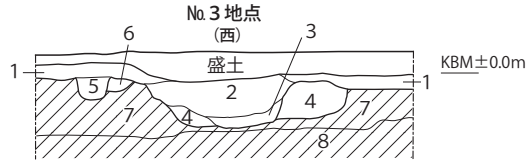
ピット 3-2　検出幅 0.4m，最大深度 0.3m を測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土から土師器へそ皿と灯明皿（15 世紀）が出土した。



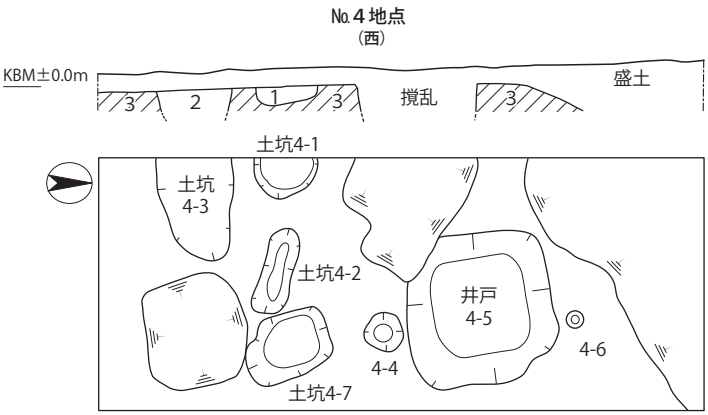
1）10YR4/4　褐色細砂混じり粘土質シルトに　10YR6/3　にぶい黄褐色シルトブロック10%程度入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
2）10YR5/6　黄褐色粗砂混じり粘土質シルトに　10YR5/8　黄褐色細砂混じり粘土質シルトブロック30%程度入る
径1cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
3）10YR4/3　にぶい黄褐色粗砂混じりシルトに　10YR5/8　黄褐色細砂混じり粘土質シルトブロック10%程度入る
径3cm未満の礫多量入る　土器片・炭化物多量入る　ややしまり悪い
4）10YR4/4　褐色細砂混じり粘土質シルト　径1cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　ややしまり悪い
5）10YR4/4　褐色細砂混じり粘土質シルト　拳大の礫少量入る　土器片・炭化物入る　ややしまり悪い【土坑1-1】
6）10YR5/6　黄褐色砂混じり粘土質シルト　土器片・炭化物入る　しまり悪い
7）10YR4/6　褐色砂混じり粘土質シルトに　10YR6/6　明黄褐色シルトブロック20%程度入る　土器片・炭化物入る　やや軟質
ややしまり悪い
8）10YR5/4　にぶい黄褐色粘土質シルト　拳大の礫少量入る　土器片・炭化物入る　ややしまり悪い
9）10YR4/4　褐色粘土質シルトに　10YR5/8　黄褐色細砂混じり粘土質シルトブロック30%程度入る　拳大の礫少量入る
土器片・炭化物入る　ややしまり悪い
10）10YR5/8　黄褐色細砂混じり粘土質シルト　やや軟質【地山】
11）10YR6/8　明黄褐色礫混じり粘土　しまり良い【地山】



1）10YR4/4　褐色粗砂混じり粘土質シルト
径0.5cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　しまり悪い
やや軟質【土坑2-1】
2）2.5Y5/4　黄褐色細砂混じり粘土質シルトと
2.5Y4/4　オリーブ褐色細砂混じり粘土質シルトブロックの混合層
径5cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る　軟質
ややしまり悪い【土坑2-2】
3）10YR4/4　褐色粗砂混じり粘土質シルトに
2.5Y4/4　オリーブ褐色細砂混じり粘土質シルトブロック
30%程度入る　径1cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物多量入る　軟質　ややしまり悪い【土坑2-3】
4）2.5Y5/4　黄褐色細砂混じり粘土質シルトに
2.5Y4/4　オリーブ褐色細砂混じり粘土質シルトブロック
30%程度入る　径5cm未満の礫少量入る
土器片・炭化物多量入る　軟質　ややしまり悪い【土坑2-4】
5）10YR5/8　黄褐色細砂混じり粘土質シルト　やや軟質【地山】
6）10YR6/8　明黄褐色礫混じり粘土　しまり良い【地山】

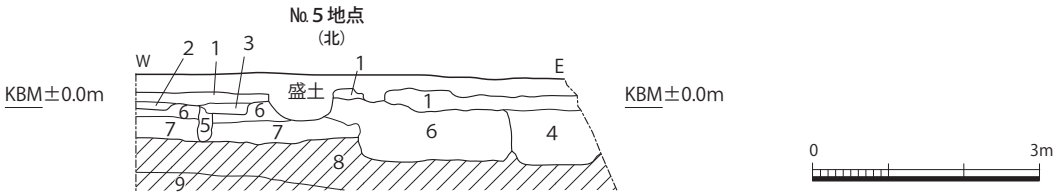


1）10YR4/4　褐色粗砂混じり粘土質シルトに
10YR4/3　にぶい黄褐色シルトブロック30%程度入る
土器片・炭化物入る
2）10YR3/2　黒褐色細砂混じり粘土質シルト
径1cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る【土坑3-1】
3）10YR4/2　灰黄褐色細砂混じりシルト　径2cm未満の礫少量入る
やや軟質　ややしまり悪い【土坑3-1】
4）10YR5/8　黄褐色粗砂混じり粘土質シルトと
10YR5/6　黄褐色シルトブロックと
10YR4/3　にぶい黄褐色シルトブロックの混合層　やや軟質
ややしまり悪い【土坑3-1】
5）10YR4/4　褐色細砂混じり粘土質シルト
径1cm未満の礫少量入る　やや軟質　ややしまり悪い
【ピット3-2】
6）10YR4/6　褐色細砂混じり粘土質シルト
径3cm未満の礫少量入る　やや軟質　ややしまり悪い
7）10YR5/8　黄褐色細砂混じり粘土質シルト　やや軟質【地山】
8）10YR6/8　明黄褐色礫混じり粘土　しまり良い【地山】

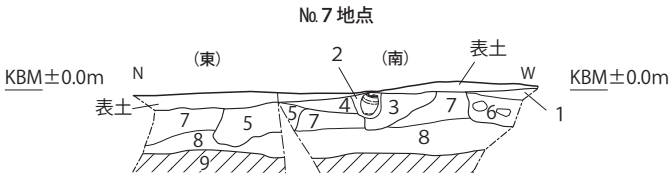


1）10YR4/4　褐色粗砂混じり粘土質シルトに
10YR4/1　褐灰色シルトブロック20%程度入る
土器片・炭化物入る　ややしまり悪い　【土坑4-1】
2）10YR4/3　にぶい黄褐色粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る
やや軟質　しまり悪い　【土坑4-3】
3）10YR5/8　黄褐色細砂混じり粘土質シルト
やや軟質　【地山】
土坑4-2）10YR3/1　黒褐色細砂混じりシルト
径2cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物入る
やや軟質　しまり悪い
ピット4-4）10YR6/4 にぶい黄橙色細砂混じり粘土質シルト
焼土・炭化物・土器片多数入る　しまり悪い
井戸4-5）10YR4/3　にぶい黄褐色粗砂混じりシルト
径1cm未満の礫少量入る　軟質　しまり悪い
ピット4-6）10YR6/4 にぶい黄橙色細砂混じり粘土質シルト
焼土・炭化物・土器片入る　しまり悪い
土坑4-7）10YR4/4　褐色細砂混じりシルトに
10YR5/8　黄褐色細砂混じり粘土質シルトブロック
10%程度入る　炭化物多量入る　ややしまり悪い

図 42　No.1・3地点断面及び2・4地点平・断面図（1：100）



1）10YR3/4　暗褐色粗砂混じり粘土質シルト　径1cm未満の礫少量入る　土器片・炭化物・焼土入る　ややしまり悪い
2）10YR4/4　褐色細砂混じり粘土質シルトに　2.5Y4/1　黄灰色シルトブロック20%程度入る　やや軟質　ややしまり悪い
3）10YR4/3　にぶい黄褐色細砂混じり粘土質シルトに　2.5Y4/1　黄灰色シルトブロック20%程度入る　やや軟質　ややしまり悪い
4）10YR3/3　暗褐色粗砂混じり粘土質シルト　2.5Y6/8　明黄褐色細砂混じり粘土質シルトブロック5%程度入る　拳大の礫少量入る
土器片・炭化物多量入る　【土坑5-1】
5）10YR3/4　暗褐色細砂混じり粘土質シルトに　10YR3/1　黒褐色シルトブロック10%程度入る　径2cm未満の礫少量入る　ややしまり悪い　【ピット】
6）10YR4/6　褐色細砂混じり粘土質シルトに　10YR4/2　灰黄褐色シルトブロック 10%程度入る　やや軟質　ややしまり悪い　【整地層】
7）10YR5/8　黄褐色礫混じり粘土質シルト　径3cm未満の礫少量入る　やや軟質　ややしまり悪い　【整地層】
8）2.5Y6/8　明黄褐色細砂混じり粘土質シルト　径1cm未満の礫少量入る　固くしまる　【地山】
9）2.5Y6/8　明黄褐色礫混じり粘土質シルト　径1cm未満の礫少量入る　固くしまる　【地山】



1）10YR4/4　褐色泥砂　シルトブロック入る
土器片・炭化物入る　固くしまる
2）10YR5/4　にぶい黄褐色泥砂　【土坑】
3）10YR4/3　にぶい黄褐色泥砂
4）10YR4/4　褐色泥砂
5）10YR5/6　黄褐色泥砂に　シルトブロック入る
6）10YR5/4　にぶい黄褐色泥砂　【土坑】
7）10YR5/3　にぶい黄褐色泥砂
8）10YR4/2　灰黄褐色泥砂
9）10YR6/6　明黄褐色シルト～礫　【地山】

図 43　No.5・7 地点断面図（1：100）

No.4 地点　調査区西辺における断面観察である（図 42 下段）。この地点では，あわせて平面検出を行った。地山面の標高が他に比べて高く，GL-0.2m の盛土を除去した段階で黄褐色粗砂混じり粘土質シルトの地山に達する。地山上面において，室町時代の土坑，ピットと，江戸時代の井戸を検出した。

土坑 4-1　調査区西辺で検出した遺構で，一部は調査区外へ続く。平面形状は，径 0.8m の円形と想定される。最大深度は 0.2m，断面形状は歪ながら皿形を呈する。埋土はブロックを含む褐色粗砂混じり粘土質シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていないが，埋土の状況から江戸時代の遺構である可能性が高い。遺構の性格は不明である。

土坑 4-2　土坑 4-1 の東において検出した遺構である。平面形状は歪な楕円形で，長径 1.2m，短径 0.4m を測る。最大深度は 0.3m，断面形状は椀形を呈する。埋土は黒褐色細砂混じりシルトを主体とする。埋土からは土師器細片が出土した。遺構の性格は不明であるが，埋土の状況から江戸時代の遺構である可能性が高い。

土坑 4-3　同じく調査区西辺において検出した遺構で，平面形状は不定形，東西長は 1.3m を測る。埋土は黄褐色粗砂混じりシルトを主体とする。埋土から，土師器甕の小片が出土した。

ピット 4-4　井戸 4-3 の南で検出した遺構である。平面形状は径 0.5m を測る円形で，最大深度は 0.3m，断面形状は椀形を呈する。埋土はにぶい黄橙色細砂混じり粘土質シルトを主体とする。焼土塊，炭化物，土師器の細片を少量含む。遺構の性格は明らかではないが，ピット 4-6 と共に井戸 4-5 に付随する施設である可能性が考えられる。時期は不明である。

井戸 4-5　No. 4 地点の北寄りで検出した遺構である。平面形状はやや崩れた隅丸方形で，一辺は

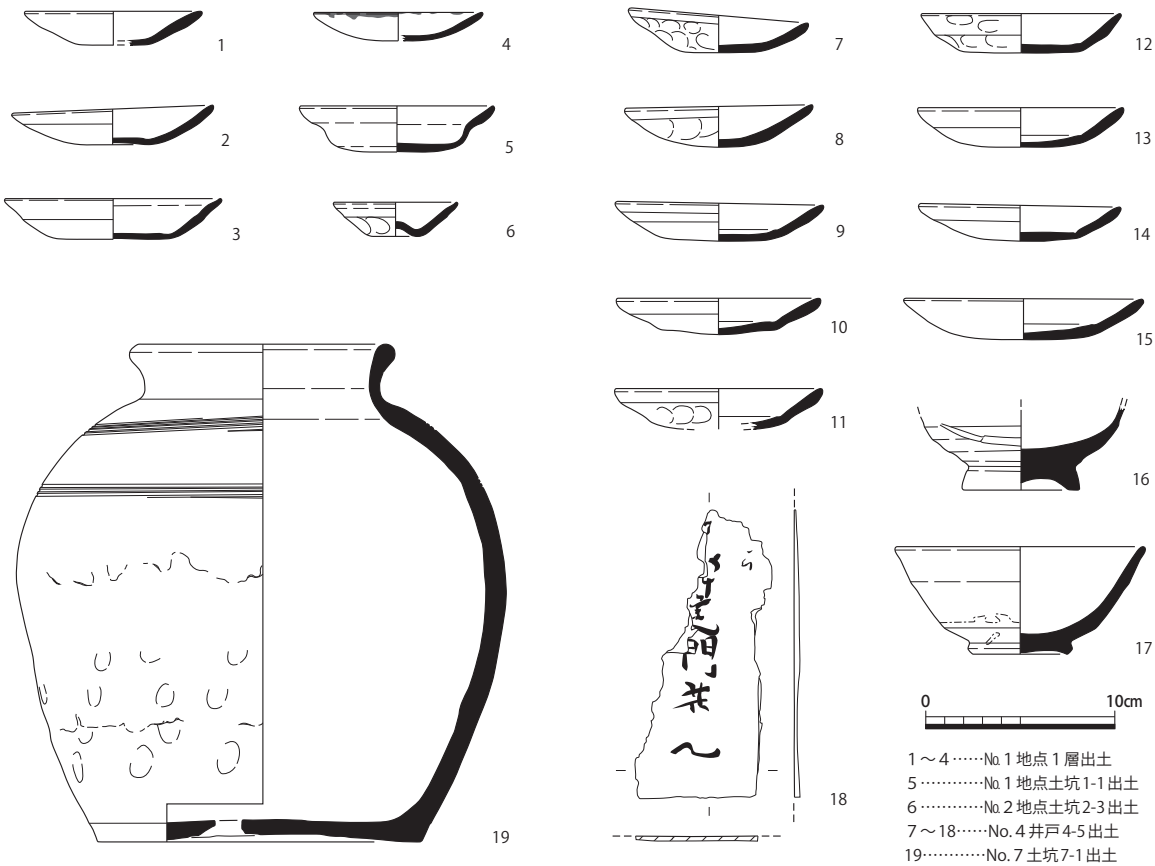


図 44　出土遺物実測図（1 ： 4）

2.0m を測る。埋土はにぶい黄褐色粗砂混じりシルトを主体とする。埋土は大きく上層と下層に大別できる。下層は湧水により湿潤で，土質は軟質である。井戸枠や井戸側は確認できていない。埋土上層から土師器皿（17 世紀），施釉陶器椀，常滑焼甕の小片が出土した。また下層からは施釉陶器椀（図 44-16,17）と土師器皿（同図 -7 ～ 13）が多数出土した。また最下層から「□□□門□」と記された木簡が 1 点出土した（同図 -18，図版 32- 4）。17 世紀の遺構である。

ピット 4-6　井戸 4-3 の北で検出した遺構である。直径 0.25m を測る平面円形のピットで，最大深度は 0.3m を測る。断面形状は椀形を呈する。埋土はにぶい黄褐色細砂混じり粘土質シルトで，炭化物を多量に含む。遺構の性格は不明であるが，ピット 4-4 と共に井戸 4-5 に関連する可能性がある。

土坑 4-7　土坑 4-2 の東で検出した土坑である。平面形状は不定形で，長辺 1.2m，短辺 0.8m を測る。最大深度は 0.2m，断面形状は浅い皿形である。埋土は褐色細砂混じりシルトに地山由来のブロック土と炭化物を多量に含む。埋土から土師器甕と皿の細片が出土した。時期及び遺構の性格は不明である。

No.5 地点　No. 4 地点の北側で行った断面観察である（図 43 上段，図版 31- 3）。GL-0.3m で室町時代包含層，-0.4m で地山由来のブロック土を含む褐色細砂混じり粘土質シルトの整地層，-0.9m で明黄褐色細砂混じり粘土質シルトを主体とする地山に至る。整地層上面において室町時代の土坑とピットを検出した。室町時代包含層からは，土師器皿，天目茶椀，平瓦が出土した。

土坑 5-1　平面の大型土坑で径 1.5m 程度に復元できる。最大深度は 0.7m，断面形状は椀形を呈する。埋土は暗褐色粗砂混じりシルトで拳大の角礫や炭化物，土器片を多く含む。埋土から土師器皿，焼締陶器甕の破片，施釉陶器椀，平瓦が出土した。16 世紀の遺構である。

ピット 5-2　調査区西辺で検出した遺構である。平面形状は直径 0.2m の円形，最大深度は 0.5m，断面形状は筒形に近い。埋土から土師器へそ皿と灯明皿（15 世紀）が出土した。

No.６地点　調査区東辺で実施した断面観察である。削平が著しく，GL-0.1m の深度で黄褐色粘土質シルトの地山を確認した。

No.７地点　調査区南東部で実施した断面観察である（図 43 下段，図版 32- 1）。No. 6 地点よりもさらに削平が著しく，GL-0.08 ～ 0.1m でにぶい黄褐色泥砂を主体とする整地層，-1.0m で明黄褐色シルト～砂礫の地山に至る。整地層の上面が室町時代遺構面に相当する。この地点では，土坑２基と集石遺構を確認した。

土坑 7-1　調査区南壁断面において確認した土坑である（図版 32- 2）。検出幅は 0.4m，最大深度は 0.35m, 埋土はにぶい黄褐色泥砂を主体とする。遺構内からは焼締陶器の壺（図 44-19）が 1 点，正位置で出土した。埋納遺構と推測される。蓋は確認できなかった。

図 44-19 は灰黄褐色の色調を有する初期段階の備前焼で，広い平底に孔を 1 点穿つ。外面はヘラナデと指ナデで整形されており，肩に櫛状工具で線刻帯を２帯めぐらせる。口縁端は丸みを持たせて厚く作るが, 削平時の破損により大部分が欠損している。内面肩部には付着物が認められる。壺内に骨片が充填されていたことから，蔵骨器であると理解される。壺の所産時期は 14 世紀半～15 世紀前半である。

土坑 7-2　土坑 7-1 の西で検出した土坑である（図版 32- 3）。検出幅は 0.7m，最大深度は 0.4m を測る。埋土はにぶい黄褐色泥砂である。土坑内からは人頭大の石が重なって出土した。

３．まとめ

以上，北山蓮台寺境内における詳細分布調査について記述した。今回の調査では，遺構，遺物共に予想以上の発見があった。特に室町時代の蔵骨器埋納遺構の発見は，当該地域が化野，鳥辺野と並ぶ葬送の地であった蓮台野の中心であることを強く印象付ける資料である。また 16 世紀の遺構群に炭化物や焼土が多量に含まれることは，蓮台寺が応仁の戦火により焼亡したとする歴史的事項を示唆するものであろう。

『山城名勝志』によると，蓮台野の範囲は広く，東は船岡山の西際，西は紙屋川までの一帯を指す。その中心施設として立地した蓮台寺本坊と，その周囲に配された子院十二坊の存在を考慮すると，遺構群はさらに面的な広がりをもつと考えて良い。今後の調査成果の蓄積を待ち，再考の機会としたい。

（黒須亜希子）

引用文献

調査①：京都市文化市民局，「Ｖ調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告　令和元年度』，2020年。

Ⅴ-3　如意寺跡（21A001）

1．調査の経緯（図45）

本件は，左京区鹿ケ谷大黒谷町における詳細分布調査である。令和２年９月に左京区在住の市民から，本遺跡内を散策中に遺物を採取したとの相談を受けた。当該遺物は如意寺に関連するものと判断できたため，同年度中に寄付受納し，令和３年４月１日に聞き取った採取地点付近の現地確認に赴いた。

如意寺は近江園城寺の別院であり，鹿ヶ谷から園城寺へとつながる如意越に沿って複数の平坦地群から成る。創建は平安時代中期以前にさかのぼり[1]，園城寺別院として隆盛するものの，応仁の乱で焼亡する（『大乗院寺社雑事記』応仁２年〔1468〕９月28日条）。これまでに踏査・測量によって伽藍が把握され[2]，一部で古代学協会による発掘調査も実施された[3]。資料が採集されたのは，鹿ヶ谷から如意越に入って最初に展開する平坦地群で，『園城寺境内古図』との対照から「寶厳院跡」とされる。

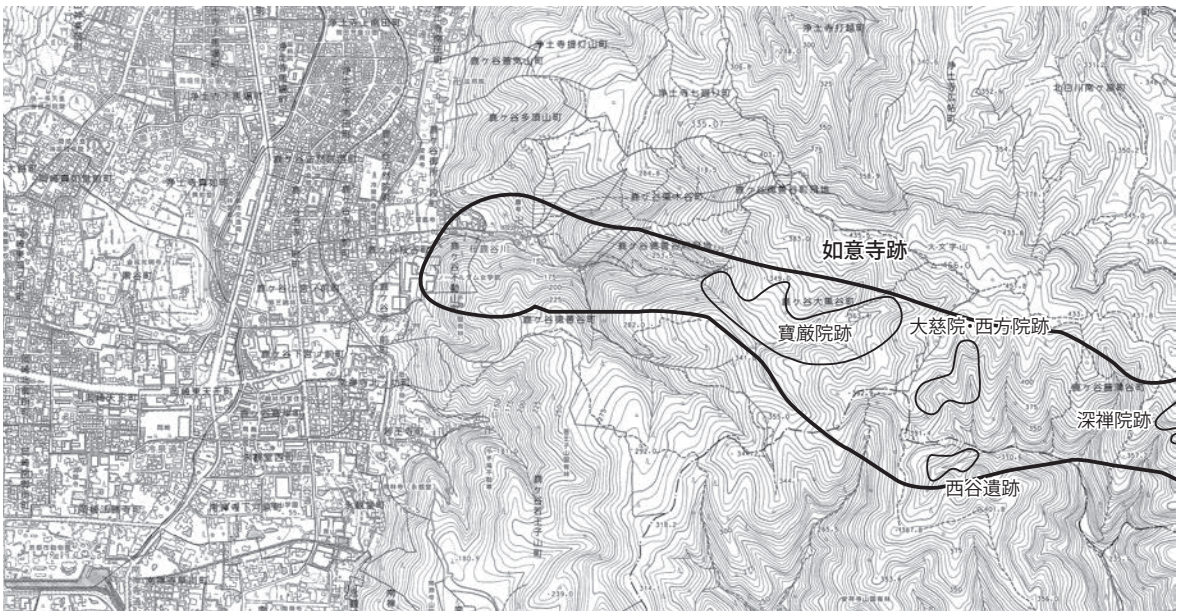


図45　如意寺跡位置図（1：25,000）

2．現地確認（図46）

現地では「寶厳院跡」平坦面の現状確認をおこなった。近年多発している豪雨災害等によって，多数の倒木が放置されていたほか，表土が流れている地点が複数あり，今回の採取資料も豪雨によって流出したのではないかと推測される。気候変動は特に山中の遺跡にとって，遺構保全への影響が懸念される事態となっており，継続的な状況確認が必要である。

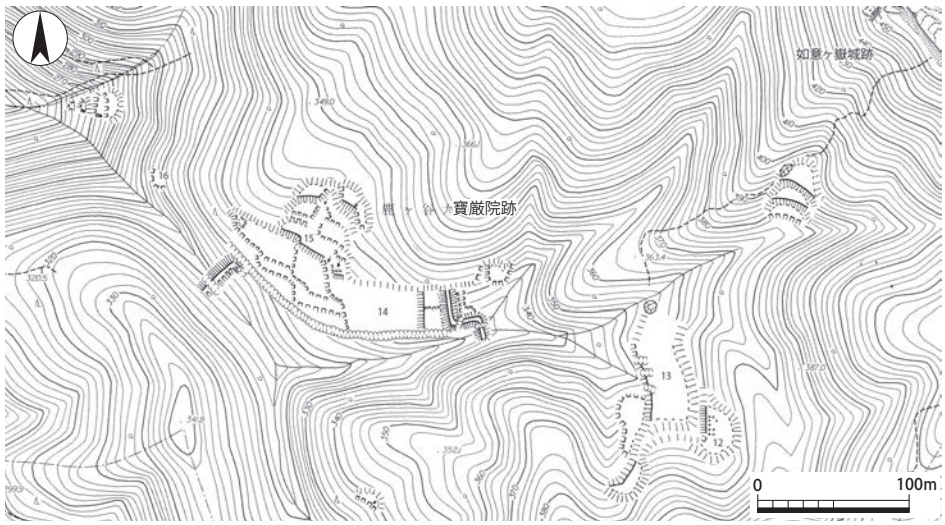


図 46　如意寺寶厳院跡縄張り図（1：5,000）註２②文献より引用・改変

3．遺物（図47）

採取された資料は宝珠形金属製品である。高さ 15.4cm，幅 11.8cm で，厚さ 0.3cm 程度の板状製品である。１箇所に盤面と垂直方向の突起が残るが，剥離痕跡から本来は３箇所に設けられたものだったことが分かる。飾り金具の１種であろうと推測する。

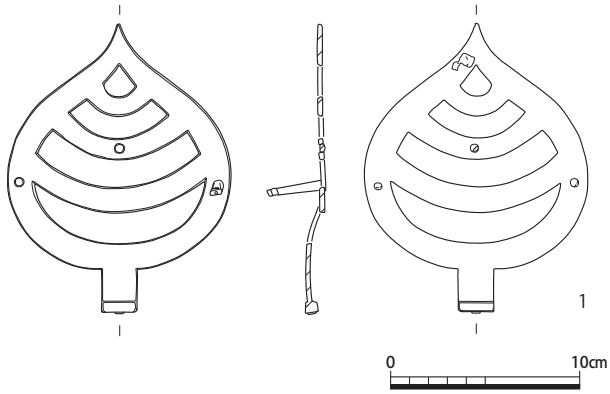


図 47　採集遺物実測図（1：4）

単独の不時採取であるため，年代や性格の手がかりはないが，宝珠形は如意寺との関連を強く示唆するものであり，如意寺と関連する遺物である可能性が高い。如意寺と関連するならば 13 ～ 14 世紀ごろのものとできよう。

4．まとめ

今回の調査は遺物採集状況の確認のためにおこなったが，採集地点の特定はできなかった。しかし，表土の流出を随所に認め，採集に至った状況を把握することができた。近年相次ぐ豪雨災害は，特に山中の遺跡に甚大な影響を及ぼしかねず，継続的な状況把握の必要性を強く認識する。

（新田　和央）

註

1）小山田和夫「如意寺の創建について」江谷寛・坂詰秀一編『平安時代山岳伽藍の調査研究―如意寺跡を中心にして―』古代學協會研究報告第１輯，2007年。

2）①梶川敏夫「如意寺跡―平安時代創建の山岳寺院―」『古代文化』第43巻第６号，1991年。②中居和志「如意寺跡」『京都府中世城館跡調査報告書』第３冊―山城編１―，京都府教育委員会，2014年。

3）江谷寛・坂詰秀一編『平安時代山岳伽藍の調査研究―如意寺跡を中心にして―』古代學協會研究報告第１輯，2007年。

Ⅴ-4　安祥寺下寺跡（21S151）

1．調査の経緯（図48）

調査地は，山科区御陵平林町に現存する高野山真言宗吉祥山安祥寺の境内である。

安祥寺は，嘉祥元年（848）に仁明天皇の女御であり文徳天皇の母である藤原順子（皇太后）の発願により，入唐僧恵運が創建した寺院とされる。恵運が貞観９年（867）に作成した「安祥寺伽藍縁起資財帳」によると，安祥寺には上寺と下寺があり，上寺には礼仏堂と五大堂から成る堂院や僧房，庫裏，浴堂等が，下寺には塔，仏堂，僧房，門楼等の施設が設置されていた。

斉衡２年（855）に安祥寺は定額寺となり，国家の庇護を受けて隆盛したが，藤原順子の死後は徐々に衰退したと見られる（『小右記』）。平安時代後期には僧宗意により下寺の復興が図られるものの，室町時代の戦乱に際し，上寺，下寺ともに焼亡した（『山科安祥寺誌』）。

現在の安祥寺は寛文 12 年（1672）に現在地へ移転した後に再建された建物群により構成される。旧寺領の 10 万坪は天台宗護法山出雲寺（現毘沙門堂）へ割譲されたため（『高野春秋』），その故地は毘沙門堂付近に求めることができる。安祥寺上寺はさらにその北にあり，現時点では山の中腹の平坦地付近に比定されている。

現在，安祥寺は創建当時の作と伝わる木造十一面観音立像（重要文化財）等の寺宝を本堂内に安置している。今回，これらを災害から守るための設備工事の一環として，境内に配管が埋設されることとなった。今回の調査は，この掘削工事に伴う詳細分布調査で，令和３年 10 月 18 日から 12 月 15 日に実施した。

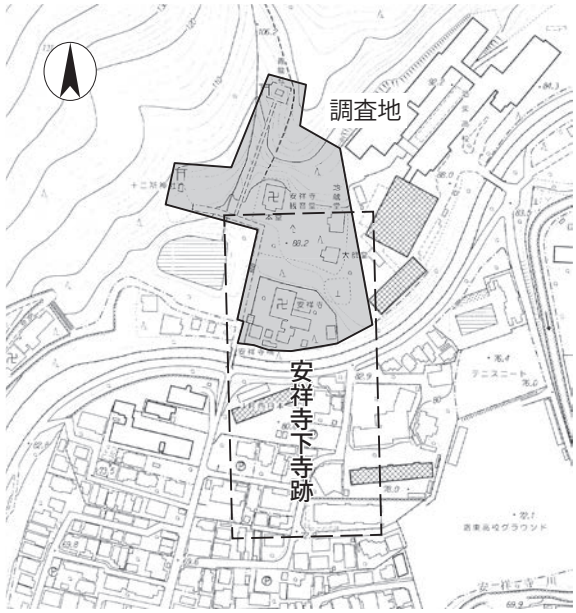


図 48　調査位置図（1：5,000）

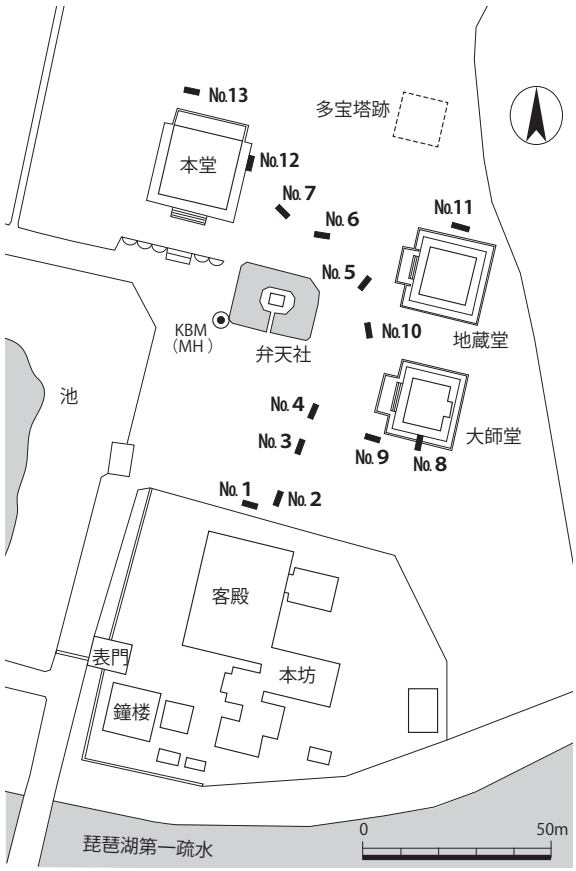


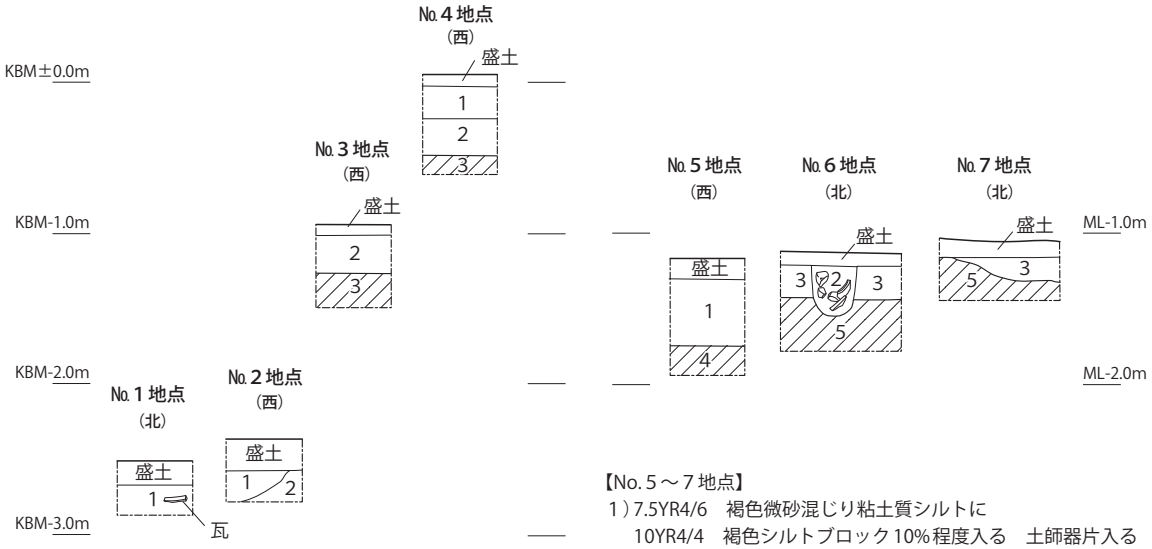
図 49　調査地点位置図（1：2,000）

2．調査成果（図49・50）

調査は，線掘工事の進捗に従い，計 13 箇所において断面観察を行った。

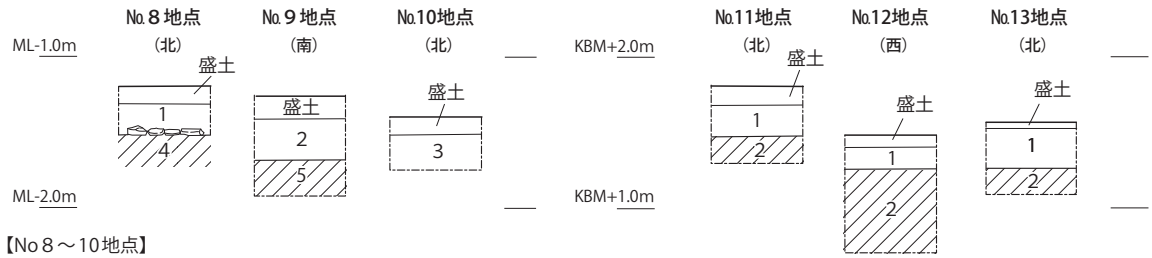
No.1 地点　GL-0.15 ～ -0.39m で褐色礫混じり粘土質シルトの近世包含層を確認した。包含層からは平瓦が 1 点出土した。この地点では地山の深度を確認することはできなかった。

No.2 地点　GL-0.2m で南へ落ちる褐色礫混じり粘土質シルトの近世包含層を確認した。その基盤層となる褐色微砂混じり粘土質シルトからは，土師器皿の小片（時期不明）が出土した。No.1 地点と同様，地山は確認できていない。



【No.1～4 地点】
1）10YR4/6　褐色礫混じり粘土質シルトに
　10YR4/3　にぶい黄褐色シルトブロック 10% 程度入る
　径 1cm 未満の礫少量入る　瓦片入る　しまり悪い【近世】
2）7.5YR4/6　褐色微砂混じり粘土質シルトに
　10YR4/4　褐色シルトブロック 10% 程度入る　土師器片入る
　やや軟質　ややしまり悪い【時期不明包含層】
3）7.5YR4/6　褐色微砂混じり粘土質シルト　固くしまる【地山】

【No.5～7 地点】
1）7.5YR4/6　褐色微砂混じり粘土質シルトに
　10YR4/4　褐色シルトブロック 10% 程度入る　土師器片入る
　やや軟質　ややしまり悪い【時期不明包含層】
2）10YR5/6　黄褐色粗砂混じりシルト
　拳大の礫・平瓦片多量入る　しまり悪い【近世暗渠】
3）7.5YR5/6　明褐色礫混じりシルト
　拳大の礫少量入る　しまり悪い
4）7.5YR5/8　明褐色砂礫　固くしまる【地山】
5）7.5YR5/8　明褐色礫混じりシルト　固くしまる【地山】



【No8～10 地点】
1）10YR5/8　黄褐色粗砂混じり粘土質シルトに
　10YR5/6　黄褐色シルトブロック 30% 程度入る
　下位に拳大の平礫多量入る　非常に固くしまる【地業？】
2）10YR5/6　黄褐色粗砂混じりシルトに
　7.5YR5/8　明褐色細砂混じりシルトブロック 10% 程度入る
　径 1cm 未満の礫少量入る　土師器片入る　しまり悪い
3）10YR6/8　明黄褐色粗砂混じりシルトに
　10YR5/6　黄褐色シルトブロック 10% 程度入る
　径 1cm 未満の礫少量入る　非常に固くしまる【整地層】
4）10YR5/8　黄褐色粗砂混じりシルト【地山】
5）7.5YR5/8　明褐色細砂混じりシルト　固くしまる【地山】

【No11～13 地点】
1）7.5YR5/8　明褐色礫混じりシルト【整地層】
2）7.5YR6/6　橙色礫混じりシルト【地山】

0　2m

図 50　No.1 ～ 13 地点断面図（1：50）

No.3 地点　GL-0.05m で褐色微砂混じり粘土質シルトの時期不明包含層，-0.32 ～ -0.38m で褐色微砂混じり粘土質シルトの地山を確認した。包含層からは，土師器の小片が出土した。

No.4 地点　GL-0.08m で褐色礫混じり粘土質シルトの近世包含層，-0.29m で褐色微砂混じり粘土質シルトの時期不明包含層，-0.54 ～ -0.67m で褐色微砂混じり粘土質シルトの地山を確認した。

No.5 地点　GL-0.13m で褐色微砂混じり粘土質シルトの時期不明包含層，-0.55m で明褐色砂礫の地山を確認した。

No.6 地点　GL-0.1m で明褐色礫混じりシルト，-0.3m で明褐色礫混じりシルトの地山を確認した。盛土直下では，拳大の礫と平瓦片を充填した近世の暗渠を検出した。

No.7 地点　GL-0.13m で東へ落ち込む明褐色礫混じりシルト，-0.4m まで明褐色礫混じりシルトの地山を確認した。

No.8 地点　現存する大師堂基壇の一部を断割った掘削である。GL-0.13m で黄褐色粗砂混じり粘土質シルトを主体とする固く締まった整地層（基壇），-0.3m で黄褐色粗砂混じりシルトの地山を確認した。地山上面には拳大の平礫が敷かれていた。

No.9 地点　GL-0.15m で黄褐色粗砂混じりシルト，-0.4m で明褐色細砂混じりシルトの地山を確認した。

No.10 地点　GL-0.11m で明黄褐色粗砂混じりシルトの整地層を確認した。地山は確認できていない。

No.11 地点　GL-0.12m でしまりの悪い明褐色礫混じりシルト，-0.6 ～ -0.66m で橙色礫混じりシルトの地山を確認した。

No.12 地点　現存する観音堂の基壇の一部である。GL-0.06 ～ -0.3m で明褐色礫混じりシルトの整地層，-0.3 ～ -0.78m で橙色礫混じりシルトの地山を確認した。

No.13 地点　GL-0.06m で明褐色礫混じりシルトの整地層，-0.3 ～ -0.36m で橙色礫混じりシルトの地山を確認した。

3．まとめ

以上，安祥寺境内における詳細分布調査について記述した。今回の調査は線掘工事に伴うものであり，面的な遺構検出には及ばなかったものの，近世以前に遡る包含層を確認する成果を得た。現境内の形成は江戸時代後期とされているが，今回の調査成果はその前段階において当該地に人的関与があったことを示すと言えよう。

なお，現在の包蔵地「安祥寺下寺跡」は現境内を中心とした範囲のみに限られているが，今後はかつての寺領を含めた広い範囲を対象とする調査視点が必要となるだろう。安祥寺上寺との位置的関係も考慮しつつ，今後の課題としたい。

（黒須亜希子）

参考文献

林屋辰三郎　他編，『京都市の地名』日本歴史地名大系第27巻，1979年

Ⅴ-5　大宅廃寺瓦窯跡（20S163）

1．調査の経緯（図51・52）

本件はグラウンド造成にともなう詳細分布調査である。調査地は大宅廃寺跡が見つかった大宅中学校の南に位置する丘陵で，周知の埋蔵文化財包蔵地「大宅廃寺瓦窯跡」に該当する。大宅廃寺瓦窯跡は大宅廃寺に瓦を供給していた窯として知られ，現在も窯体の一部が遺存している。施工計画範囲の主な部分については昨年度試掘調査を行い報告を行った[1)]。今回は，擁壁部分で確認できた遺構について報告する。今回見つかった遺構の大部分は開発されず現地で保存される。調査は令和２年 12 月７日から令和３年２月５日に行った。

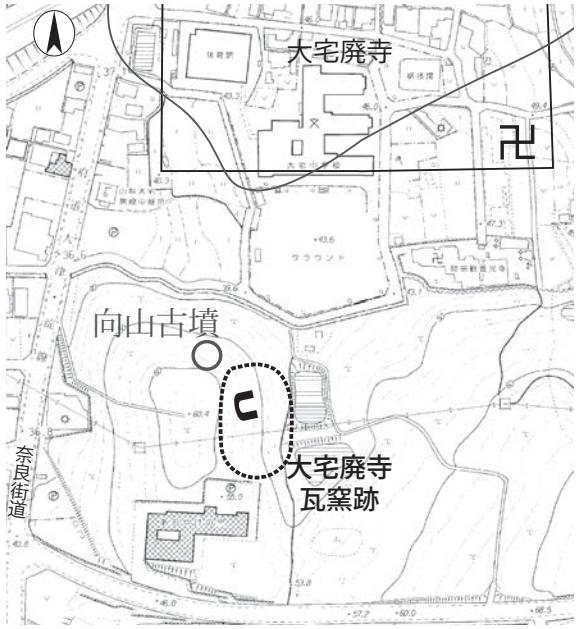


図 51　調査地周辺遺跡図（１：5,000）

2．過去の調査事例と地理

大宅廃寺瓦窯跡は大宅奥山の裾部に位置し，南北にのびる谷筋の西斜面に東向きに開口する窯１基が現存する瓦窯跡である。これまでの踏査では窯は１基しか確認されていなかった。谷筋は近現代に農業用の溜池となり，斜面地は長く竹林となっていた。西には奈良街道が通り，瓦を供給していた大宅廃寺は約 500m 北に位置する（図 51）。現存する窯は昭和 60 年代に橘女子大学考古学研究会[2)]や京都大学考古学研究会[3)]による踏査の報告がされている。これまでに採取された瓦数はあまり多くなく，現地にも瓦は散布していなかったため詳細は不明だが，雷文帯・複弁蓮華文軒丸瓦，偏行唐草文軒平瓦が大宅廃寺瓦窯の瓦として知られており，白鳳時代の窯跡だと考えられてきた。現存する窯は窯尻から煙道部にかけてのみ残っている状況である

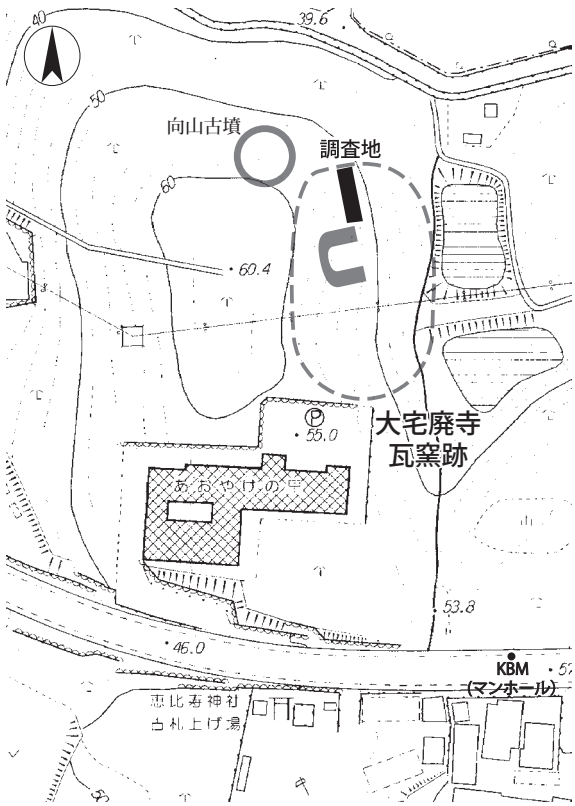


図 52　調査位置図（１：2,500）

が，その範囲については天井も完存し，煙道部も良好に残っている。窯跡の名残をとどめる溝状の窪みから窯の範囲を推定すると，斜面地の中の急傾斜地に細長い窯体を持つ穴窯であったことが推測され，この特徴からも窯が白鳳時代のものと推測されていた。

３．遺構（図53・54，巻頭図版，図版33）

現存窯の北側丘陵部で灰原の可能性がある落ち込みを３か所確認した。開発は丘陵部分には及ばず現状保存されるため，施工壁面に露出した断面のみが調査対象であった。調査地点は傾斜面の裾部に当たっており，露出している断面の層厚が薄いこと，含まれる瓦・灰・焼土が少量であることから灰原の端部を検出したと推定される。施工時の立会調査では平面的な広がりを追えなかったことから灰原の中心部は丘陵側に遺存している可能性が高い。

落ち込み１　図 54 の層１～３をまとめて落ち込み１とする。幅１m，深さ 0.5m の落ち込みと幅 1.3m，深さ 0.3m の落ち込みからなる。前者の埋土は上層が明黄褐色砂礫混泥土で下層が黒色炭・焼土・灰・砂礫が混ざった泥土であった。下層に丸瓦の破片が含まれていた。後者の埋土は明褐色砂礫混泥土であった。

落ち込み２　図 54 の層５～８をまとめて落ち込み２とする。幅４m，深さ 1.5m を検出した。層５は黄褐色シルトと砂礫の混合層，層６は褐灰色泥土，層７は褐色泥土と砂礫の混合層，層８は黒色泥土に炭・焼土・灰・礫が混ざった土であった。層５～７は後から埋もれた地層であろう。

落ち込み３　図 54 の層９を落ち込み３とする。幅 4.5m，深さ 0.5m を検出した。埋土は落ち込み２の層８と同じで黒色泥土に炭・焼土・灰・礫が混ざった土であった。断面の形状は落ち込み２に類似する。上部は攪乱か地滑りかによって削平されている。

４．まとめ

大宅廃寺瓦窯跡は現存する窯体１基以外は踏査などで窯や灰原が見つかったことは無かった。昨年度の試掘調査でも窯の南側には遺構・遺物が無く，窯は南側には展開していなかったと結論付けた。しかし，今回の調査で現存窯の北側に未発見の窯が遺存している可能性が高まった。調査壁面で検出した炭層の上位には地山が崩れたような土が２m 以上堆積していた。窯体そのものは炭層より西にのびる丘陵斜面地に展開すると考えられる。観察した断面の堆積状況とこれまでの踏査では遺物や窯跡が見つからなかった点を考え合わせると高い確率で埋没していると想定される。この丘陵部分は今回工事では開発されず保存される。

（赤松　佳奈）

註

１）赤松佳奈「Ⅴ-５　大宅廃寺瓦窯跡　№102（20S163）」『京都市内遺跡試掘調査報告　令和２年度』，京都市文化市民局，2021年。

２）『第５次山科分布調査遺跡台帳』，橘女子大学考古学研究会，1982年。

３）堀大輔「第２節　大宅廃寺瓦窯跡」『第41とれんち』，京都大学考古学研究会，1989年。

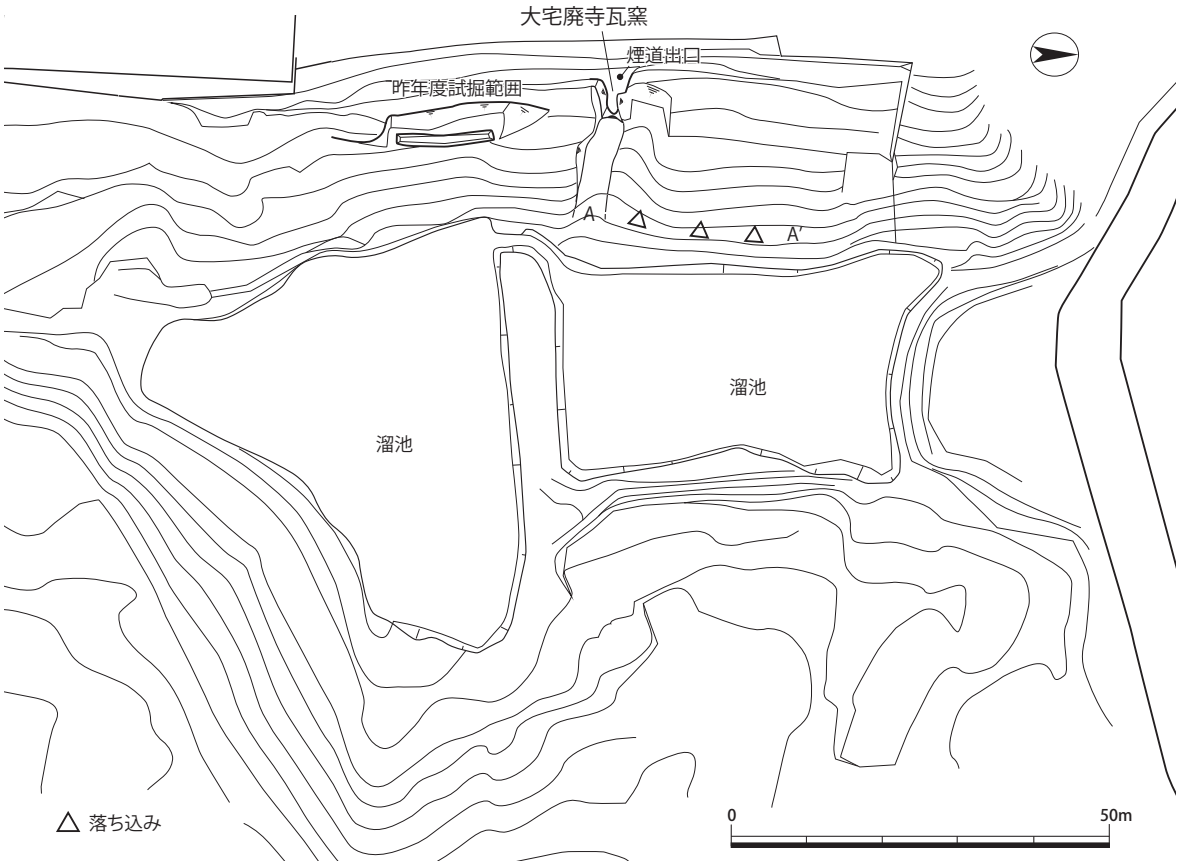


図 53　調査地点位置図（1：1,000）

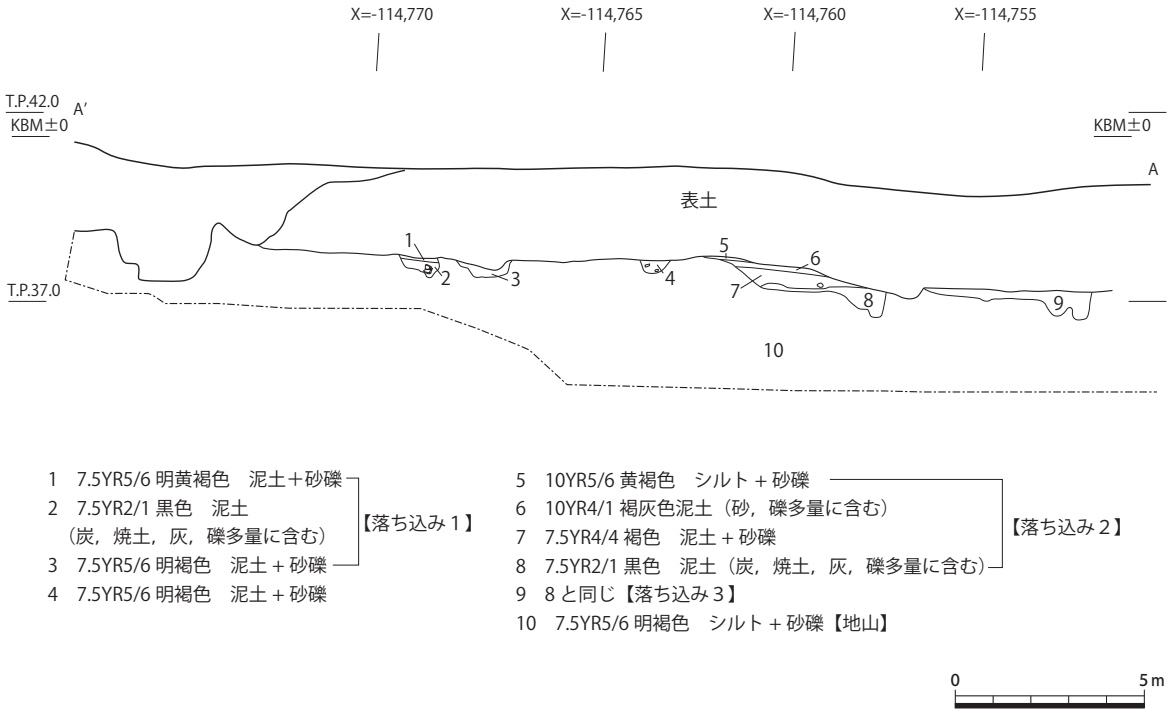


図 54　A-A' 間断面図（1：200）

Ⅴ-6　鳥部（辺）野（20S459）

1．調査の経緯（図55）

調査地は東山区粟田口高台寺山町に位置する高台寺山国有林である。当該地は北は清水山から南は稲荷山の手前までに連なる全長 3.2 ㎞の大規模遺跡鳥部（辺）野の範囲にあたる。鳥部（辺）野は平安京造営当初からの葬送地で，他に嵯峨野の西に位置する化野や船岡山近辺の紫野などが知られるが，鳥部（辺）野は平安京近郊のうち最大の葬送地である。

今回，台風被害木の集積場作設工事に際して，令和２年 12 月 16 日と令和３年１月４日に調査を実施し，工事計画地周辺で中世の墓の可能性がある高まりを発見したためこれを報告する。

2．層序（図56・57）

台風被害木の集積土場になる現地（Ａ地点）は，残土処理場の跡地を利用するもので，南西部分は残土処理場時代の産業廃棄物が集積されており工事掘削深の地表下 -1.0m まで攪乱されていた（№1 地点）。しかし中央部西側では地表より掘削深の -0.4m までにぶい黄橙色シルト～粗砂の

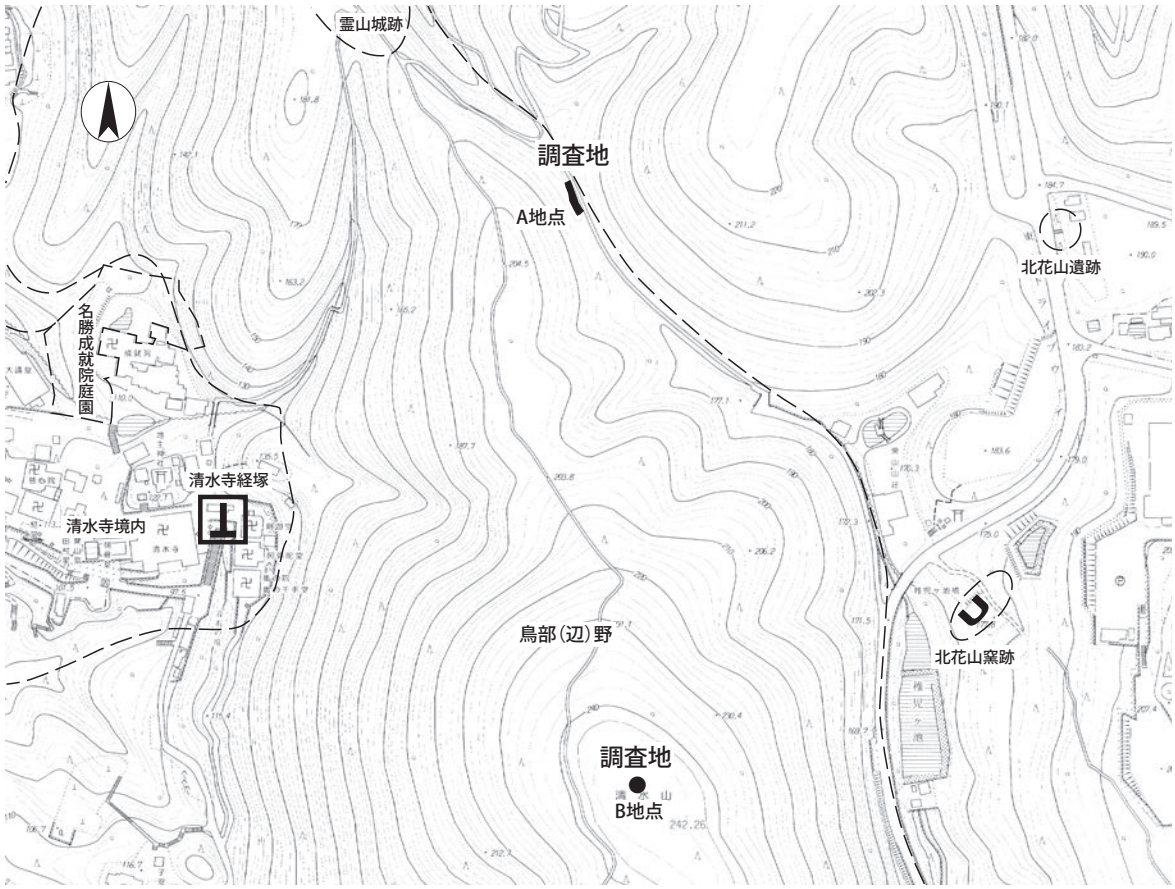


図 55　調査位置図（1：5,000）

山土のみ堆積しているのを確認した。今回工事に伴う調査では鳥部（辺）野に関連する遺構，遺物は検出できず，工事は遺跡に影響を与えていない。

3．遺構（図56～59）

調査地点（A地点）では顕著な遺構，遺物を検出することが出来なかった。国有林では近年山林保全のための林道が敷設されることが多いが，鳥部（辺）野の範囲では遺構分布の詳細が知られておらず，林野庁の許可を得てこの機会にA地点から清水山山頂にかけて詳細分布調査を実施した。

この結果，工事地点（A地点）から約400m南の清水山山頂において中世墓の可能性があるマウンドを発見した。隅丸方形の盛土で全長約2.5m，幅約2mを測り，高さは約0.5mであった。長軸が北東から南西方向を向いており，二重台形を呈す。傾斜面に約0.1m幅の犬走り状の平坦面が観察された。頂部には長手方向に0.3～0.4m大の石が4石並び，裾部には0.1～0.4m大の石がほぼ隙間なく並べられていた。

マウンドの南東面には石仏が安置されていた。石仏は高さ約0.49m，幅0.34m，厚さ0.18mを測り，1m×0.8mの範囲を拳大の礫で囲み，石仏の前には長辺25cmの平たい石が平坦面を上にして据えられていた。石仏は磨滅が進んでいるが，定印を結んでいるように見えることから阿弥陀座像の可能性が高い。石仏の阿弥陀座像は室町時代に多数つくられ，麓の清水寺には多くの遺例が集められている。近世～近代に今の形に安置された可能性もあるが，中世墓と仮定し報告する。

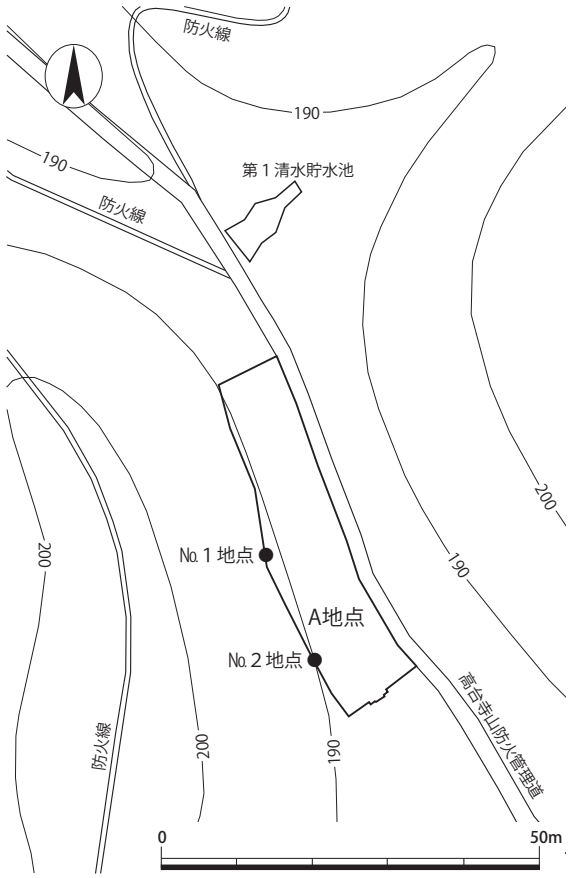
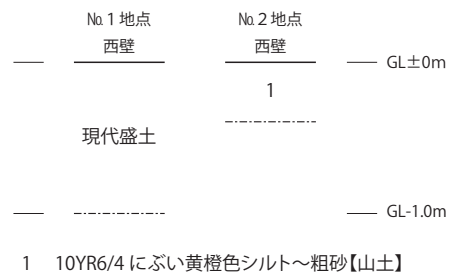


図56　調査地点位置図（1：1,000）



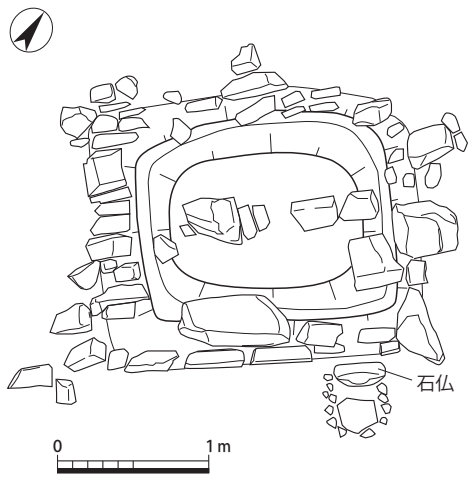


図57　B地点平面及びNo.1・2地点柱状断面図（1：50）

図 58　中世墓の可能性がある遺構（西から）

図 59　石仏（南東から）

4．まとめ

大規模遺跡である鳥部（辺）野は，遺跡範囲のほぼ全てが山林地帯でありほとんど調査例が無い。しかし，令和２年に元興寺文化財研究所が大谷本廟の北側にある本壽寺で行った発掘調査では 13 世紀前半頃の東播系須恵器甕や 15 世紀の備前焼の甕を使った蔵骨器が出土しており，その時期の埋葬施設があったことが確認されている[1)]。また，平成 30 年に文化財サービスが東山五条交差点から西へ 200m の地点で行った発掘調査では 12 世紀中頃と推定できる石造笠塔婆などが出土した[2)]。これらのことから，鳥部（辺）野と呼ばれる葬送地は東山山系を下り鴨川扇状地に大きく西に拡がることが分かるようになった。そのなかで今回，山頂部である清水山山頂で中世墓の可能性がある遺構を発見できたことで，鳥部（辺）野が山頂部から扇状地にかけて拡がっていることを考古学的に確認することができた。石仏は現在も信仰の対象となっているようで，石の上には水受けの茶碗と供養銭が置かれていた。京都市内には，現在も続く天道大日如来信仰というものがある。これは街の角々にある阿弥陀仏などの石仏を使用して祀るもので，中世に多数つくられた石仏と街の人々との歴史的な関りは深く，この石仏は山中にたたずんでいるが，近・現代の天道大日如来信仰のひとつの場であるのかもしれない。

「亡きあとを たれと知らねど 鳥部山 おのおのすごき 塚の夕ぐれ」（西行）

（赤松　佳奈・吉本　健吾）

註

１）元興寺文化財研究所の発掘調査。未発表。近日報告書刊行予定。

２）菅田薫『六波羅政庁跡，音羽・五条坂窯跡発掘調査報告書』株式会社文化財サービス，2019年。

Ⅴ-7　史跡 隨心院境内（02N099）

1．調査の経緯（図60）

本件は，史跡隨心院境内における駐車場整備を行うにあたり実施した調査である。当該地は，旧奈良街道に開く惣門から東へ延びる参道に面しており，調査前の現況は竹林となっていた（図62）。ここで竹林を伐採し，盛土をした上で整地を行い，役員用の駐車場とすることで，法要時に勅使門前へ駐車が行われる現状を改善しようとしたものである。

調査地は，安永九年（1780）に刊行された「都名所図会」では，参道沿いの土塀に門が描かれており，内側には建物の姿が認められ，名称は記されていないものの，塔頭が存在していたと考えられる。

今回，整備に伴い土塀を約５ｍに亘って解体することとなったため，断面観察を実施することとなった。

調査の結果，泥団子を用いた土塀構築方法が良好に観察できたことから，報告を行う。

2．遺構（図61～64）

調査は，土塀の断面観察を実施した（図63・64）。

土塀は，基底部の積石を含めると，参道からの高さは1.9m，積土のみの高さは1.6mを測る。積石は参道側に３石以上が残り，調査地側は参道よりも地表面が高いため，調査前は積石が認められなかったが，断面観察の結果，調査地側にも２石以上の積石を認めた。積石基底部の幅は80㎝を測る。

土塀本体の積土は，最下部で幅55㎝，上部で

図60　調査位置図（1：5,000）

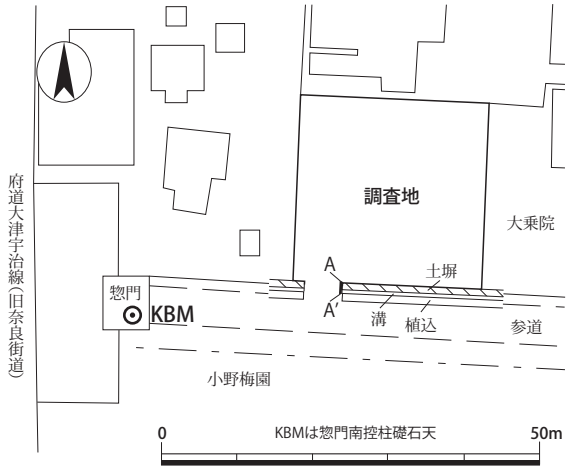


図61　調査地点位置図（1：1,000）

図62　調査前現況（南西から）

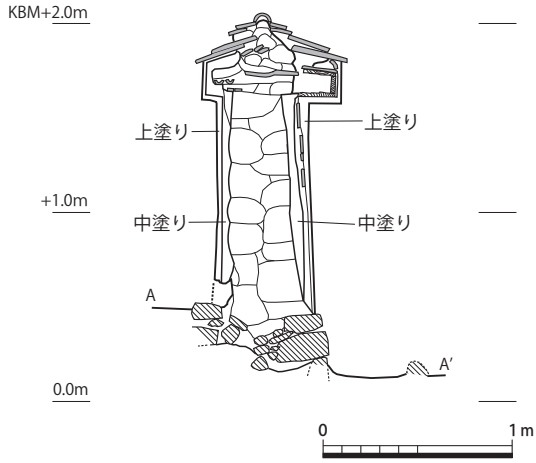


図 63　土塀断面図（1：40）

図 64　土塀断面（西から）

50 ㎝であり，ほぼ直立している。積土の構築方法は，浅黄色砂泥に小礫及び藁すさを混ぜた泥団子を積み上げ，荒壁としている。泥団子の単位は厚さ 10 ～ 20 ㎝，長さ 15 ～ 20 ㎝を測る。荒壁外側には厚さ 5 ㎝の精良な黄褐色泥砂を塗って中塗りとしている。上塗りは調査地側と参道側で異なり，調査地側は砂漆喰仕上げ，参道側は砂漆喰の上に白漆喰で仕上げとしている。また，参道側の台輪の出は深く，内部に木枠を設けて空洞となっており，後世に付加されたものであることがわかる。

遺物は，細片のために図示していないが，土師器片が泥団子の中から出土している。

3．まとめ

今回は，駐車場整備に伴う調査である。調査地は，竹林を伐採した後，盛土を行い整地されることになったため，一部解体される土塀断面の観察を実施した。

土塀は泥団子で構築されており，その工法から，江戸時代後半に属するものと判断できる。惣門から延びる参道沿いの土塀の景観は，門の有無の違いはあるものの，「都名所図会」に描かれた姿と共通しており，近世以降，現在まで大きな変化がないことを裏付ける結果となった。

（西森　正晃）

Ⅴ-8　山田桜谷古墳群（20A011）

1．はじめに（図65）

山田桜谷古墳群は，京都市・向日市・長岡京市・大山崎町の３市１町にまたがって存在する乙訓古墳群の樫原・山田グループの支群として知られる[1)]。

乙訓古墳群はタケノコ栽培などの開発で早くに多くの古墳が削平され，十分な調査がなされないまま遺物の採集にとどまっている古墳も多い。樫原・山田グループの古墳は，山田桜谷古墳群を含む９つの古墳で構成されている。墳丘の大半が残存している古墳は，山田桜谷古墳群の他に天皇の杜古墳のみである。国史跡に指定されている天皇の杜古墳は外表施設について調査が行われており，整備され保存が図られている。その他の古墳については部分的に墳丘が残存しているか，消滅している。山田桜谷古墳群の北東側に位置する穀塚古墳もそれらの古墳と同様，現在の土地区画に周濠の痕跡を確認するのみである。樫原・山田グループはすでに消滅している古墳が多い中，山田桜谷古墳群は後世の改変の影響が少ない貴重な古墳群といえる。

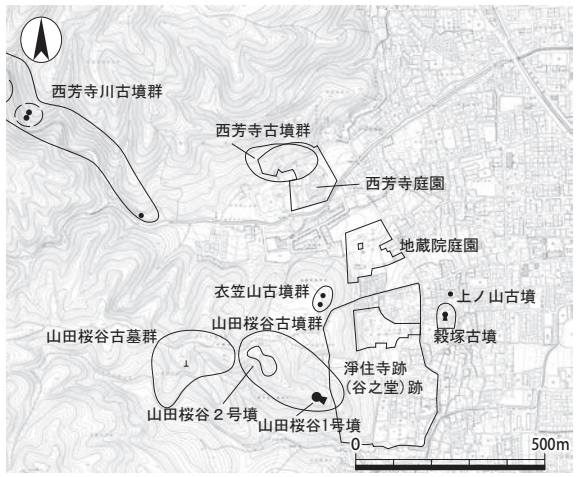


図 65　調査位置図（１：20,000）

2．調査履歴

山田桜谷古墳群は，昭和 61 年に京都市埋蔵文化財研究所職員が周辺を踏査した際に偶然発見された[2)]。その際に採集された埴輪や須恵器などから古墳の築造は５世紀後半と位置付けられている。その後，平成元年に京都大学考古学研究会によって，山田桜谷１号墳の測量調査が実施され，後円部のくびれ部が不明瞭な点などを問題点に上げつつも，前方後円墳として報告されている[3)]。翌年には，山田桜谷２号墳の測量調査が実施された。規模は不明瞭で，前方部と考えられる部分は壊されており，残存状況は極めて悪いと報告されている。また，テラス部と思われる痕跡は確認できるものの，古墳の段築数は断定できないとし，測量図だけでなく周辺から採取された遺物から築造時期を推定している。採取された埴輪片の散布状況から前方後円墳の可能性があると指摘されている[4)]。

平成 30 年度には当課が山田桜谷古墳群を含む西京区の松尾から山田，御陵を含む範囲で赤色立体地図の作成を行った。山田桜谷古墳群については１号墳の前方後円墳の形状を明確に確認することができたことに加え，その南側で古墳の前方部前面に並行する直線的な地形を確認した。この直線的な地形は古墳の築造に伴うものであることを推定した。また，赤色立体地図の範囲内で

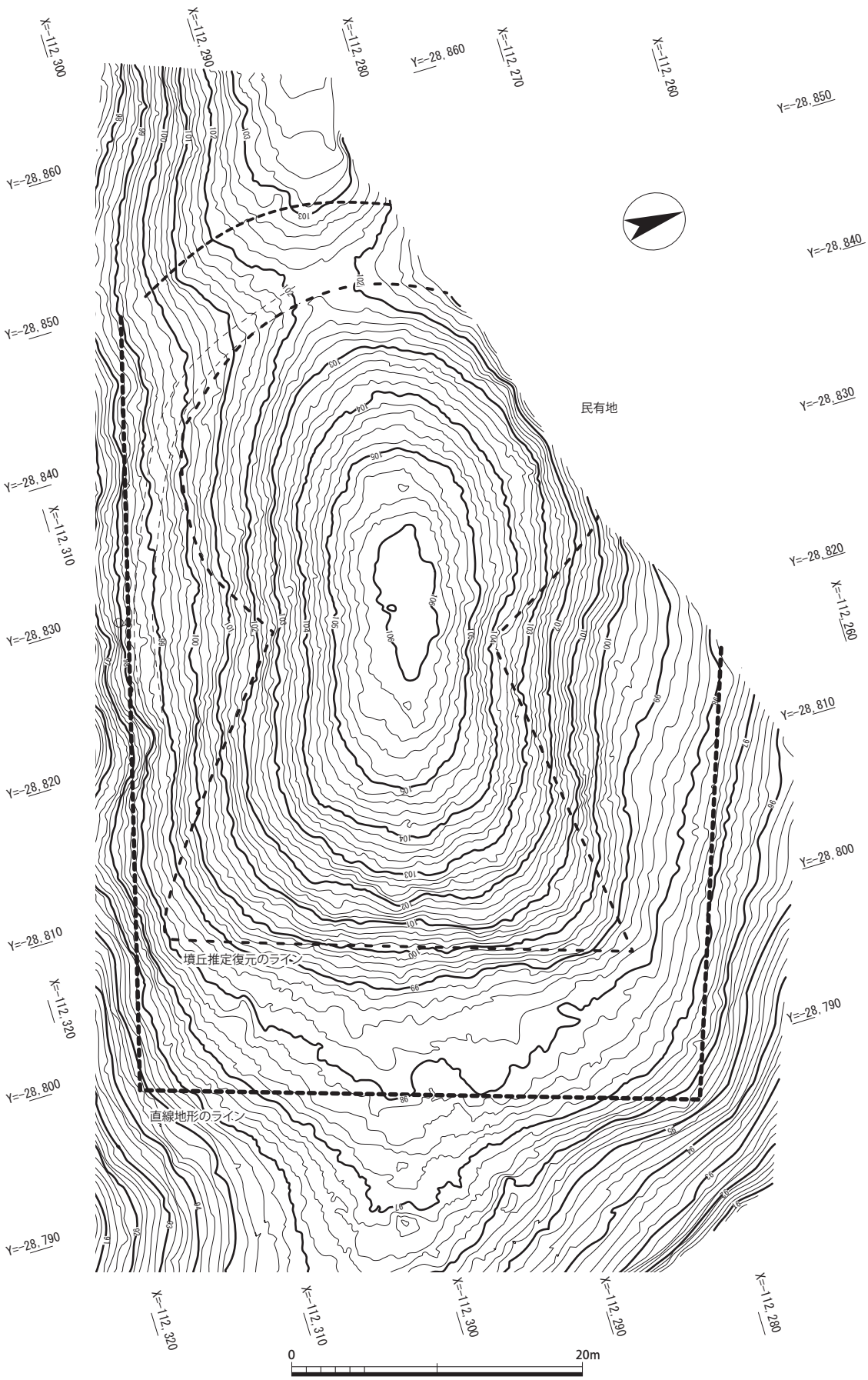


図 66　山田桜谷 1 号墳測量図（1：400）

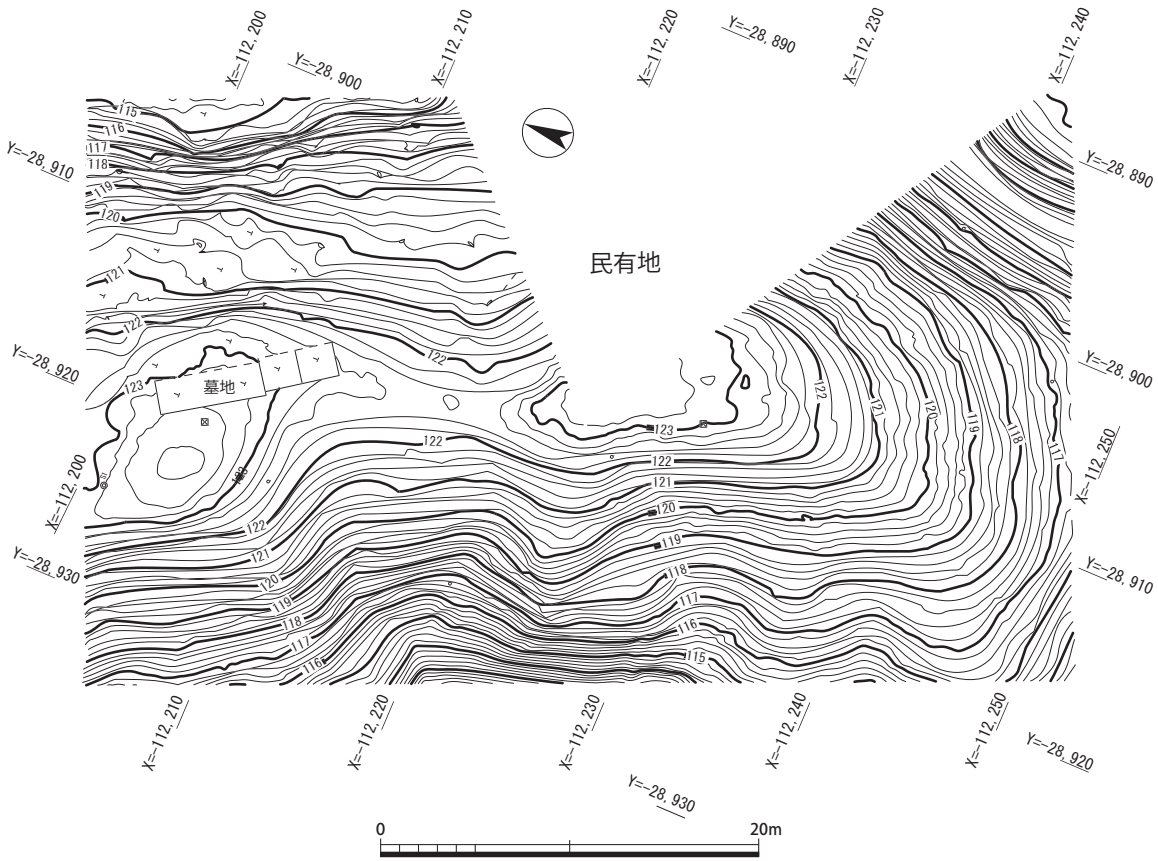


図 67　山田桜谷 2 号墳測量図（1：400）

新たな古墳を確認し，今後の松尾周辺における古墳群の実態解明につながる資料となった[5)]。

3．調査成果（図66・67）

平成元年度に行われた京都大学考古学研究会による測量調査時から今日に至るまで自然災害の影響などによる若干の地形の変化などが想定された。このため，平成 30 年度に引き続き，再度測量図を作成することとなった。また，史跡指定を行うことを念頭に範囲確認調査で古墳の微地形を把握するために，詳細な測量図を新たに作成することとなった。

測量方法　山田桜谷古墳群は国有林と民有地にまたがって存在する。樹木による繁茂の影響により手計の測量が困難であったため，UAV レーザー測量の後にオルソで図化を行った。一部の民有地については現在，調査実施について協議中であるため，今回は一部の民有地を除いた国有林内の測量にとどまる。

山田桜谷 1 号墳（図66）　後円部北西側においては民有地部分で一部削平を受けている。前方後円墳と推定されているが，測量図を見る限りくびれ部は明瞭ではない。また，前方部と後円部の頂部にはっきりとした高低差を確認することができなかった。これらは墳丘盛土の流出や崩落を示すものと考えられる。この測量成果は京都大学考古学研究会が示したものを追認したものとなる。また古墳の東側は古墳の南側に比べ，等高線の間隔が開いており，標高98mから99mにかけて平坦面

があると想定できる。平成30年度に確認した直線地形のラインを落とし込むと標高98mより下では等高線の間隔が狭くなり，かつ東側へ等高線がせり出した丘陵本来の地形が見られる。この平坦面はもともと存在した丘陵部を古墳築造時に造成したものと考えられる。

山田桜谷２号墳（図67） 古墳の東側が民有地である。国有林内の測量成果を見ると，前方部と後円部の差は不明瞭である。京都大学考古学研究会の成果でも指摘されているが，今回の測量図だけ見ると，墳丘形状はこれまで想定されてきた前方後円墳に加えて，円墳などの異なる墳形である可能性も検討しなければならない。

４．まとめ

今回の調査では，平成元年度と２年度に京都大学考古学研究会が実施した測量図と大差はなく，地形にほとんど変化がないことが確認できた。そして京都大学考古学研究会が指摘したように，１号墳は前方後円墳の可能性が高いことを追認した。また，平成30年度の調査と同じく，南側で古墳築造の造成に関連する平坦面を確認することができた。さらに，２号墳においては前方後円墳以外の墳形である可能性も考えられるため，今後墳丘の形状を確定するための調査が必要である。

本古墳群は近年続いている自然災害の影響により，周辺の環境は悪化の一途を辿っている。そのような状況を打開するために，本古墳群の適切な保存及び整備を目的とした調査を早急に実施していく必要がある。

（清水　早織）

註

１）都出比呂志「古墳時代首長系譜の継続と断絶」『待兼山論叢』史学編22，1988年など。

２）丸川義広・上村和直「山田桜谷古墳群」『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所，1988年。

３）標智仁ほか「山田桜谷１号墳測量調査報告」『第41とれんち』京都大学考古学研究会，1989年。

４）石川政澄ほか「山田桜谷地域調査報告」『第42とれんち』京都大学考古学研究会，1990年。

５）清水早織・新田和央「Ⅳ－６山田桜谷古墳群（18A006）」『京都市内詳細分布調査報告書　平成30年度』京都市文化市民局，2019年。

Ⅴ-9　愛宕山遺跡隣接地（21A002）

1．調査の経緯（図68）

本件は，京都盆地北西に聳える竜ヶ岳（標高 923m）で，平安時代前期の山林寺院と考えられる礎石建物跡を発見し，これと関連する遺物を採集したため，これを報告するものである。

令和３年３月 26 日，京都愛宕山岳会会員の齋卓史氏は，竜ヶ岳へ登山中，登山道となっている尾根上で休憩した際，眼前に露出していた石の上面が平坦であることに気付かれた（図 71 イ１）。普段，発掘調査に従事している氏は，礎石の可能性を考えられ，周囲を確認したところ，東側に１石，北側に３石が直線上に露出していることを発見された。さらに，周辺で平安時代の須恵器，灰釉陶器を採集したことから（図 73），即日，筆者に連絡があった。

齋氏の案内のもと令和３年４月 12 日に現地確認を行い，30 日には京都市立芸術大学の畑中英二教授とともに簡易測量を実施した。

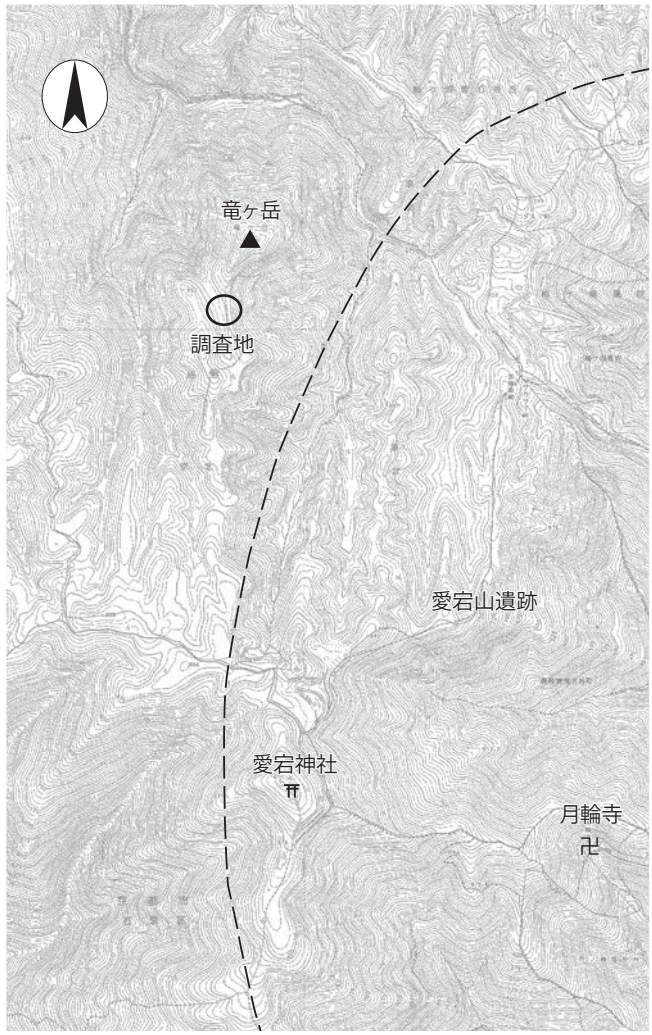


図 68　調査位置図（１：25,000）

2．遺構（図69～72，巻頭図版）

立地　右京区京北町細野に属する竜ヶ岳は，火伏せの神として有名な愛宕山の北約２㎞にあり，丹後側から愛宕山へ向かう参道から登山道が分岐し，頂上まで尾根筋に道が付けられている。礎石建物は，頂上南面直下の標高 875m 付近の南北に長い尾根上に立地している（図 69・70）。尾根

図 69　調査前平場全景（南から）

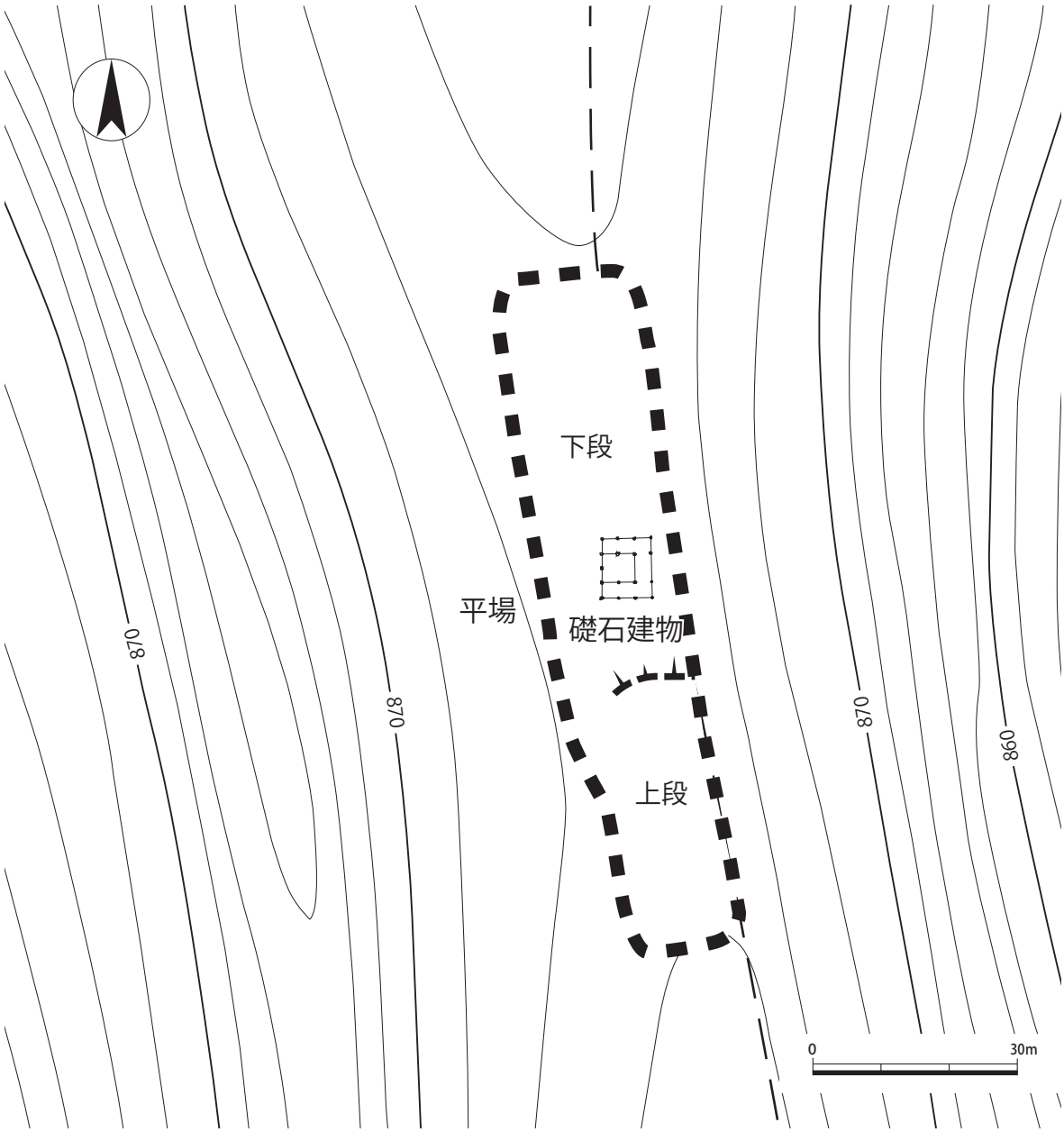


図 70　遺構位置図（1：1,000）

は歩測で幅約 20m，長さ約 100m あり，地形を利用して南北方向に上下２段の平場を形成している（図 70）。南側の平場が約 0.3m 高く，長さ約 40m，北側が約 60m で，礎石建物は北側の下段の平場に位置している。平場の東側は急斜面の崖となるため，眺望良好で，樹木が無ければ眼下には平安京が立地する京都盆地北部が一望できる。西側は緩斜面の谷となっており，谷底は現在も湿地となっている。

礎石建物（図 71・72，巻頭図版）　表面の落葉を除去したところ，新たに東側に２列，北側にも２列の礎石を確認し，梁行３間，桁行４間の南北棟礎石建物であることが判明した。建物方位はほぼ真北を指向している。また，図示できていないが，建物西面及び南東部に石材が散布しており，基壇を伴う可能性がある。

礎石は，イ４が砂岩で，残りは全てチャートである。径 0.3 ～ 0.6m を測り，西側柱列及び建物

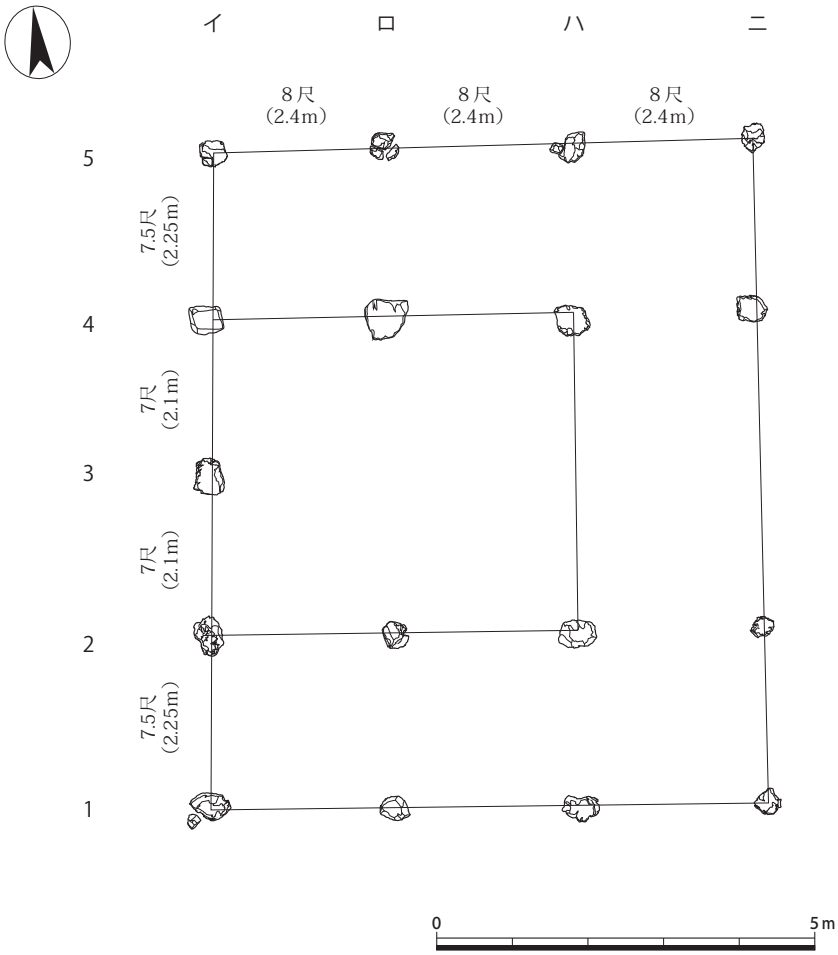


図 71　礎石建物平面図（1：100）

図 72　礎石建物全景（南西から）

図 73　遺物散布状況

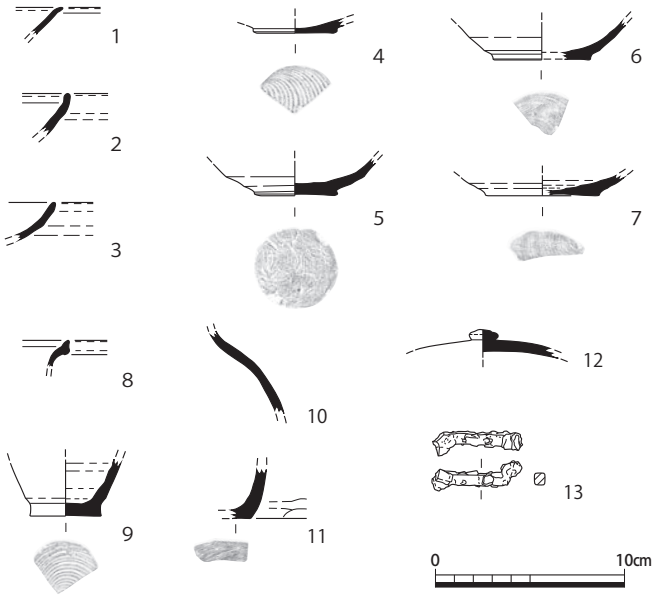


図 74　遺物実測図（1：4）

中央を構成する４石（ロハ２・４）が一回り大きい。

梁行の柱間は８尺（2.4m）等間で，桁行は中央２間が７尺（2.1m），両側が 7.5 尺（2.25m）となる。東面中央はピンポールで探ってみたが，東側３列（ロハニ３）に亘って礎石が存在しなかったことから，建物正面は東側となる。

３．遺物（図73・74）

礎石建物西側の緩斜面で採集した遺物を報告する（図 74）。遺物の種類は，土師器，須恵器，緑釉陶器，鉄製品で，平安時代前期に属するものである。

１は，緑釉陶器椀の口縁部である。端部は僅かに外反する。胎土は須恵質で，内外面ともに施釉されている。９世紀代に属する。２～ 12 は須恵器である。２は，杯 B の口縁部か。口縁部はやや内反し，端部は肥厚する。９世紀後半から 10 世紀前半に属する。３は，椀の口縁部である。端部はやや内反する。９世紀後半に属する。４～７は，椀の底部である。底径は，４・５が 4.4 ㎝，６が 5.2 ㎝，７は 6.0 ㎝である。いずれも底部外面には糸切痕が残る。９世紀後半に属する。8・９は壺 G である。８は口縁部，９は底部である。９の底径は 3.8 ㎝に復元できる。いずれも９世紀代に属する。10 は壺体部か。11 は壺底部である。外面に糸切痕が残る。12 は杯 B 蓋である。９世紀後半から 10 世紀前半に属するものである。13 は鉄製品で，長さ 5.7 ㎝が残る。

４．まとめ

今回，竜ヶ岳頂上直下の尾根上にて，これまで存在が知られていなかった平安時代前期の礎石建物跡を確認した。建物は，梁行３間，桁行４間の規模を持つ南北棟で，礎石の配置から，建物正面は東側で，中央又は西寄りの空間には仏像を安置する須弥壇の存在が想定でき，桁行東端の柱間を礼拝空間とする仏堂であったと判断できる。建物の東側は崖面となっており，樹木を除去

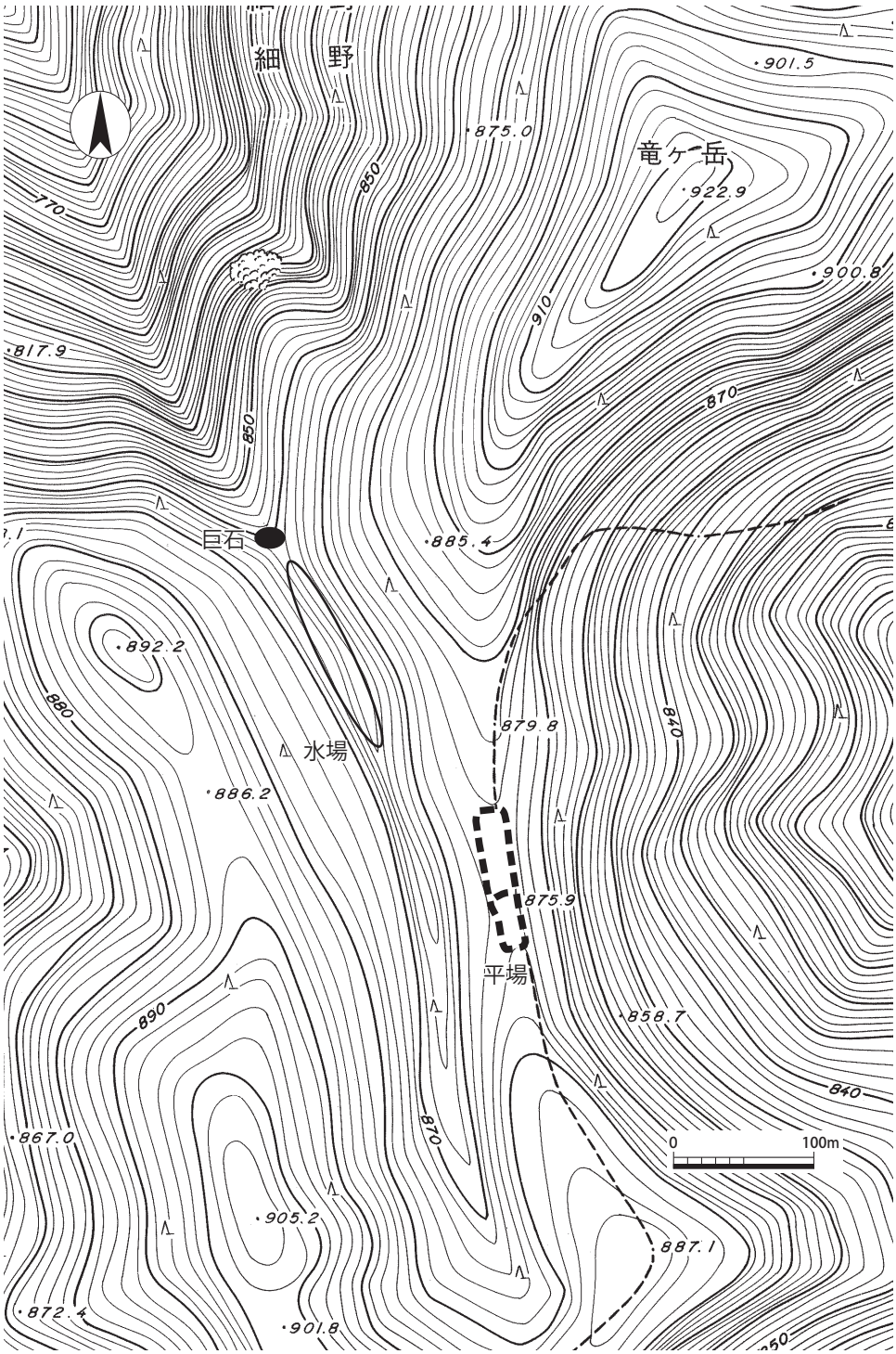


図 75　周辺遺構分布図（1：5,000）

すれば京都盆地北部は一望の下にあり，平安京の存在を強く意識した立地といえる。採集した遺物の年代も，9 世紀から 10 世紀前半を示しており，平安京遷都に合わせ，人里離れた山中に建立された山林寺院と考えられる。当該地は，尾根上に立地するものの，北側に竜ヶ岳山頂南側に小ピーク，西側は谷を挟み尾根が存在するため，風の影響を受けることは少ない。確認した建物は 1 棟であるが，立地する平場には数棟の建物が存在する余地もあり，複数の建物で構成されていた蓋然性は高い。さらに周辺には，遺構保護のために図示していないが，経塚を思わせる集石遺構も

図 76　水場推定地の巨石（北から）

確認している。

仏前への閼伽や継続的な寺院活動に必須である水の確保についても，礎石建物がある尾根西側の緩斜面の谷に求めることが出来る。谷は北側に流下する沢の源頭部にあたり，やや下流にある露出したチャートの巨石（図 75・76）が土砂を堰き止めることによって谷底の下刻を防いでおり，巨石より上流は緩やかな谷間を形成している。現在も谷底は湿地となっており，当時は飲み水の確保は容易であったと考えられる。さらに想像を豊かにすれば，頂上直下の標高の高い場所（標高 865m 付近）での水場の存在は，当時の人々にとって信仰の対象となったと想定され，山名に水と密接に関係する「龍（竜）」を冠する竜ヶ岳と名付けられたことも頷けよう。山林寺院の縁起や伝記に湧水に関する説話を載せることも多いこともこれを裏付ける[1)]。

今回確認した山林寺院の寺号については，宝永二年（1705）に刊行された『山城名勝志』に参考となる記述がある。巻九「白雲寺」の項に「縁起」によるとして，「大宝年間（701 ～ 704），役小角と雲遍上人（泰澄）が大勢の天狗に導かれ，朝日峯，大鷲峰，高雄山，龍上山，賀魔蔵山の五岳を開き，勅命により朝日峯（現在の愛宕神社所在地）に神廟を置いた」とある。その後，「天応元年（781），光仁天皇の勅命を受け，慶峻僧都が中興し，和気清麻呂が朝日峯に白雲寺，大鷲峰に月輪寺，高雄山に神願寺，龍上山に日輪寺，賀魔蔵山に伝法寺を建立し，山中に五千坊を営んだ」と記されている。このうち，白雲寺は明治時代当初の神仏分離令によって愛宕神社となり，神願寺は神護寺と名を改め，月輪寺とともに現在も法灯を伝えているものの，日輪寺，伝法寺は現存しない。今回発見した礎石建物は，龍上山の名を引き継ぐと思われる竜ヶ岳の頂上直下に位置しており，日輪寺跡である可能性は高い。

京都盆地の三方を囲む山々では，平安京遷都以降，延暦寺に代表される密教系山岳寺院が隆盛し，山中に数多くの寺院が建立されている。山林寺院は現在に法灯を伝えるものがある一方，災害，戦乱等で廃絶したものも多い。日輪寺跡と推定される今回の礎石建物についても，散布する遺物の年代観から遅くとも 10 世紀中頃には廃絶している。礎石には被熱の痕跡はなく，自然災害や檀越の支援が途絶し，衰退した可能性も考えられよう。

愛宕山系では，これまで複数の箇所で平安時代の遺物が散布する平場が確認されており，多数の坊舎が営まれていたことが明らかになりつつあるが[2)]，今回の調査箇所は，これまで調査されたことが無く，愛宕山系には未だ知られざる山岳寺院の痕跡が眠っている可能性は高い。愛宕山一帯は，山城と丹波の国境に位置し，平安京からは怨霊の類が侵入するとされた天門の方角にもあたることから，遷都以降，朝廷から重要視されたと考えられる。今後，踏査や測量を行うことによって，愛宕山一帯の山岳寺院の全容を明らかにしていきたい。

（西森　正晃）

註

1）清水寺では音羽水の湧出，室生寺では滝壷付近にある龍穴の存在が寺院の創立，発展において重要な契機となっている。

2）屋木秀雄ほか「京都・愛宕山中の遺跡―雲心寺跡の発見―」『佛教藝術』259号，2001年。
「愛宕山遺跡」『京都府中世城館跡調査報告書』第３冊―山城編１―，京都府教育委員会，2014年。

Ⅵ　調査一覧表

Ⅰ　2021年　１～３月期（令和二年度）

平安宮（HQ）

遺　跡　名	所　在　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
兵庫寮跡	上・仁和寺街道七本松西入上る一番町108-7，108-8	1/12	GL-0.3mまで盛土。	19K625	HQ476	1
大蔵省・図書寮・右近衛府・掃部寮・宴松原・内蔵寮・内膳司・真言院・中和院跡，聚楽遺跡，鳳瑞遺跡	上・千本通，今出川通～下立売通他地内	1/6，6/7～30，7/1～27，8/3，9/1～22	№8；GL-0.25mで暗灰黄色砂礫と地山ブロック混合層，-0.35～-1.15mで褐色粘土質シルトの地山。№9；GL-0.7～-1.45mで褐色砂の地山。№12；GL-0.35mで黄褐色砂礫の地山。№14；GL-0.7～-1.1mで黒褐色粗砂混粘土質シルト。	20K430	HQ468	1
大蔵省跡	上・西富仲町685～信濃町471 地先	2/1～8	GL-0.8mまで盛土。	20K539	HQ512	1
正親司跡	上・仁和寺街道七本松西入二番町190-1	2/19・22	GL-0.2mまで盛土。	20K618	HQ546	1
宴松原跡	上・六軒町下長者町下る七番町331他	1/29	GL-0.15mで黒褐色泥土，-0.35mで明黄褐色シルトの地山，-0.48mで明黄褐色砂礫。	20K634	HQ511	1
宴松原跡	上・七本松通下長者町下る三番町274-34	2/12	GL-0.2mまで盛土。	20K611	HQ536	1
宴松原跡，鳳瑞遺跡	上・下ノ森通下立売上る鳳瑞町 地先	2/15～24	GL-0.7mまで盛土。	20K664	HQ539	1
宴松原跡，鳳瑞遺跡	上・下ノ森通下立売上る鳳瑞町 地先	3/2・3	GL-0.9mまで盛土。	20K574	HQ567	1
掃部寮跡	上・六軒町通下長者町下る利生町地先	3/8・9・11・16・17	№3；GL-0.65～-0.8mで明黄褐色砂泥の地山。№4；GL-0.45～-0.75mで暗灰黄色泥砂の近世包含層。	20K663	HQ576	1
職御曹司跡，聚楽第跡	上・出水通智恵光院西入田村備前町212-4	1/13	GL-0.44mまで盛土。	20K585	HQ481	1
内膳司跡	上・尼ヶ崎横町347-3～347 地先	2/26	巡回時掘削終了。	19K785	HQ562	1
右兵衛府跡，鳳瑞遺跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町384-2	3/4	GL-0.35mまで盛土。	20K724	HQ570	1
中和院跡	上・下立売通千本西入稲葉町 地先	2/12	巡回時掘削終了。	20K595	HQ535	1
中和院跡，聚楽遺跡	上・千本通出水下る十四軒町413-25	2/26	GL-0.25mまで盛土。	20K429	HQ561	1
西雅院・主水司・宮内省・式部省跡，左京三条一坊七・八町跡，聚楽遺跡，二条城北遺跡	上・下丸屋町～中・西ノ京職司町 地内	20/8/3～21/2/10	№3；GL-1.0mで褐色礫混シルトの近世～近代包含層，-1.5～-1.9mで褐色礫混シルト。№4；GL-0.85mで褐色礫混シルト，-1.7mでオリーブ褐色粘土質シルト，-1.97～-2.1mで褐色粗砂混シルトの地山。	19K679	HQ202	1・2
民部省・廩院・式部省跡，左京三条一坊八町跡，史跡旧二条離宮（二条城），聚楽遺跡	中・二条通堀川西入二条城町	20/8/17，9/7・15・16・29，10/21，21/1/4・13・25，2/10	GL-0.42mで褐色泥砂，-0.6～-0.78mで褐色シルト。	1C116	HQ269	1・2
造酒司跡，鳳瑞遺跡	中・聚楽廻松下町 地先	1/19～28	GL-0.25mで灰黄褐色砂礫混砂質土，-0.45～-0.65mでにぶい黄橙色砂質土の地山。	20K616	HQ493	1
酒造司跡，鳳瑞遺跡	中・聚楽廻松下町 地先	2/4～19	GL-0.2mで灰黄褐色～黒褐色泥砂の時期不明包含層，-0.45～-0.8mで黒褐色シルトの地山。	20K666	HQ524	1
内匠寮跡・右兵衛府跡，鳳瑞遺跡	上・下立売通御前東入西東町 地先	1/19	GL-0.6mまで盛土。	19K784	HQ492	1
左馬寮・典薬寮・豊楽院・朝堂院跡，聚楽遺跡，史跡平安宮跡（内裏跡 朝堂院跡 豊楽院跡）	中・西ノ京左馬寮町～聚楽廻南町 地内	20/4/9～21/5/19	豊楽殿北廊に伴う基壇盛土を検出。**本報告６ページ。**	19K547	HQ014	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町9-10	1/25	GL-0.13～-0.32mで明黄褐色シルトの地山を切って暗褐色シルトの時期不明溝。	20K550	HQ504	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町50-3，50-5の一部	3/5	GL-0.35mまで盛土。	20K723	HQ575	1
豊楽院跡	中・西ノ京内畑町22-13	3/9	GL-0.35mまで盛土。	20K688	HQ582	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町51-7	3/16	GL-0.35mまで盛土。	20K531	HQ593	1
民部省跡，聚楽遺跡	上・美福通竹屋町下る主税町 地先	2/8～22	巡回時掘削終了。	20K685	HQ526	1
民部省跡，聚楽遺跡	上・美福通竹屋町下る主税町 地先	2/8～22	GL-0.5mで灰褐色砂質土。	20K686	HQ527	1
民部省跡，聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町910	2/15・16・17	GL-0.14～-0.48mでにぶい黄色シルト（固く締まる）の近世包含層。	20K562	HQ540	1
式部省跡	中・聚楽廻南町31-5，31-6の各一部	3/8	GL-0.15mまで盛土。	20K693	HQ577	1

平安京左京(HL)

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊三町跡	上・葭屋町通中立売下る北俵町317	2/17～3/25	GL-0.5～-0.65mで明黄褐色シルト。	20H394	HL 544	2
一条二坊十一・十二町，二条二坊九・十・十一・十二町跡，高陽院跡，二条城北遺跡，堀川御池遺跡	上・中・東堀川通，下立売通～二条通 地内	20/5/18～21/7/1	GL-1.52～-2.24mで黄褐色砂礫。	19H726	HL 077	2
一条三坊十三・十四・一六町，四坊十三町・十六町，二条三坊十六町，四坊九町跡，公家町遺跡，新在家構え跡，旧二条城跡，烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	2/15～3/4	№1；GL-0.2mで灰黄褐色泥砂（炭化物含），-0.35mでにぶい黄褐色泥砂，-0.5～-0.6mでにぶい黄褐色泥砂。№2；GL-0.25mでにぶい黄褐色粘質土（漆喰含），-0.4～-0.5mで暗褐色粘質土の近世後半包含層。№7；GL-0.2mで黒褐色砂質土（固く締まる），-0.26mで灰黄褐色粗砂，-0.33mで黄褐色砂質土，-0.41～-0.68mで黒褐色砂質土。	20H669	HL 541	3・17-3
二条二坊十三町跡	中・西洞院通夷川下る薬師町652-19他	2/22・24	GL-0.65mまで盛土。	20H638	HL 550	2
二条二坊十五町跡，高陽院跡	中・西洞院通丸太町下る田中町123，123-2，125	1/6	GL-5.7mまで既存基礎。	20H342	HL 467	2
二条三坊十二町跡	中・夷川通室町東入巴町87-1，87-2，烏丸通二条上る蒔絵屋町256-1・2・3	20/12/24，21/1/7・14	GL-1.76mまで盛土。	20H277	HL 463	3
二条三坊十五町跡，烏丸丸太町遺跡	中・竹屋町通烏丸東入清水町382-1	2/16	GL-0.63mまで盛土。	20H642	HL 543	3
二条四坊一町跡，公家町遺跡，烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	2/1～24	GL-0.19mで浅黄色泥砂（固く締まる）の複数時期不明路面，-0.32mで明黄褐色泥砂（固く締まる）。	20H658	HL 513	3
二条四坊五町跡，烏丸丸太町遺跡	中・柳馬場通二条上る六町目269	3/30	GL-0.73mでオリーブ褐色粘質土，-1.19～-2.39mで明黄褐色砂礫の地山。	20H349	HL 615	
二条四坊七町跡，烏丸丸太町遺跡，京都新城跡	中・堺町通竹屋町上る橘町81の一部	2/17・18・19・22	縄文の包含層，平安後期土坑，室町包含層，江戸土坑等を検出。**本報告14ページ。**	20H564	HL 545	3
三条一坊十二町跡	中・西ノ京池ノ内町29-11，29-54の一部	1/20	GL-0.42mまで盛土。	20H534	HL 495	2
三条二坊十三・十四・十五町，三坊三・四町跡，妙顕寺城跡	中・小川通御池上る下古城町398～西洞院通三条上る釜座町1 地先	1/21～6/4	GL-1.4mまで盛土。	20H542	HL 501	2・3
三条三坊十二町跡，烏丸御池遺跡	中・室町通三条上る役行者町358	1/7・8	GL-1.38mまで盛土。	20H458	HL 471	3
三条四坊八町跡，等持寺跡	中・等持寺町31，35	1/21・22・27，2/4・17	GL-1.6mで暗黄褐色シルトの地山を切ってオリーブ褐色泥砂（炭化物混）の鎌倉ピット。	20H435	HL 500	3
三条四坊十町跡，烏丸御池遺跡	中・富小路通御池上る守山町172	2/1・4	GL-1.30mで黄灰色泥砂（大礫多量混），-1.68mでにぶい黄色微砂の地山を切って暗灰黄色泥砂の中世土坑，-2.26mで灰黄色砂礫，-2.72mで黄褐色砂礫，-2.95mで黒褐色礫，-3.04～-3.96mで灰色砂礫。	20H317	HL 514	3
三条四坊十三町跡	中・御幸町通姉小路下る丸屋町325他	1/20～2/5	GL-3.1mまで盛土。	18H218	HL 496	3
四条一坊一・七・十一・十三町跡	中・壬生朱雀町25-3～大宮西入錦大宮町116-0 地先	1/29～6/16	巡回時掘削終了。	20H565	HL 507	4
四条一坊十一・十四町跡	中・壬生坊城町57-1	1/18，3/12	GL-0.84mまで盛土。	20H347	HL 490	4
五条二坊九町跡，本禅寺の構え跡	下・油小路通四条下る石井筒町519	3/10・15，4/26	GL-1.40mで明黄褐色シルト（泥砂混）の室町包含層（土師器皿），-1.57mで黄褐色シルト（礫含）の平安後期の包含層を切って平安後期の井戸（掘方＝灰褐色泥砂，埋土＝灰白色泥砂，土師器・陶器・磁器），-1.66mで暗灰黄色泥砂，-1.80～-2.85mで黄褐色シルト～砂礫の地山。	20H506	HL 584	4
五条三坊十四町跡，烏丸綾小路遺跡	下・烏丸通仏光寺下る大政所町678-4，678-14	1/5・6・12・14	№1；GL-1.49mで黒色砂質土の時期不明包含層，-1.76mで明黄褐色細砂の地山，-2.1mで褐灰色砂礫，-2.48mで褐灰色泥砂。№2；GL-1.76mで黒褐色泥砂の近世包含層，-1.93mでオリーブ褐色シルト，-2.09mで暗灰黄色泥砂。	20H460	HL 466	5
五条三坊十五町跡，烏丸綾小路遺跡	下・東洞院通綾小路下る扇酒屋町275-1	3/29・30	GL-2.05mまで盛土。	20H637	HL 596	5

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
六条三坊七町跡，烏丸綾小路遺跡	下・五条通新町東入東錺野屋町160-2，160，162，164，165	1/14	GL-0.64mまで盛土。	20H456	HL 484	5
六条三坊十五町跡	下・玉屋町516，518-1	1/29，2/2	GL-2.02mで暗灰黄色泥土，-2.18mで黒褐色泥土，-2.3～-2.88mで浅黄色砂礫の地山を切って暗灰黄色砂泥の時期不明土坑。	20H586	HL 508	5
六条四坊十町跡	下・富小路通五条上る本神明町411	2/9・24・26	GL-0.55mまで盛土。	20H546	HL 530	5
七条一坊二町跡，堂ノ口町遺跡	下・揚屋町38-2他	2/3	GL-0.4mまで盛土。	20H486	HL 519	6
七条二坊八町跡，本國寺城跡	下・柿本町	3/29	巡回時掘削終了。	20H793	HL 614	6
七条二坊十四町跡	下・正面通西洞院通西入植松町344-1他	1/15	GL-0.28mまで盛土。	20H434	HL 487	6
七条三坊一町跡	下・新町六条下る艮町858	3/17・19・22・25・26・29・30	GL-1.04mで暗灰黄色泥砂，-1.14～-1.42mで灰オリーブ色泥砂の時期不明包含層（土師器，磁器）。	20H765	HL 588	7
七条三坊十二町跡，東本願寺前古墓群	下・烏丸通七条上る常葉町	3/24・25	巡回時掘削終了。	20H792	HL 606	7
八条一坊十四町跡	下・八条坊門町他 地内	2/4・10	GL-0.65mまで盛土。	20H498	HL 523	6
八条四坊七町跡	下・上之町地内	1/19・25	GL-0.68～-0.82mで褐灰色粗砂。現況道路盛土？。	20H428	HL 494	7
九条二坊四町跡	南・西九条南小路町 1	1/27・28	GL-0.62mでオリーブ褐色泥砂（炭化物含），-0.72～-0.81mで暗褐色泥砂。	20H442	HL 506	6
九条四坊二町跡，烏丸町遺跡	南・東九条東山王町27（元山王小学校）	2/5・9・15・16・18・24	GL-0.5mまで盛土。	20H606	HL 525	7
九条四坊十三・十五町跡，烏丸町遺跡，九条河原城跡	南・東九条東岩本町34-5～東九条河西町15 地先	3/26，7/19・9/24・27	GL-0.9～-1.25mで灰白色砂礫。	20H651	HL 610	7

平安京右京(HR)

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
北辺四坊五・八町跡	右・谷口圓成寺町～谷口園町 地先	20/11/2～21/1/13	№1；GL-0.35mで灰色礫混粘質土の地山，-0.9～-1.5mで橙色礫混粘質土。№7；GL-0.28mで黄褐色泥砂，-0.38mで明黄褐色泥砂，-0.48mでにぶい黄橙色泥砂，-0.62～-1.0mで黄橙色泥砂（礫混）の地山。	20H450	HR 365	8
一条二坊十五・十六町跡，御土居跡	中・西ノ京中保町1-4（市立北野中学校）	2/3～3/1	GL-1.0～-1.2mで灰黄褐色粘質土。	20H577	HR 520	9
一条四坊二町跡	右・花園木辻北町1-1他，花園妙心寺町1-5他	1/12・13，8/23	GL-0.64mで黒褐色泥砂，-0.7～-1.1mで黄褐色シルト（礫混）の地山を切って黒褐色泥砂の中世落込と黒褐色泥砂の時期不明ピット。	19H470	HR 475	8
三条三坊十五町跡，西ノ京遺跡	中・西ノ京月輪町28-3	2/3	GL-1.45～-1.83mで明黄褐色粘土の地山。	20H675	HR 521	8
四条一坊三町跡	中・壬生御所ノ内町～壬生花井町 地先	3/18～5/7	GL-1.25mまで盛土。	20H742	HR 590	11
四条一坊十六町跡	中・壬生中川町11-12，11-15	3/11	GL-0.52～-0.68mで赤褐色砂礫の地山。	20H699	HR 585	11
四条二坊十二・十三・十四町，三坊一・二・三・四・五・八・九・十六町跡，西ノ京遺跡，西院城跡（小泉城）	右・山ノ内養老町～西院東淳和院町地内	20/5/12～21/5/27	GL-0.45mで青灰色粘質土，-0.6mで明黄褐色砂礫，-1.0～-1.2mで灰オリーブ色粘質土。道祖川の氾濫堆積の可能性。	19H738	HR 064	10・11
四条二坊十二町跡，壬生遺跡	右・西院高山町18-1地先	3/8	GL-1.0mまで盛土。	20H408	HR 579	11
五条二坊一町，六条一坊八町，四坊十六町，八条四坊十五町跡	中・壬生松原町他 地内	20/9/28・30，10/2・5・7，21/12/23	GL-0.77mで灰黄褐色シルトの地山，-0.93mで明黄褐色シルト，-1.09mで灰黄色シルト，-1.25mで明黄褐色砂質土，-1.46～-1.53mでにぶい黄色粘質土。	20H038	HR 301	10・11・12
五条二坊十五町跡	右・西院北矢掛町39-2の一部，39-24，39-25，39-16，39-23，39-1の一部	3/8・11・12	GL-0.62mで旧耕作土，-0.8mで灰黄褐色泥砂の道祖川埋土，-0.95mで褐灰色シルトの道祖川埋土，-1.05mで黒褐色シルトの中世道祖川埋土，-1.3mで暗灰黄色シルト（微砂混）の道祖川埋土，-1.51mで黄橙色シルトの地山。	20H171	HR 578	11

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
五条三坊六町跡	右・西院久田町， 西院北井御料町 地内	1/14，3/16	GL-0.43mで暗灰黄色泥土，-0.7mで緑灰色泥土の旧耕作土，-0.89mで明黄褐色シルトの地山を切ってにぶい黄褐色シルトの古墳土坑（土師器）。	19H611	HR 483	10
六条一坊三・四町跡， 御土居跡	下・中堂寺南町130 地先	1/27	GL-1.25mまで盛土。	20H646	HR 505	11
六条二坊一・八町跡	中・壬生東高田町1-20．1-15	20/11/12， 12/15， 21/4/22・ 23，9/1～6	GL-0.47mでにぶい黄褐色礫混砂質シルト，-0.72mで褐色礫混じり粘土質シルト，-0.93mで黄褐色砂礫，-1.06mで褐色微砂混粘土質シルトの地山を切って褐灰色礫混粘土質シルトの時期不明土坑。	17H467	HR 392	11
七条四坊十六町跡	右・西京極堤町18の一部	2/19	GL-0.4mまで盛土。	20H551	HR 547	12
九条一坊十三町跡， 西寺跡，唐橋遺跡， 史跡西寺跡	南・唐橋西寺町11	1/13・27・ 28	GL-1.38mまで盛土。	2C076	HR 482	13
九条二坊三町跡， 唐橋遺跡， 史跡西寺跡	南・唐橋西寺町36-2 地先	2/24，3/1	GL-0.4～-1.0mで灰黄褐色砂礫（泥砂混）。	2C094	HR 557	13

太秦地区（UZ）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨遺跡	右・嵯峨釈迦堂藤ノ木町15-1	3/4	GL-0.14mで明黄褐色シルト（礫混），-0.29～-0.38mで黄褐色砂礫の地山。	20S614	UZ 571	25-1
仁和寺院家跡	右・宇多野福王子町1-11，1-16	2/1	GL-0.24mでにぶい黄褐色泥砂，-0.46mでにぶい黄橙色泥砂の時期不明包含層，-0.68～-0.75mで橙色シルトの地山。	20S632	UZ 515	21
仁和寺院家跡	右・宇多野御池町15-1の一部，15-5	3/29	GL-0.35mまで盛土。	20S645	UZ 613	21
井戸ケ尻遺跡	右・太秦井戸ケ尻町14-10の一部	2/22	GL-0.3mまで盛土。	20S650	UZ 549	21

洛北地区（RH）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
角社瓦窯跡	北・西賀茂角社町50-1の一部	2/24	GL-0.3mまで盛土。	20S682	RH 556	17-1
史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）	左・下鴨泉川町59	20/12/8～ 21/1/5	GL-0.2～-0.3mで暗褐色泥砂の近世盛土。	2N069	RH 429	17-2
本山古墳群	北・上賀茂本山 地先	2/15・16	巡回時掘削終了。	20S643	RH 538	26-6
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-23	1/13	GL-0.29mまで盛土。	20S543	RH 479	26-6
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-22	1/14	GL-0.47mまで盛土。	20S537	RH 485	26-6
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-28	2/26	GL±0.0～-0.35mで明黄褐色岩盤。	20S517	RH 559	26-6
植物園北遺跡	北・上賀茂池端町22-9	2/12	GL-0.55mでにぶい黄橙色シルトの地山。	20S652	RH 537	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町5-1	3/26	GL-0.3mまで耕土。	20S752	RH 609	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨神殿町18-6，7，8	1/25	GL-0.48m～-0.56mでにぶい黄褐色泥砂。	20S526	RH 503	24-1
御土居跡	北・鷹峯旧土居町1-128，129，152	1/6	GL-0.31～-0.61mで明褐色粘質土の地山。	20S437	RH 469	16-1
御土居跡	北・鷹峯旧土居町4-3	3/3・4	GL-0.75mまで盛土。	20S570	RH 568	16-3
御土居跡	北・大宮西脇台町17-1，紫竹北栗栖町1	20/8/5～ 21/2/3	№4；GL-0.35mで黒色粘質土の地山。№8；GL-0.67mで黄褐色細砂混シルト（締り良）。№9；GL-1.61mまで盛土。№8と№9の間に御土居の堀北肩を推定。	20S164	RH 216	16-2
御土居跡	北・紫野西土居町1-23	3/5	GL-0.15mで明黒褐色粘質土，-0.39mで黄橙色シルト，-0.51mで明黄褐色粘質土，-0.61mで灰黄褐色シルトの，-0.89mでにぶい黄褐色泥砂。-0.39m以下は御土居構築土？。	20S447	RH 574	16-3
西北町遺跡	北・紫竹西北町1-3（市立待鳳小学校）	2/16，3/3	GL-0.9mまで盛土。	20S554	RH 560	16-2
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町53	3/23	巡回時掘削終了。	20S791	RH 602	16-3
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町20の一部	3/23	GL-0.2mまで盛土。	20S602	RH 603	16-3
衣笠氷室町遺跡	北・氷室道，蓮華谷ポンプ場～鏡石通 地内	20/5/25～ 21/1/7	GL-0.8～-0.92mで黄褐色粗砂。	19S821	RH 086	16-3・ 25-2
北野鳥居前町遺跡隣接地	上・御前通今出川上る鳥居前町671（市立翔鸞幼稚園）	2/10・12・ 16・18	GL-0.6～-1.0mで黒褐色泥砂，-1.4～-1.42mで明黄褐色シルトの地山を切って中世土坑。	20S571	RH 533	16-3

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
上京遺跡	上・新町通今出川下る徳大寺殿町345	20/8/27・21/12/13	GL-1.26mで灰黄褐色粗砂混シルト（炭含）の時期不明包含層を切って暗褐色粗砂混シルト（拳大礫含）の室町土坑（土師器），-1.55～-1.62mでオリーブ褐色粘土質シルト。	19S778	RH 253	17-3
上京遺跡	上・上立売小川東入上小川町107-1他（小川公園)	20/9/18・23，12/4・24・28，21/10/21	№2；GL-0.55mでにぶい黄褐色砂泥（焼土，炭含），-0.73～-0.83mで褐色砂泥の近世包含層（土師器）。№5；GL-0.82～-1.05mでにぶい黄褐色砂泥の中世包含層（土師器）。	20S324	RH 293	17-3
上京遺跡	上・鞘屋町499-11，499-32	1/15	GL-0.78mまで盛土。	20S422	RH 486	17-3
上京遺跡，寺ノ内旧域	上・新町通寺之内上る三丁目大心院町17，18	20/12/18～21/1/22	GL-0.51mで暗褐色シルト，-0.75mでにぶい黄褐色シルトの地山，-1.16mでにぶい黄褐色砂礫。	20S559	RH 454	17-3
上京遺跡，寺ノ内旧域	上・下清蔵口町124-1	3/15・17・23・24・29	GL-1.81mで黒褐色泥砂（中礫混），-1.99mでオリーブ褐色粗砂の地山，-2.12～-2.29mでにぶい黄色細砂。	20S660	RH 587	17-3
上御霊遺跡，相国寺旧境内	上・烏丸通上立売上る相国寺門前町647-23	2/22，3/1・5	GL-0.75～-0.95mでにぶい黄褐色泥砂。	20S547	RH 548	17-3
室町殿跡（花の御所）	上・烏丸通今出川上る岡松町255	2/22	巡回時掘削終了。	20S702	RH 551	17-3
室町殿跡（花の御所）	上・烏丸通今出川上る岡松町255	2/22，3/17	GL-0.35mまで盛土。	20S703	RH 552	17-3
聚楽第跡，上京遺跡	上・鏡石町地内	3/24	GL-0.9～-1.4mで暗灰黄色泥砂。	20S708	RH 607	16-3

北白川地区（KS）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
小野瓦窯跡	左・上高野尾保地町 地先	2/20	GL-0.6mで黄褐色シルトの地山。	20A012	KS 555	27-1
池田町古墳群	左・北白川上池田町8-5，6，7	3/1	GL-0.37～-0.5mでにぶい黄褐色粗砂。	20S600	KS 564	22
吉田神社境内，吉田山遺跡	左・吉田神楽岡町30-1	20/11/16～21/10/22	№2；GL-0.45～-0.58mで淡黄色砂泥。№6；GL-0.05mで黄褐色砂質土の時期不明整地層，-0.15～-0.3mで明黄褐色シルト（固く締まる）の時期不明整地層。	20S469	KS 396	22
白河街区跡，史跡聖護院旧仮皇居	左・聖護院中町15	20/12/14，21/9/17	巡回時掘削終了。	2N067	KS 444	22
白河街区跡	左・吉田下大路町	3/1・3・4・9	GL-0.30mで黒褐色細砂の時期不明包含層，-0.40～-0.45mで明黄褐色粗砂。	20S591	KS 563	22
白河街区跡	左・岡崎入江町～聖護院円頓美町 地先	20/11/2～21/4/26	GL-0.45mまで盛土。	20S441	KS 366	22
白河北殿跡，尊勝寺跡，得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・丸太町通～琵琶湖疏水，川端通～桜馬場通地内	1/8～11/8	№4；GL-0.3mで黒褐色泥砂，-0.6m～-1.3mで明黄褐色粗砂の地山。№8；GL-0.29mで黒褐色砂泥（炭化物含），-0.52～-0.71mまで暗褐色砂泥の中世包含層。№15；GL-0.4mでにぶい黄褐色泥砂の中世包含層，-0.6mで灰白色粗砂～細砂の地山を切って暗褐色泥砂の鎌倉井戸（土師器）。	19R427	KS 473	22
白河北殿跡，白河街区跡	左・聖護院川原町12-7	3/18・22	GL-0.6mまで盛土。	20R398	KS 589	22
延勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎成勝寺町 地内	1/18	GL-2.2mまで盛土。現在の石垣裏込。	20R552	KS 489	22
法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎天王町 地先	3/1	GL-1.45mまで盛土。	20R695	KS 566	22
法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町岡崎公園内（京都市動物園）	3/1	GL-0.4mまで盛土。	20R731	KS 565	22
法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町（京都市動物園）	20/11/9～21/1/13	GL-0.5mで灰黄褐色泥砂の平安包含層。	19R005	KS 385	22

洛東地区（RT）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
建仁寺境内	東・東大路安井北門下る小松町～毘沙門町 地先	20/12/14～21/1/5	GL-0.5～-0.85mでにぶい黄褐色粘質土。	20S330	RT 445	23
名勝円山公園	東・祇園町北側 地先	3/26・29	巡回時掘削終了。	2C119	RT 611	23
名勝円山公園	東・円山町他	1/20～5/19	GL-0.4mまで盛土。	2N087	RT 497	23

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
名勝円山公園，八坂神社	東・円山町他	1/20～6/8	GL-0.29～-0.64mでにぶい黄褐色泥砂（固く締まる）。	2N092	RT 498	23
寺町旧域	下・四条通寺町東入御旅町35	3/16，9/17，10/12	№2；GL-1.54mで黒褐色粘質土，-1.97～-6.0mで灰白色砂礫の地山。№3；GL-0.7mで黒褐色砂礫の近代焼瓦層，-1.3mで黒褐色礫混シルトの近世包含層（中世土師器混入），-1.55～-1.95mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層。	19S812	RT 594	23
高台寺境内（雲居寺跡）	東・下河原町526-2	3/22	巡回時掘削終了。	20S782	RT 598	23
祥雲寺跡，法住寺殿跡	東・塩小路通大和大路東入東瓦町964	3/22	巡回時掘削終了。	20S784	RT 597	23
鳥部（辺）野	東・粟田口高台寺山町 高台寺山国有林	20/12/16，21/1/4	清水山山頂で中世墓と考えられる遺構を検出。**本報告45ページ。**	20S459	RT 450	23
鳥部（辺）野	東・泉涌寺山内町27	3/24	巡回時掘削終了。	20S790	RT 601	27-6
旭山古墳群	山・上花山旭山町19-3	2/2	GL-0.77mまで盛土。	20S220	RT 518	27-8
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り町657	3/22	巡回時掘削終了。	20S783	RT 599	23
法住寺殿跡， 六波羅政庁跡	東・茶屋町527	1/13～10/6	GL-0.59～-0.75mで橙色泥砂（地山ブロック混）の時期不明造成土。	20S579	RT 480	23
法性寺跡	東・本町十五丁目778	3/23	巡回時掘削終了。	20S789	RT 600	27-6
法性寺跡，今村城跡	東・本町十一丁目～泉涌寺雀ヶ森町 地先	1/8～2/18	GL-1.6mまで盛土。	20S596	RT 472	23
法性寺跡	東・本町十一丁目718	2/3・8，3/8	GL±0.0mで黒褐色シルト混粗砂，-0.1mで褐色シルト礫混粗砂，-0.25mで淡黄色粗砂混シルト，-0.46mで灰白色シルト（黒褐色シルト混），-0.86mで褐灰色粗砂（礫多量混）。全て瀧尾神社本殿の江戸後期基壇基礎。	20S253	RT 522	23
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-54，32-85	3/25	GL-0.39mまで盛土。	20S648	RT 608	28-2
元屋敷廃寺	山・大塚森町～大宅御所田町 地内	20/6/15～21/2/8	№2；GL-0.6mで灰黄褐色泥砂，-0.68～-0.75mで灰黄褐色粗砂混泥砂。№5；GL-0.6mで褐色泥砂，-0.7mで暗褐色シルト，-0.84～-1.04mでにぶい黄褐色泥砂（礫混）。№10；GL-0.8～-1.0mでにぶい黄褐色粘質土。	19S680	RT 126	28-3
中臣遺跡	山・東野森野町45-2，46，-2，-3，-4	20/11/24～21/10/21	GL-0.32mまで盛土。	20N160	RT 405	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町97-77	2/9・12	GL-0.35mまで盛土　。	20N622	RT 528	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町97-77	2/9・12	GL-0.3mまで盛土。	20N621	RT 529	25-3
中臣遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-13（11号地）	3/11	GL-0.17mまで盛土。	20N725	RT 586	25-3
大宅廃寺，大宅遺跡	山・大宅山田106-3他	1/20・21	巡回時掘削終了。	20S601	RT 499	28-4
大宅廃寺瓦窯跡	山・大宅向山14-1，14-2，14-3	20/12/7～21/2/5	試掘調査で検出した瓦窯に伴う灰原を検出。**本報告42ページ。**	20S163	RT 422	28-4
史跡隨心院境内	山・小野御霊町50-1，50-2，50-3	1/18～25	江戸後半～近代の土塀断面を検出。**本報告48ページ。**	02N099	RT 491	26-1

伏見・醍醐地区（FD）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
深草坊町遺跡，深草寺跡，貞観寺跡	伏・深草西伊達町1-4（市立深草中学校）	3/29，10/21	GL-0.84mで灰黄色粗砂，-1.0～-1.1mで暗灰黄色シルト。	20S681	FD 612	28-5
法界寺旧境内	伏・日野畑出町3	1/12	GL-0.16～-0.61mで明褐色粘質土（砂礫混）の地山。	20S485	FD 477	28-6
法界寺旧境内	伏・日野西大道町21	3/10～30	GL-0.4mで灰黄褐色砂泥（小礫混），-0.73mでにぶい黄褐色砂泥，-1.0mで明黄褐色シルトの地山，-1.44～-1.83mで灰黄褐色砂礫。	20S471	FD 583	28-6
伏見城跡	伏・桃山町正宗～深草大亀谷大山町 地内	20/8/24～21/6/16	GL-0.25mで灰白色粘土の地山，-0.70～-1.15mで暗青灰色粘土。	20F071	FD 245	15
伏見城跡	伏・村上町369	1/8・12，2/2	GL-0.56～-0.92mで黒褐色泥砂の近世包含層。	20F389	FD 474	14
伏見城跡	伏・両替町十二丁目208-1	1/13・14・15，3/1	GL-0.67mで明褐色シルト，-0.79mで黒褐色シルトの地山，-0.9mで明黄褐色粘質土，-1.09mでにぶい黄橙色粗砂，-1.25mでにぶい黄橙色砂礫。	20F448	FD 478	14
伏見城跡	伏・桃山町遠山18-10	1/15	GL-0.78mまで盛土。	20F484	FD 488	15
伏見城跡	伏・東組町692，693の各一部	1/29	GL-0.30mまで盛土。	20F569	FD 509	14
伏見城跡	伏・桃山町下野29-3	2/2	GL-0.15mまで盛土。	20F578	FD 517	14・15
伏見城跡	伏・南部町85-1	2/22	GL-2.4mまで盛土。	19F182	FD 553	14
伏見城跡，板橋廃寺	伏・御駕籠町97（市立伏見中学校）	3/8	GL-0.1mまで盛土。	20F599	FD 580	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町416-3，416-4	3/8	GL-0.2mまで盛土。	20F751	FD 581	15

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山町西尾～深草大亀谷大山町	1/29，2/19・25，3/10・19，7/20，12/14	№３：GL-0.55mで灰白色砂礫の地山，-0.82mで浅黄色砂礫，-1.35mで灰白色砂礫。№４；GL-0.44mで褐色泥砂の時期不明造成土，-1.35mで橙色粘質土（小礫混）の地山，-1.59～-2.25mで明黄褐色砂泥（小礫混，固く締まる）。	16F293	FD 510	14
伏見城跡	伏・桃山町島津58-24	3/22・23，5/11	GL-0.25mで灰黄褐色泥砂，-0.48～-1.05mで明褐色泥砂（粘性，小礫含）の地山。	20F710	FD 595	14・15
伏見城跡，指月城跡	伏・桃山町泰長老	2/1	写真撮影のみ。	20F525	FD 516	14・15

鳥羽地区（TB）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
下鳥羽遺跡	伏・竹田松林町63，64，65	1/7・14	GL-1.32mまで盛土。	20S407	TB 470	24-2
鳥羽離宮跡，史跡鳥羽殿跡	伏・中島御所ノ内町12	1/22・27	GL-0.7mまで盛土。	2N097	TB 502	24-2
淀城跡	伏・淀新町124-20（19号地）	2/22・24	GL-0.3mまで盛土。	20S647	TB 554	20
淀城跡	伏・淀新町124-19	3/3	GL-0.5mまで盛土。	20S676	TB 569	20
淀城跡	伏・淀新町124-23	20/10/27～21/12/15	巡回時掘削終了。	20S452	TB 354	20
淀城跡	伏・淀木津町194-1（A号地）	3/24	GL-0.15mまで盛土。	20S619	TB 604	20
淀城跡	伏・淀木津町194-1（B号地）	3/24・25	GL-0.2mまで盛土。	20S620	TB 605	20

長岡京地区（NG）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
左京二条三坊十五町跡，東土川遺跡	南・久世東土川町400-1（桂川PA上り線）	20/12/3，21/10/6	GL-1.2mまで盛土。	20NG004	NG 419	19
左京二条四坊三・六・七町跡，東土川遺跡	南・久世東土川町468-1（桂川PA下り線）	20/12/2，21/10/6	GL-2.0mまで盛土。	20NG005	NG 418	19
左京二条四坊五町跡	伏・久我西出町1-9，1-10，1-11，1-12，1-13	20/8/18～21/10/6	GL-0.62～-1.22mで旧耕作土。	20NG084	NG 237	19
左京二条四坊五・十二町跡	伏・久我西出町1-7，1-8，1-41，1-44	2/25	GL-0.53mまで盛土。	20NG043	NG 558	19
左京三条四坊七・十・十五町跡	伏・久我西出町 地先	2/15，7/20	巡回時掘削終了。	20NG518	NG 542	19
左京三条四坊十二・十三町跡	伏・久我西出町13-17，13-18	20/12/14，21/7/20	GL-0.08～-0.39mでオリーブ褐色シルト。	20NG271	NG 446	19
右京一条四坊十町跡，石見城跡	西・大原野石見町330他	20/5/29，21/3/22	石見城跡のレーザ測量実施。遺跡周辺を踏査。次年度以降，継続調査。	20A012	NG 616	28-8

南桂川地区（MK）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
福西古墳群	西・大枝北福西町1-3	3/4	GL-0.45mまで盛土。	20S492	MK572	29-3
福西古墳群	西・大枝東長町1-720（16号地）	3/22	GL-0.4mまで盛土。	20S706	MK591	29-3
福西古墳群	西・大枝東長町1-719（15号地）	3/22	GL-0.56mまで盛土。	20S707	MK592	29-3
山田桜谷古墳群	西・山田桜谷町，下山田園尾町	2/22，3/4	山田桜谷古墳群１・２号墳のレーザー測量調査。**本報告50ページ。**	20A011	MK573	29-2
上久世遺跡	南・久世上久世町143-1の一部	2/10・12	№１；GL-0.1mで明黄褐色砂質土，-0.2～-0.41mで黒色シルトの弥生～古墳包含層。№２；GL-0.09mでにぶい黄褐色シルトの弥生～古墳包含層，-0.2mで灰黄色泥砂の地山，-0.68～-0.93mでにぶい黄色砂礫。	20S615	MK534	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町五丁目56-1，56-2の各一部	2/9	GL-0.36mまで盛土。	20S566	MK531	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町五丁目56-1，56-2の各一部	2/9	GL-0.3mまで盛土。	20S589	MK532	18-3

Ⅱ　2021年　４～12月期(令和３年度)

平安宮(HQ)

遺　跡　名	所　在　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・仁和寺街道七本松東入白竹町189-6	4/5，5/6	GL-1.24～-1.63mで黄褐色砂礫の地山。	20K608	HQ015	1
大蔵省，聚楽第跡	上・裏門通一条下る今新在家町204の一部	12/23	GL-0.2mまで盛土。	21K564	HQ433	1
大蔵省跡	上・千本通一条下る東石橋町26の一部，30-5の一部，浄福寺通一条下る東西俵屋町642-1の一部，642-9の一部	5/31	GL-0.48mまで盛土。	21K015	HQ100	1
大蔵省跡	上・浄福寺通中立売下る西入菱丸町192	6/15	GL-0.2mまで盛土。	21K092	HQ127	1
大蔵庁跡	上・仁和寺街道七本松西入二番町194-29	4/19	GL-0.7mまで盛土。	20K692	HQ044	1
大蔵庁跡	上・一番町 地先	9/21	巡回時掘削終了。	21K333	HQ283	1
図書寮跡	上・七本松通下長者町上る二番町 地先	5/18・19	GL-0.7mまで盛土。	21K079	HQ080	1
宴松原跡	上・仁和寺街道六軒町西入四番町151-114	6/10	GL-0.3mまで盛土。	21K069	HQ113	1
宴松原跡	上・六軒町通下長者町下る七番町328-7，329-14	7/26	GL-0.32mで暗褐色泥砂，-0.4mで褐色泥砂。	21K084	HQ179	1
宴松原跡	上・仁和寺街道六軒町西入四番町151-36（3号地）	9/9～21	GL-0.4mまで盛土。	21K237	HQ257	1
宴松原跡	上・利生町295-2	11/1	GL-0.3mまで盛土。	21K259	HQ351	1
掃部寮跡	上・六軒町通下長者町下る利生町 地先	9/14～22	GL-0.75mまで盛土。	21K389	HQ272	1
内蔵寮跡	上・福島町382	9/13	GL-1.39mで明黄褐色シルト。	21K166	HQ265	1
縫殿寮跡，聚楽遺跡	上・下長者町通裏之門西入坤高町75-5	4/14・15	GL-1.0mまで盛土。	21K008	HQ036	1
左近衛府・職御曹司跡，聚楽第跡	上・秤口町158-14～158-2 地先	7/1・2・5・9・12・13	GL-0.15mで黒褐色礫混粘土質シルトの近代堆積層，-0.5mでにぶい黄褐色粘土質シルト，-0.7mでにぶい黄褐色礫混シルトの近世包含層。	21K180	HQ145	1
左近衛府跡，聚楽第跡	上・松屋町通出水上る南清水町131-5	11/24	GL-0.45mまで盛土。	21K488	HQ382	1
内裏跡，聚楽遺跡	上・浄福寺通下立売下る中務町489-7	10/28・29，11/2・4・5	№1；GL-0.26～-0.48mで褐色泥砂の時期不明包含層。№2；GL-0.51mで褐色泥砂，-0.66mで暗褐色泥砂，-0.77～-0.88mで黄褐色粘質土の地山。	21K298	HQ342	1
中和院跡，聚楽遺跡	上・小山町908-57	4/14	GL-0.31mで黄褐色細砂の時期不明包含層。	20K785	HQ033	1
南所跡	上・下立売通日暮西入中村町 地先	7/5	GL-0.4mまで盛土。	21K198	HQ152	1
左兵衛府跡，聚楽第跡	上・一丁目625～632 地先	4/7	GL-0.7mまで盛土。	20K786	HQ022	1
左兵衛府跡，聚楽第跡	上・出水通日暮西入金馬場町164-2	11/18	GL-0.3mまで盛土。	21K398	HQ376	1
東雅院跡	上・松屋町通椹木町上る二町目634の一部，634-1の一部，634-2，634-3	8/24	GL-0.09mで黄褐色細砂混シルトの近世整地層，-0.13mで褐色砂質シルトの近世包含層（土師器皿，施釉陶器蓋）。	21K188	HQ227	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町102-12	5/17	GL-0.85mまで盛土。	20K380	HQ081	1
豊楽院跡，鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町	9/13	巡回時掘削終了。	3N027	HQ264	1
豊楽院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町	10/1	GL-1.05mまで盛土。	21K394	HQ298	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町 地先	4/14	GL-0.6mまで盛土。	21K028	HQ037	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻南町37-3	7/19	GL-0.15mまで盛土。	21K213	HQ172	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻東町 地先	8/24	GL-0.53～-0.62mで褐色粗砂混粘土質シルトの地山。	21K318	HQ228	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町812-10	8/30	GL-0.3mまで盛土。	21K274	HQ241	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻東町 地先	9/30	GL-0.4で褐色泥砂，-0.6mで黄褐色泥砂の地山，-0.8m～-0.85mでにぶい黄橙色泥砂。	21K422	HQ296	1
朝堂院跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻中町51-5	12/17	GL-0.2mまで盛土。	21K526	HQ423	1
大炊寮跡，二条城北遺跡	上・大宮通竹屋町上る藁屋町 地先	4/12	GL-1.1mまで盛土。	19K315	HQ030	1
太政官跡，聚楽遺跡	上・智恵光院通丸太町下る主税町1009	9/6	GL-0.5mまで盛土。	21K284	HQ251	1
御井跡	中・西ノ京車坂町11-4	7/5～12	GL-0.3mまで盛土。	21K052	HQ151	1
御井跡	中・西ノ京車坂町15-8	9/15	GL-0.45mまで盛土。	21K211	HQ275	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町17-4の一部	8/17	GL-0.4mまで盛土。	21K223	HQ208	1
式部省跡	中・西ノ京式部町38の一部	5/6・7	GL-0.25mまで盛土。	20K755	HQ061	1
式部省跡	中・西ノ京小堀町 地先	4/30	GL-0.52mまで盛土。	21K041	HQ059	1
式部省跡，聚楽遺跡	中・聚楽廻南町30-33	12/8・9	巡回時掘削終了。	21K512	HQ406	1
判事跡	中・西ノ京内畑町19-16	4/16	GL-0.5mまで盛土。	20K804	HQ040	1

平安京左京(HL)

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊三町跡	上・皀莢町287	4/12・15	GL-0.9mで灰黄褐色砂質土，-1.4mでにぶい黄橙色細砂～砂礫の地山，-1.69mで明黄褐色細砂，-1.95m～-2.31mで黄褐色砂礫。	17H347	HL 031	2
北辺三坊三町跡，内膳町遺跡	上・室町通中立売下る花立町495	4/20	GL-0.48mまで盛土。	20H679	HL 047	3
北辺三坊三町跡，内膳町遺跡	上・室町通中立売下る花立町491，495	4/28	GL-0.64mまで盛土。	20H677	HL 057	3
北辺四坊六町跡，公家町遺跡	上・京都御苑3	8/16，10/22・29	GL-0.37～-0.5mで黒褐色砂質土。**『京都市内遺跡試掘調査報告 令和３年度』に報告。**	20H109	HL 207	3
一条二坊十三町跡	上・小川通椹木町上る八幡町321	11/11	GL-0.9mまで盛土。	21H459	HL 369	2
一条三坊一町跡	上・下長者町通新町西入藪之内町80-1	4/15	GL-0.35mまで盛土。	20H768	HL 038	3
一条三坊四町跡	上・西洞院通椹木町上る東裏辻町414-2，414-4，414-5	8/5	GL-1.7～-2.7mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	21H101	HL 195	3
一条三坊五町跡，烏丸丸太町遺跡，旧二条城跡	上・室町通椹木町上る武衛陣町238-1，238-3	5/19	GL-1.15mまで盛土。	21H048	HL 085	3
一条三坊十五町跡，新在家構え跡，公家町遺跡	上・京都御苑438-1	12/7	GL-0.25～-0.42mで褐灰色砂礫。	19H128	HL 403	3
二条二坊一町跡，二条城北遺跡	上・大宮通椹木町下る一町目837-1，837-6	7/14	GL-0.68～-1.58mで明黄褐色砂礫の地山。	21H170	HL 165	2
二条二坊十二・十三町跡	中・油小路通夷川下る薬屋町594-2	8/4・5	GL-1.1mまで盛土。	21H100	HL 194	2
二条三坊四町跡	中・西洞院夷川 下る薬師町644，夷川通西洞院東入泉町661-3	8/20・25・31，9/6	№1；GL-0.48mでにぶい黄褐色粗砂～シルト混粗砂の近世包含層，-0.59で黒色砂質シルト（焼土・炭化物多量，被熱で固く締まる）の近世包含層。№2；GL-0.3mで灰黄褐色粘土質シルトの近世包含層，-0.45mで灰黄褐色粗砂混粘土質シルトの時期不明包含層，-0.67mで褐色砂礫の河川堆積，-0.9～-1.45mで褐色細砂～粗砂の河川堆積。	20H740	HL 221	3
二条三坊八町跡，旧二条城跡	上・新町通丸太町上る春帯町346，347-2	8/26～31	中世土坑と整地層を検出。**本報告８ページ。**	21H109	HL 232	3
二条三坊八町跡，旧二条城跡，烏丸丸太町遺跡	上・室町通椹木町下る大門町258-1	5/20・21	旧二条城跡の濠底南肩を検出。**本報告12ページ。**	20H336	HL 087	3
二条三坊十一町跡，烏丸丸太町遺跡	中・両替町通夷川上る松竹町132他	5/12・17	GL-1.66～-1.78mで明黄褐色シルトの地山。	20H228	HL 075	3
二条三坊十三町跡，烏丸丸太町遺跡	中・真如堂町321-1	10/28，11/1	GL-0.9mでにぶい黄橙色泥砂，-1.29mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層，-1.44mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層，-1.62mでにぶい黄褐色シルトの時期不明包含層，-1.7～-1.77mでにぶい黄褐色シルトの地山。	21H044	HL 343	3
二条三坊十五町跡，烏丸丸太町遺跡	中・大倉町208 地先	10/14	GL-1.1mまで撹乱。	21H314	HL 315	3
二条四坊四町跡，烏丸丸太町遺跡	中・間之町通二条上る夷町571	7/16・19，8/2	№1；GL-1.17mでにぶい黄褐色砂礫（径0.4m大石含），-1.94mで黄灰色粘土質シルト（細砂混）を切って時期不明杭。№3；GL-1.21mで浅黄橙色粗砂，-1.34～-1.45mで浅黄色砂礫の地山。	21H124	HL 170	3
二条四坊四町跡，烏丸丸太町遺跡	中・東洞院通二条上る壺屋町529-1，529-2	10/15	GL-0.45mまで盛土。	21H217	HL 317	3
二条四坊七町跡，烏丸丸太町遺跡，京都新城跡	中・柳馬場通竹屋町上る四丁目190	8/24・25	GL-0.33mで褐色粗砂混シルト（焼土，焼瓦多量混）の近世包含層（土師器皿，染付碗），-0.4～-0.83mでにぶい黄褐色砂礫の河川堆積。	21H256	HL 229	3
二条四坊十一町跡，烏丸丸太町遺跡	中・柳馬場通夷川上る五丁目242地内	7/19，9/29，10/1～11	GL-0.8～-1.73mで灰黄色細砂の地山。	21H056	HL 171	3
二条四坊十六町跡，烏丸丸太町遺跡，京都新城跡，公家町遺跡	上・京都御苑3	8/18・19	GL-0.53～-0.7mで明赤褐色粗砂～砂質シルト（炭化物含）の近代焼土。	21H195	HL 213	3

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
三条一坊二町跡	中・西ノ京職司町54，55の一部	8/11	GL-0.35mまで盛土。	21H205	HL 206	2
三条一坊七町跡	中・西ノ京職司町48-1	6/22	GL-0.78mで灰黄褐色シルト（砂礫混），-1.16～-2.28mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	20H461	HL 138	2
三条二坊十六町跡，妙顕寺城跡	中・油小路通押小路東入二条油小路町267，267-1，267-2，小川通押小路下る下古城町375-2	12/13・14・20	GL-0.5mまで盛土。	21H519	HL 415	2
三条三坊一・八町跡，妙覚寺城跡	中・釜座通押小路上る上松屋町～新町通押小路上る頭町 地先	7/28～9/9	GL-1.36mまで盛土。	21H232	HL 184	3
三条三坊二町跡，烏丸御池遺跡	中・釜座通押小路下る下松屋町720，720-3，720-6～9，新町通押小路下る中之町41-11	4/19・20・21・22	№1；GL-1.1mで暗灰黄色シルト（礫混，炭含）の時期不明包含層（土師器），-1.6mでオリーブ褐色シルト（礫混），-2.1～-3.4mで黄褐色砂礫の地山。№2；GL-2.78mで黒褐色シルト（粗砂混）の近世包含層，-2.88～-3.62mで褐色砂礫の地山。	20H696	HL 045	3
三条三坊十二町跡，烏丸御池遺跡	中・室町通姉小路下る役行者町364	4/27～5/25	GL-1.61mで灰黄褐色粘質土，-2.06～-2.3mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	20H532	HL 053	3
三条三坊十六町跡	中・車屋町通二条下る仁王門突抜町314	5/11・12・14・18	№1；GL-1.15mで暗灰黄色泥砂，-1.35mで灰色泥土，-1.5mで黄褐色シルトの時期不明整地層，-1.6mで灰黄褐色シルト，-1.69～-2.57mで黄褐色粘土の地山。№2；GL-1.13mでにぶい黄褐色泥砂（炭化物混），-1.47mでにぶい黄褐色泥砂（シルトブロック含），-1.69～-1.89mで黄褐色泥砂（炭化物含）の時期不明包含層。	20H639	HL 072	3
三条四坊二町跡	中・押小路通高倉西入左京町139	4/13・15・20・21	GL-1.21mで暗褐色粗砂混粘土質シルトの近世包含層，-1.47mで黒褐色粗砂混粘土質シルトの近世包含層，-1.66mでにぶい黄褐色粗砂混粘土質シルトの平安後期以降包含層，-1.95～-2.06mで黄褐色粗砂混シルトの地山。	20H494	HL 034	3
三条四坊十三町跡，三条せと物や町遺跡	中・弁慶石町63	8/2	GL-1.0mまで盛土。	21H112	HL 186	3
四条一坊四町跡	中・壬生御所ノ内町27-17	5/7	GL-0.87mで褐色砂礫の地山。	20H753	HL 066	4
四条一坊十二・十三町跡	中・壬生坊城町56-1～錦大宮町116地先	8/31～9/15	GL-0.6mで黒色粗砂混シルトの近世後期包含層，-0.85mで黒褐色粗砂混粘土質シルト，-1.15mで黒褐色礫混粘土質シルト，-1.55～-1.95mで褐色砂礫の地山。	21H337	HL 239	4
四条二坊一町跡	中・大宮通三条下る三条大宮町273-1，273-2	4/15	GL-0.35mまで盛土。	20H653	HL 039	4
四条二坊四町跡	下・四条通大宮東入立中町487，511-1	8/30・31，9/1・2・6	№1；GL-0.54mでにぶい黄褐色礫混シルト，-0.98mで黄褐色礫混粘土質シルトの地山を切って時期不明井戸。№3；GL-0.7mで暗褐色粗砂混シルトの近世包含層，-1.02mでオリーブ褐色礫混シルトの地山，-1.58～-2.65mでオリーブ褐色砂礫。	21H174	HL 236	4
四条二坊五町跡	中・堀川通四条上る錦堀川町640-3	12/22・24	GL-0.69mで褐灰色泥砂（礫混），-0.98mで褐灰色泥砂，-1.15mで灰黄褐色シルト，-1.36～-1.91mで褐灰色砂礫の地山。	21H289	HL 430	4
四条二坊七町跡	中・岩上通六角下る岩上町753-1～3，758-3，761	5/27・28・31，6/2・3・7	№1；GL-0.57mで灰黄色褐色泥砂の平安後期包含層，-0.78mでにぶい黄橙色砂泥の地山，-0.85～-1.35mで淡黄色砂礫。№3；GL-0.73mでオリーブ褐色粗砂混シルトを切って黒褐色粗砂混シルトの時期不明土坑，-0.84mで褐色砂質シルト，-0.96mでにぶい黄褐色砂礫の地山，-1.54～-2.14mで暗オリーブ灰色砂礫。	20H483	HL 093	4
四条二坊十一町跡	中・油小路通錦小路上る山田町531	9/17，10/6	GL-1.15mまで盛土。	21H278	HL 280	4
四条二坊十三町跡	中・油小路通四条上る藤本町544，545-3	6/15，7/12～30	鎌倉の土坑，室町のピット，落込を検出。**本報告16ページ。**	20H743	HL 128	4
四条二坊十五町跡，本能寺城跡	中・六角油小路町332	6/1	GL-0.45mまで盛土。	20H722	HL 104	4
四条二坊十五町跡，本能寺城跡	中・六角通油小路東入本能寺町104	6/10・11	GL-0.6mまで盛土。	21H038	HL 114	4
四条二坊十五町跡，本能寺城跡	中・六角油小路町335	7/21	GL-0.3mまで盛土。	20H721	HL 174	4

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
四条三坊三町跡	中・新町通錦小路上る百足屋町385-3	10/18・20・21・22・26	GL-0.55mで暗褐色粗砂混シルトの近世～近代焼瓦土坑，-1.1mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層，-1.3mで褐色粗砂の流水堆積層，-1.5mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層，-1.7mで黒褐色粗砂混シルトの中世包含層。	21H233	HL 324	5
四条三坊十二町跡，烏丸綾小路遺跡	中・錦小路通烏丸西入占出山町316	12/9	GL-1.45mまで盛土。	21H446	HL 410	5
四条四坊九町跡	中・六角通柳馬場東入大黒町75，77	6/25～30	GL-1.95mまで盛土。	21H085	HL 143	5
五条一坊十二・十三町跡	中・壬生相合町1（市立松原中学校）	12/22	GL-0.4mで黒褐色泥土，-0.9～-3.3mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	21H427	HL 431	4
五条二坊四町跡	下・大宮通高辻下る高辻大宮町128他	7/12・13・14	GL-0.89mで暗褐色砂礫の河川堆積，-1.22mで褐色粗砂～砂質シルト，-1.36～-1.51mで黄褐色砂礫の地山。	20H773	HL 158	4
五条二坊七町跡	下・岩上通綾小路下る雁金町401	8/5・6・17	GL-1.12mで灰黄褐色粘質土の旧耕作土，-1.23mで明黄褐色粘質土の地山，-1.69～-1.93mでにぶい黄橙色砂礫。	21H135	HL 197	4
五条三坊十三町跡，烏丸綾小路遺跡	下・東洞院通高辻下る燈籠町570，573	10/21・22・26	GL-1.0mで灰オリーブ色細砂，-1.21mで灰白色細砂，-1.52mでにぶい黄色砂礫の地山。	21H095	HL 332	5
五条三坊十六町跡，烏丸綾小路遺跡	下・綾小路通烏丸東入竹屋之町252，252-1	5/7	GL-0.91mで黄灰色泥砂，-1.08mでにぶい黄色シルト，-1.26mでにぶい黄色砂礫の地山，-1.73mで浅黄色粗砂。	20H788	HL 065	5
五条四坊一町跡，烏丸綾小路遺跡	下・高倉通四条下る高材木町217	7/7・28	GL-0.76mで暗褐色泥砂，-1.22mで暗灰黄色シルト混微砂，-1.44～-1.49mでオリーブ褐色砂礫の地山。	20H726	HL 156	5
五条四坊二町跡，烏丸綾小路遺跡	下・東洞院通綾小路下る扇酒屋町292の一部	8/10	GL-1.05mまで盛土。	20H750	HL 204	5
五条四坊十町跡	下・仏光寺通麩屋町西入仏光寺東町108，110	10/25・26・28	GL-0.62mで灰黄褐色砂質土，-0.84mで黒色泥砂，-0.95mで褐灰色泥砂の室町包含層，-1.34mで黒褐色泥砂の時期不明包含層，-1.58mで黒色泥砂の時期不明包含層，-2.07mでオリーブ褐色粗砂の平安後期包含層。	21H288	HL 335	5
五条四坊十三町跡	下・御幸町通高辻下る桝屋町478-2	9/13	GL-0.9mまで盛土。	21H347	HL 266	5
五条四坊十四町跡	下・高辻通御幸町西入茶磨屋町233	9/7	GL-0.2mで黒褐色粗砂混粘土質シルトの近世火災処理層，-0.58mで暗褐色礫混シルト，-1.15mで黒褐色砂礫の河川堆積，-1.15m～-1.36mで褐色砂礫の地山。	21H285	HL 253	5
六条一坊六町跡	下・中堂寺壬生川町8-7	11/11・12・15	GL-0.34mで黒褐色粗砂混シルトの近世以降火災処理層，-0.57mで暗オリーブ褐色粗砂混シルトの近世包含層，-0.68mで暗褐色粗砂混シルトの中世包含層，-0.92mでオリーブ褐色細砂混粘土質シルトの平安末期整地層，-1.09mで黄褐色粘土質シルトの地山。	21H286	HL 371	4
六条一坊十町跡	下・中堂寺櫛笥町7-9，36-1	10/29，11/2	室町の溝等を検出。**『京都市内遺跡試掘調査報告令和３年度』に報告。**	21H021	HL 348	4
六条二坊十町跡，烏丸綾小路遺跡	下・五条通油小路西入北側小泉町112-6	11/29，12/1	№1；GL-0.67mで案灰黄色泥砂，-0.94mで灰黄色泥砂，-1.21mで黄灰色泥砂，-1.48mで黄灰色泥土，-1.68mで黄灰色泥砂（大礫混）。№2；GL-0.9mでにぶい褐色泥砂，-1.11mで明褐色シルトの地山，-1.69～-2.48mで黄橙色砂礫。	21H380	HL 390	4
六条三坊一町跡，烏丸綾小路遺跡	下・万寿寺通西洞院東入月見町62，若宮通松原下る亀屋町51-2	4/9・12・14・15・20	№1；GL-1.49m～-1.69mで褐灰色粘質土の湿地状堆積。№2；GL-1.75mで明黄褐色砂礫の地山。№3；GL-0.88mで灰黄褐色細砂（ウグイス？），-1.08～-1.35mで黄灰色砂礫の地山。	20H733	HL 029	5
六条三坊二町跡，烏丸綾小路遺跡	下・新町通五条上る材木町151	8/19～30	平安後期～鎌倉のピット，土坑を多数検出。**本報告20ページ。**	21H113	HL 216	5
六条三坊三町跡，烏丸綾小路遺跡	下・新町通五条下る蛭子町105，109	6/3～28	GL-3.9mまで盛土。	20H694	HL 107	5
六条三坊五町跡	下・新町通的場東入蛭子町152	12/13	GL-0.55mまで盛土。	21H479	HL 414	5
六条三坊六町跡，烏丸綾小路遺跡	下・楊梅通新町東入上柳町220-1	10/22・26・29	GL-0.93mで灰黄褐色泥砂の中世包含層，-1.13mでにぶい黄色シルト，-1.35mでにぶい黄色粗砂，-1.69mで明黄褐色砂礫の地山。	21H172	HL 334	5

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
六条三坊十六町跡，烏丸綾小路遺跡	下・俊成町444他	7/26，8/4・13・19	GL-1.91～-2.8mでにぶい黄褐色砂礫の河川堆積。	19H702	HL 178	5
六条四坊七町跡	下・堺町通五条上る俵屋町216	6/1，7/12	GL-1.67mで暗灰黄色砂泥，-2.01mで灰黄色砂礫の地山，-2.43～-2.77mでにぶい黄橙色砂礫。	20H120	HL 106	5
七条一坊九町跡	下・壬生川通花屋町上る小坂町 地先	10/27・28・11/11・12	GL-0.7～-0.8mで灰色シルト～オリーブ褐色シルトの地山。	21H445	HL 340	6
七条三坊一町跡	下・艮町881-1，880-1，880-2，881	7/15	GL-0.35mまで盛土。	21H134	HL 168	7
七条三坊四町跡	下・西洞院通七条上る福本町416	11/19	GL-1.4mまで盛土。	20H713	HL 380	7
七条三坊五町跡，東本願寺前古墓群	下・七条通新町東入西境町162・164-1・164-2の一部	11/15	-0.19mで黒褐色礫混シルトの近世～近代堆積層，-1.04～-1.34mで灰オリーブ色細砂～シルトを切って黄灰色礫混シルトのピット。	21H416	HL 372	7
七条三坊七町跡，東本願寺前古墓群	下・烏丸通七条上る常葉町754他	11/1・5	GL-0.26mで暗灰黄色泥砂，-0.34mで明赤褐色泥砂（焼土，炭化物含），-0.5～0.57mで黄色シルトの時期不明整地層。	21H264	HL 354	7
七条三坊十三町跡，東本願寺前古墓群	下・粉川町234	5/13	GL-1.12mまで盛土。	20H553	HL 076	7
七条四坊三町跡	下・下珠数屋町通間之町西入西玉水町283-6，285，下珠数屋町通東洞院東入西玉水町294-2，294-5，間之町通正面下る榎木町312-4	7/28	GL-0.5mまで盛土。	21H072	HL 183	7
七条四坊十二町跡	下・新日吉町130-1，135-11	11/1	GL-0.28mでにぶい黄褐色砂泥，-0.63mでにぶい黄橙色砂泥，-0.75mでにぶい黄橙色砂礫，-1.13～-1.66mで明黄褐色砂礫。	21H432	HL 355	7
七条四坊十五町跡	下・正面通木屋町東入北側鍵屋町342他	5/6	GL-0.61mで浅黄色砂礫，-0.77mで黄褐色細砂，-1.13～-1.93mでにぶい黄褐色砂礫。	20H060	HL 062	7
八条一坊四・五町跡，御土居跡	南・壬生通八条上る八条町509-2他	4/6	GL-1.2mまで盛土。	20H295	HL 019	6
八条三坊八町跡，東本願寺前古墓群	下・烏丸通七条下る東塩小路町590-8の一部	4/5	GL-0.22mでにぶい黄褐色泥砂，-0.5mで黄褐色小礫混泥砂，-0.73～-0.83mで明黄褐色泥砂。	20H683	HL 009	7
八条三坊十五町，四坊二・三町跡，御土居跡，塩小路若山城跡	下・東塩小路向畑町569，東塩小路高倉町13，東塩小路717-1 地内	9/16・22・24・27	GL-1.0～-1.1mでオリーブ褐色粗砂。	21H146	HL 278	7
八条四坊二町跡，塩小路若山城跡	下・東洞院通七条下る東塩小路町567-1，567-2	10/26・27	№1；GL-0.89mで灰黄色粗砂の時期不明包含層，-1.06mで黄灰色粗砂を切って灰黄色粗砂（黄灰色粗砂のブロック含）時期不明ピット，-1.4～-2.56mで明黄褐色砂礫。№2；GL-0.41mで褐灰色泥砂，-0.59mで黄色粗砂の時期不明包含層，-0.77～-2.42mでオリーブ黄色砂礫。	21H179	HL 338	7
八条四坊七町跡	下・塩小路通高倉東入上之町19-7～河原町通塩小路下る下之町56 地先	6/22～30，7/1～19	GL-1.5～-2.0mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	21H130	HL 139	7
九条一坊十町跡，史跡教王護国寺境内	南・九条町1	4/26	GL-0.51mまで盛土。	2C101	HL 056	6
九条四坊十六町跡	下・東之町 地内	8/17	巡回時掘削終了。	21H119	HL 210	7

平安京右京(HR)

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊四町跡	上・西町94-3，94-4，94-5	7/30，8/2	GL-1.62mで黄橙色砂礫の地山。	21H173	HR 185	9
北辺三坊一町跡	北・大将軍一条町156，157，58，170，171	11/1	GL-0.6mまで盛土。	21H412	HR 352	8
一条二坊九町跡，御土居跡	北・大将軍東鷹司町178-2	6/14	GL-0.4mで黒色シルト，-0.61～-0.71mで明黄褐色砂礫。	21H045	HR 125	8
一条二坊十二町跡	中・西ノ京北円町2-1，2-2	11/4・9・10・11・17	GL-0.35mで黄褐色シルト，-0.51mで暗褐色シルトの地山。	21H487	HR 357	9
一条二坊十四町跡，御土居跡	中・西ノ京大炊御門町15-16	4/2	GL-0.3mまで盛土。	20H626	HR 004	9
一条二坊十六町跡	北・大将軍東鷹司町5-2	11/4・5	GL-0.35～-0.58mで黄褐色砂泥（黄褐色シルトブロック多量含）。	21H287	HR 363	9

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
一条三坊十町跡	右・花園馬代町1～1-1 地先	10/14～25，11/9・10	GL-0.26mで黄灰色砂礫の近世包含層，-0.7mで灰色砂礫を切って黒褐色粗砂混シルトのピット，-1.2～-1.4mで暗灰黄色粘土質シルトの地山。	21H404	HR 314	8
一条三坊十四町跡	右・花園巽南町17-2，17-4	10/18～12/21	GL-0.2mで黒褐色細砂混粘土質シルトの時期不明包含層，-0.35mで褐色微砂混粘土質シルトの地山，-0.55～-1.7mで褐灰色～黄褐色砂礫。	20H256	HR 321	8
一条四坊五町跡	右・太秦安井小山町12-7，9，10，花園寺ノ前町79	5/24	GL-0.9mまで盛土。	20H446	HR 090	8
一条四坊十五町跡	右・花園宮ノ上町56	10/18	№1；GL-0.2mでにぶい黄褐色礫混シルトの時期不明包含層（土師器），-0.5mで黄褐色微砂混シルトの時期不明整地層（土師器）を切ってにぶい黄褐色礫混シルトと褐灰色シルトブロックの混合層の時期不明土坑，-0.65～-0.85mで黄褐色微砂混シルトの地山。№2；GL-0.4mでにぶい黄褐色礫混シルトの時期不明包含層（土師器），-0.55～-0.85mで黄褐色微砂混シルトの地山を切って暗褐色微砂混粘質シルト（灰黄褐色シルトブロック含）の柱穴（根石有）。	21H457	HR 322	8
二条三坊二町跡，西ノ京遺跡	中・西ノ京中御門西町25 地内	7/13・29，8/3・4	GL-0.45mで黄色シルト，-0.55mで灰黄色シルト，-0.64mでにぶい黄色砂泥の地山，-0.75～-1.25mで灰白シルト。	21H057	HR 164	8
二条三坊四町跡，西ノ京遺跡	中・西ノ京西中合町46	4/8・9	GL-0.2mまで盛土。	20H625	HR 025	8
二条四坊三町跡	右・太秦安井藤ノ木町4，4-4	4/12	GL-0.55mまで盛土。	20H766	HR 032	8
三条一坊五町跡，壬生遺跡	中・西ノ京小倉町129	4/7	GL-0.55mまで盛土。	20H776	HR 023	9
三条二坊二・七町跡，西ノ京遺跡	中・御池通，西大路通～御前通 地内	10/12・13	GL-1.4mまで盛土。	21H196	HR 307	9
三条四坊一町跡	右・太秦安井水戸田町5-16の一部	9/6・7	GL-0.43mで黒褐色微砂混粘土質シルトの平安前期包含層（須恵器壷），-0.51～-0.74mで褐色微砂混粘土～粘土質シルトの地山。	21H192	HR 252	8
三条四坊一町跡	右・太秦安井水戸田町5-7，5-10，5-16	9/13	GL-0.3mまで盛土。	21H189	HR 267	8
三条四坊三町跡	右・山ノ内宮脇町8-1	10/21	GL-0.2mで黒色砂質土，-0.39～-0.58mで褐色泥砂の中世包含層。	21H376	HR 331	8
四条一坊四町跡	中・壬生花井町23-2，23-8	5/28	GL-0.75mで耕作土，-1.1mで褐灰色砂泥の地山，-1.46m～-1.8mでにぶい黄橙色砂礫。	20H640	HR 092	11
四条二坊三町跡，壬生遺跡	中・壬生東淵田町14-4～7	9/21	GL-0.65mまで盛土。	21H231	HR 285	11
四条二坊五町跡，壬生遺跡	中・壬生淵田町33-3	7/29，8/25・26	GL-0.65mで暗褐色細砂混粘土質シルト，-0.77mで黒褐色礫混シルト，-0.94mで黄灰色礫混シルト～粗砂の時期不明包含層，-1.37～-1.76mで暗灰黄色砂礫の河川堆積。	21H240	HR 182	11
五条一坊三町跡，御土居跡	中・壬生松原町67-3	6/8	巡回時掘削終了。	20H730	HR 111	11
五条一坊七町跡，御土居跡	中・壬生高樋町65-60	10/18	GL-0.25mまで盛土。	21H295	HR 323	11
五条二坊十一町跡	右・西院平町18-3	8/4・5	GL-0.7mで褐灰色粘質土の近世後半湿地状堆積，-1.03m灰黄褐色細砂礫の河川堆積，-1.59～-1.89mで黒褐色粘土の地山。	21H140	HR 193	11
五条三坊四町跡，西院遺跡	右・西院矢掛町5 地内	7/15～9/7	平安中期の東西溝，ピット検出。**本報告25ページ。**	21H055	HR 167	10
五条四坊十三町跡，西京極遺跡	右・西院西田町95，103-1，103-2	5/12・14	GL-0.39mで灰褐色泥砂，-0.53mでにぶい黄橙色泥砂の耕作土，-0.6mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層，-0.73～-0.8mでにぶい黄色泥砂。	20H563	HR 074	10
六条二坊九・十六町跡，西院遺跡	右・西院寿町～西院西高田町 地先	6/1～28	GL-1.1～-1.35mで明黄褐色シルト（粗砂混）の地山。	21H138	HR 103	11
六条二坊十五町跡	右・西院寿町40-1，40-3，42-1，西院南高田町10，10-1，10-2，11，12-2～5，西院西高田町1-1，3	6/14	GL-0.45mまで盛土。	20H739	HR 122	11

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
六条二坊十五町跡	右・西院寿町40-1，40-3，42-1，西院南高田町10，10-1，10-2，11，12-2～5，西院西高田町3，1-1	9/28	GL-0.67mで旧耕作土，-0.77mで明黄褐色シルト～極細砂，-1.02mで灰黄色細砂～粗砂。	21H024	HR 292	11
六条三坊一町跡，西院遺跡	右・西院西寿町18-1	4/1	GL-0.45mで黄灰色粘質土，-0.75mで黄灰色粘質シルト，-1.08～-2.44mで浅黄色シルトの地山。	20H588	HR 001	10
六条四坊十三・十四町跡	右・西京極野田町53-1	12/13・14	GL-0.5mで褐色砂礫の地山，-0.71～-1.13mで灰黄褐色砂礫。	21H506	HR 413	10
七条一坊一町跡	下・中堂寺南町7-16，9-9，9-10，81	9/24	GL-0.5mでにぶい黄橙色シルト～細砂，-0.81mで黄灰色粗砂，-1.13～-1.8mで灰黄色砂礫。	21H375	HR 286	13
七条一坊二町跡，御土居跡，堂ノ口町遺跡	下・朱雀分木町80	12/20	GL-1.09～-2.39mでにぶい黄褐色砂礫。	21H354	HR 425	13
七条一坊四町跡，御土居跡，堂ノ口町遺跡	下・朱雀分木町80	8/5・6・10・16・17・20	GL-1.1～-1.5mでにぶい黄橙色シルトの地山。	21H122	HR 196	13
七条一坊十一町跡	下・西七条御領町48，49，50，51-1，51-1，52	6/16	GL-1.25mまで盛土。	20H763	HR 130	13
七条二坊八町跡	下・西七条西石ヶ坪町5 地内	8/17～31	№1；GL-0.4mで黒褐色細砂混粘土質シルト，-0.6mで黄褐色粘土質シルトの地山。№2；GL-0.6mで黒褐色粗砂混シルト，-0.75mで黒褐色礫混シルトを切って黒褐色粗砂混シルトと黒褐色粘土質シルトの時期不明土坑。-0.9mで暗灰黄色礫混シルトの地山。	21H054	HR 209	13
七条二坊九町跡	下・西七条掛越町39-1，39-2，40-1，40-2	10/26	GL-0.75mで明黄褐色シルトの地山，-1.31mで灰色細砂，-1.49mで明黄褐色砂礫。	20H187	HR 337	13
七条二坊十二町跡，衣田町遺跡，西市跡	下・西七条北衣田町41-3	5/31	GL-0.3mまで盛土。	20H809	HR 099	13
七条二坊十五町跡	下・西七条比輪田町16-1	7/26・27，8/4	GL-0.7mで灰黄褐色泥砂の平安整地層，-0.95mで黄褐色シルトの地山，-1.25～-1.32mで黄褐色細砂。	21H133	HR 175	13
七条四坊十三町跡	右・西京極中町41-1	6/7・8・15	GL-0.57mで浅黄色シルト，-0.84mで灰黄色微砂，-1.14～-1.47mでにぶい黄色微砂。	20H811	HR 110	12
七条四坊十四町跡	右・西京極西池田町36	4/26	GL-0.1mまで盛土。	20H667	HR 054	12
八条三坊六・七町跡	下・七条御所ノ内西町71-1 地内	12/1～22	GL-0.9mで青灰色細砂（礫混），-1.2mで黄褐色粗砂の地山，-1.5mでにぶい黄褐色微砂，-1.9～-2.7mで黒褐色砂礫。	21H053	HR 396	12
八条四坊十四町跡	右・西京極芝ノ下町3-6	11/25	GL-0.65mで灰黄色泥砂，-0.76～-0.96mで浅黄色泥砂。	21H498	HR 385	12
九条一坊十五町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南・唐橋門脇町11-6	4/30	GL-0.5～-0.6mで灰黄褐色粘質土の旧耕作土。	21H016	HR 060	13
九条一坊十五町跡，西寺跡，唐橋遺跡	南・唐橋西寺町35-17	9/21	GL-0.2mまで盛土。	21H206	HR 282	13
九条二坊九町跡	下・七条御所ノ内南町96 地先（西大路八条 南行）	10/4	GL-0.66mで灰黄褐色シルトの旧耕作土，-0.83mでにぶい黄褐色シルトの平安～中世包含層（土師器），-0.96～-1.11mで褐色粘土質シルトの地山。	21H313	HR 301	13
九条四坊十三町跡	南・吉祥院堤外	10/29	GL-1.2mまで明黄褐色砂礫の現代堤防積土。	21H450	HR 346	12
九条二坊十町跡	下・唐橋高畑町1-2他	4/6	GL-0.89mで灰白色泥砂，-1.17mで灰黄色粗砂，-1.41～-2.35mで明黄褐色砂礫。	18H850	HR 018	13

太秦地区（UZ）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
高山寺境内	右・梅ケ畑川西町 地先	9/2	GL-0.16mで灰黄色砂礫，-0.3～-0.46mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	21S187	UZ 246	26-2
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-7	8/10	巡回時掘削終了。	21S291	UZ 205	25-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町 地先	8/2	巡回時掘削終了。	21S214	UZ 188	25-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町 地先	7/12・14	№1；GL-0.7～-1.1mで淡黄色シルトの地山。№2；GL-0.5～-0.6mで黄色砂礫の地山。	21S201	UZ 161	25-1
大覚寺古墳群，大覚寺4号墳（狐塚古墳）	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-1，10-4	5/14～18，7/12～28	古墳周溝を検出。**『京都市内遺跡試掘調査報告令和３年度』に報告。**	20S393	UZ 078	25-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-7（3号地）	10/20	GL-0.25mまで盛土。	21S342	UZ 327	25-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-7（4号地）	10/20	GL-0.2mまで盛土。	21S335	UZ 325	25-1

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-7（5号地）	10/20	GL-0.15mまで盛土。	21S336	UZ 326	25-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺若宮町24の一部，24-2の一部	7/7・16	GL-0.11mで灰黄褐色粗砂混シルトの時期不明包含層。	21S073	UZ 157	25-1
梅津罧原町遺跡	右・梅津罧原町15-7～59-40 地先	9/15～11/12	GL-0.35～-1.0mで黄褐色砂礫～シルトの地山。	21S378	UZ 276	26-3
史跡仁和寺御所跡	右・御室大内33	9/10	３時期の石垣と裏込を確認。**『京都市内遺跡試掘調査報告 令和３年度』に報告。**	03N030	UZ 274	21
仁和寺院家跡	右・鳴滝本町44の一部	8/2	№１；GL-0.31～-0.40mで黄色シルトの地山。№２；GL- 0.37～-0.44mで明黄褐色泥砂の時期不明包含層。	21S212	UZ 189	21
太秦馬塚町遺跡	右・太秦北路町12-1	11/25～12/1	GL-0.99～-1.8mで黄橙色泥砂（礫混）。	21S442	UZ 386	21
太秦馬塚町遺跡	右・太秦中筋町8-2，8-3	10/22	GL-0.36mで黒褐色砂質土，-0.64mで黄橙色砂礫の地山。	21S050	UZ 333	21
常盤柏ノ木古墳群，村ノ内町遺跡	右・常盤北裏町 地先	4/5	巡回時掘削終了。	20S801	UZ 014	21
法金剛院境内	右・花園寺ノ内町16 地先	10/5	巡回時掘削終了。	21S312	UZ 049	21
森ヶ東瓦窯跡	右・太秦和泉式部町4-16	7/26・28	GL-1.0mまで盛土。	21S026	UZ 176	21
森ヶ東瓦窯跡，和泉式部町遺跡	右・森ヶ東町4-54	6/15	GL-0.9mまで盛土。	20S511	UZ 126	21
広隆寺旧境内	右・太秦西蜂岡町16-5	5/6・7	GL-0.44mで明黄褐色砂礫の地山。	20S528	UZ 064	21
上ノ段町遺跡	右・太秦堀ケ内町 地先	4/19～5/28	GL-0.2～-0.75mで明黄褐色泥砂の地山。	21S017	UZ 042	21・26-4
多薮町遺跡	右・太秦堀ケ垣内町9-2～12-15 地先	8/3～10/13	GL-0.2mで暗褐色微砂混シルトの時期不明包含層，-0.5～-1.25mで褐色粘土質シルトの地山。	21S175	UZ 237	21・26-4
西野町遺跡	右・嵯峨野千代ノ道町53（市立嵯峨野小学校）	12/23	GL-0.6mまで盛土。	21S483	UZ 434	21・26-4
井戸ケ尻遺跡	右・太秦井戸ケ尻町14-17（8号地）	8/24	GL-0.4mまで盛土。	21S251	UZ 225	21
井戸ヶ尻遺跡	右・太秦井戸ヶ尻町14-3の一部他（6号地）	4/5	GL-0.15mまで盛土。	20S732	UZ 006	21
井戸ケ尻遺跡	右・太秦井戸ケ尻町14-14（5号地）	8/24	GL-0.5mまで盛土。	21S242	UZ 224	21
井戸ヶ尻遺跡	右・太秦井戸ヶ尻町14-6の一部他（2号地）	4/5	GL-0.3mまで盛土。	20S716	UZ 007	21
井戸ケ尻遺跡	右・太秦井戸ケ尻町14-21（13号地）	8/30	GL-0.3mまで盛土。	21S241	UZ 238	21
井戸ヶ尻遺跡	右・太秦井戸ケ尻町14-6	7/15	GL-0.35mまで盛土。	21S162	UZ 169	21
海正寺跡	右・太秦海正寺町15-28の一部	11/9	GL-0.32mで灰黄褐色泥砂，-0.4～-0.44mで褐色粘質土。	21S511	UZ 366	21
海正寺跡	右・太秦海正寺町15-28の一部	11/9	GL-0.2～-0.27mで褐色泥砂の時期不明包含層。	21S510	UZ 365	21

洛北地区（RH）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉大鷺町83-1	5/24	GL-0.45mまで盛土。	21S051	RH 089	26-5
大深町須恵器窯跡	北・西賀茂大深町20-3	12/16	GL-0.13～-0.41mで黄橙色シルトの地山。	21S440	RH 422	17-1
河上瓦窯跡	北・西賀茂丸川町54，55	8/31	GL-0.55mまで盛土。	21S186	RH 243	17-1
大宮北ノ前瓦窯跡	北・大宮西総門口町33の一部	5/24	GL-0.52mで明黄褐色砂質土，-0.65mで黄色砂礫の地山。	20S757	RH 091	17-1
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628番29	6/1	GL-0.06m～-0.35mで黄褐色シルトの地山。	21S076	RH 102	26-6
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-21	11/11	GL-0.65mまで盛土。	21S439	RH 368	26-6
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-27	8/20	GL-0.4mまで盛土。	21S254	RH 220	26-6
植物園北遺跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1	12/13・16	GL-0.75mまで盛土。	21S345	RH 416	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂畔勝町3-3	6/17・18・22	GL-0.48mで黄灰色粘質土の旧耕作土，-0.56～-1.61mで明黄褐色砂礫の地山。	20S778	RH 131	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂畔勝町23-6，23-7	10/29	GL-0.2～-0.35で暗灰黄色泥砂。	21S415	RH 345	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂高縄手町35-2	10/15	GL-0.7～-0.8mで暗灰黄色シルトの旧耕作土。	21S338	RH 316	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町1	12/8・10	GL-0.75mまで盛土。	21S443	RH 405	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町16-6	4/20	GL-0.32mで旧耕作土，-0.67mでにぶい黄褐色シルト，-0.82mで明黄褐色泥砂，-1.0mで黄色礫混泥砂の地山。	20S774	RH 046	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨北芝町19-7	4/26	GL-0.45mまで盛土。	20S767	RH 052	24-1
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町29	9/6・29	GL-0.75mまで盛土。	21S127	RH 250	24-1

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨前萩町5-10	8/10・11・12	GL-0.64mで褐灰色粘質土の時期不明包含層，-0.78mで明黄褐色シルトの地山を切って黒褐色粘質土の時期不明ピット，-1.31～-1.75mで灰黄褐色砂礫。	21S178	RH 201	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨神殿町10-2	12/20	GL-0.22mで淡黄色シルト，-0.36～-0.46mで暗褐色シルト。	21S489	RH 426	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨梁田町21-1～3	8/6	GL-0.35mで灰白色泥砂の旧耕作土，-0.47mでにぶい黄橙色泥砂，-0.55～-0.66mでにぶい泥砂の地山。	21S207	RH 198	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨夜光町5	8/10	GL-0.17mで旧耕作土，-0.3mで明黄褐色粘質土の地山，-0.39～-0.48mで灰黄褐色砂礫。	21S160	RH 200	24-1
植物園北遺跡	左・下鴨萩ケ垣内町27-5	10/7	GL-0.28～-0.53mで明黄褐色粘質土の地山。	21S350	RH 304	24-1
松ヶ崎廃寺	左・松ヶ崎御所ノ内町16の一部	5/18～6/4	GL-0.35mまで盛土。	20S771	RH 082	26-7
御土居跡	北・紫竹竹殿町9-13（4号地）	9/24	GL-0.25mまで盛土。	21S331	RH 289	16-2
御土居跡	北・紫竹竹殿町9-13（3号地）	9/24	GL-0.15mまで盛土。	21S330	RH 288	16-2
御土居跡	北・紫竹竹殿町9-12（2号地）	8/20	GL-0.4mまで盛土。	21S263	RH 218	16-2
御土居跡	北・紫竹竹殿町9-5（1号地）	820	GL-0.35～-0.5mで暗褐色粗砂混粘土質シルトの時期不明包含層。	21S258	RH 219	16-2
御土居跡	北・紫竹西栗栖野町10	10/7	GL-0.22mでにぶい黄橙色粘質土の地山。	21S344	RH 303	16-2
御土居跡	北・鷹峯旧土居町1-63	8/2	GL-0.1mまで盛土。	21S148	RH 190	16-1
御土居跡	北・鷹峯旧土居町2-31～35	7/26	巡回時掘削終了。	21S255	RH 177	16-1
御土居跡	北・衣笠北荒見町14-5	8/27	GL-0.53mまで盛土。	21S238	RH 233	16-3
上総町遺跡	北・小山上総町	10/21	紫明小学校保管の古墳～平安遺物の確認と出土推定地点周辺を踏査。**本報告29ページ。**	21A008	RH 330	17-3
雲林院跡	上・大宮通今宮御旅所西入若宮横町129他2筆	5/7・10	GL-0.4mで暗褐色泥砂，-0.6～-0.84mで明黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの近世落込（土師器，焼締陶器）。	20S636	RH 067	16-3・17-3
北山蓮台寺境内	北・紫野十二坊町33-1の一部	11/16～22	室町の井戸，墓を検出。**本報告31ページ。**	21S492	RH 375	16-3
寺ノ内旧域，上京遺跡，	上・堀川通寺之内上る2丁目下天神町650-1	8/2	GL-0.5mで明黄褐色砂礫，-0.65～-0.9mで灰黄褐色砂礫。	21S022	RH 187	17-3
相国寺旧境内，上京遺跡，	上・室町通寺之内上る下柳原南半町233	7/12・14	GL-0.38mで褐色砂泥，-0.44～-0.83mで灰黄褐色砂泥。	21S169	RH 159	17-3
上京遺跡	上・東西町374-1～芝薬師町649地先	4/8～6/15	GL-0.45～-0.7mで暗褐色泥砂。	21S010	RH 026	16-3・17-3
上京遺跡	上・新町通今出川上る元新在家町165-1	6/11・15	GL-2.35mまで盛土。	20S779	RH 117	17-3
上京遺跡	上・今出川通小川西入飛鳥井町271	5/14・19	GL-1.09～-1.27mで黒褐色シルト。	20S649	RH 079	17-3
上京遺跡	上・烏丸通今出川下る観三橘町563-1，武者小路通室町東入梅屋町468-2	4/5	GL-0.8mまで盛土。	20S759	RH 008	17-3
上京遺跡	上・大宮通一条上る西入栄町657，659	10/8	GL-0.35mまで盛土。	21S281	RH 305	16-3
上京遺跡	上・東堀川通一条上る竪富田町434-3，434-4	6/22・29	GL-0.88mで灰黄褐色粘質土，-1.23～-1.42mで明黄褐色砂礫の地山。	21S126	RH 137	17-3
上京遺跡	上・堅富田町434-5	6/1・2	GL-0.49mで黒褐色シルト（礫混），-0.88mで暗褐色シルト（礫混），-1.08mで暗褐色粘土質シルト（礫混）。	21S090	RH 101	17-3
上京遺跡，世尊寺跡	上・大宮通上立売下る芝大宮町20-2，22	9/17・24	GL-0.65mまで盛土。	21S239	RH 279	16-3・17-3
上京遺跡，聚楽第跡	上・一条通松屋町西入鏡石町1-9	10/29	GL-0.2mまで盛土。	21S463	RH 347	16-3
一条室町殿跡，上京遺跡	上・武者小路通室町西入武者小路町421	5/31	GL-1.22～-1.68mで黄褐色砂礫。	21S001	RH 098	17-3
一条室町殿跡，上京遺跡	上・新町通一条上る一条殿町493	9/13	GL-1.7mまで盛土。	21S060	RH 271	17-3
香隆寺跡	北・等持院東町47-7	10/4	GL-0.2mで黒褐色礫混シルトの近世包含層。	21S277	RH 300	25-2
北野遺跡	北・北野紅梅町26-1	9/28・30	GL-0.31mで暗褐色泥砂，-0.51mで褐色泥砂（砂礫多量混），-0.83～-1.14mで黄褐色シルトの地山。	21S323	RH 295	16-3・25-2
北野遺跡，北野廃寺	北・小松原南町33 地先	11/30～12/6	巡回時掘削終了。	21S467	RH 391	16-3
公家町遺跡	上・京都御苑3	10/28，11/5・8	GL-0.1mで黄褐色泥砂を切ってにぶい黄褐色泥砂（焼土少量含）の時期不明土坑，-0.15mで褐色泥砂，-0.25mで褐色泥砂（焼土多量含）を切ってオリーブ褐色泥砂の時期不明土坑，-0.4mで明黄褐色砂泥の時期不明整地層，-0.5～-0.7mで明黄褐色シルトの時期不明整地層。	20S107	RH 344	17-3

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
公家町遺跡	上・京都御苑3	10/27～11/8	GL-2.43mまで盛土。	21S260	RH 341	17-3
公家町遺跡	上・寺町通石薬師下る西側染殿町658（市立京極小学校）	11/5	GL-1.4mまで盛土。	20 S 654	RH 361	17-3

北白川地区（KS）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
沖殿町遺跡	左・修学院沖殿町1	12/2	GL-0.8mまで盛土。	21S396	KS 397	27-2
名勝曼殊院書院庭園	左・一乗寺竹ノ内町42	12/2	GL-0.68mまで盛土。	03N054	KS 398	27-2
一乗寺松田町遺跡	左・一乗寺里ノ西町35	7/5～19	GL-0.8～-1.05mで褐色シルトの地山。	21S058	KS 153	27-3
北白川廃寺，上終町遺跡	左・北白川東瀬ノ内町25-2	8/19	GL-0.27mまで盛土。	21S208	KS 214	22
小倉町別当町遺跡	左・北白川別当町3-3	8/17	GL-0.52～-0.88mで黒褐色粗砂。	21S308	KS 212	22
追分町古墳群，北白川追分町縄文遺跡，北白川追分町遺跡，吉田上大路町遺跡	左・北白川西町82-6，85-7，85-8，85-9，85-10	5/11	GL-0.46mまで盛土。	20S477	KS 071	22
北白川追分町遺跡，吉田上大路町遺跡，北白川追分町縄文遺跡	左・北白川追分町2-4	4/22	GL-0.26mでオリーブ褐色泥砂の近世包含層，-0.73mで明黄褐色粗砂，-1.37～-1.58mで黒色細砂の弥生包含層（弥生土器）。	20S756	KS 050	22
北白川追分町遺跡，北白川追分町縄文遺跡，吉田上大路町遺跡	左・北白川追分町3-1～3	6/14・16・17	GL-0.67～-1.6mで明黄褐色粗砂の地山を切ってにぶい黄褐色粗砂の時期不明東西溝。	21S020	KS 121	22
吉田本町遺跡	左・吉田本町 地先	9/27，10/26	GL-0.6mで灰黄褐色砂礫。	21S317	KS 291	22
吉田二本松町遺跡	左・吉田二本松町 地先	9/28，10/22	GL-0.7mでにぶい黄褐色粗砂，-0.9～-1.05mで黄褐色粗砂。	21S316	KS 294	22
白河北殿跡，白河街区跡	左・東竹屋町通川端東入東竹屋町60-57	7/12	GL-0.25mまで盛土。	20R797	KS 160	22
白河南殿跡，白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町44-3	5/13，6/18・29，7/1	№1；明治の琵琶湖疎水に関連する水路を確認。№3；GL-0.97mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層，-1.35～-1.41mで明黄褐色砂礫の地山。	19R760	KS 077	22
白河南殿跡，白河街区跡	左・秋築町 地先	4/5・6	巡回時掘削終了。	20R728	KS 012	22
得長寿院跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎徳成町15-13	7/1	GL-0.41～-0.63mで黒褐色砂泥の旧耕作土。	21R145	KS 147	22
法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎東天王町1～岡崎天王町62-1 地先	5/27・28，6/1～29，7/5～16	№2；GL-0.5mで灰黄褐色泥砂，-0.75～-1.0mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層（土師器皿）。№7；GL-0.35mでにぶい黄褐色粗砂～粗砂混シルト，-0.5mでにぶい黄褐色礫粗砂，-0.65～-0.75mで灰黄褐色細砂混シルトの時期不明包含層。	21R082	KS 094	22
法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町 地先	7/6	巡回時掘削終了。	21R183	KS 155	22
円勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎最勝寺町 地先	10/1・5・15	GL-0.7～-0.8mで暗褐色粗砂混シルト。	21R315	KS 297	22
白河街区跡	左・岡崎天王町26，26-5	9/1・2	GL-0.08～-0.6mで暗オリーブ褐色粗砂混シルトの近世包含層。	21S261	KS 245	22
白河街区跡，岡崎遺跡	左・聖護院円頓美町46-2	11/16・18	GL-0.7mまで盛土。	21S351	KS 374	22
白河街区跡，岡崎遺跡	左・岡崎徳成町18-9	11/26	GL-0.15mまで盛土。	21S524	KS 389	22
法成寺跡，御土居跡	上・梶井町他 地内	8/10～12/24	№3；GL-0.4mで灰黄褐色砂質シルト（礫混），-0.7mで灰黄褐色シルト（粗砂混），-1.28～-1.5mでにぶい赤褐色粗砂（礫混）～シルトの時期不明焼土層。№5；GL-0.45mで黒褐色シルト（粗砂混）の時期不明整地層，-0.6～-0.9mで暗褐色粗砂～シルトの近世近代包含層。	20S777	KS 203	27-5
如意寺跡	左・鹿ケ谷大黒谷町	4/1	寄付受納品の採集地現地確認。**本報告37ページ。**	21A001	KS 002	27-4

洛東地区（RT）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
法興院跡，寺町旧域，御土居跡	中・河原町通二条上る清水町346他	8/31	巡回時掘削終了。	21S283	RT 242	27-7
御土居跡	中・寺町通御池上る上本能寺前町488	9/7	GL-0.36mまで盛土。	21S262	RT 254	27-7
名勝円山公園	東・祇園町北側 地先	12/2	巡回時掘削終了。	3C082	RT 399	23
六波羅政庁跡	東・弓矢町 地内	7/26～9/9	GL-0.75mまで盛土。	21S194	RT 180	23
六波羅政庁跡	東・鞘町通七条上る下堀詰町242	8/10	GL-0.5mまで盛土。	21S139	RT 199	23
六波羅政庁跡，法住寺殿跡	東・茶屋町527	10/12～12/1	GL-0.35～-0.65mで橙色粗砂の地山。	21S438	RT 306	23
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り642の一部，654，657	11/18	GL-0.35mで褐色砂礫の地山。	21S413	RT 378	23
法住寺殿跡	東・今熊野椥ノ森町42	10/18	GL-0.24mで褐色微砂混粘土質シルトの時期不明整地層，-0.3mで灰黄色～にぶい黄色砂礫と粘土互層の時期不明造成土，-0.64～-0.85mでにぶい黄色微砂混粘土質シルトの地山。	21S294	RT 319	23
法住寺殿跡	東・今熊野宝蔵町43，44-6	5/6・10・14	GL-0.42mでにぶい黄橙色細砂の地山，-0.64mで灰黄褐色泥砂（にぶい黄橙色細砂混），-0.89～-1.07mで褐灰色細砂。	20S497	RT 063	23
法住寺殿跡	東・今熊野池田町57-6	8/23	GL-0.32mでオリーブ褐色礫混シルトと黄褐色礫混シルトの近現代整地層，-0.44～-1.0mでオリーブ褐色礫混シルト。	21S035	RT 217	23
法性寺跡	東・本町15-789	9/15	GL-1.4mまで盛土。	21S064	RT 277	23
元慶寺跡	山・北花山寺内町17-6，17-12	11/30	GL-0.3mまで盛土。	21S522	RT 393	27-8
安祥寺下寺跡	山・御陵平林町22	10/18～12/15	近世の基壇整地層，暗渠を検出。**本報告39ページ。**	21S151	RT 320	28-1
四手井城跡	山・厨子奥矢倉町6-24	6/18	GL-0.2mまで盛土。	21S142	RT 133	25-4
山科本願寺跡（寺内町遺跡），史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡	山・西野山階町33-2	10/20	GL-0.6mまで盛土。	3C058	RT 329	25-4
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野山階町11-2	9/13	GL-0.26mで灰白色砂泥，-0.45mでにぶい黄褐色シルト，-0.78～-1.38mで暗褐色砂礫の地山。	20S644	RT 270	25-4
中臣遺跡	山・東野舞台町59-9，61-9，110-16	6/28・29	GL-0.55mまで盛土。	21N159	RT 144	25-3
中臣遺跡	山・東野森野町23-51	5/12・25	GL-0.36～-0.5mで明黄褐色泥砂の地山。	20N795	RT 073	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町73-1，73-8，117	7/13	GL-0.5mまで盛土。	21N215	RT 162	25-3
中臣遺跡	山・東野舞台町97-33，93-13，96-23	8/3	GL-0.35mまで盛土。	21N280	RT 192	25-3
中臣遺跡	山・栗栖野打越町23	6/14	GL-0.25mまで盛土。	21N007	RT 119	25-3
中臣遺跡	山・勧修寺西金ケ崎 地内	5/18	巡回時掘削終了。	20N761	RT 084	25-3
中臣遺跡	山・勧修寺西金ケ崎429	9/10	GL-0.2mまで盛土。	21N265	RT 260	25-3
中臣遺跡	山・勧修寺東金ケ崎町94	6/14	GL-0.45mまで盛土。	21N171	RT 120	25-3
史跡隨心院境内	山・小野御霊町35	4/6	GL±0.0～-0.3mで総門横袖塀下の石積み。	2N102	RT 020	26-1

伏見・醍醐地区（FD）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
番神山古墳	伏・深草極楽寺町72の一部（B区画）	9/10	GL-0.45mまで盛土。	21S301	FD 262	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町72の一部（A区画）	9/10	GL-0.4mまで盛土。	21S300	FD 261	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町 地先	5/10	GL-0.1mで明黄褐色泥砂の地山，-0.3～-0.4mで明黄褐色細砂。	21S059	FD 069	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町68-1	12/7	GL-0.1mまで盛土。	21S473	FD 404	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町 地内	4/6	巡回時掘削終了。	20S729	FD 016	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町72の一部（C区画）	9/10	GL-0.2mまで盛土。	21S302	FD 263	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町72の一部（D区画）	10/12	GL-0.1～-0.35mで黄褐色微砂混粘土質シルトの地山を切って暗褐色微砂粘質シルトの時期不明溝状遺構。	21S303	FD 309	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町72の一部（H区画）	10/12	GL-0.1～-0.4mで暗褐色微砂混シルト。	21S307	FD 313	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町72の一部（G区画）	10/12	GL-0.3mまで盛土。	21S306	FD 312	28-5
番神山古墳	伏・深草極楽寺町72の一部（E区画）	10/12	GL-0.1～-0.4mで黄褐色微砂混じり粘土質シルトの地山を切って暗褐色微砂混シルトの時期不明落込。	21S304	FD 310	28-5

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
番神山古墳	伏・深草極楽寺町72の一部（F区画）	10/12	GL-0.2mまで盛土。	21S305	FD 311	28-5
深草坊町遺跡，深草寺跡，貞観寺跡，安楽行院跡	伏・深草僧坊町46-1，46-8，51，54-3，56-3	6/17・18・22	GL-0.65mで灰黄褐色粘質シルト，-0.72mで明黄褐色粘質シルトの地山，-0.89～-1.14mで明黄褐色粘質細砂。	20S691	FD 129	28-5
伏見城跡	伏・深草中ノ島町41-10～46-9 地先	5/19～9/10	GL-0.45～-0.9mで橙色シルト(粘性有）。	21F042	FD 086	14
伏見城跡	伏・深草中ノ島町46	9/21	GL-0.4mまで盛土。	21F341	FD 281	14
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏・桃山長岡越中東町96	6/7，7/1	GL-0.37mでにぶい黄褐色泥砂，-0.54～-0.85mで明褐色砂泥の時期不明造成土。	20F806	FD 109	14
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏・桃山長岡越中東町97-3	12/27	GL-0.54～-0.99mで明褐色シルトの地山。	21F598	FD 438	14
伏見城跡，桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏・桃山町永井久太郎52-3	9/7	GL-0.35mまで盛土。	21F224	FD 255	14
伏見城跡	伏・紙子屋町554の一部，553-1の一部	5/10～20	GL-1.42～-1.79mで明黄褐色シルト（礫含）の地山。	20F493	FD 068	14
伏見城跡，板橋廃寺	伏・御駕籠町97	11/22	GL-0.95mまで盛土。	20F237	FD 377	14
伏見城跡	伏・桃山町島津58-33	8/27，9/1	GL-0.69mでオリーブ褐色粗砂混粘土質シルト，-1.32mで暗灰黄色粗砂混粘土質シルト，-1.94～-2.16mで黄褐色粗砂混シルトと褐色シルトブロックの混合層。	21F098	FD 234	14
伏見城跡	伏・桃山町島津58-26	10/4	GL-0.25mで黄褐色砂礫～礫混砂質シルト。	21F319	FD 302	14・15
伏見城跡	伏・桃山町島津47-7	12/10	GL-0.4mまで盛土。	21F495	FD 411	14
伏見城跡	伏・桃山町島津53-6，55-3	6/10	GL-0.3mまで盛土。	21F011	FD 116	14
伏見城跡	伏・桃山町島津58-49，58-56，29-7，29-12	11/24	GL-0.67～-0.82mで明黄褐色粗砂。	21F414	FD 384	14・15
伏見城跡	伏・桃山町三河55-2	7/20	GL-0.47mまで盛土。	21F193	FD 173	14
伏見城跡	伏・桃山町三河 地先	6/11～21	巡回時掘削終了。	20F576	FD 118	14・15
伏見城跡	伏・西町389-2	11/16	GL-0.8mまで盛土。	21F535	FD 373	14
伏見城跡	伏・今町677-1，677-2	10/29	GL-0.14mで灰褐色泥砂，-0.35～-0.64mでにぶい橙色シルト。	21F460	FD 349	14
伏見城跡	伏・東大手町782，783	6/3・17	GL-0.75mまで盛土。	20F805	FD 108	14
伏見城跡	伏・道阿弥町他 地内	6/18	GL-1.2mまで盛土。	20F445	FD 132	14
伏見城跡	伏・魚屋町572-3，572-1の一部	11/4	GL-0.53～-0.63mで明黄褐色シルトの地山。	21F448	FD 359	14
伏見城跡	伏・塩屋町220，247-5	10/12	GL-0.3mで橙色砂礫の時期不明造成土。	21F266	FD 308	14
三淵氏伏見城跡，伏見城跡	伏・桃山町松平筑前町10-18，10-20	11/25・30	GL-0.72mで褐色粘質土の時期不明造成土，-1.04mで黄橙色シルトの地山，-1.27～-1.46mで浅黄橙色砂礫。	21F325	FD 387	14
伏見城跡	伏・桃山鍋島 地先	11/30，12/7・14	GL-0.45mで褐色砂泥，-0.75mで黄褐色砂泥の時期不明造成土，-1.0m～-1.25mで褐色粗砂の時期不明造成土。	21EE	FD 392	14
伏見城跡，指月城跡	伏・桃山町泰長老84-5	7/6	GL-0.4mまで盛土。	20F678	FD 154	14
伏見城跡，指月城跡	伏・桃山町 桃山国有林	9/13・14	GL±0.0～-2.02mで明黄褐色砂礫。	21F247	FD 268	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷六躰町106-4	11/10	GL-0.2～-0.3mで黄褐色シルトの時期不明造成土。	21F447	FD 367	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷六躰町106-3	11/26	GL-0.2mまで盛土。	21F468	FD 388	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町611，612	6/10・11	GL-0.7mまで盛土。	21F067	FD 115	15
伏見城跡	伏・桃山町古城山	8/25・26	GL-0.5mまで盛土。	21F327	FD 231	15
伏見城跡，木幡ノ関跡	伏・桃山紅雪町91-1，91-4	4/7	GL-0.25～-0.3mで橙色砂質土。	20F748	FD 021	15
伏見城跡	伏・桃山町丹後 地先	10/4～11/22	GL-1.05mまで盛土。	21F141	FD 299	15
太閤堤（小倉堤、槙島堤）	伏・向島善阿弥町2-3（市立向島小学校）	12/15	GL-0.55mまで盛土。	21S550	FD 421	14
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町9-3，8-2	7/2	GL-0.3mまで盛土。	3N009	FD 150	26-1
法界寺旧境内	伏・日野畑出町3	12/20	GL-0.11mでにぶい黄褐色泥土（礫混），-0.54～-0.63mで明黄褐色シルト。	21S365	FD 427	28-6

鳥羽地区（TB）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町22	6/14	GL-0.25mまで盛土。	17H809	TB 124	28-7
唐橋遺跡	南・吉祥院九条町39-4，40	11/4・9	GL-1.17mで黄褐色砂礫，-1.36mで暗灰黄色泥砂，-1.51mでオリーブ褐色砂，-1.61m～-2.93mで赤褐色砂礫の地山。	21S249	TB 358	28-7
唐橋遺跡	南・吉祥院定成町5	12/21	GL-0.4mでオリーブ灰色シルト，-0.7mでオリーブ灰色シルト，-0.94mでオリーブ灰色微砂，-1.1mでオリーブ灰色粘質土，-1.42～-1.9mで黄褐色砂礫の地山。	21S596	TB 429	28-7

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
久我殿遺跡	伏・久我本町1-5の一部	12/6	GL-0.2mまで盛土。	21S518	MK402	18-3・19
深草遺跡	伏・深草綿森町40-7	4/5	GL-0.4mまで盛土。	20S711	TB 010	28-5
若宮八幡宮境内，鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町61，63，64	7/20	GL-0.3mまで盛土。	21T167	TB 163	24-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田田中殿町91-1	4/5	GL-0.3mまで盛土。	20T758	TB 011	24-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町 地先	9/21	GL-0.8mまで盛土。	21T253	TB 284	24-2
鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡，竹田城跡	伏・竹田中内畑町18，19，20	10/18	GL-0.35mまで盛土。	21T458	TB 318	24-2
鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡	伏・竹田西内畑町67	7/27	GL-0.42～-0.56mで褐色泥砂。	21T111	TB 181	24-2
鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡	伏・竹田浄菩提院町31・32・33	4/2	GL-0.3mまで盛土。	20T705	TB 005	24-2
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町31	12/21	巡回時掘削終了。	21T310	TB 428	24-2
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町147	8/27	GL-0.3mまで盛土。	21T296	TB 235	24-2
鳥羽離宮跡，鳥羽遺跡	伏・中島堀端町～北端町他 地先	8/25～10/27	GL-0.55～-0.75mで暗灰黄色礫混シルト。	21T230	TB 230	24-2
淀城跡	伏・淀下津町73-1	11/2	GL-0.5mで灰褐色砂泥，-0.6～-0.96mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明造成土。	21S417	TB 356	20
淀城跡	伏・淀下津町90-1の一部，90-30	9/1	GL-0.15～-0.6mで暗褐色細砂混シルトの近世後期包含層。	21S116	TB 244	20
淀城跡	伏・淀新町124-25	7/1	GL-0.35mまで盛土。	21S023	TB 148	20
淀城跡	伏・淀新町124-28（21号地）	8/30	GL-0.25mまで盛土。	21S243	TB 240	20
淀城跡	伏・淀新町124-6	7/1	GL-0.35mまで盛土。	21S099	TB 149	20

長岡京地区（NG）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺三坊二町跡，東院跡	南・久世殿城町303-1，303-3	4/6	GL-1.05mまで盛土。	20NG415	NG 017	18-3
左京北辺四坊七町跡	南・久世築山町194-3	6/17	巡回時掘削終了。	20NG607	NG 105	18-3
左京一条三坊十五町跡	南・久世大藪町507-1（1号地）	9/9	GL-0.3mまで盛土。	21NG339	NG 258	18-3
左京一条三坊十五町跡	南・久世大藪町507-1（2号地）	9/9	GL-0.3mまで盛土。	21NG340	NG 259	18-3
左京三条四坊八・九町跡	伏・久我西出町1-15，1-16，1-17，1-18	5/20・25，6/9	GL-0.16～-0.56mで明黄褐色粘質シルトの地山。	21NG031	NG 088	19
左京三条四坊八町跡	伏・久我西出町7-13他	5/18・20・25	GL-0.97mで浅黄色シルト，-1.25mでにぶい黄色シルトの時期不明包含層，-1.43～-1.58mで灰白色シルトの地山。	19NG577	NG 083	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町532-4の一部	4/23	GL-0.34mまで盛土。	20NG727	NG 051	19
左京五条二坊十五町・三坊二町跡	伏・羽束師菱川町363-1他9筆	7/1	GL-0.57mで耕作土，-0.74mで明黄褐色シルト，-0.94～-1.4mで灰白色粘土。	21NG118	NG 146	19
左京六条四坊十六町跡	伏・羽束師古川町140-13，141-5，856	6/8	GL-0.16mまで盛土。	21NG089	NG 112	19
左京九条三坊十三町跡，淀城跡	伏・淀池上町128	9/28	GL-0.67～-1.13mで明黄褐色粗砂。	21S037	NG 293	20
左京九条三坊十三町跡，淀城跡	伏・納所町561，584	9/14	GL-0.3mまで盛土。	21NG252	NG 273	20
左京九条四坊十一町跡	伏・納所町163-7	6/14	GL-0.25mまで盛土。	21S108	NG 123	20
左京九条四坊十三町跡，淀城跡	伏・葭島渡場島町32	5/31	GL±0.0～-4.5mで砂の河川堆積。	20NG348	NG 097	20

南桂川地区（MK）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山，嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西・嵐山谷ヶ辻子町～嵐山山ノ下町 地先	6/22	巡回時掘削終了。	3C014	MK136	29-1
下津林遺跡	西・下津林佃8-1，8-6	4/16	GL-0.8mまで盛土。	20S808	MK041	18-2
樫原廃寺跡	西・樫原内垣外町4-7	10/25	GL-0.2mまで盛土。	21S401	MK336	18-1
福西古墳群	西・大枝東長町1-716（12号地）	4/8	GL-0.35mまで盛土。	20S712	MK027	29-3
福西古墳群	西・大枝東長町1-717（13号地）	8/23	GL-0.4mまで盛土。	21S184	MK223	29-3
福西古墳群	西・大枝東長町1-458，1-459，1-522	5/28	GL-1.73～-1.99mで明黄褐色砂礫の地山。	20S738	MK096	29-3

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
福西古墳群	西・大枝東長町 地先	8/24・25・27	GL-0.5mで褐灰色礫混シルト，-0.9～-1.1mで黄褐色粘土質シルトの地山。	21S311	MK226	29-3
勝持寺旧境内	西・大原野南春日町1169-2	9/13	GL-0.12mで明褐色砂泥，-0.81～-1.09mでにぶい黄褐色粘質土。	21S066	MK269	29-4
上久世遺跡	南・久世上久世町199-4の一部，200-1の一部	8/23	GL-0.25～-0.6mで黒褐色粗砂混シルト。	21S273	MK222	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世四丁目～久世殿城町地先	4/1～28，5/12・20	GL-0.3mで旧耕作土，-0.5～-1.1mで明黄褐色シルトの地山。	20S775	MK003	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目66-3，66-5	11/30	GL-0.3～-0.46mでにぶい黄褐色シルトの旧耕作土。	21S293	MK395	18-3
中久世遺跡	南・久世大薮町99-2	4/16	GL-0.45mで黄褐色粗砂混粘土質シルト。	20S810	MK043	18-3
中久世遺跡	南・久世殿城町235，236，237	12/16	巡回時掘削終了。	21S591	MK418	18-3
中久世遺跡，大藪遺跡，下久世構跡	南・久世殿城町501-2	9/2	GL-0.2mまで盛土。	21S244	MK247	18-3
中久世遺跡，大藪遺跡，下久世構跡	南・久世殿城町518	6/24	GL-0.58mまで盛土。	20S605	MK141	18-3

京北地区（UK）

遺　跡　名	所　　在　　地	調　査　日	調　査　概　要	受付番号	調査No.	図版
塔遺跡	右・京北塔町郷蔵前42-1他	6/23	GL-1.42mまで盛土。	20S760	UK 140	29-5
周山廃寺	右・京北周山町中山51他	4/21，5/26・31，6/2	GL-0.16mで明黄褐色シルト（固く締まる），-0.36mで暗灰黄色シルトを切って暗オリーブ褐色シルトの時期不明土坑，-0.48mで黒褐色シルトの奈良造成土（土師器），-0.75～-0.95mで明黄褐色粘質土（砂礫混）の地山を切って暗オリーブ褐色シルトの時期不明土坑。	17S734	UK 048	29-6
愛宕山遺跡隣接地	右・京北細野 地先	4/12・30	平安前期の礎石建物跡を確認。**本報告54ページ。**	21A002	UK 058	29-7

報　告　書　抄　録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく　れいわさんねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和3年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2022年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安宮左馬寮・朝堂院・典薬寮・豊楽院跡, 聚楽遺跡, 史跡平安宮跡(内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡)	京都市中京区西ノ京左馬寮町～聚楽廻南町地内	26100	2・A203-3・237	35度10分04秒	135度44分24秒	2020/4/9～2021/5/19		水道工事
平安京左京二条三坊八町跡, 旧二条城跡	京都市上京区新町通丸太町上る春帯町346, 347-2	26100	1	35度01分06秒	135度45分24秒	2021/8/26～8/31		事務所
平安京左京二条三坊八町跡, 旧二条城跡, 烏丸丸太町遺跡	京都市上京区室町通椹木町下る大門町258-1	26100	1・243・246	35度01分06秒	135度45分28秒	2021/5/20～5/21		共同住宅
平安京左京二条四坊七町跡, 烏丸丸太町遺跡, 京都新城跡	京都市中京区堺町通竹屋町上る橘町81の一部	26100	1	35度01分00秒	135度45分46秒	2021/2/17～2/22		共同住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安宮左馬寮・朝堂院・典薬寮・豊楽院跡, 聚楽遺跡, 史跡平安宮跡(内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡)	史跡・宮殿跡・集落跡	平安時代	盛土	凝灰岩	豊楽殿北廊に伴う盛土を確認
平安京左京二条三坊八町跡, 旧二条城跡	都城跡・城跡	平安時代後期・室町時代	土坑	土師器, 陶器	
平安京左京二条三坊八町跡, 旧二条城跡, 烏丸丸太町遺跡	都城跡・城跡・集落跡	室町時代	濠		旧二条城中濠の可能性のある溝を確認した。
平安京左京二条四坊七町跡, 烏丸丸太町遺跡, 京都新城跡	都城跡・集落跡・城跡	平安時代後期	土坑	土師器, 白磁	平安時代後期の遺構・遺物を確認した。

報　告　書　抄　録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく　れいわさんねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和３年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2022年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京左京四条二坊十三町跡（へいあんきょうさきょうしじょうにぼうじゅうさんちょうあと）	京都市中京区油小路通四条上る藤本町544, 545-3（きょうとしなかぎょうくあぶらのこうじどおりしじょうあがふじもとちょう）	26100	1	35度00分16秒	135度45分13秒	2021/6/15, 7/12～7/30		共同住宅
平安京左京六条三坊二町跡, 烏丸綾小路遺跡（へいあんきょうさきょうろくじょうさんぼうにちょうあと, からすまあやのこうじいせき）	京都市下京区新町通五条上る材木町151（きょうとししもぎょうくしんまちどおりごじょうあがざいもくちょう）	26100	1・712	34度59分48秒	135度45分23秒	2021/8/19～8/30		共同住宅
平安京右京五条三坊四町跡, 西院遺跡（へいあんきょうきょうごじょうさんぼうしじょうあと, さいいんいせき）	京都市右京区西院矢掛町5　地内（きょうとしうきょうくさいいんやかけちょう）	26100	1・930	34度59分58秒	135度43分47秒	2021/7/15～9/7		配水管布設工事
上総町遺跡（かみふさちょういせき）	京都市北区上総町（きょうとしきたくかみふさちょう）	26100	152	35度02分35秒	135度45分26秒	2021/10/21		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京四条二坊十三町跡	都城跡	平安時代後期・鎌倉時代	土坑	土師器, 陶磁器	
平安京左京六条三坊二町跡, 烏丸綾小路遺跡	都城跡・集落跡	平安時代～江戸時代	土坑, ピット	土師器, 陶磁器	
平安京右京五条三坊四町跡, 西院遺跡	都城跡・集落跡	平安時代	ピット		
上総町遺跡	集落跡	古墳～平安時代		土師器・須恵器 埴輪・鉄器	遺物は紫明小学校で保管

報　告　書　抄　録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく　れいわさんねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和３年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2022年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
北山蓮台寺境内（きたやまれんだいじけいだい）	京都市北区紫野十二坊町33-1の一部（きょうとしきたくむらさきのじゅうにぼうちょう）	26100	162	35度02分20秒	135度44分19秒	2021/11/16～11/22		庫裏・寺院
如意寺跡（にょいじあと）	京都市左京区鹿ケ谷大黒谷町（きょうとしさきょうくししがたにだいこくだにちょう）	26100	425	35度01分07秒	135度48分24秒	2021/4/1		分布調査
安祥寺下寺跡（あんしょうじしもでらあと）	京都市山科区御陵平林町22（きょうとしやましなくみささぎひらばやしちょう）	26100	617	34度59分46秒	135度48分57秒	2021/10/18～12/15		防犯カメラ設置
大宅廃寺瓦窯跡（おおやけはいじがようあと）	京都市山科区大宅向山（きょうとしやましなくおおやけむかいやま）141, 142, 143	26100	637	34度57分55秒	135度49分15秒	2020/12/7～2021/2/5		グラウンド造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北山蓮台寺境内	都城跡	室町時代～江戸時代	墓	土師器, 陶磁器	
如意寺跡	寺院跡	中世	平坦面	宝珠形金属製品	不時発見遺物の採取地点を確認した。
安祥寺下寺跡	寺院跡	不明	ピットなど	土師器, 瓦	
大宅廃寺瓦窯跡	瓦窯跡	飛鳥時代～奈良時代	灰原状落ち込み		未発見窯跡に伴う灰原の可能性がある。

報　告　書　抄　録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこく　れいわさんねんど
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和３年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾
編集機関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2022年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
鳥部(辺)野（とりべの）	京都市東山区粟田口高台寺山町（きょうとしひがしやまくあわたぐちこうだいじやまちょう）　高台寺山国有林（こうだいじやま　こくゆうりん）	26100	539	34度59分35秒	135度47分18秒	2020/12/16, 2021/1/4		土場
史跡隨心跡境内（しせきずいしんいんけいだい）	京都市山科区小野御霊町（きょうとしやましなくおのごりょうちょう）50-1, 50-2, 50-3	26100	A601	34度57分35秒	135度48分55秒	2021/1/18～25		駐車場整備
山田桜谷古墳群（やまださくらだにこふんぐん）	京都市西京区山田桜谷町（きょうとしにしきょうくやまださくらだにちょう）, 同区下山田園尾町（しもやまだそのおちょう）	26100	974	34度59分17秒	135度41分03秒	2021/2/22, 3/4		範囲確認
愛宕山遺跡隣接地（あたごやまいせきりんせつち）	京都市右京区京北細野地先（きょうとしうきょうくけいほくほそのちさき）	26100	831	35度04分20秒	135度37分59秒	2021/4/12, 4/30		分布調査

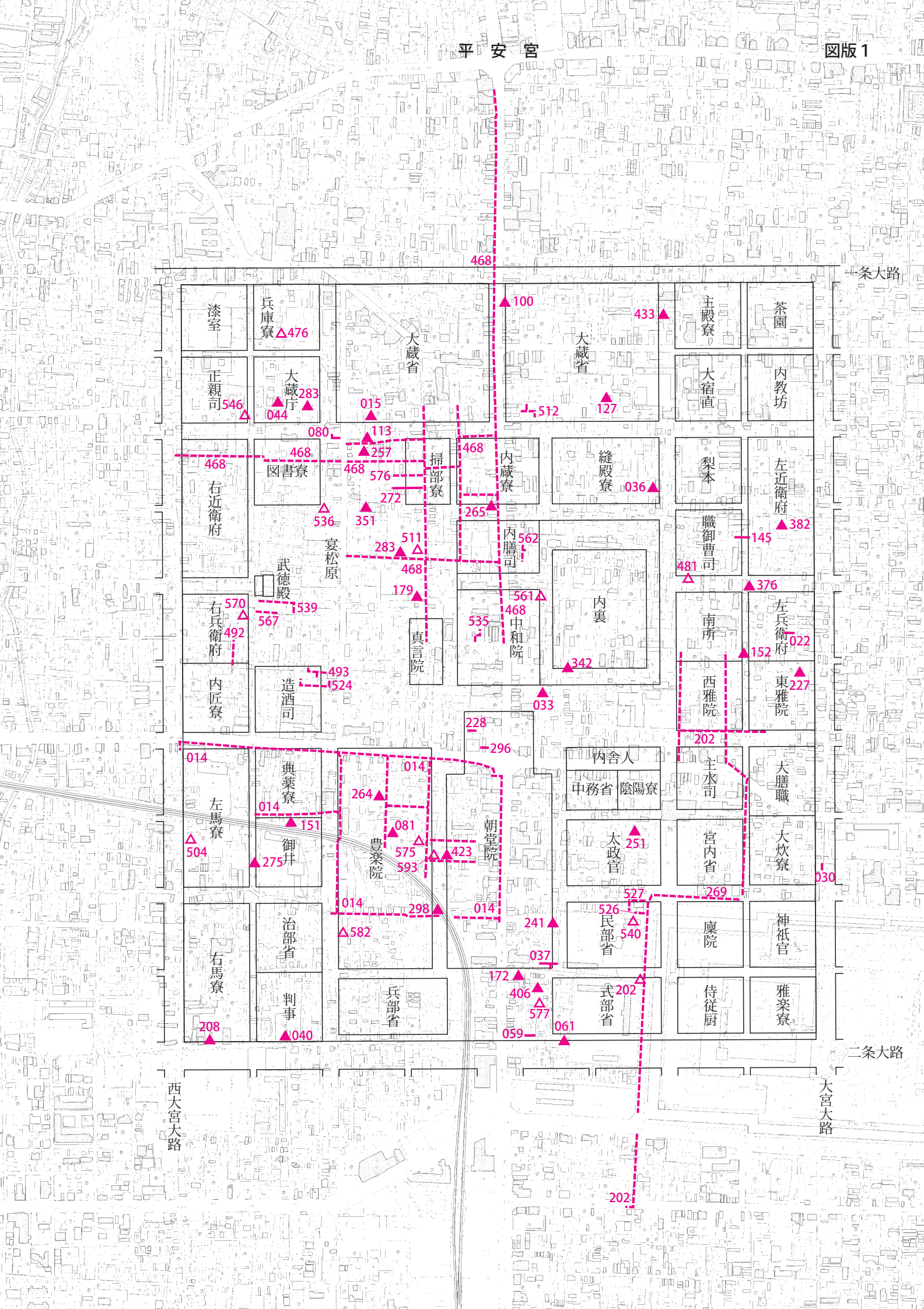
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鳥部(辺)野	墓跡	中世	墓		中世墓の可能性のあるマウンド及び石仏を確認
史跡隨心跡境内	史跡	江戸時代	土塀	土師器・陶磁器	
山田桜谷古墳群	古墳	古墳時代	墳丘		山田桜谷1号墳, 2号墳の測量を実施
愛宕山遺跡隣接地	寺院跡	平安時代	礎石建物	土師器・須恵器 緑釉陶器	平安時代前期の寺院跡

図　　版

凡　例

△ ------- 2021年１～３月期（令和２年度）詳細分布調査地点

▲ ——— 2021年４～12月期（令和３年度）詳細分布調査地点


平安宮
一条大路
二条大路
西大宮大路
大宮大路
漆室
兵庫寮
大蔵省
正親司
大蔵庁
図書寮
右近衛府
掃部寮
内蔵寮
縫殿寮
梨本
左近衛府
宴松原
武徳殿
内膳司
職御曹司
右兵衛府
真言院
中和院
内裏
南所
左兵衛府
内匠寮
造酒司
西雅院
東雅院
内舎人
中務省
陰陽寮
主水司
大膳職
典薬寮
左馬寮
御井
豊楽院
朝堂院
太政官
宮内省
大炊寮
治部省
民部省
虞院
神祇官
右馬寮
判事
兵部省
式部省
侍従厨
雅楽寮
主殿寮
茶園
大宿直
内教坊

図版２

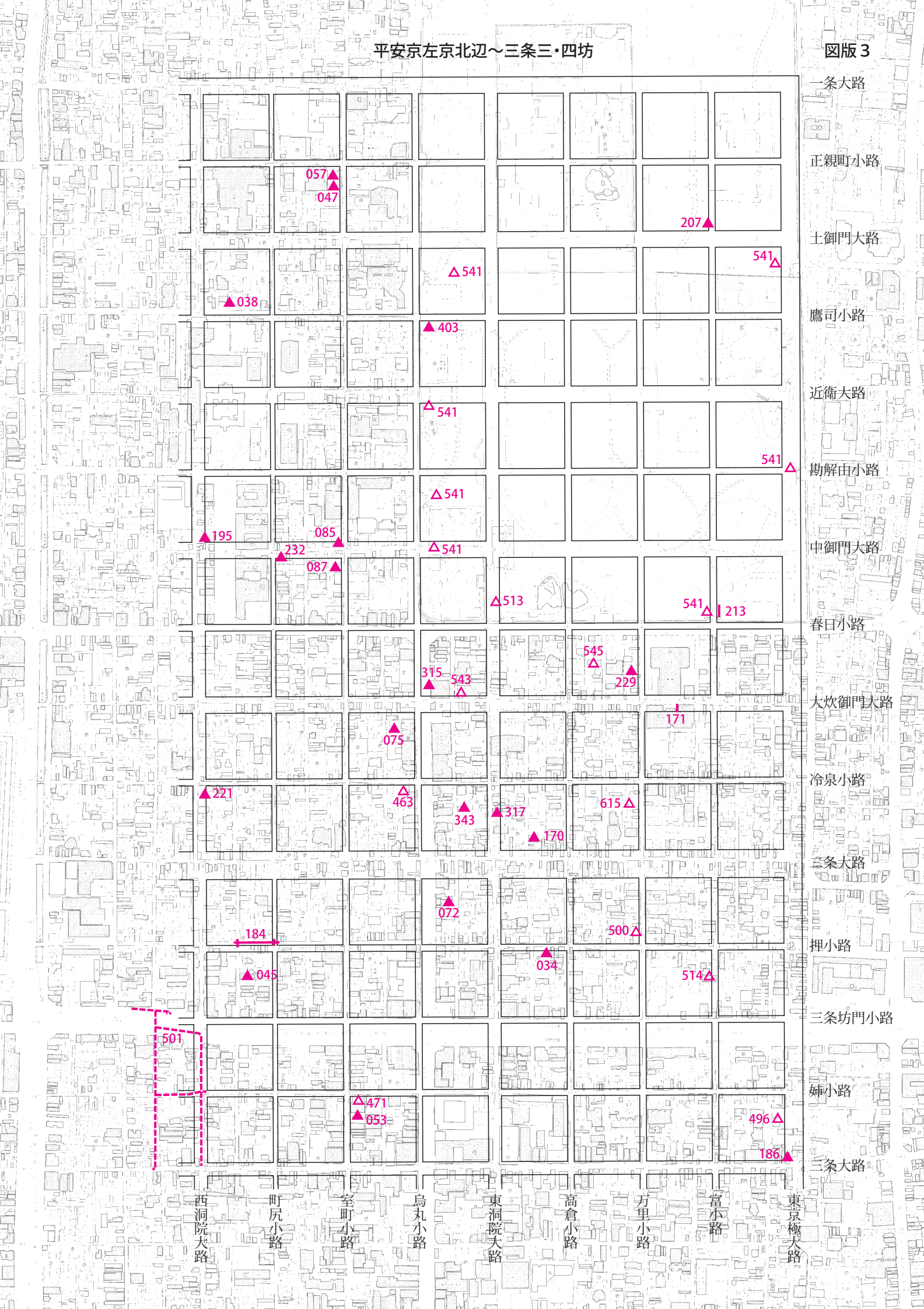
平安京左京北辺～三条一・二坊

一条大路
正親町小路
土御門大路
鷹司小路
近衛大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
朱雀大路
坊城小路
壬生大路
櫛笥小路
大宮大路
猪隈小路
堀川小路
油小路
西洞院大路

544
031
077
369
165
467
194
550
269
202
202
415
206
138
501
495

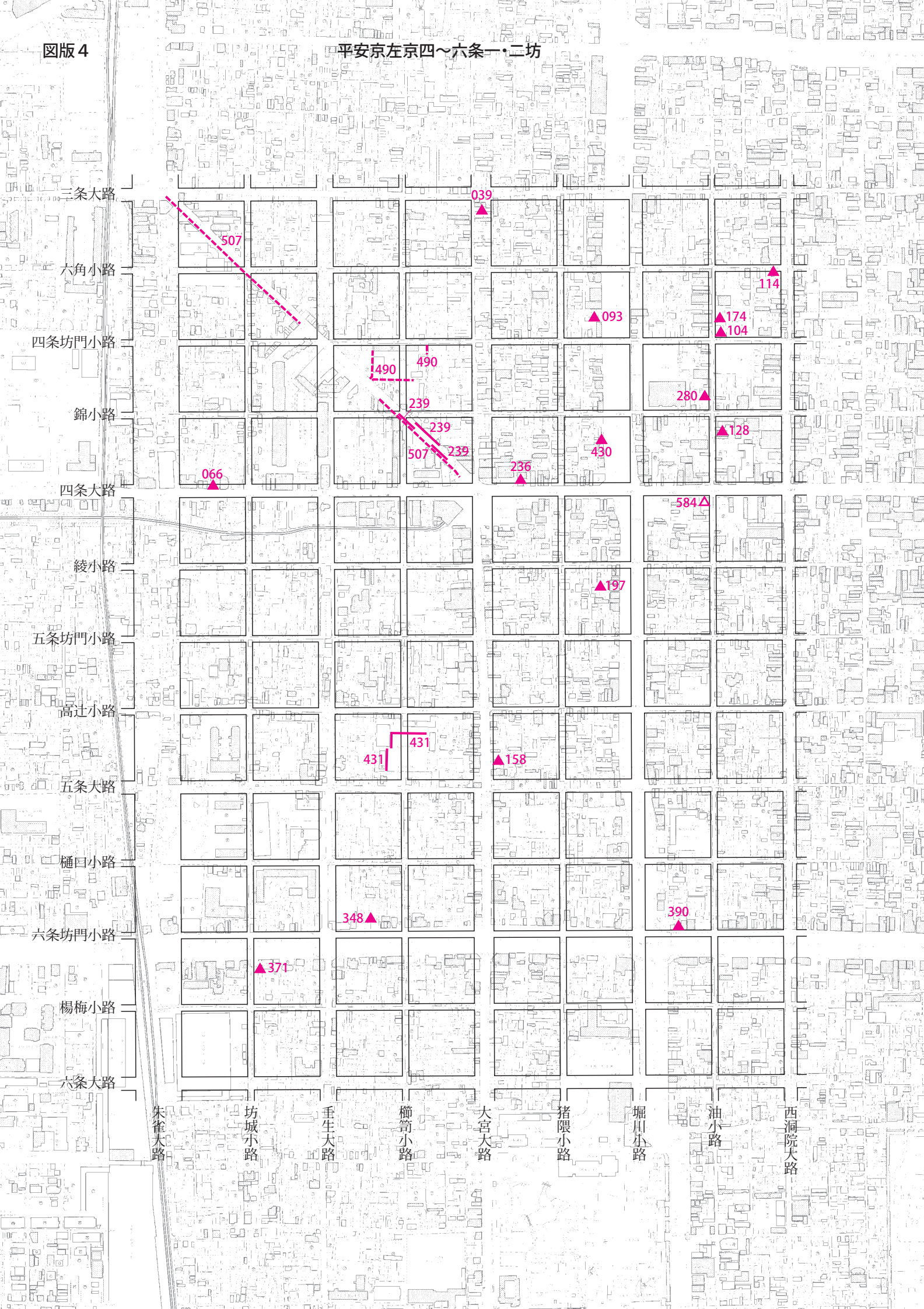
平安京左京北辺〜三条三・四坊

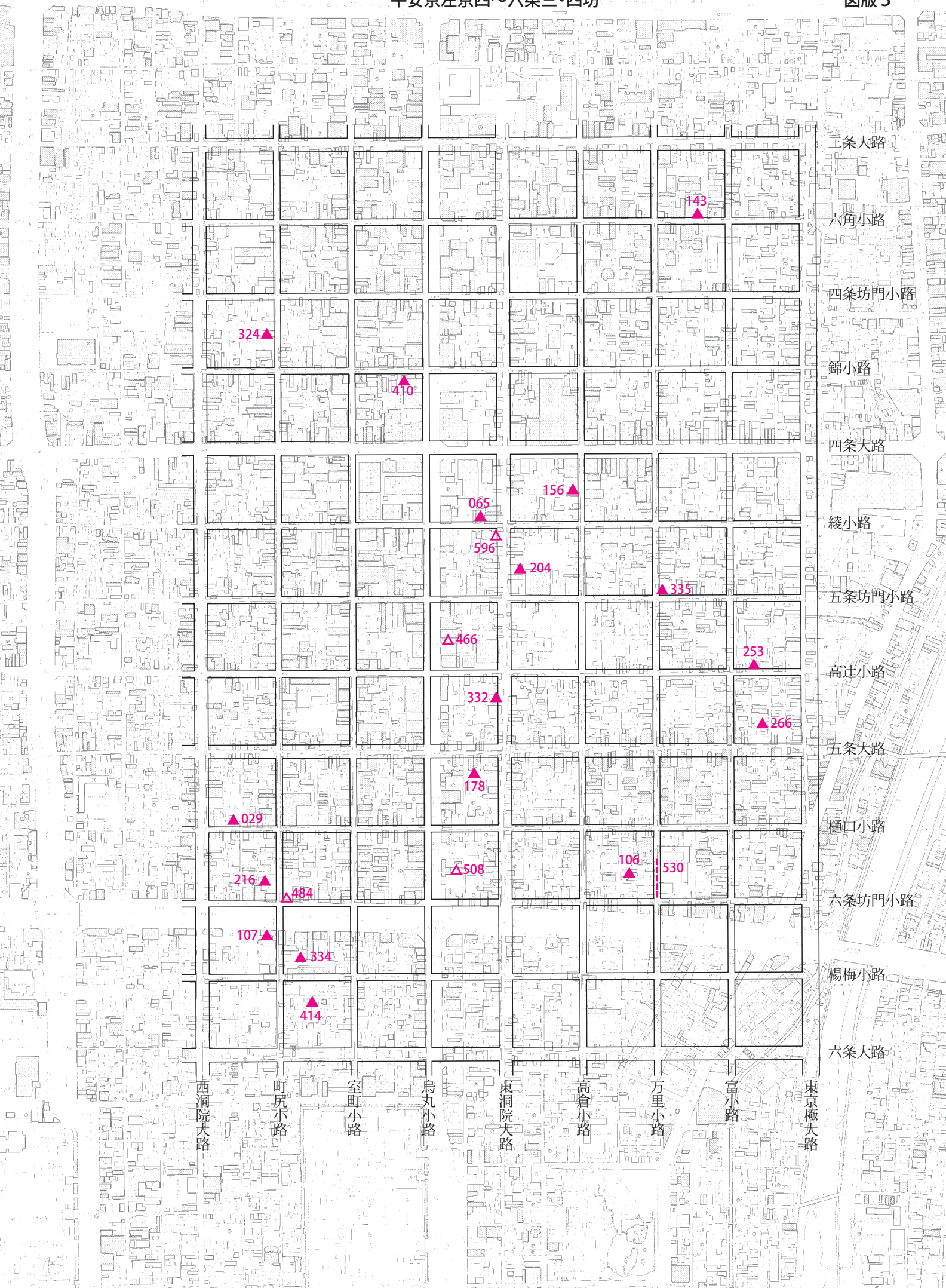
図版３



図版４

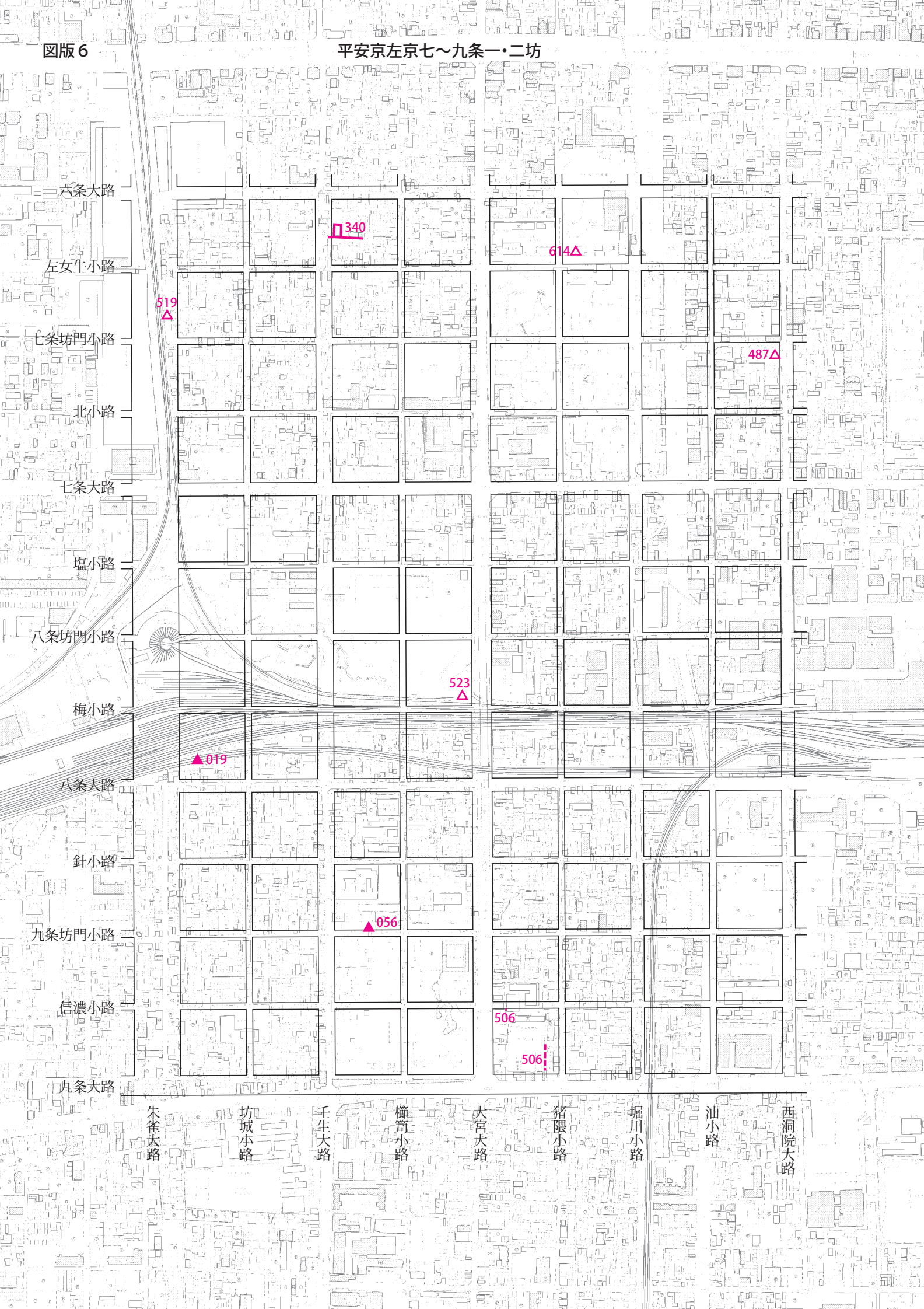
平安京左京四～六条一・二坊




三条大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
西洞院大路
町尻小路
室町小路
烏丸小路
東洞院大路
高倉小路
万里小路
富小路
東京極大路
143
324
410
156
065
596
204
335
466
253
332
266
178
029
106
530
508
216
484
107
334
414

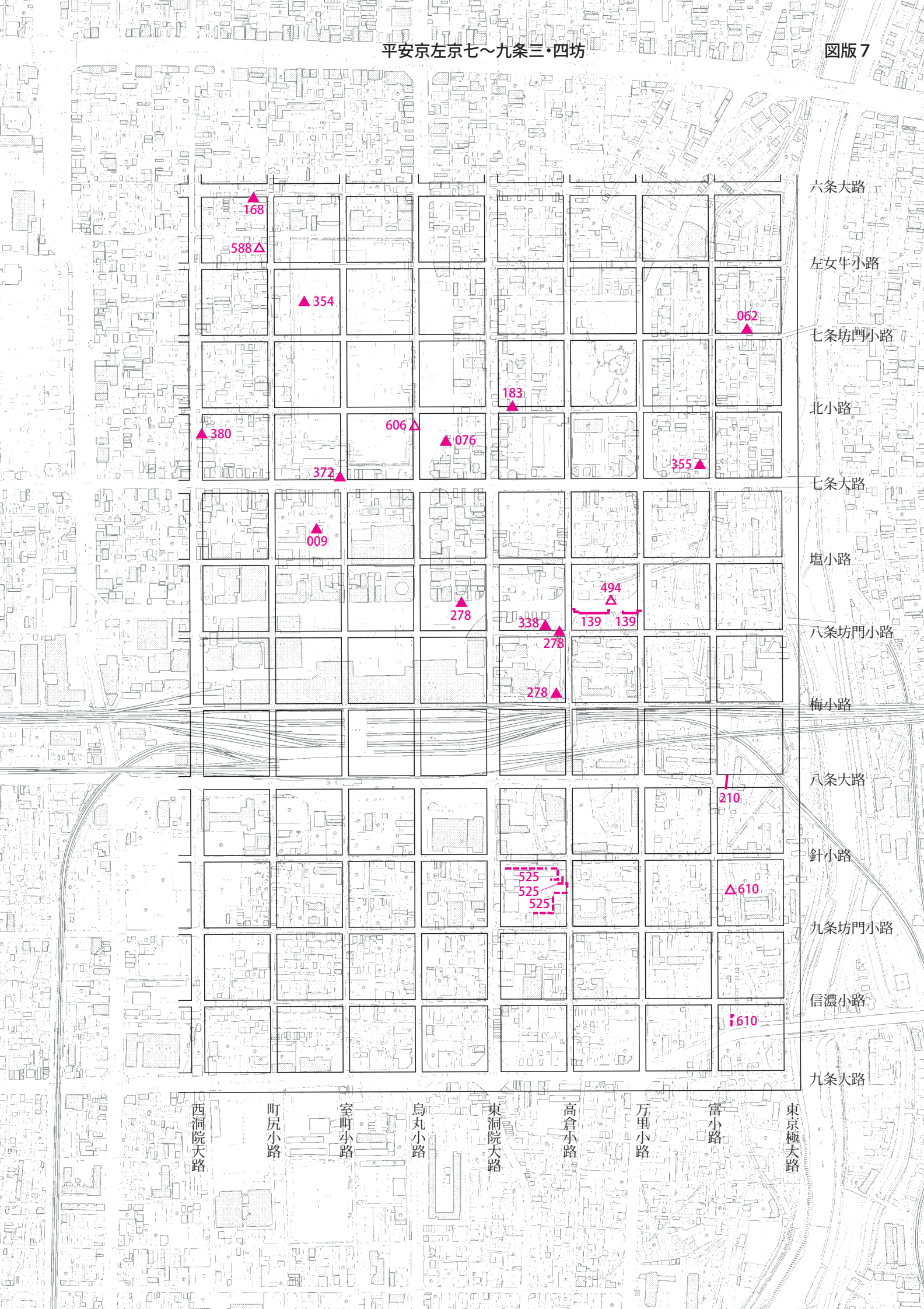
図版６

平安京左京七～九条一・二坊



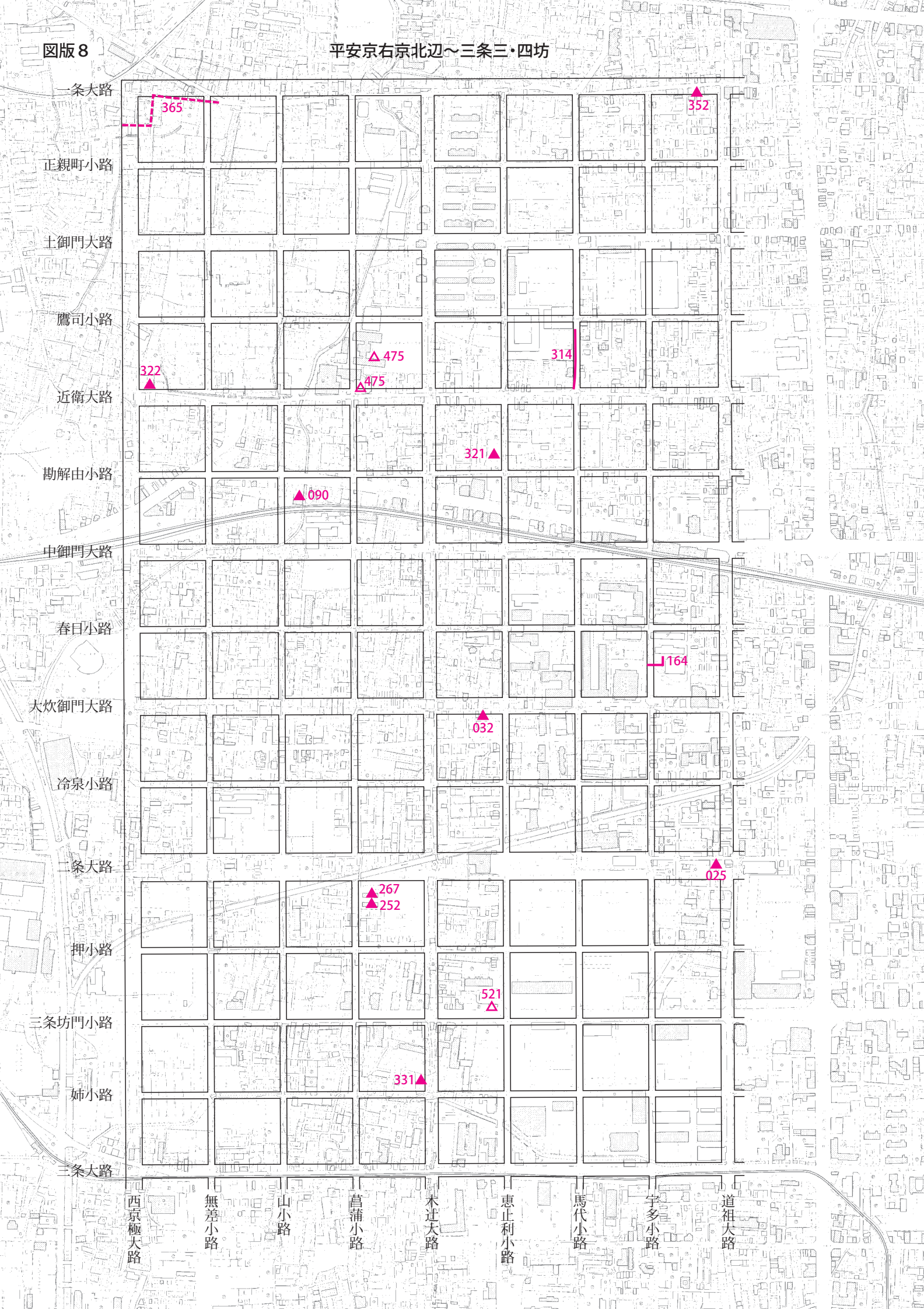
平安京左京七～九条三・四坊

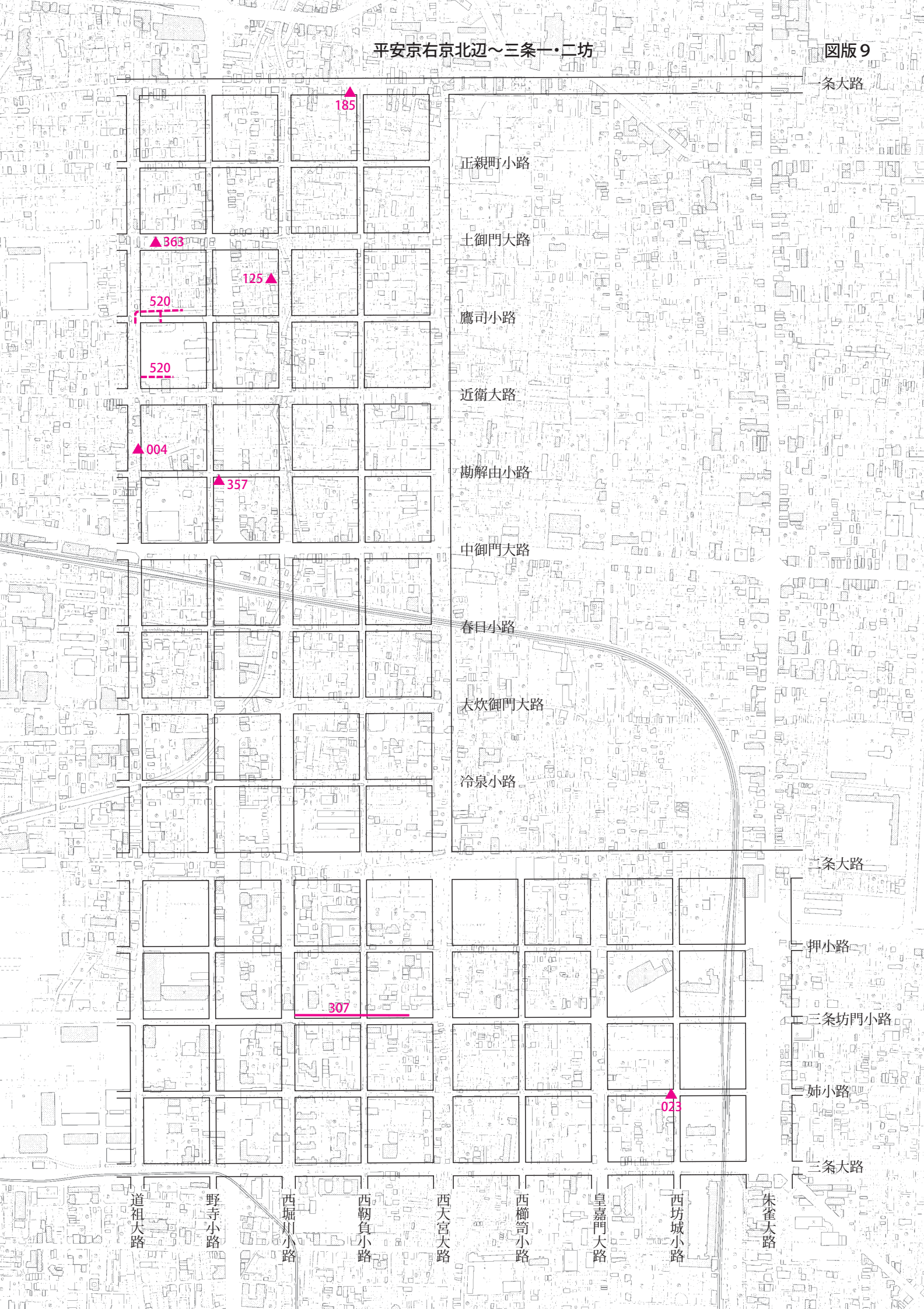
図版７



図版８

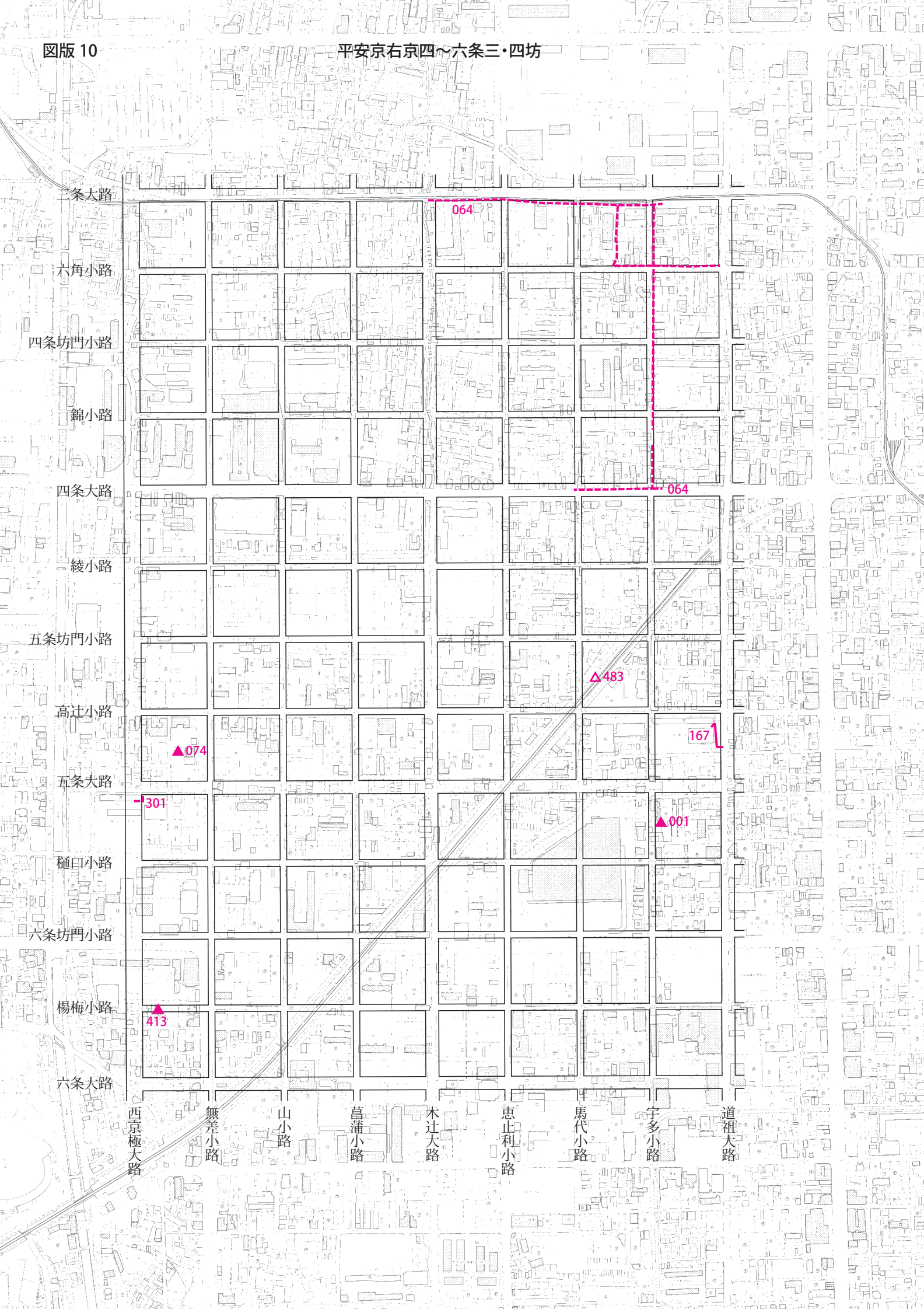
平安京右京北辺～三条三・四坊



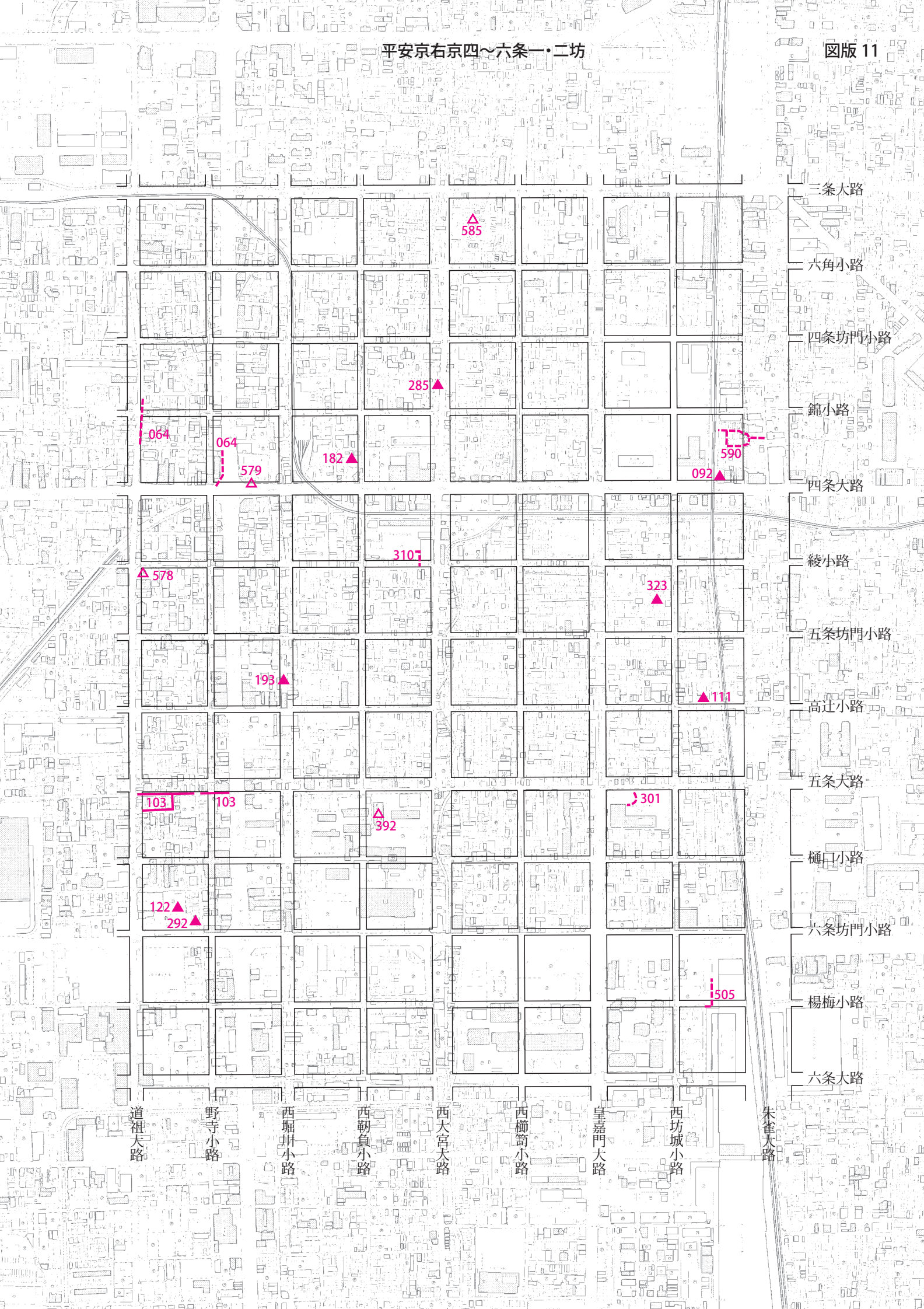

一条大路
185
正親町小路
363
土御門大路
125
520
鷹司小路
520
近衛大路
004
勘解由小路
357
中御門大路
春日小路
太炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
307
三条坊門小路
姉小路
023
三条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西朝負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

図版 10

平安京右京四～六条三・四坊

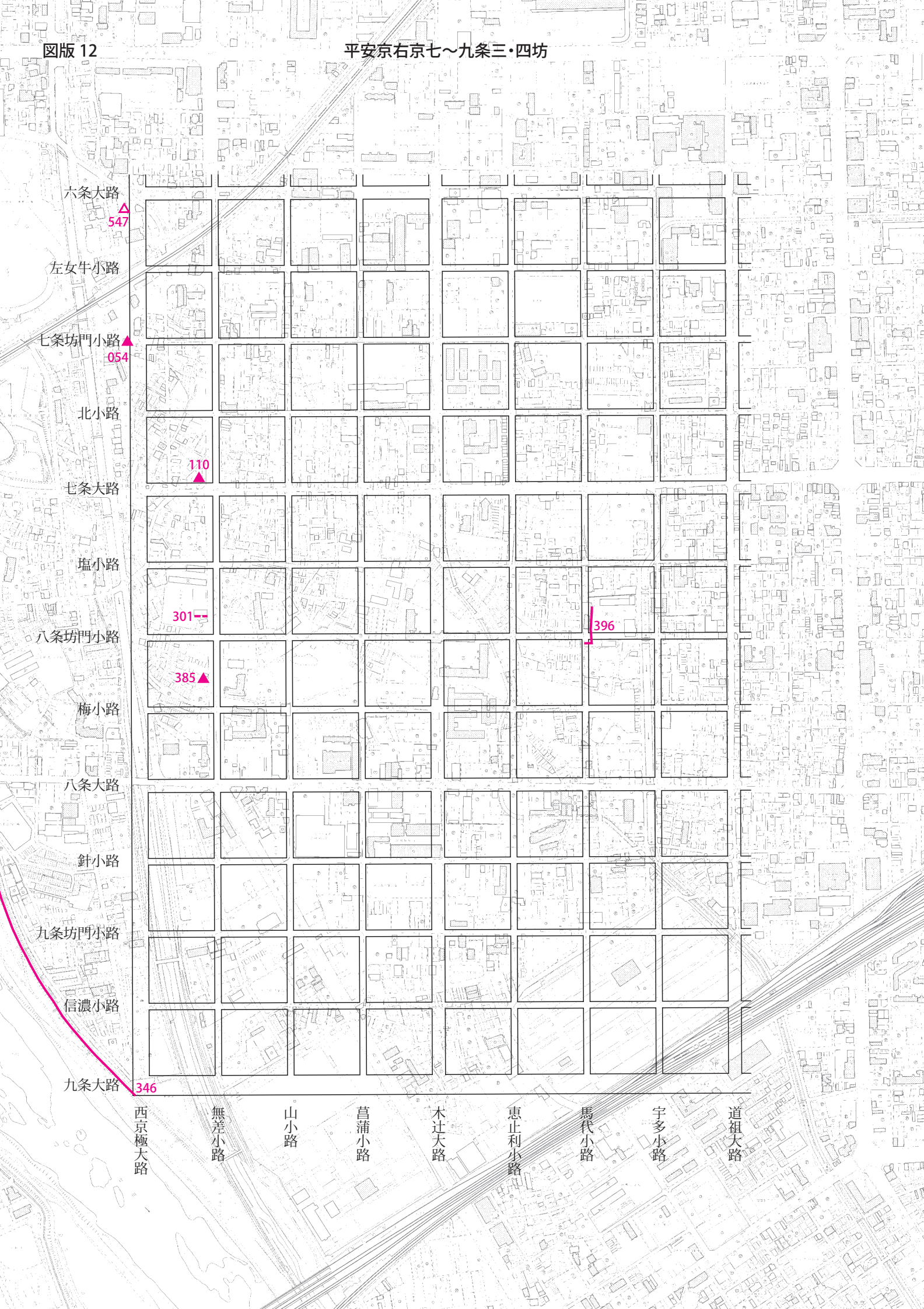


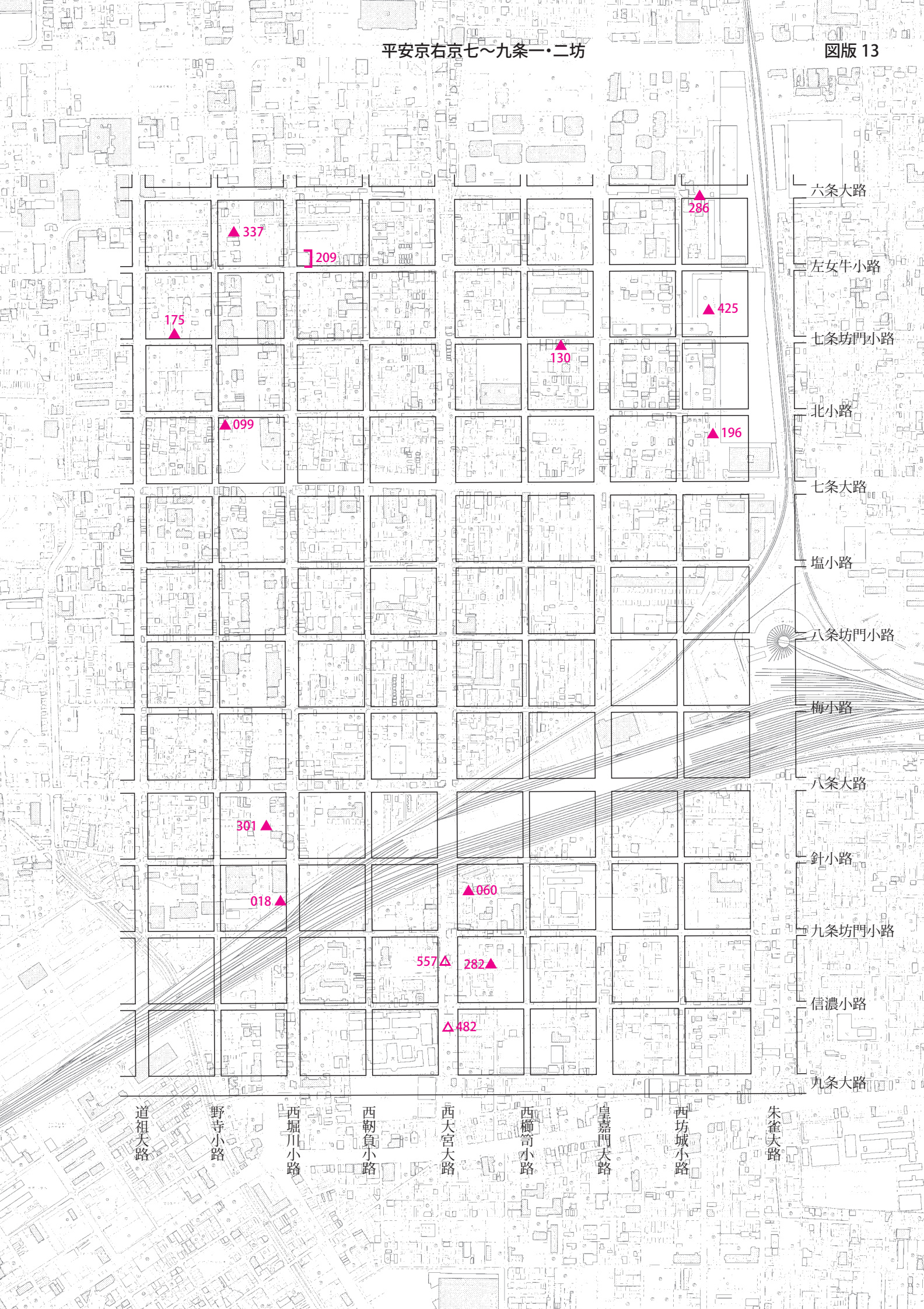
平安京右京四～六条一・二坊



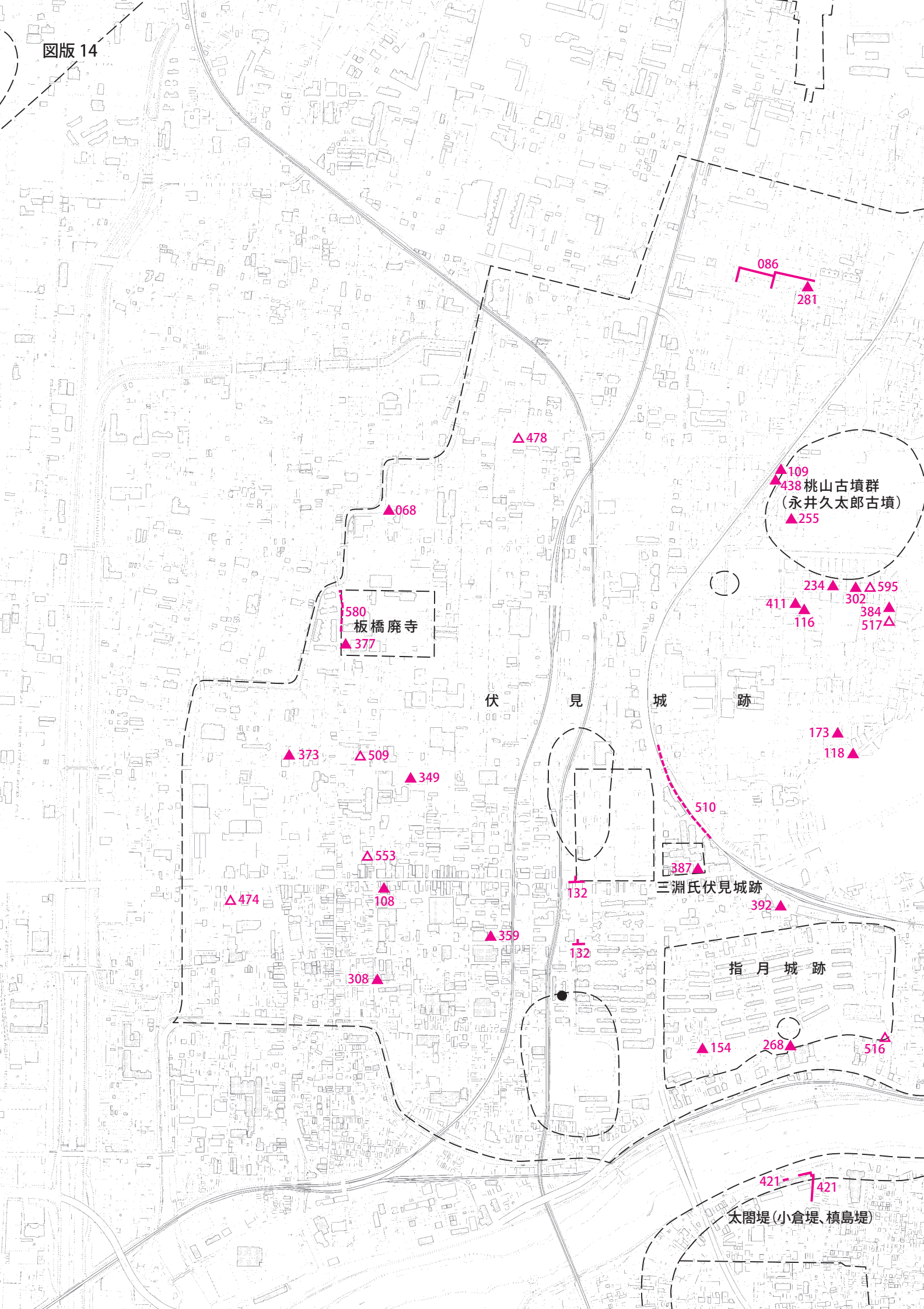
図版 12

平安京右京七～九条三・四坊

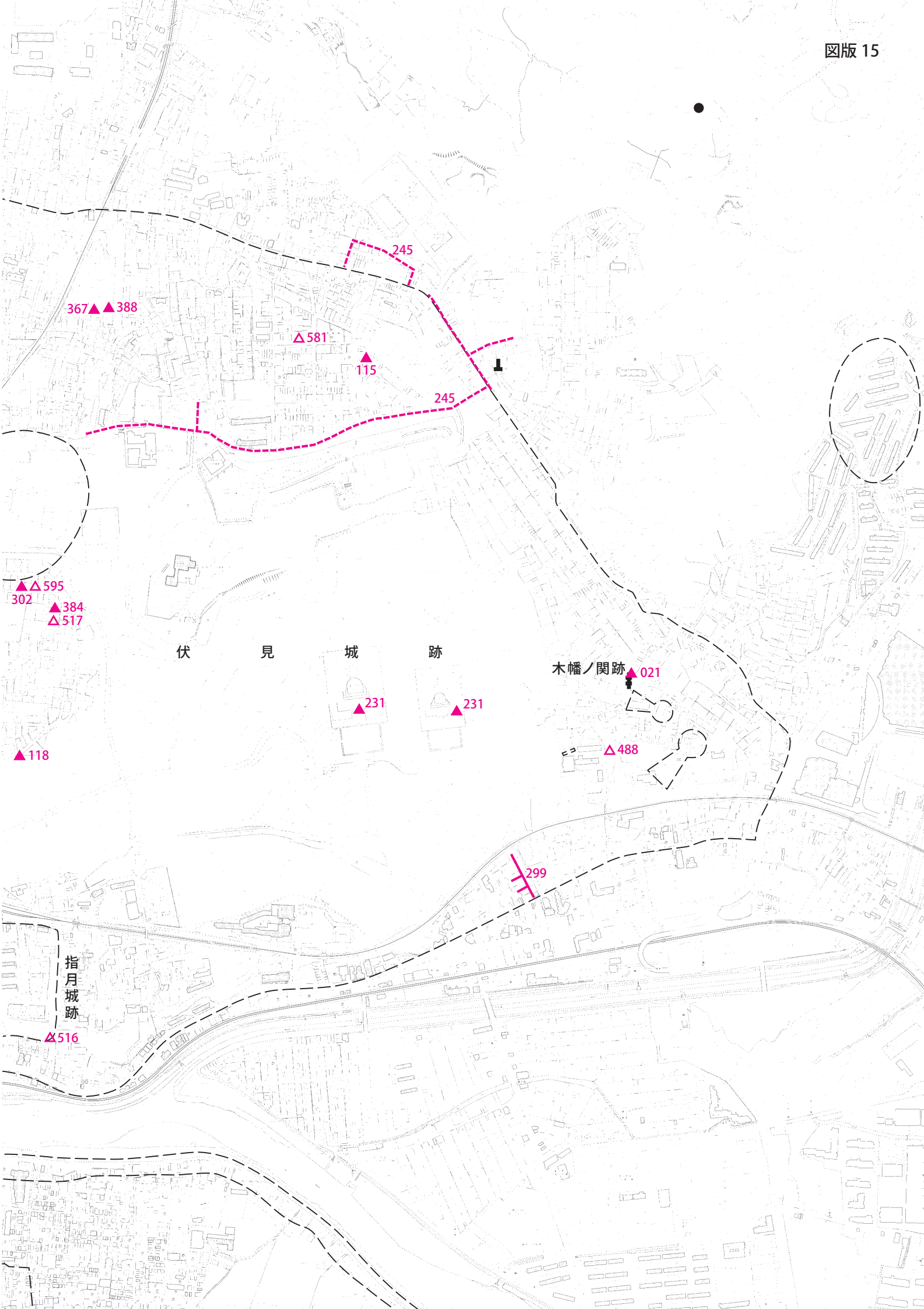



六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西靭負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路
337
209
286
175
425
130
099
196
301
018
060
557
282
482

図版 14


086
281
478
109
438 桃山古墳群
（永井久太郎古墳）
255
068
234
595
302
411
384
116
517
580
板橋廃寺
377
伏 見 城 跡
173
118
373
509
349
510
553
387
三淵氏伏見城跡
474
108
132
392
359
132
指 月 城 跡
308
154
268
516
421
421
太閤堤（小倉堤、槙島堤）

図版 15


245
367
388
581
115
245
595
302
384
517
伏見城跡
木幡ノ関跡
021
231
231
488
118
299
指月城跡
516

図版 16

1

御土居跡
190
469
御土居跡
177

2

御土居跡
219
289
218
288
216
216
216
216
216
303
西北町遺跡
560
560
560

3

大徳寺旧境内
603
602
大徳寺旧境内
568
御土居跡
233
375
雲林院跡
067
北山蓮台寺境内
086
御土居跡
574
026
北野鳥居前町遺跡
533
世尊寺跡
279
上京遺跡
北野遺跡
295
391
北野廃寺
305
聚楽第跡
607
347

図版 17

422
大深町須恵器窯跡
角社瓦窯跡
243
河上瓦窯跡
556
091
大宮北山ノ前瓦窯跡
1

史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）
429
2

330
上総町遺跡
雲林院跡
067
寺ノ内旧域
587
454
187
548
548
上御霊遺跡
159
026
上京遺跡
相国寺旧境内
293
293
279
世尊寺跡
室町殿跡（花の御所）
117
551
552
079
541
541
486
253
一条室町殿跡
098
008
344
341
541
541
361
137
101
271
公家町遺跡
3

図版 18

1

樫原廃寺跡

336

2

041

下津林遺跡

3

534 222

上久世遺跡

中久世遺跡

043

003 395

531
532

003

下久世構跡

247 141

大藪遺跡

418

418

017

東院跡

105

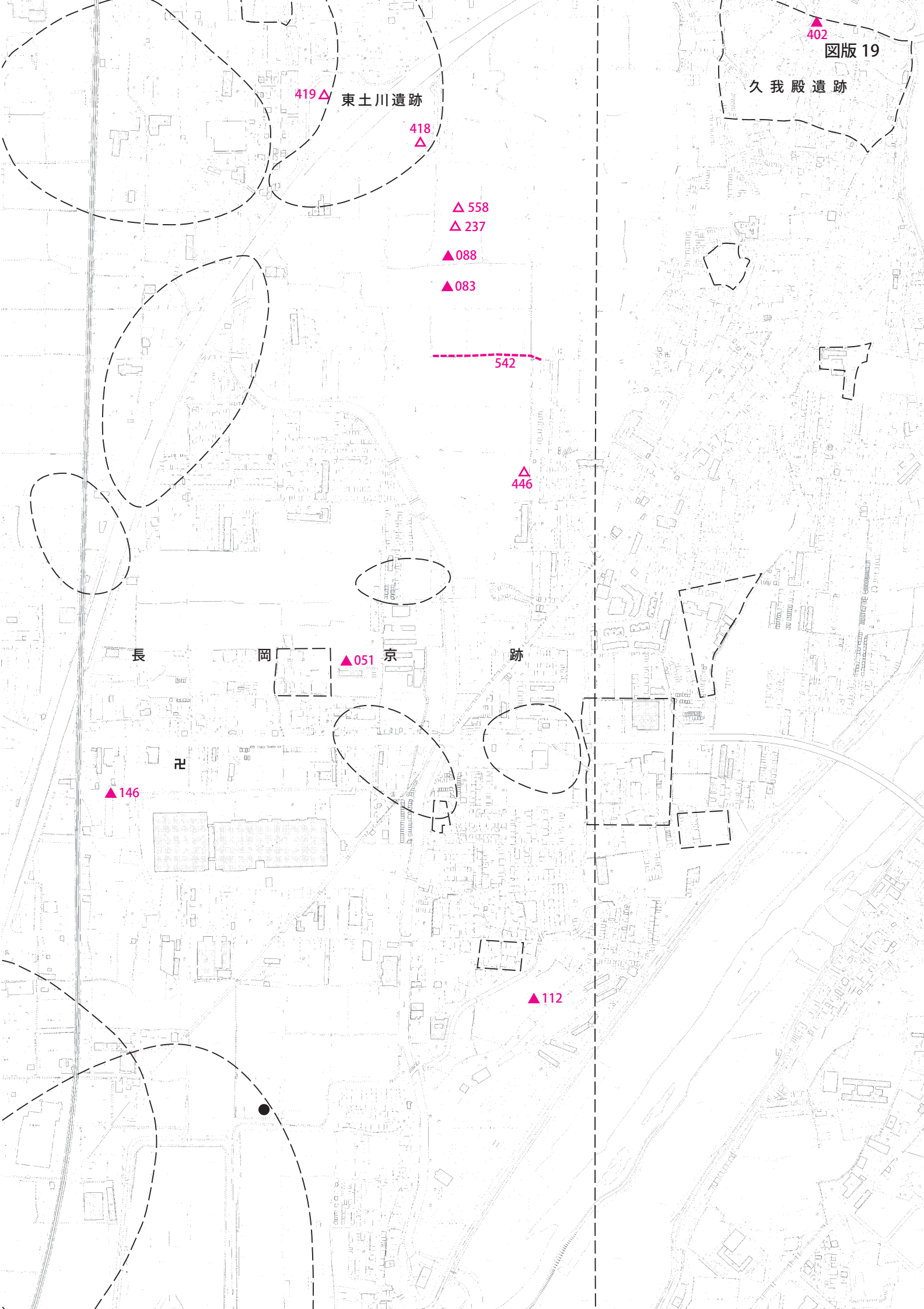
259

258

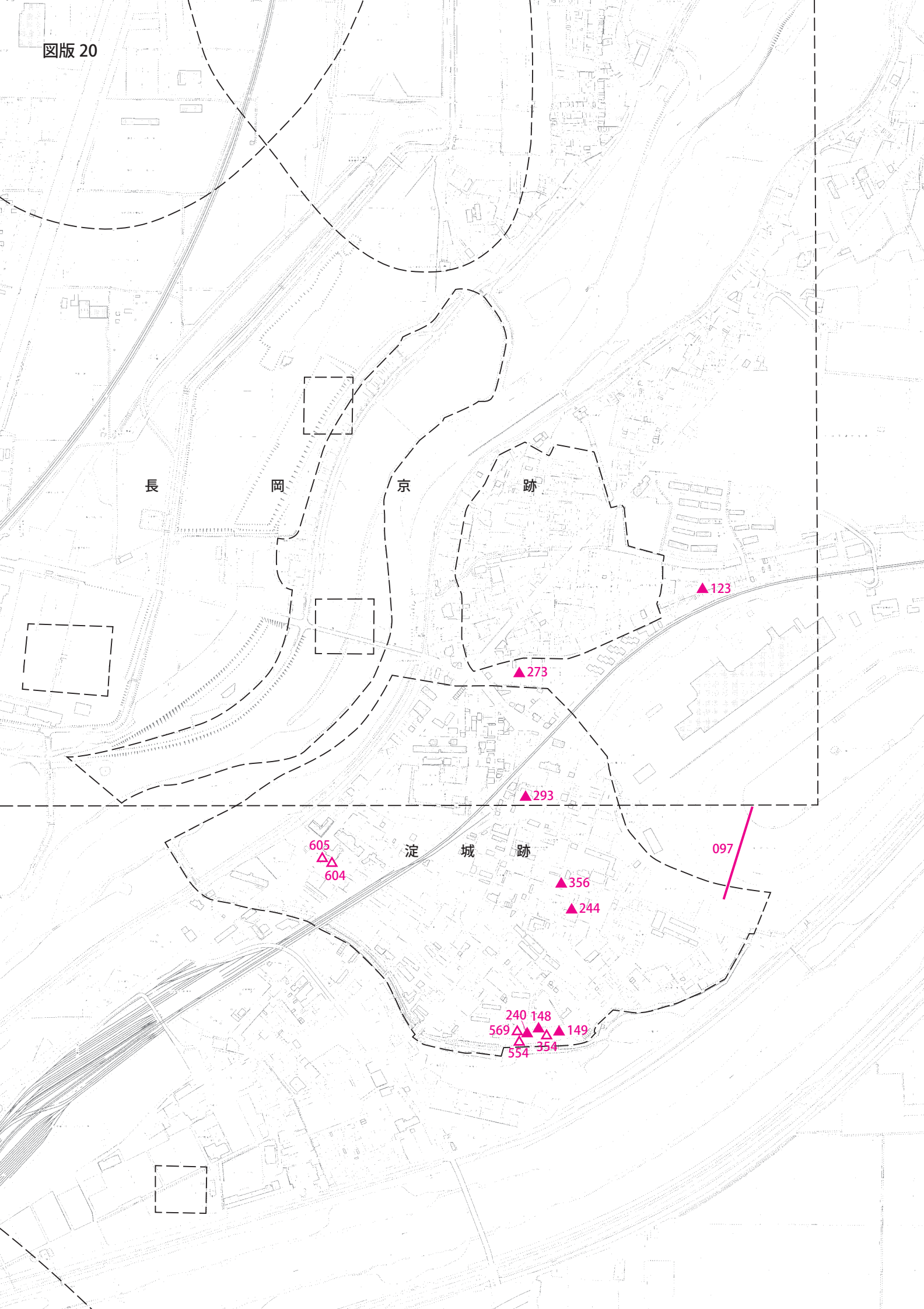
長岡京跡

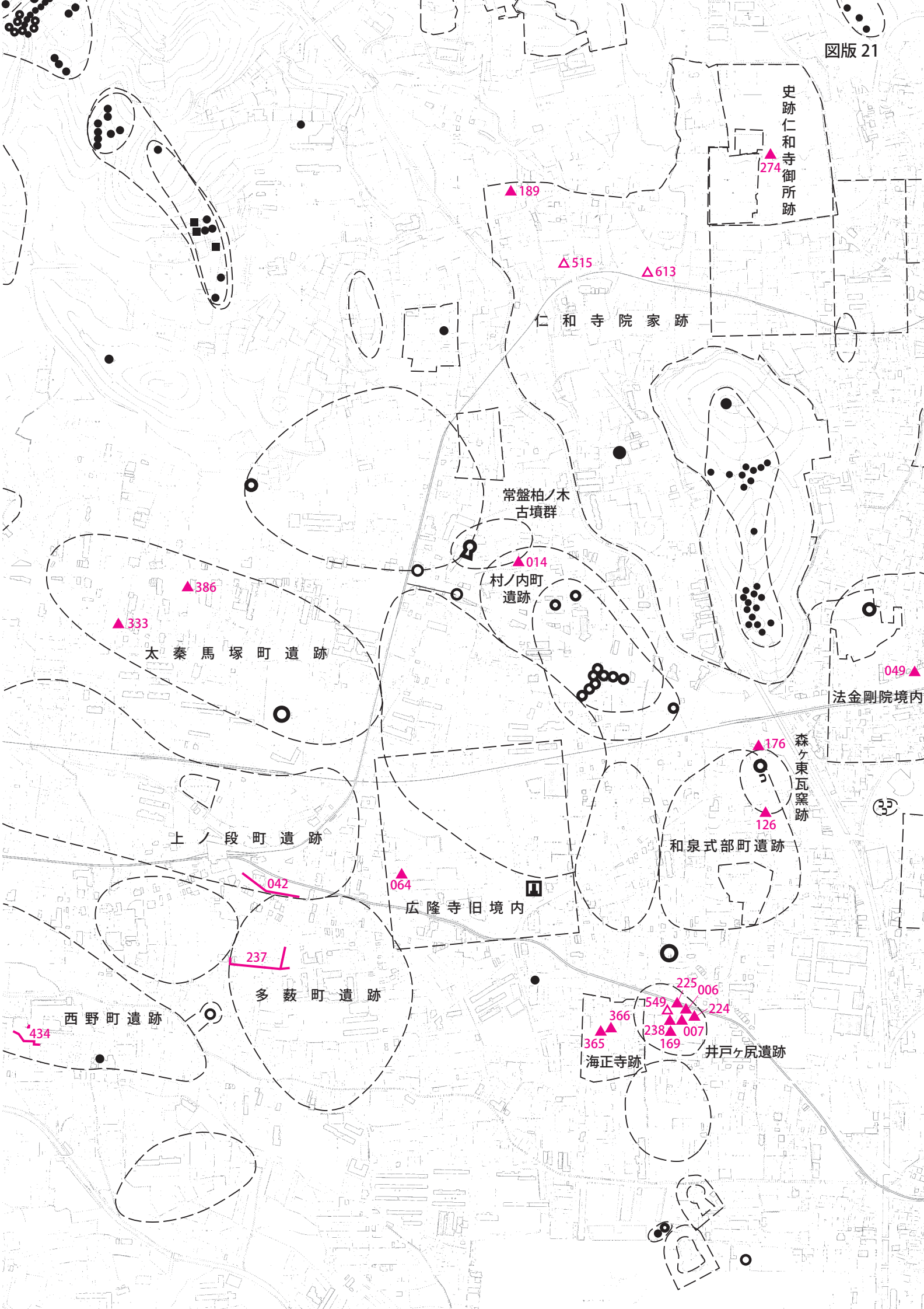
久我殿遺跡

402

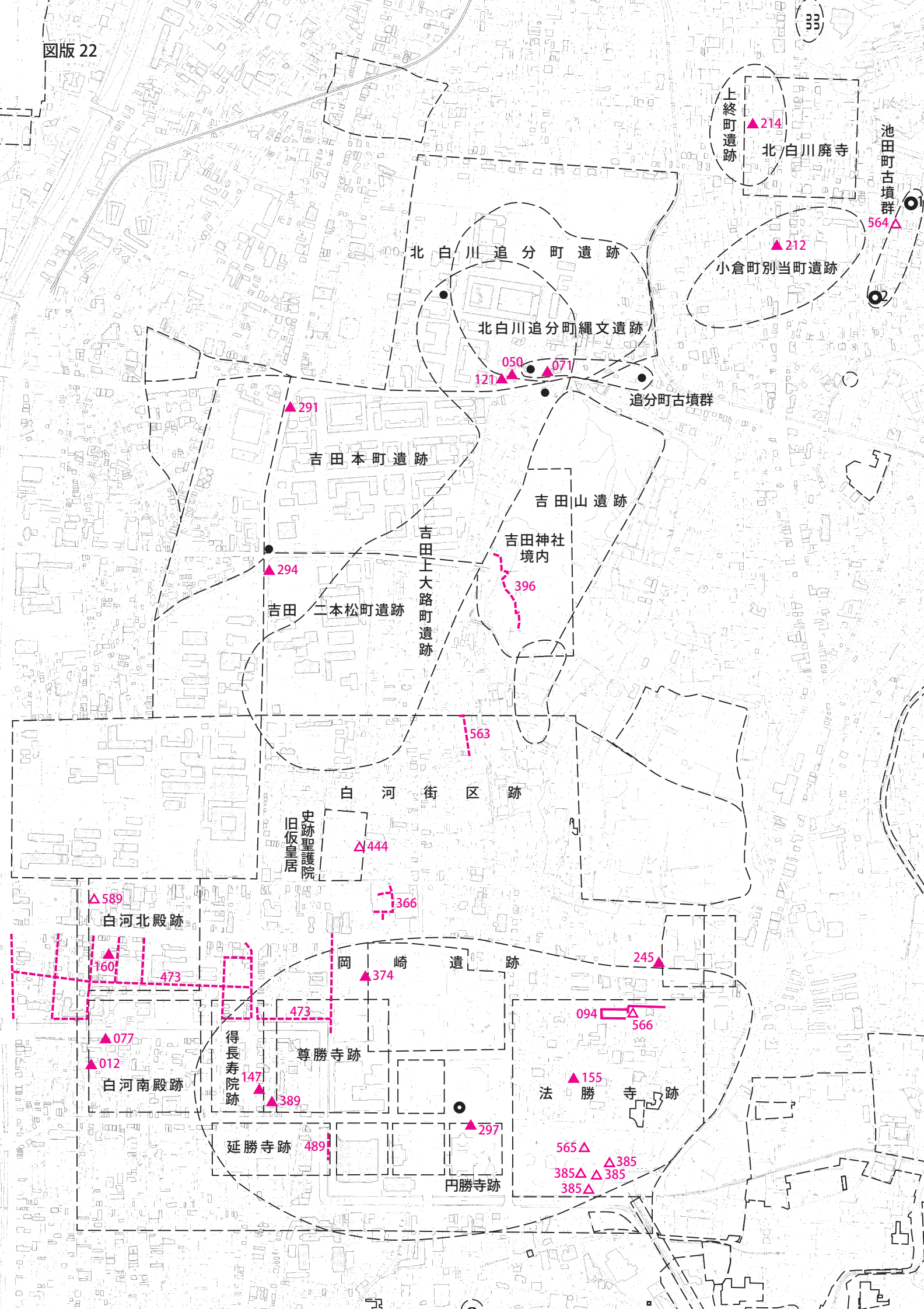

図版 19
久我殿遺跡
402
東土川遺跡
419
418
558
237
088
083
542
446
長
岡
京
跡
051
146
112

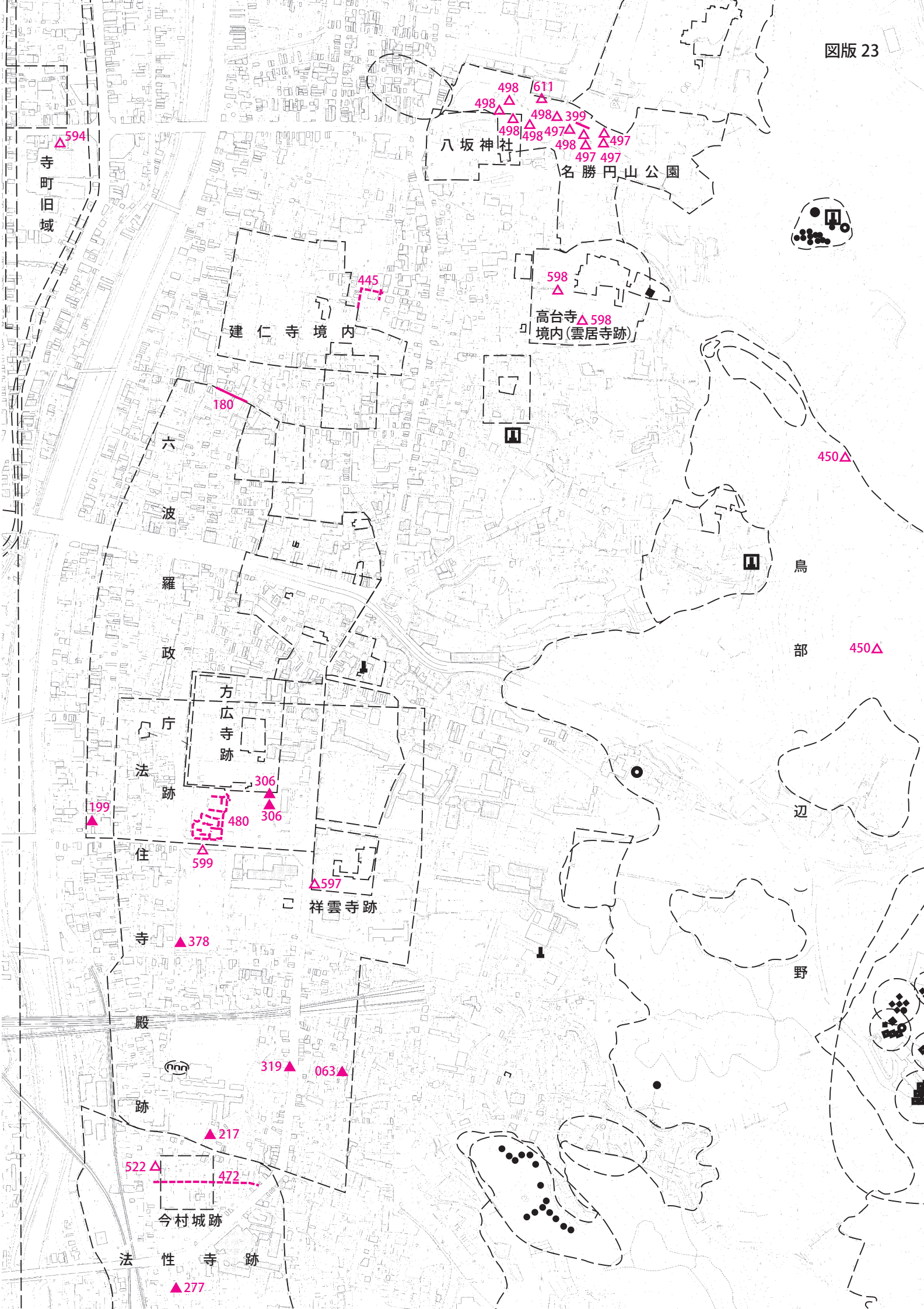
図版 20




史跡仁和寺御所跡
274
189
515
613
仁和寺院家跡
常盤柏ノ木
古墳群
014
村ノ内町
遺跡
386
333
太秦馬塚町遺跡
049
法金剛院境内
176
森ヶ東瓦窯跡
126
和泉式部町遺跡
上ノ段町遺跡
042
064
広隆寺旧境内
237
多薮町遺跡
西野町遺跡
434
225
006
549
224
366
238
007
169
365
海正寺跡
井戸ヶ尻遺跡

図版 22


上終町遺跡
214
北白川廃寺
池田町古墳群
564
212
小倉町別当町遺跡
北白川追分町遺跡
北白川追分町縄文遺跡
050
071
121
追分町古墳群
291
吉田本町遺跡
吉田山遺跡
吉田上大路町遺跡
吉田神社境内
396
294
吉田二本松町遺跡
563
白河街区跡
旧仮皇居
聖護院史跡
444
366
589
白河北殿跡
160
473
岡崎遺跡
374
245
473
094
566
077
012
白河南殿跡
得長寿院跡
147
389
尊勝寺跡
155
法勝寺跡
297
延勝寺跡
489
565
385
385
385
385
円勝寺跡


八坂神社
名勝円山公園
498
611
498
498
399
498
497
497
498
497
497
594
寺町旧域
445
598
高台寺境内(雲居寺跡)
598
建仁寺境内
180
六
波
羅
政
庁
法
跡
方広寺跡
306
306
199
480
599
住
597
祥雲寺跡
寺
378
殿
319
063
跡
217
522
472
今村城跡
法性寺跡
277
450
450
鳥
部
辺
野

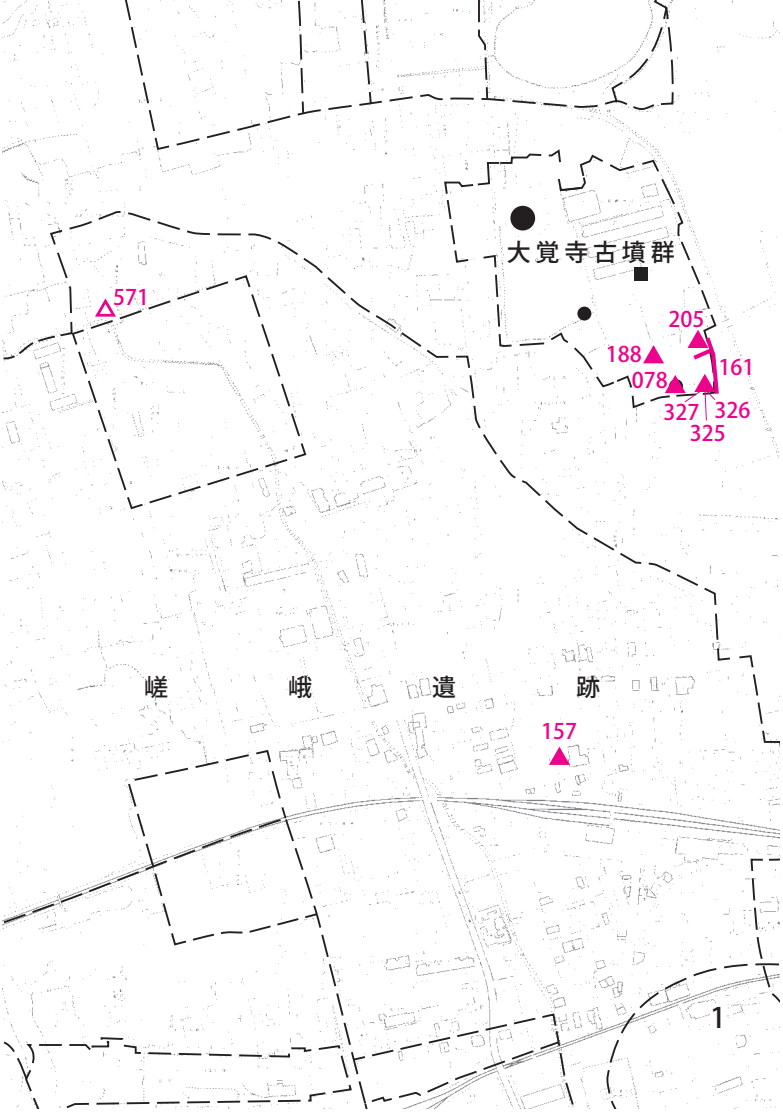
図版 24

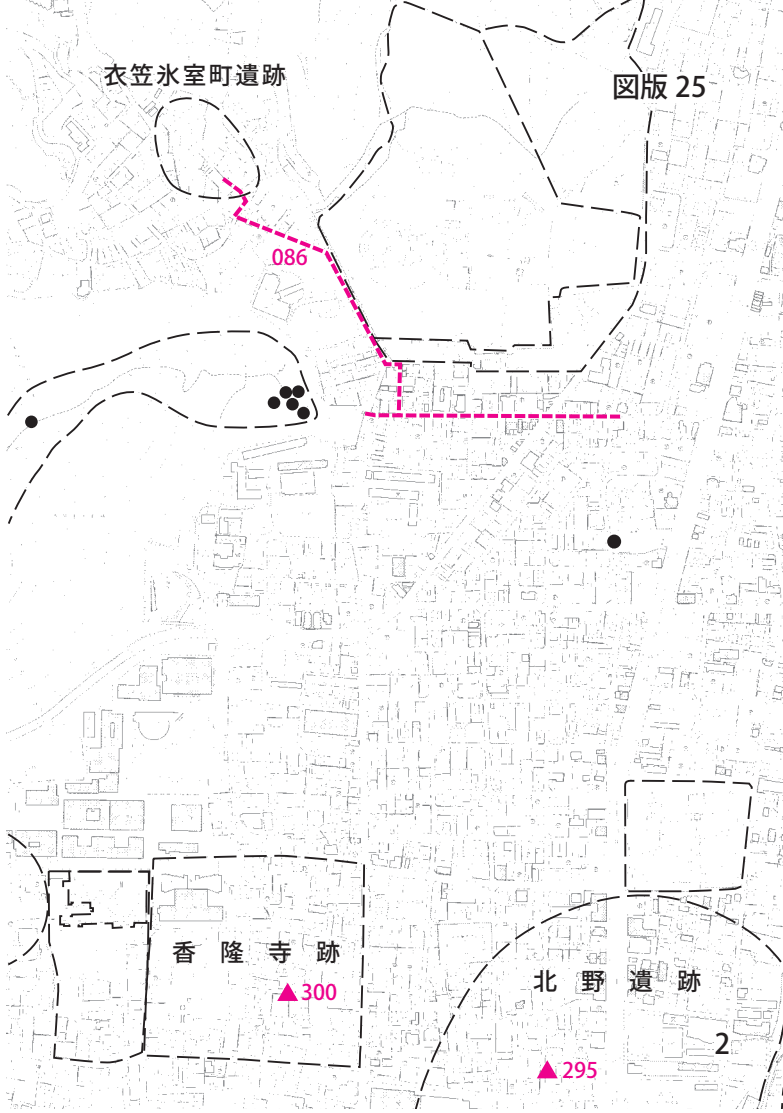
416
416
▲131
537△
▲345
▲316
▲405
▲046
▲052
△609
植物園北遺跡
▲250
▲201
▲426
▲198
▲200
△503
▲304

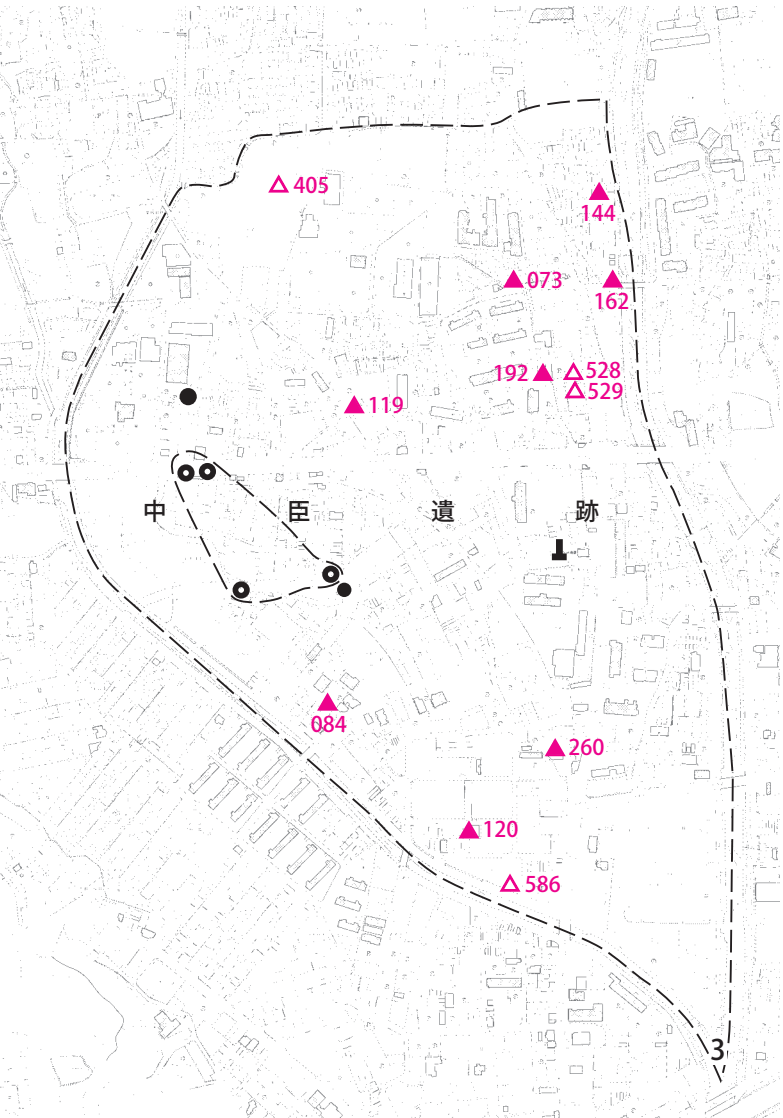
1

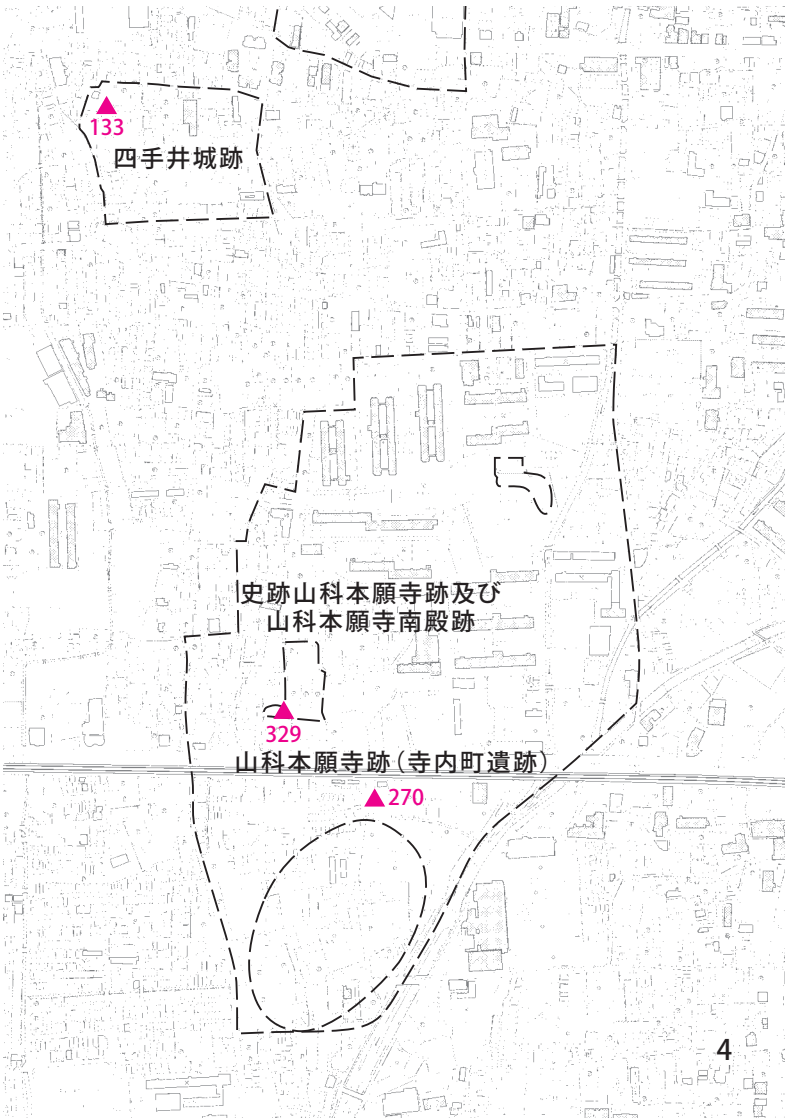
若宮八幡宮境内
▲163
竹田城跡
284▲
▲011
▲318
▲181
鳥羽遺跡
▲005
鳥羽離宮跡
史跡鳥羽殿跡
△502
▲428
鳥羽遺跡
▲235
230
下鳥羽遺跡
△470

2

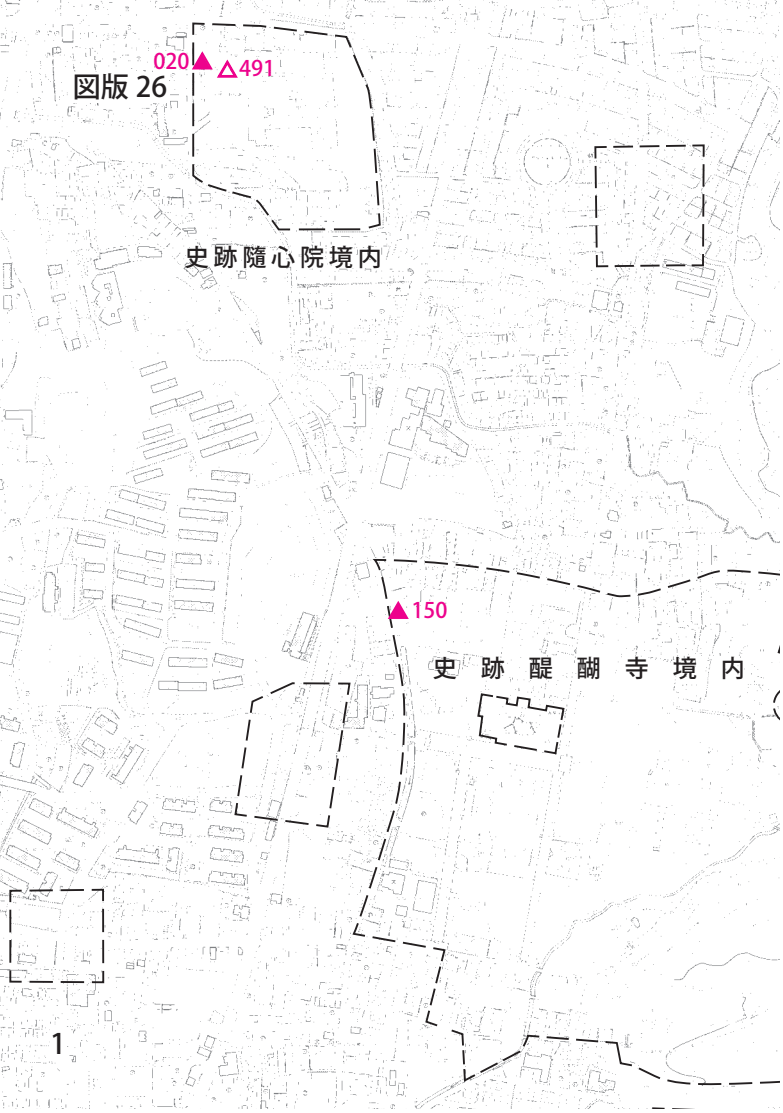

大覚寺古墳群
571
205
188
078
161
327
326
325
嵯 峨 遺 跡
157
1

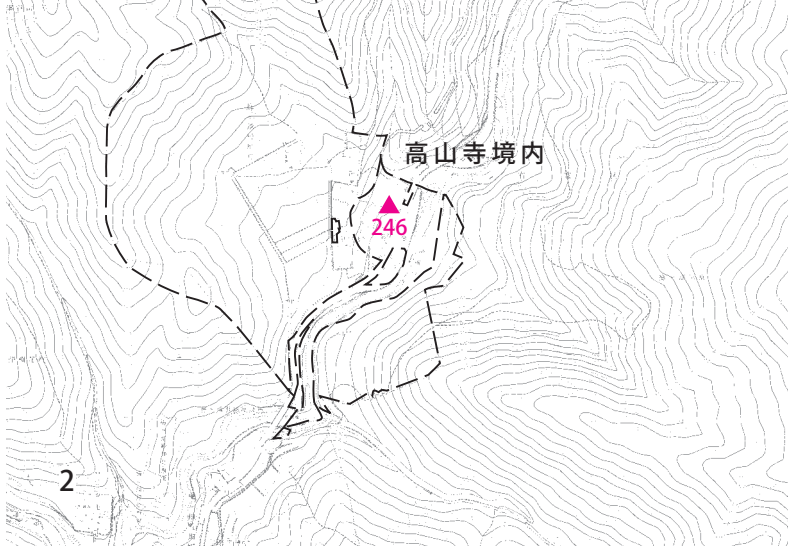

衣笠氷室町遺跡
086
香 隆 寺 跡
300
北 野 遺 跡
295
2

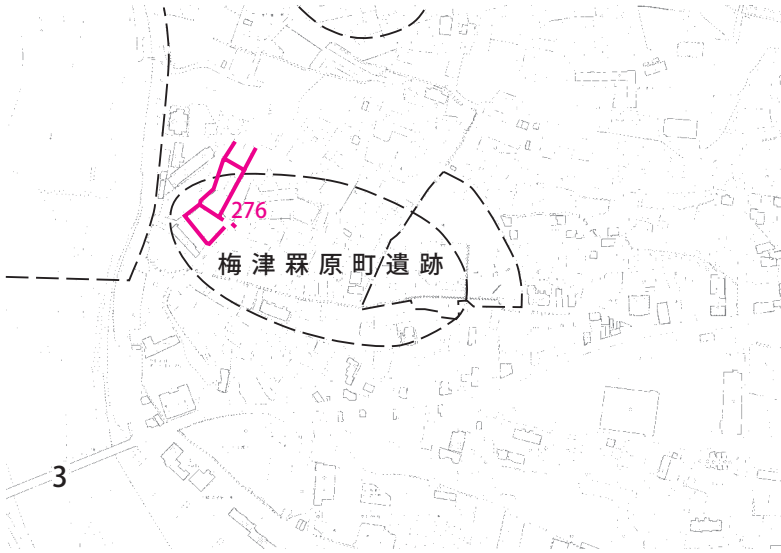

405
144
073
162
192
528
529
119
中 臣 遺 跡
084
260
120
586
3

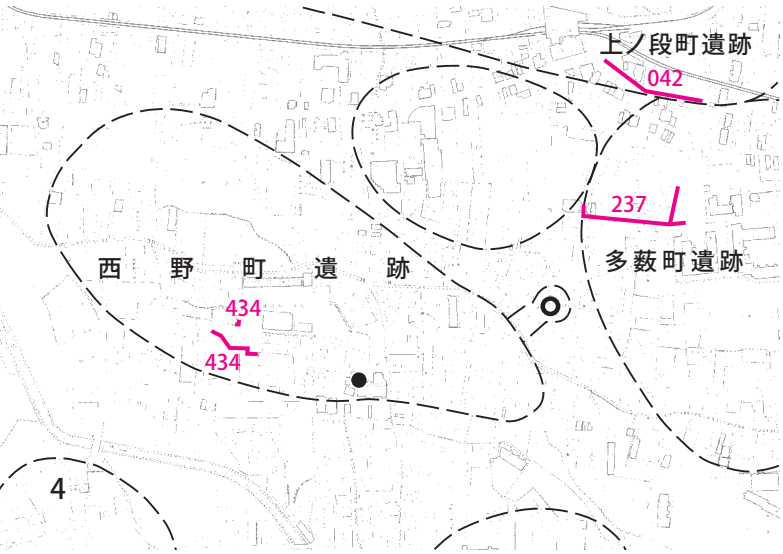

133
四手井城跡
史跡山科本願寺跡及び
山科本願寺南殿跡
329
山科本願寺跡（寺内町遺跡）
270
4

図版 26

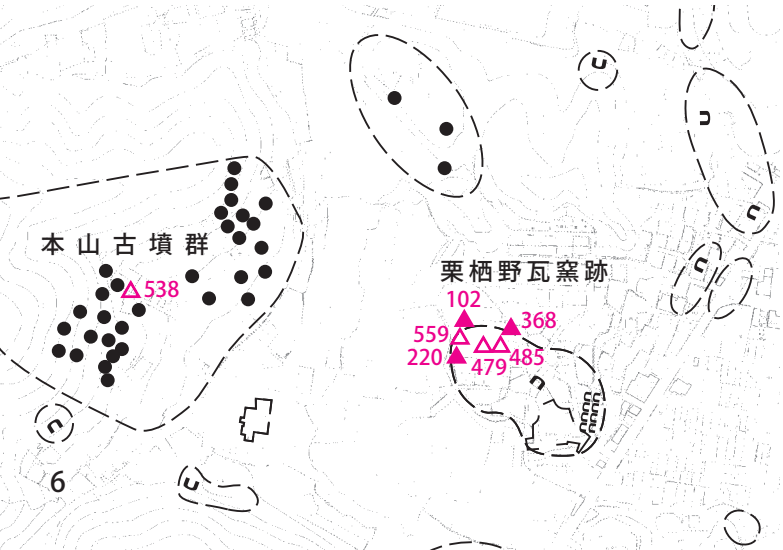

020
491
史跡隨心院境内
150
史 跡 醍 醐 寺 境 内
1

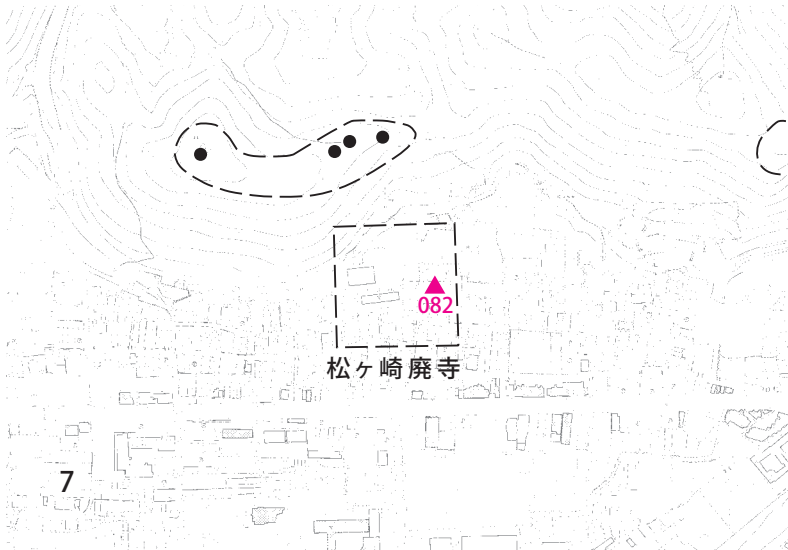

高山寺境内
246
2


276
梅 津 羅 原 町/遺 跡
3


上ノ段町遺跡
042
237
西 野 町 遺 跡
多薮町遺跡
434
434
4

岩倉忠在地遺跡
089
5


本 山 古 墳 群
538
栗栖野瓦窯跡
102
368
559
220
479
485
6


082
松ヶ崎廃寺
7

図版 27

555
小野瓦窯跡
1

397
沖殿町遺跡
398
名勝曼殊院
書院庭園
2

一乗寺松田町遺跡
153
3

002
如意寺跡
4

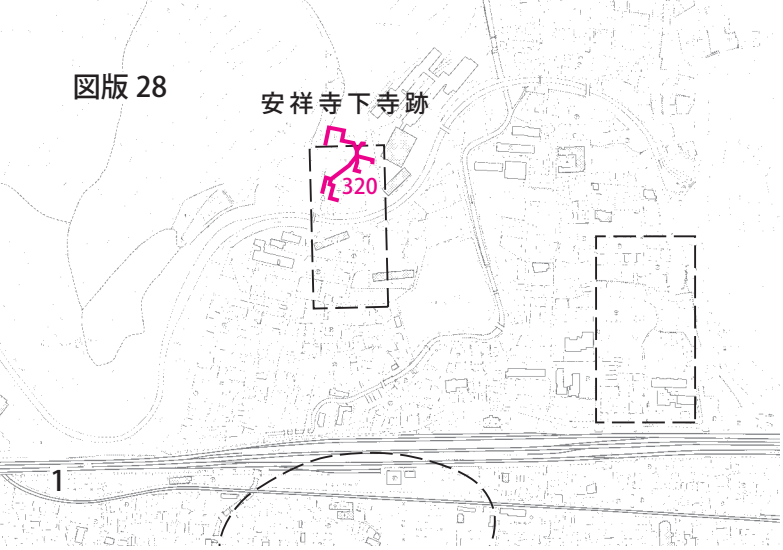
御土居跡
203
203
法成寺跡
5

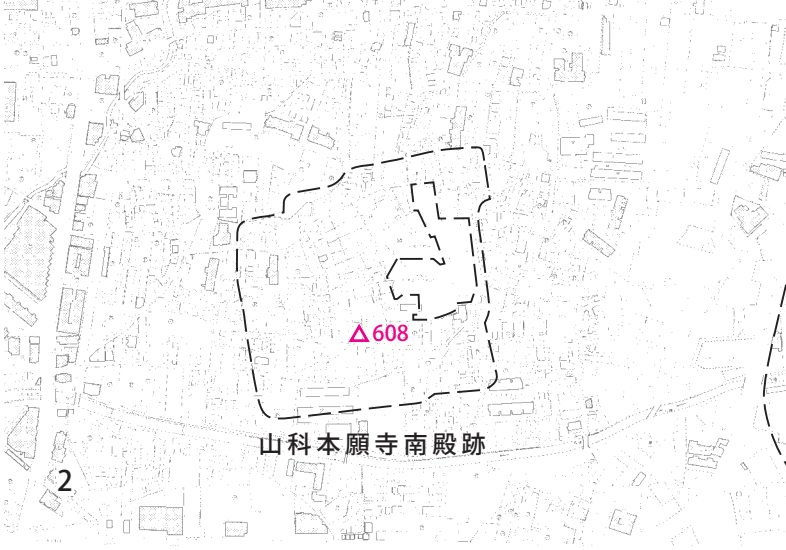
鳥部（辺）野
601
600
法性寺跡
6

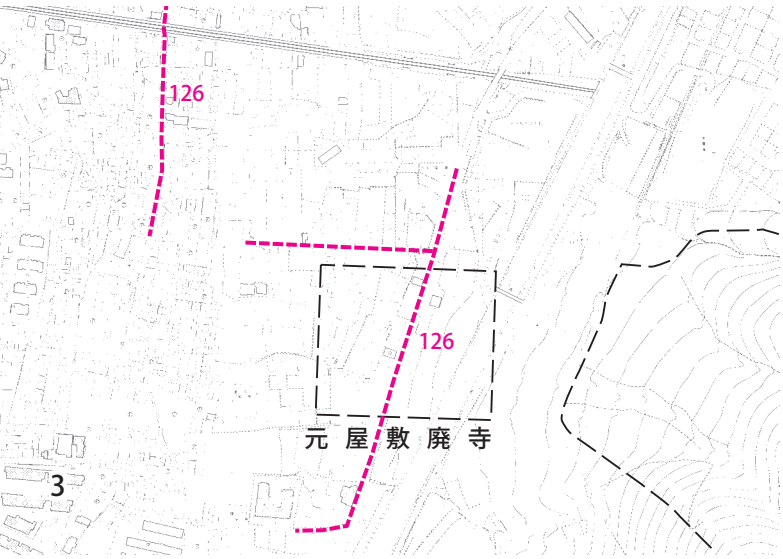
法興院跡
242
寺町旧域
御土居跡
254
7

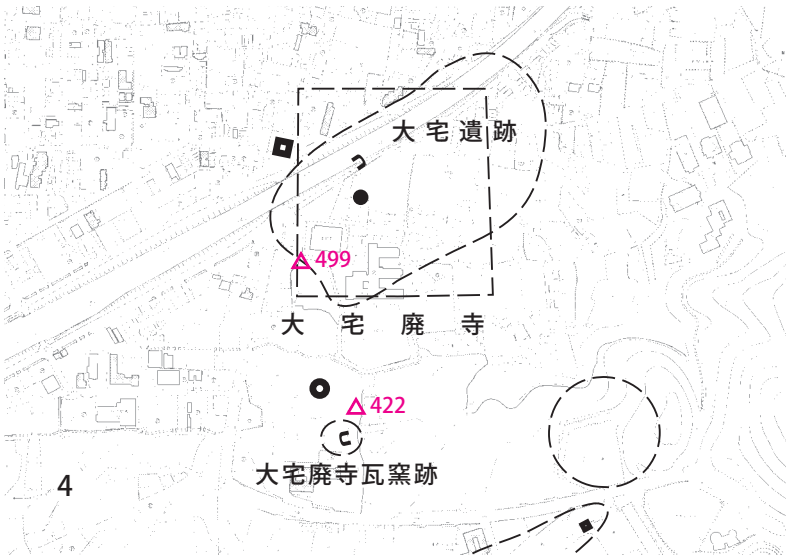
旭山古墳群
518
393
元慶寺跡
8

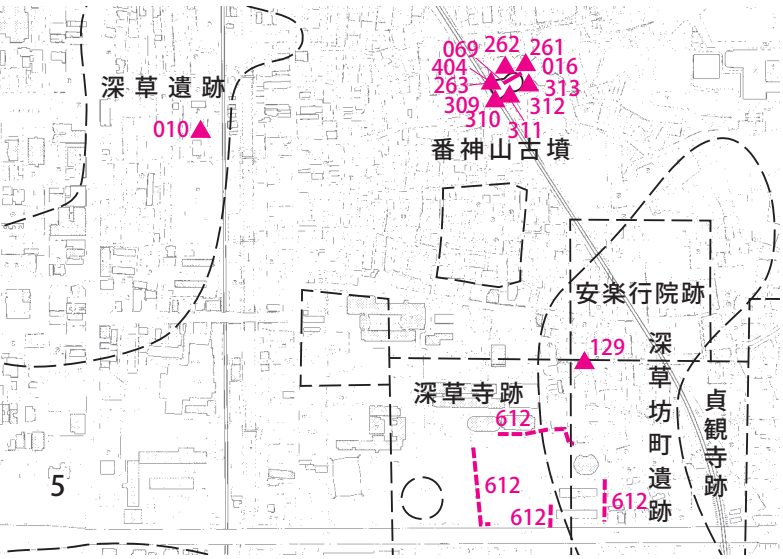
図版 28

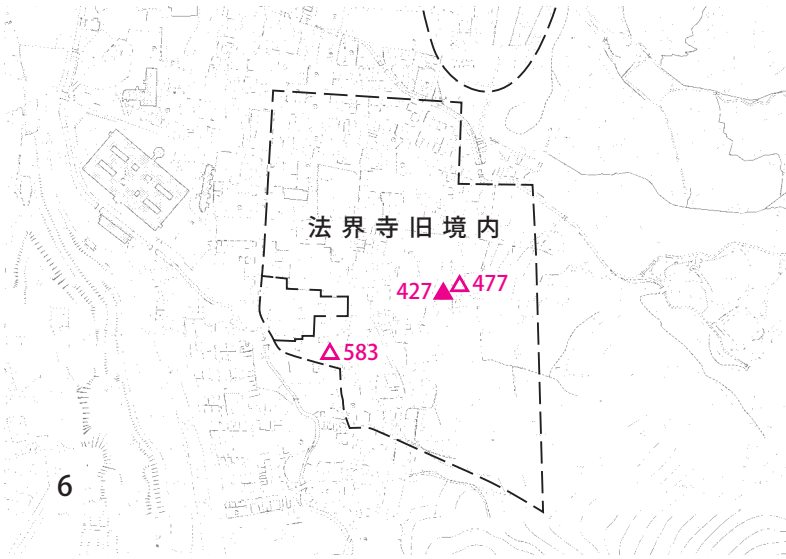

安祥寺下寺跡
320
1

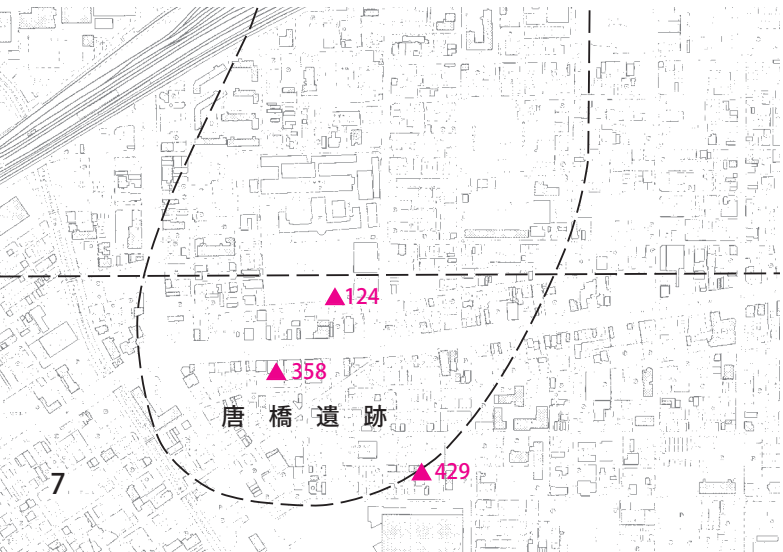

608
山科本願寺南殿跡
2

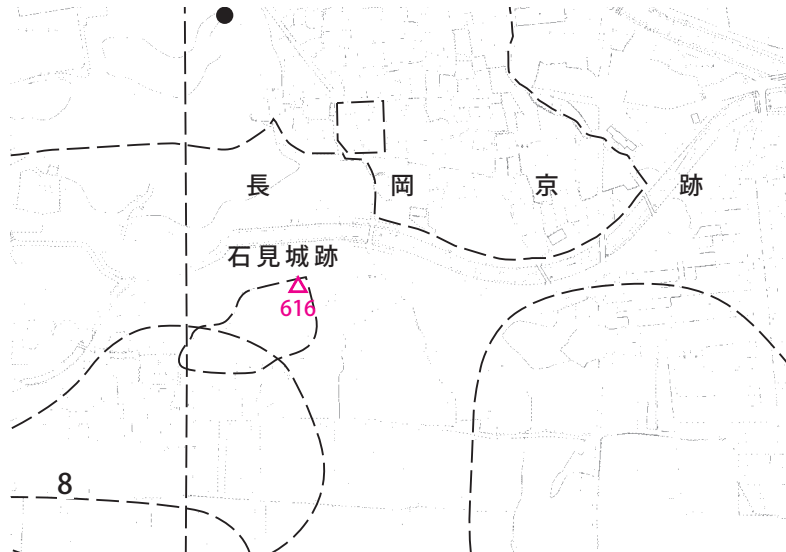

126
126
元屋敷廃寺
3

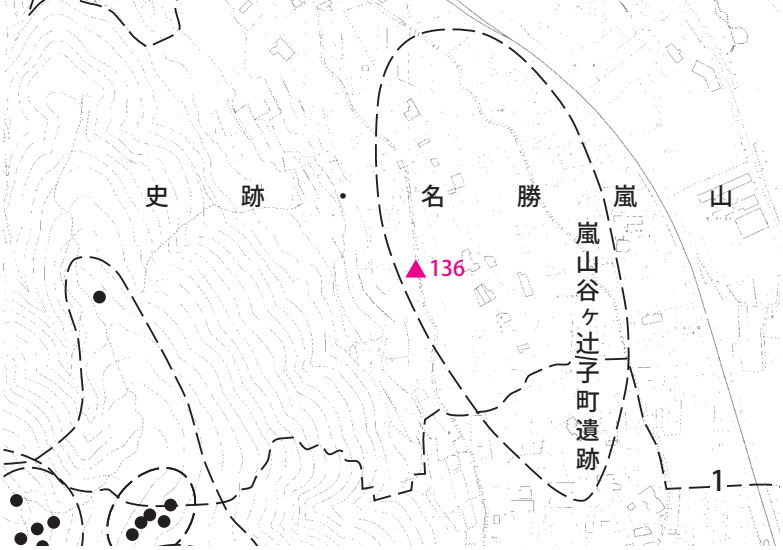

大宅遺跡
499
大宅廃寺
422
大宅廃寺瓦窯跡
4

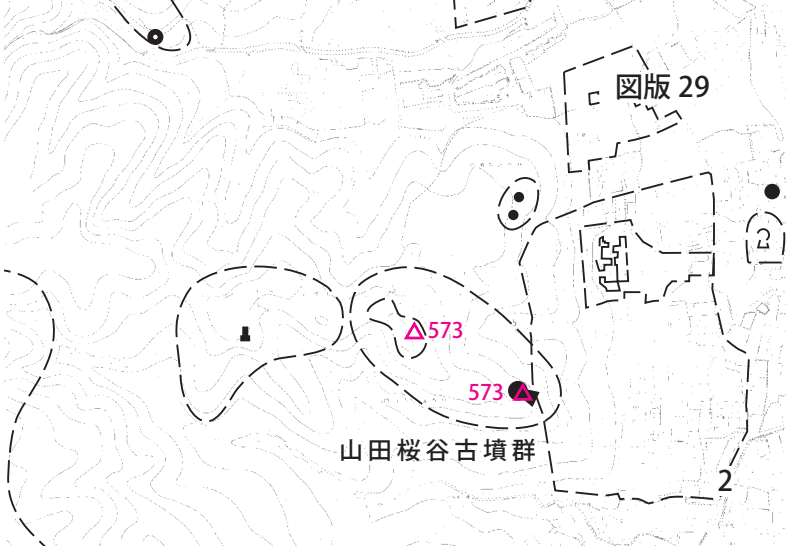

深草遺跡
010
069
404
263
309
310
262
261
016
313
312
311
番神山古墳
安楽行院跡
129
深草寺跡
612
深草坊町遺跡
貞観寺跡
612
612
612
5

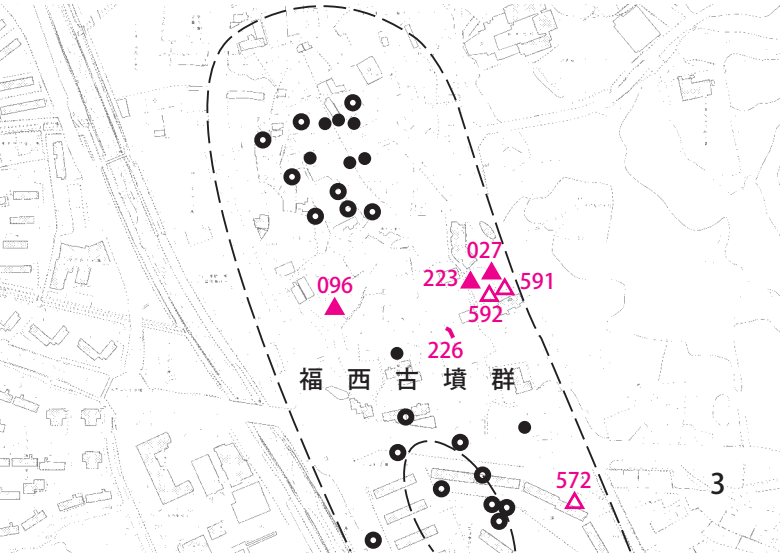

法界寺旧境内
427
477
583
6

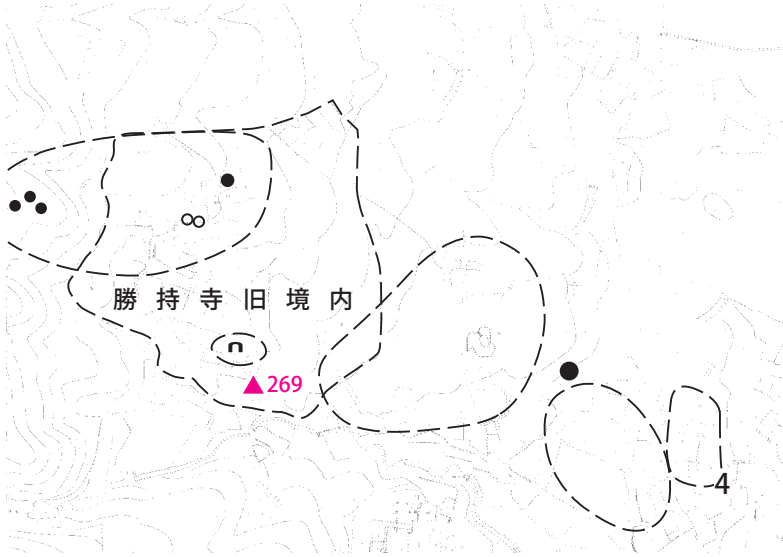

124
358
唐橋遺跡
429
7

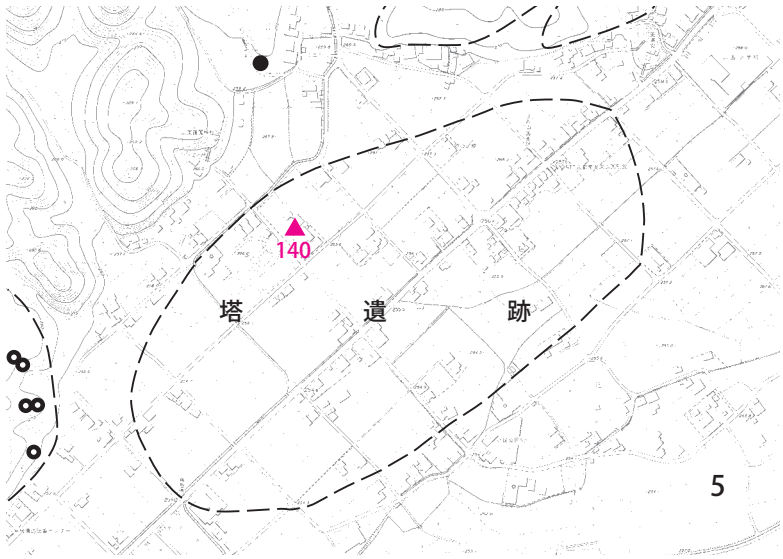

長岡京跡
石見城跡
616
8

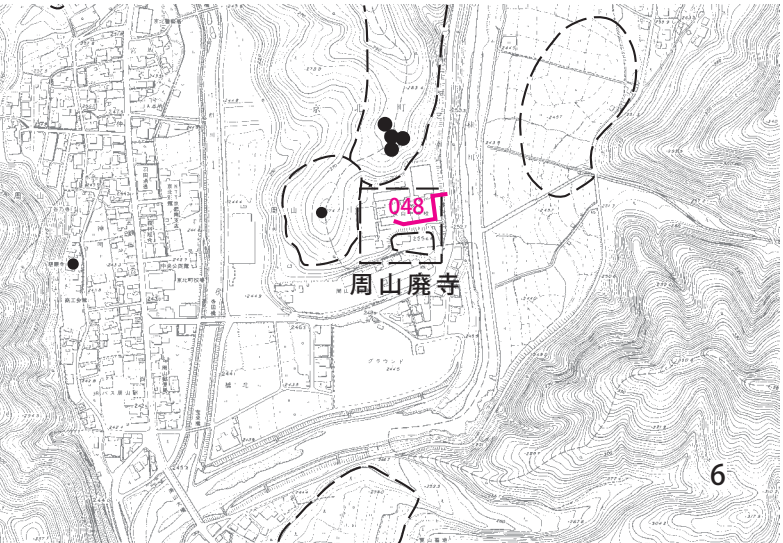

史跡・名勝嵐山
136
嵐山谷ヶ辻子町遺跡
1


図版 29
573
573
山田桜谷古墳群
2


027
223
591
096
592
226
福西古墳群
572
3


勝持寺旧境内
269
4


140
塔遺跡
5


048
周山廃寺
6

058
愛宕山遺跡
7

1　No.1 地点　断面（東から）

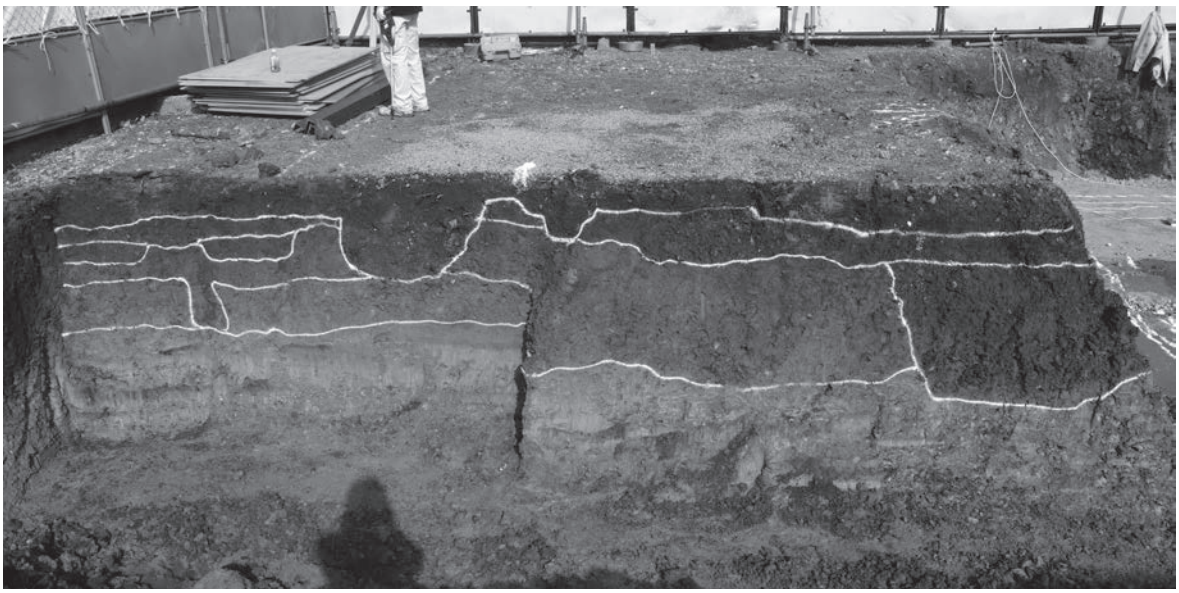
2　No.3 地点　断面（西から）

3　No.4 地点　断面（北東から）

4　No.7 地点　断面（西から）

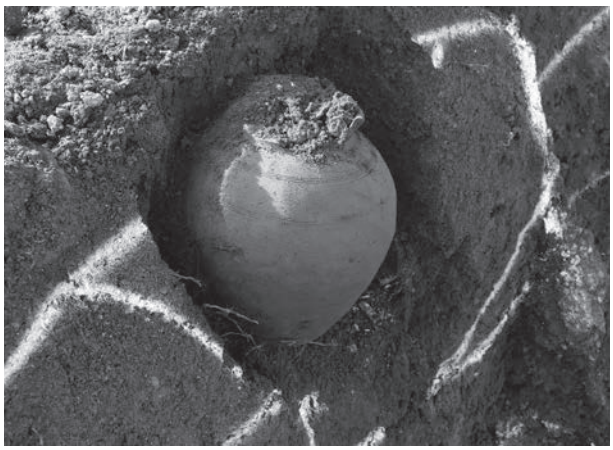
1　No.1 地点　断面（南西から）

2　No.3 地点　断面（東から）



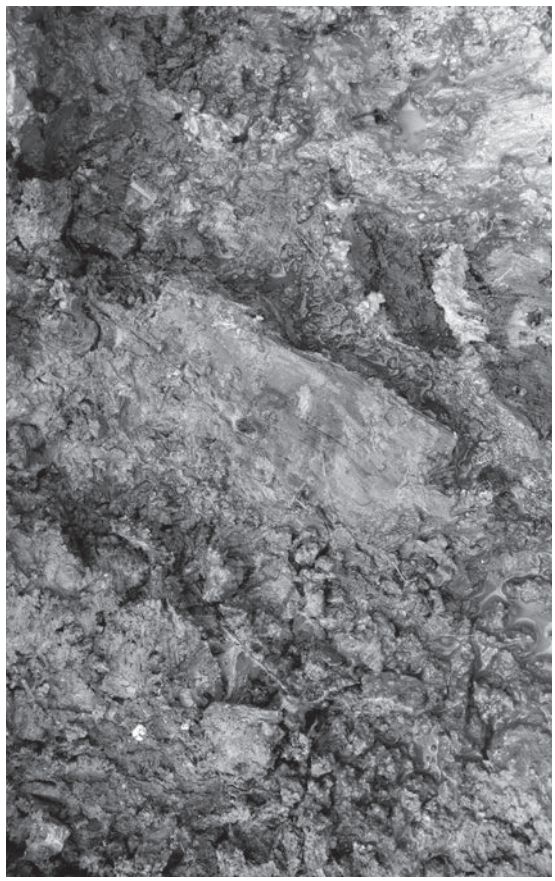
3　No.5 地点　断面（南から）

1　No.７地点　断面（北から）

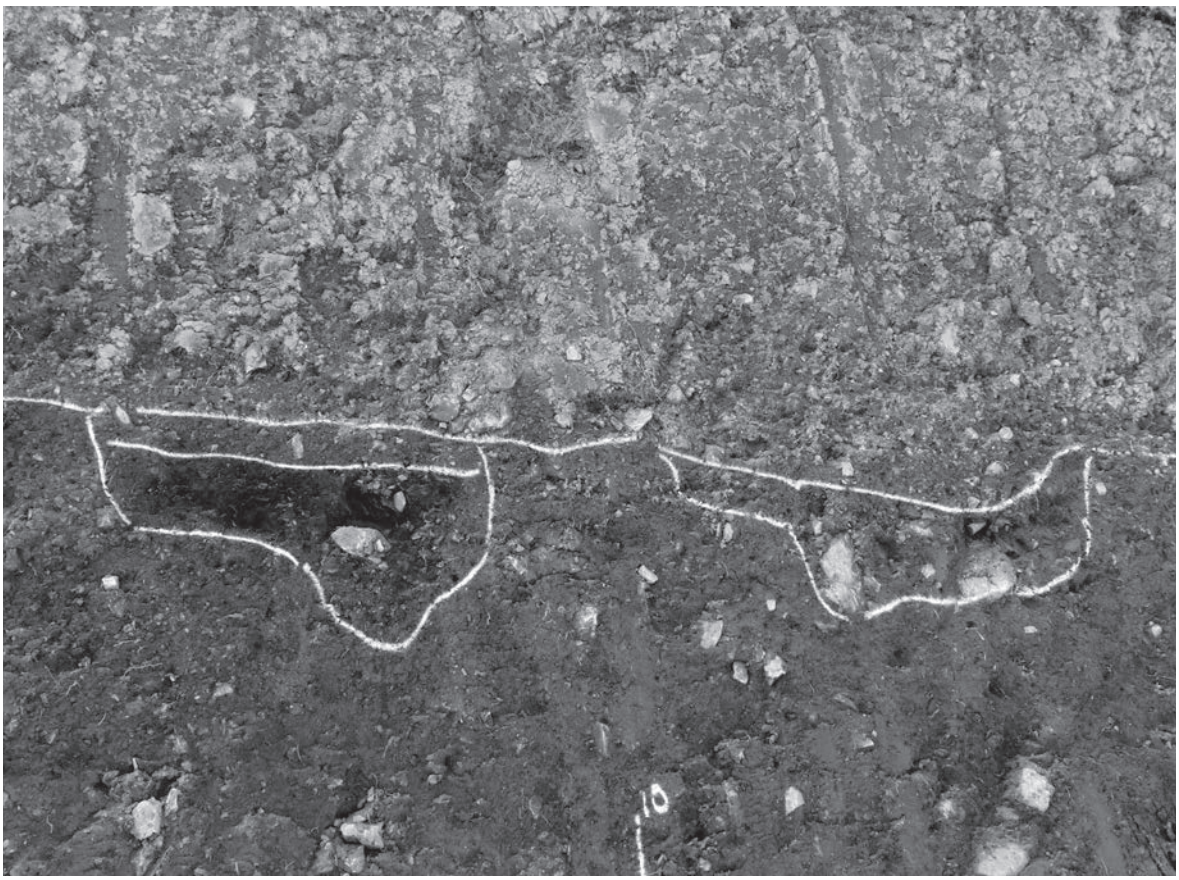


2　No.７地点　土坑墓甕出土状況（北東から）

3　No.７地点　土坑墓集石出土状況（北東から）



4　No.４地点　井戸木簡出土状況



1　落ち込み 1（東から）

2　落ち込み 2（東から）

京都市内遺跡詳細分布調査報告
令和３年度

発行日　２０２２年3月３１日
発　行　京都市文化市民局
編　集　京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課
住　所　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488
分庁舎地下１階
TEL.（０７５）２２２－３１３０
印　刷　株式会社昭英社
TEL.（０７５）３５１－１８１１